



Research reports in archaeology on the campus of TOHOKU UNIVERSITY No.8

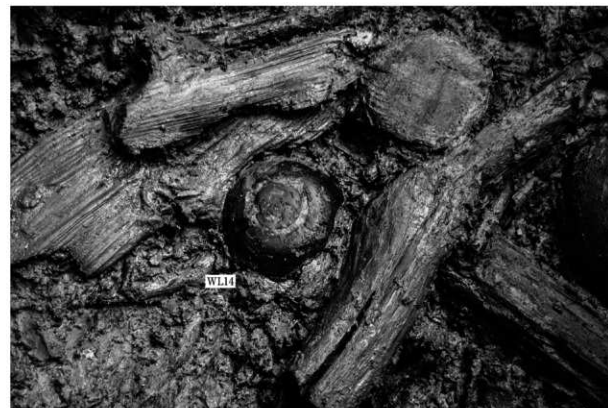
Samurai Residences around Sendai Castle (BK14) No.2

- Excavation reports of Loc.14 of samurai residences located at the side of north outer moat of Ninomaru i.e. Secondary Citadel of Sendai Castle -

Archaeological Research office on the Campus,
Tohoku University

仙台城跡一の丸北方武家屋敷地区
第14地点
第2分冊

東北大学埋蔵文化財調査室調査報告 8 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区 第14地点 第2分冊



仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 (BK14)
1号井戸内堆積状況

東北大学埋蔵文化財調査室
2020

東北大学埋蔵文化財調査室調査報告 8
仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区
第 14 地点
第 2 分冊



1. 2号池状遺構出土陶磁器（1期）



2. 4号池状遺構出土陶磁器（1期）



3. 1号井戸出土磁器（I～III期）



4. 1号井戸出土陶器（I～III期）

序

本報告書は、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』の8冊目として、川内北キャンパスにおける川内駅前広場整備工事に伴い実施した、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査成果をまとめたものです。

今回報告する仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査は、東日本大震災により調査着手が遅れ、他の調査現場と並行しながら時間をかけて実施したものです。今回の調査では、江戸時代の居住施設である建物跡のほかに、池跡や井戸跡等の生活空間を構成する様々な施設が発見されています。また、人々の生活の痕跡を示す出土遺物も、陶磁器をはじめ、漆器碗や食物残滓等の膨大な資料が発見されました。当時の生活環境を考える上で、貴重なデータが得られたものと思います。昨年度には遺構編を刊行し、今年度は遺物と考察編をまとめました。今後の研究の基礎資料となればと考えています。

調査の実施から報告書の刊行まで、大学内外の関係機関の御協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼申し上げますとともに、本書で報告されるデータが各方面で活用されることを望むものです。

東北大学埋蔵文化財調査室

室長 藤澤 敦

例 言

1. 本調査報告は、東北大学構内において、東北大学埋蔵文化財調査室が2011・2012・2015年度に行った仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査成果のうち遺物及び考察についてまとめたものである。遺構編は、前年度の「調査報告」7にてまとめている。
2. 報告する遺跡と略号、調査期間、調査担当者は以下のとおりである。
遺跡と略号：仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区（BK14）
調査期間：本 体 2011年9月1日～2012年5月31日、2015年3月1日～7月6日
関連区 2015年7月22日～11月13日
調査面積：本体954㎡、関連区18.8㎡
調査担当者：菅野智則、柴田恵子、藤澤 敏（2011年度）、石橋 宏（2015年度）
3. 調査・整理作業は、東北大学埋蔵文化財調査室が行った。
4. 本報告の編集・執筆は、菅野智則・柴田恵子・石橋宏が担当した。執筆分担は下記のとおりである。
第V章1・2・3（2）・（4）・（7）・（8）柴田
2のうち、石器・石製品については熊谷亮介（当時 東北大学）の所見を元に、柴田が編集した。
3（1）・（5）・（6）石橋、3（3）柴田・石橋
第VI章（1）丸山真史（東海大学）、（2）吉川純子（古代の森研究舎）、
（3）小林和貴（東北大学）・吉川純子、（4）小林和貴・鈴木三男（東北大学）・佐々木由香（明治大学）・能城修一（明治大学）・國井秀紀（千葉県匝瑳市「木積箕づくり伝承教室」）、
（5）森勇一（東海シニア自然大学）、（6）上條信彦（弘前大学）・柴正敏（弘前大学）
第VII章1 柴田、2・3 菅野、4 柴田・菅野
5. 英文要旨については、柴田恵子が作成した。
6. 本調査区名の正式な名称は、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点であるが、本文中では省略して武家屋敷地区第14地点と表記する。
7. これまでに、本調査の概要は「年次報告」2011・2015、「平成27年度宮城県遺跡調査成果発表会」（宮城県考古学会主催、2017年12月12日開催）にて公表してきた。それらの内容より、本報告書の内容が優先する。
8. 発掘調査および整理・本報告書作成にあたっては、以下の方々や関係機関から御指導・御協力を賜った。記して感謝申しあげる（敬称略）。
仙台市教育委員会、宮城県教育委員会、東北大学大学院文学研究科考古学研究室、阿子島香・龍橋俊光・鹿又喜隆（東北大学）、佐藤源之（東北アジア研究センター）、田中剛和、畑井洋樹（仙台市歴史民俗資料館）、関根達人（弘前大学）、堀内秀樹（東京大学）、渡辺芳郎（鹿児島大学）、佐藤洋（当時 仙台市教育委員会）
9. 出土遺物・調査記録は、東北大学埋蔵文化財調査室で保管・管理している。

凡 例

1. 引用・参考文献は、巻末にまとめた。当室が刊行した報告書類を引用する際には、下記のように略した。

例 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 1 … 『年報』 1
 『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』 2008 … 『年次報告』 2008
 『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』 1 … 『調査報告』 1

2. 元号と西暦の標記は、通常は「西暦（元号）年」（例えば「2015（平成27）年」）と表記する。ただし、その章で近世・近代が主体となる場合は、「元号（西暦）年」（例えば「天明6（1786）年」）と表記する。

3. 出土遺物の登録番号の表示は、以下の略号を使用した。

磁器：CJ、陶器：CT、土師質土器：CH、瓦質土器：CG、瓦：T、土人形・土製品：CO、軟質施釉陶器：CN、漆塗製品：WL、木製品：W、古銭：MC、古銭以外の金属製品：MO、石器・石製品：S、その他の遺物：VA

4. 本文や集計表などの遺構埋土の表記は、できる限り細分層を示したが、細分せず取り上げた場合はそのままの層位を表記した。例えば、2号池状遺構には埋土2a層と埋土2b層があるが、2層として取り上げた場合は、そのまま2層と表記している。これは、2a層と2b層を含む層という意味である。

5. 遺物実測図は縮尺1/3を基本としたが、瓦は1/4、古銭は原寸で表示した。木製品とその他の遺物は適宜縮尺を調整している。

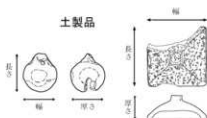
6. 各遺物の計測位置は、以下に示す。

各遺物の計測部位

陶磁器・土師質土器
 瓦質土器・漆焼



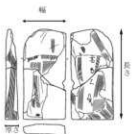
土製品



煙管



石器・石製品



木製品



瓦



古銭



目次

巻頭カラー図版

序

例言

凡例

第2分冊目次

図目次

表目次

写真図版目次

第V章 出土遺物……………1

1. 整理作業と資料化の方法……………1

2. 各時期の遺構出土遺物……………1

(1) I期の遺構出土遺物……………1

(2) I～IIa期の遺構出土遺物……………7

(3) I～IIb期の遺構出土遺物……………8

(4) I～III期の遺構出土遺物……………9

(5) IIa期の遺構出土遺物……………11

(6) IIa～IIb期の遺構出土遺物……………12

(7) IIa～III期の遺構出土遺物……………14

(8) IIb期の遺構出土遺物……………14

(9) IIb～III期の遺構出土遺物……………16

(10) III期の遺構出土遺物……………17

(11) 関連区の遺構出土遺物……………21

(12) 基本層出土遺物……………21

3. 主要な遺物の特徴……………23

(1) 近世以前の遺物……………23

(2) 陶磁器……………24

(3) 土師質土器・瓦質土器……………25

(4) 土人形・土製玩具……………28

(5) 瓦……………28

(6) 木製品……………29

(7) 漆塗製品……………33

(8) 金属製品……………34

第VI章 分析

1. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点

から出土した動物遺存体……………119

(1) 動物遺存体の概要……………119

(2) 遺構別の動物遺存体……………119

(3) 動物利用の特徴……………122

(4) まとめ……………123

2. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点

から出土した大型植物遺体……………130

(1) 試料と分析方法……………130

(2) 出土した大型植物遺体……………130

(3) 大型植物遺体の出土傾向からみた当時の植物利用と周辺の環境……………135

3. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点

池状遺構から出土した袋状遺物……………139

(1) 分析方法……………139

(2) 同定結果……………139

4. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点

出土編組製品等の素材植物……………141

(1) 試料と方法……………141

(2) 同定結果……………141

(3) 調査資料の形態記載……………146

(4) 考察……………148

5. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点

から発見された昆虫と古環境……………150

(1) 試料および分析方法……………150

(2) 昆虫化石の分析結果……………150

(3) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区における古環境復元……………153

(4) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区出土

昆虫の特異性……………155

(5) まとめ……………155

6. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点

出土石臼付着の白色粒子の分析……………163

(1) 分析の目的……………163

(2) 試料と方法……………163

(3) 分析結果……………163

(4) まとめ……………164

第VII章 考察

1. 陶磁器について……………165

(1) 池状遺構出土の陶磁器……………165

(2) I号井戸出土陶磁器について……………171

(3) 補修痕のある陶磁器について……………173

2. 発掘調査地点の位置……………177

(1) 周辺地域の発掘調査との関連……………177

(2) 時期別にみた特徴的な遺構……………178

(3) 近世絵図・近代地図との関係から……………182

3. 武家屋敷地区の環境……………186

4. 武家屋敷地区第14地点の調査成果

—まとめに代えて—……………188

引用・参考文献……………190

英文要旨……………194

写真図版……………195

報告書抄録

目 次

<p>図1 土師質土器(Ⅲ)の法量分布図……………26</p> <p>図2 3号建物(Ⅰ期)出土遺物……………36</p> <p>図3 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(1)……………36</p> <p>図4 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(2)……………37</p> <p>図5 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(3)……………38</p> <p>図6 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(4)……………39</p> <p>図7 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(5)……………40</p> <p>図8 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(6)……………41</p> <p>図9 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(7)……………42</p> <p>図10 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(8)……………43</p> <p>図11 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(9)……………44</p> <p>図12 4号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(1)……………44</p> <p>図13 4号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(2)……………45</p> <p>図14 4号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(3)……………46</p> <p>図15 10号遺構(Ⅰ期)出土遺物……………46</p> <p>図16 12号遺構(Ⅰ期)出土遺物……………47</p> <p>図17 39・40・57号遺構(Ⅰ期)出土遺物……………47</p> <p>図18 3号溝(Ⅰ期)出土遺物……………48</p> <p>図19 5号井戸(Ⅰ期)出土遺物……………49</p> <p>図20 ビット70・102・205(Ⅰ期)出土遺物……………49</p> <p>図21 15号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物……………49</p> <p>図22 16号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物……………49</p> <p>図23 35号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物……………49</p> <p>図24 74号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物……………50</p> <p>図25 5号建物(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物……………50</p> <p>図26 7号遺構(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物……………50</p> <p>図27 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(1)……………50</p> <p>図28 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(2)……………51</p> <p>図29 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(3)……………52</p> <p>図30 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(4)……………53</p> <p>図31 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(5)……………54</p> <p>図32 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(6)……………55</p> <p>図33 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(7)……………56</p> <p>図34 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(8)……………57</p> <p>図35 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(9)……………58</p> <p>図36 3号池状遺構(Ⅱa期)出土遺物……………58</p> <p>図37 18号遺構(Ⅱa期)出土遺物……………58</p> <p>図38 5号溝(Ⅱa期)出土遺物(1)……………58</p> <p>図39 5号溝(Ⅱa期)出土遺物(2)……………59</p> <p>図40 9号遺構(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物……………59</p> <p>図41 2号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物……………60</p> <p>図42 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(1)……………60</p> <p>図43 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(2)……………61</p> <p>図44 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(3)……………62</p> <p>図45 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(4)……………63</p> <p>図46 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(5)……………64</p> <p>図47 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(6)……………65</p> <p>図48 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(7)……………66</p>	<p>図49 1号柱列(Ⅱb期)出土遺物……………66</p> <p>図50 1号池状遺構(Ⅱb期)出土遺物……………67</p> <p>図51 4号遺構(Ⅱb期)出土遺物……………68</p> <p>図52 13号遺構(Ⅱb期)出土遺物……………68</p> <p>図53 65号遺構(Ⅱb～Ⅲ期)出土遺物(1)……………68</p> <p>図54 65号遺構(Ⅱb～Ⅲ期)出土遺物(2)……………69</p> <p>図55 14号遺構(Ⅲ期)出土遺物……………69</p> <p>図56 20号遺構(Ⅲ期)出土遺物……………70</p> <p>図57 25号遺構(Ⅲ期)出土遺物……………70</p> <p>図58 30号遺構(Ⅲ期)出土遺物……………70</p> <p>図59 31号遺構(Ⅲ期)出土遺物……………71</p> <p>図60 48号遺構(Ⅲ期)出土遺物……………71</p> <p>図61 66号遺構(Ⅲ期)出土遺物……………72</p> <p>図62 6号溝(Ⅲ期)出土遺物……………73</p> <p>図63 4号井戸(Ⅲ期)出土遺物……………73</p> <p>図64 ビット177・280(Ⅲ期)出土遺物……………73</p> <p>図65 閘連2区出土遺物……………74</p> <p>図66 基本層2a～2層出土遺物……………74</p> <p>図67 基本層2b層出土遺物……………75</p> <p>図68 1層出土遺物(1)……………75</p> <p>図69 1層出土遺物(2)……………76</p> <p>図70 1層出土遺物(3)……………77</p> <p>図71 動物遺存体の組成……………119</p> <p>図72 魚類組成……………123</p> <p>図73 2号池状遺構から出土した遺物果皮と現生 ヒョウタン果皮の比較写真……………140</p> <p>図74 出土箕と「宮床箕」……………142</p> <p>図75 出土編組製品と不明製品および縄……………143</p> <p>図76 出土遺物の素材の顕微鏡写真……………144</p> <p>図77 出土箕の編組模式図……………147</p> <p>図78 宮床箕(a)と気仙箕(b)……………149</p> <p>図79 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 出土昆虫と他の遺跡との比較……………155</p> <p>図80 石臼付着の白色粒子……………164</p> <p>図81 二の丸地区出土供膳具の材質……………167</p> <p>図82 二の丸地区出土磁器の産地別組成比率……………169</p> <p>図83 二の丸地区出土陶器の産地別組成比率……………169</p> <p>図84 池状遺構出土供膳具の材質……………170</p> <p>図85 池状遺構の産地別組成比率……………170</p> <p>図86 井戸出土供膳具の材質……………172</p> <p>図87 井戸の産地別組成比率……………172</p> <p>図88 他の調査区との関係……………179</p> <p>図89 過去における調査区的位置……………181</p> <p>図90 武家屋敷地区第14地点周辺の絵図・地図……………183</p> <p>図91 武家屋敷地区第14地点周辺の武家屋敷の変 遷模式図……………184</p> <p>図92 礎石と周辺の遺構……………186</p>
--	---

目 次

表1	遺物集計表(1).....	78	表50	煙管首直観察表.....	116
表2	遺物集計表(2).....	79	表51	煙管吸口観察表.....	117
表3	遺物集計表(3).....	80	表52	その他の銅製品観察表.....	117
表4	遺物集計表(4).....	81	表53	鉄製品観察表.....	117
表5	遺物集計表(5).....	82	表54	その他の遺物観察表.....	117
表6	遺物集計表(6).....	83	表55	石器・石製品観察表.....	118
表7	遺物集計表(7).....	84	表56	動物遺存体種名表.....	120
表8	遺物集計表(8).....	85	表57	遺構出土の動物遺存体.....	121
表9	磁器集計表(1).....	86	表58	動物遺存体観察表(1).....	124
表10	磁器集計表(2).....	87	表59	動物遺存体観察表(2).....	125
表11	陶器集計表(1).....	88	表60	動物遺存体観察表(3).....	126
表12	陶器集計表(2).....	89	表61	動物遺存体観察表(4).....	127
表13	土器・土製品集計表(1).....	90	表62	動物遺存体観察表(5).....	128
表14	土器・土製品集計表(2).....	91	表63	動物遺存体観察表(6).....	129
表15	石器・石製品・その他の遺物集計表.....	91	表64	井戸遺構出土大型植物遺体(木本).....	131
表16	瓦(種類別)集計表(1).....	92	表65	井戸遺構出土大型植物遺体(草本).....	132
表17	瓦(種類別)集計表(2).....	93	表66	池状遺構出土大型植物遺体(1).....	133
表18	漆塗製品・木製品集計表.....	94	表67	池状遺構出土大型植物遺体(2).....	134
表19	金属製品集計表.....	95	表68	ビットほか遺構出土大型植物遺体.....	134
表20	磁器観察表(1).....	96	表69	遺構種類別集計(利用・生育環境毎).....	137
表21	磁器観察表(2).....	97	表70	遺構種類別集計(生育環境毎).....	138
表22	磁器観察表(3).....	98	表71	出土編組製品等の素材の植物種.....	145
表23	磁器観察表(4).....	99	表72	出土筈と「宮床筈」(展開状態)の比較.....	147
表24	磁器観察表(5).....	100	表73	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 における昆虫分析結果(1).....	151
表25	陶器観察表(1).....	101	表74	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 における昆虫分析結果(2).....	152
表26	陶器観察表(2).....	102	表75	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 における昆虫化石リスト(1).....	156
表27	陶器観察表(3).....	103	表76	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 における昆虫化石リスト(2).....	157
表28	陶器観察表(4).....	104	表77	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 における昆虫化石リスト(3).....	158
表29	陶器観察表(5).....	105	表78	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 における昆虫化石リスト(4).....	159
表30	土師質(Ⅲ)観察表.....	106	表79	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 における昆虫化石リスト(5).....	160
表31	土師質土器(その他)観察表.....	107	表80	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 における昆虫化石リスト(6).....	161
表32	瓦質土器観察表.....	107	表81	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 における昆虫化石リスト(7).....	162
表33	軟質施軸陶器観察表.....	107	表82	二の丸地区出土供膳具の材質別出土点数.....	167
表34	土人形・土製品観察表.....	108	表83	二の丸地区出土磁器の産地別出土点数.....	169
表35	古代瓦観察表.....	109	表84	二の丸地区出土陶器の産地別出土点数.....	169
表36	軒丸瓦観察表.....	109	表85	池状遺構出土供膳具(碗・皿類)の材質別 出土点数.....	170
表37	軒平瓦類観察表.....	109	表86	池状遺構出土陶磁器の産地別出土点数.....	170
表38	軒棧瓦観察表.....	109	表87	井戸出土供膳具(碗・皿類)の材質別出土 点数.....	172
表39	その他の瓦観察表.....	109			
表40	各種木製品観察表(1).....	110			
表41	各種木製品観察表(2).....	111			
表42	各種木製品観察表(3).....	112			
表43	下駄観察表.....	113			
表44	楔観察表.....	113			
表45	箸観察表.....	114			
表46	木筒観察表.....	114			
表47	漆塗製品(碗)観察表.....	115			
表48	漆塗製品(碗以外)観察表.....	115			
表49	古銭観察表.....	116			

表88	井戸出土陶磁器の産地別出土点数	172
表89	漆継のある陶磁器集計表	174

表90	焼継のある磁器集計表	176
表91	各調査地点において設定された段階	177

写真図版目次

図版1	3号建物(Ⅰ期)出土遺物	197
図版2	5号柱列・8号柱列(Ⅰ期)出土遺物	197
図版3	10号柱列(Ⅰ期)出土遺物	197
図版4	2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(1)	197
図版5	2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(2)	198
図版6	2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(3)	199
図版7	2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(4)	200
図版8	2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(5)	201
図版9	2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(6)	202
図版10	2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(7)	203
図版11	2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(8)	204
図版12	2号池状遺構(Ⅰ期)から検出された箕(9)	205
図版13	4号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(1)	206
図版14	4号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(2)	207
図版15	4号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(3)	208
図版16	10号遺構(Ⅰ期)出土遺物	209
図版17	12号遺構(Ⅰ期)出土遺物	209
図版18	37号遺構・57号遺構・64号遺構(Ⅰ期)出土遺物	210
図版19	39遺構(Ⅰ期)出土遺物	210
図版20	40号遺構・42号遺構(Ⅰ期)出土遺物	210
図版21	3号溝(Ⅰ期)出土遺物(1)	211
図版22	3号溝(Ⅰ期)出土遺物(2)	212
図版23	5号井戸(Ⅰ期)出土遺物	212
図版24	ビット205(Ⅰ期)出土遺物	212
図版25	ビット70・ビット102・ビット200・ビット239(Ⅰ期)出土遺物	213
図版26	ビット245・ビット250・杭57(Ⅰ期)出土遺物	213
図版27	ビット15・ビット77・ビット165・ビット188(Ⅰ～Ⅱa期)出土遺物	213
図版28	15号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物	213
図版29	16号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物	213
図版30	26号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物	214
図版31	35号遺構・74号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物	214
図版32	ビット38・ビット225・ビット240・ビット260・ビット279(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物	214
図版33	5号建物(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物	214
図版34	7号遺構(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物	214
図版35	1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(1)	215
図版36	1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(2)	216
図版37	1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(3)	217
図版38	1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(4)	218
図版39	1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(5)	219

図版40	1号井戸(6)・ビット224(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物	220
図版41	3号池状遺構・18号遺構(Ⅱa期)出土遺物	221
図版42	5号溝(Ⅱa期)出土遺物	221
図版43	9号遺構(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物	222
図版44	69号遺構・2号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物	222
図版45	6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(1)	223
図版46	6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(2)	224
図版47	6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(3)	225
図版48	6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(4)	226
図版49	6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(5)	227
図版50	6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(6)	228
図版51	ビット226(Ⅱa～Ⅱb期)・1号柱列(Ⅱb期)出土遺物	228
図版52	2号柱列・1号池状遺構(Ⅱb期)出土遺物	229
図版53	4号遺構(Ⅱb期)出土遺物	230
図版54	13号遺構(Ⅱb期)出土遺物	230
図版55	ビット151・ビット156(Ⅱb期)・5号遺構(Ⅱb期～Ⅲ期)出土遺物	230
図版56	65号遺構(Ⅱb～Ⅲ期)出土遺物	231
図版57	50号遺構・ビット49(Ⅱb～Ⅲ期)出土遺物	231
図版58	6号建物・2号遺構・20号遺構(Ⅲ期)出土遺物	232
図版59	14号遺構(Ⅲ期)出土遺物	232
図版60	21号遺構・25号遺構(Ⅲ期)出土遺物	232
図版61	48号遺構(Ⅲ期)出土遺物	232
図版62	30号遺構(Ⅲ期)出土遺物	233
図版63	31号遺構(Ⅲ期)出土遺物	233
図版64	51号遺構(Ⅲ期)出土遺物	234
図版65	63号遺構(Ⅲ期)出土遺物	234
図版66	66号遺構(Ⅲ期)出土遺物(1)	234
図版67	66号遺構(Ⅲ期)出土遺物(2)	235
図版68	71号遺構・4号溝・6号溝(Ⅲ期)出土遺物	236
図版69	4号井戸(Ⅲ期)出土遺物	236
図版70	ビット136・ビット152・ビット177(Ⅲ期)出土遺物	236
図版71	ビット280・ビット292(Ⅲ期)出土遺物	236
図版72	関連2区・4区出土遺物	237
図版73	2a-2層出土遺物	237
図版74	2b層出土遺物	238
図版75	1層出土遺物(1)	238
図版76	1層出土遺物(2)	239
図版77	1層出土遺物(3)	240
図版78	動物遺存体(1)	241
図版79	動物遺存体(2)	242

图版80	大型植物遗体 (1)·····	243	图版84	昆虫遗体 (2)·····	247
图版81	大型植物遗体 (2)·····	244	图版85	昆虫遗体 (3)·····	248
图版82	大型植物遗体 (3)·····	245	图版86	昆虫遗体 (4)·····	249
图版83	昆虫遗体 (1)·····	246			

第V章 出土遺物

1. 整理作業と資料化の方法

調査時点での出土遺物量は、サンコー社製サンボックス#32(内容量30.3リットル)にて79箱である。遺構の検討段階で、遺構名・層名が変更になったものは、遺物の種類ごとに対照表を作成して、調査時名称と報告名称を照合できるようにしているが、遺物に書かれた注記は変更していない。木製品・塗装製品は、取り上げ段階で水漬け状態にして一時保管した。金属製品は、取り上げ後、エタノールに漬けて一時保管をした。その他の特殊な遺物を除いては、洗浄・注記後に材質ごとに分類をし、これ以降は材質ごとに整理作業を行い、接合・同一個体の認定後に破片数の集計を行っている。しかし、同一個体の識別が困難な小破片や、破片になりやすい薄手の資料(陶器土版や土師質土器の皿など)については、実際の個体数よりも多く集計されている可能性がある。木製品は、木羽、竹・竹製品、樹皮は、破損しやすく、個体数算定が困難なことから、本文中の出土点数には含まれていないが、集計表では乾燥後の重量にて提示している。瓦は、個体数と重量で示している。

遺物実測図と写真については、接合・集計後に、器形や特徴がよくわかるもの、時期・産地が判別でき、遺構や層位の時期が判断できるものを選択的に抽出し、図化している。I層出土遺物は、近世で特に残存状況がよいものによって選択的に資料化した。実測図は、当調査室にて手書きで作成した後、Adobe社「Illustrator」を用いてトレースした。陶磁器等の文様は、ニコン製デジタル一眼レフカメラで撮影した画像を、株式会社CUBIC製「遺物実測支援システム遺物くん」を用いて補正を行い、Adobe社「Photoshop」にて画像処理をして使用している。木製品の焼印や塗装製品の文様は手書きで表した。木簡の墨書部分については、ニコン製デジタル一眼レフカメラで赤外線撮影を行い、Adobe社「Photoshop」にて画像処理をして用いた。遺物写真は、当室にて撮影した。

木製品は、整理作業の進行状況に応じて、当室において糖アルコール含浸法を用いて保存処理作業を行った。金属製品は、洗浄の後、さび取り作業を行い、遺物の形状がわかるようにして、集計・抽出・図化作業を行った。図化する資料は報告書作成作業が終わり次第、保存処理作業を行っている。

2. 各時期の遺構出土遺物(表1～55)

武家屋敷地区第14地点の遺構編(「調査報告」7)におけるI期(16世紀末葉を含む17世紀)、IIa期(18世紀初頭～中葉)、IIb期(18世紀後葉～19世紀初頭)、III期(19世紀前葉～後葉、一部近代を含む)の時期区分に基づいて、各遺構の出土遺物を示していく。掲載順は遺構編に準じている。遺物が出土していない遺構は、表1～8の出土遺物集計表に遺物なしの記載をしており、ここに項目は設けていない。なお、自然遺物、木製品(W19)、石製品(S25)、その他の遺物(VA3、VA4、VA5、VA7)については、第VIII章にて詳細を記載しており、そちらを参照されたい。

(1) I期の遺構出土遺物

【3号建物】(図2、図版1) 陶器1点、土師質土器1点、瓦1点(340g)、木製品3点が出土している。このうち年代が判明する遺物は、柱6から出土した17世紀代の丹波播鉢(CT1)のみである。W1は、加工された木製品であるが、用途は不明である。

【5号柱列】(図版2) 陶器1点、土師質土器5点が出土している。年代のわかる遺物は、柱1から17世紀代の瀬戸・美濃灰釉陶器(CT2)の碗が出土している。土師質土器は、皿1点以外は器種不明の小片である。

【8号柱列】(図版2) 磁器1点、陶器1点、土師質土器3点、瓦質土器1点が出土している。柱2から17世紀前葉(明末清初)の中国景德鎮系の磁器端反碗(CJ1)、向付とみられる志野陶器破片(CT3)が出土し、い

ずれも16世紀末～17世紀前葉にまとまる。土師質土器は皿小片、瓦質土器は火鉢の口縁部破片であるが、それ以上の特徴は不明である。

【10号柱列】(図版3) 陶器3点、土師質土器5点、瓦3点(81g)、和釘1点が出土している。陶器では、柱1から18世紀以降の京・信楽鉄絵皿(CT4)、柱2から17世紀後半の肥前白泥刷毛目文の大鉢(CT5)が出土している。土師質土器は皿小片、瓦も小片である。

【2号池状遺構】(図3～11、図版4～12) 磁器145点、陶器179点、土師質土器692点、瓦質土器16点、土人形6点、軟質施軸陶器7点、瓦95点(2944g)、木製品2169点、漆塗製品38点、石器・石製品24点、金属製品173点、その他4点と、調査区内では比較的遺物量が多い遺構である。

陶磁器と瓦は埋土1～3層、特に埋土2層からの出土が多い。木製品、漆塗製品、金属製品、瓦質土器、軟質施軸陶器は埋土2～3層により多く、特に木製品や漆塗製品は埋土2層に集中している。土師質土器は下層の埋土4～6層からも比較的多く出土している。それぞれの埋土からは比較的近い時期の陶磁器が出土しているが、埋土4～5層は若干古手の陶磁器が含まれている。

埋土1層の磁器では17世紀前半まで遡るものは出土していない。CJ3・4は小片だが肥前の白磁碗と染付碗で、17世紀後半以降と考えられる。CJ2は隅槽の形をした水滴である。陶器は、17世紀後半、あるいは17世紀末～18世紀前葉頃でまとまる。肥前刷毛目碗(CT7)・呉器手碗、瀬戸・美濃の腰銘碗(CT6)・灰軸碗、大堀相馬の灰軸碗、小野相馬の灰軸碗(CT10)などの碗類のほか、播鉢では瀬戸・美濃、堺(CT11)、丹波(CT8)と複数の産地がみられる。他に、岸窯系の鉄軸香炉(CT9)、瀬戸・美濃の灰軸製水入などが出土している。大堀相馬は2点、小野相馬は3点と少なく、いずれも碗の小破片のみで、皿や他器種は出土していない。土人形・土製品はすべて埋土1層で、猿(CO1)、多層塔(CO2)、人形(CO3)などがみられる。CO3は、片手で球状のものを抱えたようなモチーフが推測されるが、何を模しているはわからない。多層塔は、基礎部分のみで上部は欠損している。型作りで対角状に貼り合わせ、表面にはキラ粉とみられる光沢を持つ塗布物が部分的に残存している。

埋土2～3層の磁器は、高台内滴「福」銘と見込五弁花文(CJ13)、「くらわんか手」の碗(CJ7)、小ぶりの丸碗(CJ6)、コンニャク判による見込五弁花文の皿(CJ14)のほか、CJ5・8・10～13・16など肥前磁器が出土している。1680～90年代に出現し、その後流行するコンニャク判や見込五弁花文、滴「福」銘(九州近世陶磁学会2000)、「くらわんか手」(中野雄二2013)など、17世紀後葉から末以降にみられるものが中心で、17世紀末～18世紀前葉頃でまとまると考えられる。17世紀前半頃の肥前皿(CJ10)、17世紀前葉の中国磁器中碗(CJ15)、漳州窯系大皿(CJ9)など、やや古い磁器も含まれるが主体ではない。

陶器も、埋土1層と器種・年代ともおおよそ共通する。肥前の刷毛目碗(CT13・16)・呉器手碗(CT19・21)、瀬戸・美濃の腰銘碗(CT27)・灰軸碗・播鉢(CT30)、小野相馬の灰軸碗(CT25・29)に加え、肥前の銅緑釉蛇の目軸割ぎ皿(CT20)、小野相馬の鉄軸流し掛け灰軸碗(CT15)、京・信楽の火入・香炉(CT17)、信楽の大壺(CT28)、信楽とみられる水差蓋(CT18)、備前とみられる飯類が出土する。播鉢では岸窯系(CT24)と鉄軸東北産(CT26)がある。京焼風灰軸碗(CT14)には「中村金」の印銘があり、17世紀後葉から18世紀初頭に多くみられるものである(中村裕子1999)。大堀相馬や小野相馬製品は他の製品に比べてかなり少ない。破片のみのため軸調からの判断であるが、大堀相馬破片1点、小野相馬破片9点と、大堀相馬より小野相馬が多く確認される。器種はいずれも碗破片のみで皿などはみられない。淡青灰色ないし淡青灰白色の失透釉で、18世紀中葉や後半に多い淡緑灰白色で透明度のある大堀相馬特有の釉薬とは異なる軸調である。これらは武家屋敷地区第7地点2号遺構(「年報」19第2分冊・第5分冊)から多数出土した18世紀前葉の大堀相馬・小野相馬の灰軸碗と非常に類似している。そのため、大堀相馬・小野相馬が開窯した17世紀末以降から18世紀前葉以前の年代と考えられる。瓦質土器は、火鉢の可能性を含む鉢類と火消窓の蓋などがみられるが小片のみである。軟質施軸陶器は埋土3層出土で、全体形状が不明の碗小片である。

金属製品は、煙管吸口(MO6)のほかに、鉄製品の和釘が多く、小柄か(MO17)、鉄(MO18)、包丁か(MO19)、鍔(MO20)、鳶口(MO21)、刃物、火箸かなどの鉄製道具類も比較的豊富に出土している。VA2は籠甲製のかまぼこ型で小孔があり、片面には横筋状の痕跡がみられる。小孔に紐を通すなどした装飾部品の一部を推測するが全体像はわからない。VA1は形状から山高型のボタンと考え、裏面は小孔2つがつながる状態で開いている。他にガラス製品(器種不明の小片)が出土している。

木製品ではほとんどが埋土2～3層に集中し、種類も多岐に渡る。下駄(W85～94)は破片も含まれるが出土数が多い。箸(W117～130)、木筒(WT1～4)、櫛(W11)、串状(W12～16)、桶(W20・21)、栓(W4・5)、製品の一部分(W6～10)、人形の一部(W18)、楔(W101)のような製品も多いが、材木の一部に加工した痕跡がある板材や角材なども多く出土している。木筒では、WT3で「正徳三年」(1713)の年号が確認された。WT2は欠損もあり推測を含むが、同じく「正徳三年」と書かれている可能性が考えられる。これらは共存する陶磁器の年代とも非常によく一致しており、出土遺物が18世紀初頭～前葉頃に相当すると考えられる根拠として示される。

漆塗製品は、蓋を含む椀類20点(WL1～4)のほか、曲物(WL24)、箱状製品の一部(WL25)、塗箸(WL26)などがある。漆塗椀は残存状況が悪く、椀ではあるが漆膜のみで形状を保たないものも多くみられた。箱状製品(WL25)は、側板の片面にのみ黒色漆が塗られ、構造から漆が塗られている部分が内面と考えられる。曲物はごく一部分のみの出土であるが、黒色漆に流水菊花文(銀色か)が描かれている。

埋土4～5層の陶磁器は比較的少ないが、埋土1～3層と様相に大きな違いは認められないが、磁器では17世紀後半の網目文の瓶類(CJ19)、17世紀前葉(明末清初)の中国磁器皿(CJ18)などのやや古手も若干含まれている。陶器では小片中心である。瀬戸・美濃の播鉢(CT30)は口縁部形態から17世紀後半頃と考えられる(藤沢良祐2006)。加工痕のある木材片が出土している以外は木製品も少ない。

他の遺物では、土師質土器の皿は埋土各層から比較的上出土点数は多いが細片が中心である。計測可能な資料はCH1～6で、CH2・4・5は煤状の付着物があり、灯明皿として使用されたと考えられる。他に、埋土2層から鉢形の土師質土器(CH43)がある。焼塩壺は埋土1～3層から合計6点出土しているが完形品はない(CH41・42・44)。すべてコップ形で格子目タタキを有する地元産D類で(『年報』9、『年報』19第5分冊)、D類の焼塩壺の出現は元禄以降とみられる(『年報』7)。同型の焼塩壺は、武家屋敷地区第7地点2号遺構(『年報』19第2分冊・第5分冊)から82点出土している。

瓦は埋土3層・4層で、連珠三巴文軒丸瓦類(T5)、唐草文軒平瓦類(T7)などの瓦当文様のわかるものがあるが、他は丸瓦や平瓦の部分破片である。

古銭は寛永通寶の「通」部分(MC2)と、文字不明の部分破片(MC1)である。

石製品では、碇、碁石(S2・7・11・13)、砥石、火打石がある。火打石(S3～5)は石英製で、いずれもより大きな火打石本体からの剥離物と考えられる。砥石(S9・12)は砂岩製で、S12は上下と斜方向の擦痕が重複し、下端は欠損した後も砥面として利用されている。S9も使用時の剥離が見られ、剥離の上に研磨痕跡が観察されるため、欠損した後も使用されていたと考えられる。他に石鏝、磨製石斧、紡錘車といった縄文・弥生時代の石器・石製品も出土しているが、遺構の年代に伴ったものではない。石鏝(S10)は凹基の凝灰岩製で、両面押圧剥離によって整形され、縁辺の形状、断面形ともに不規則である。左の逆刺の破損は、指標的な衝撃剥離ではなく、整形時の破損の可能性も考えられる。磨製石斧(S1)は、表裏両面は擦痕が観察しにくいほど丁寧に磨かれるが、頂部と側面は磨かれず敲打痕が残存している。紡錘車(S6)は凝灰岩製で、中央孔から放射状に刻線が施され、表面には不明瞭ながら整形時のケズリ痕が残っている。

【4号池状遺構】(図12～14、図版13～15) 磁器33点、陶器20点、土師質土器108点、瓦質土器2点、瓦17点(4222g)、木製品226点、漆塗製品20点、石器・石製品2点、金属製品32点が出土している。埋土各層から少量の遺物が出土する状況で、各層の年代差はみられない。

磁器では、17世紀前葉（明末清初）の中国景德鎮系・漳州窯系磁器（CJ21・22・26・27）、17世紀前葉～中葉の肥前磁器の小中皿（CJ20・24）、17世紀後半以降の肥前（波佐見か）青磁鉢（CJ23）がみられる。細片を含めて18世紀代まで下る磁器は含まれていない。

陶器では、肥前（唐津）の二彩手大皿（CT31）・呉須絵大皿（CT34）・長石軸碗（CT37）・黒軸碗（CT36）、志野織部の小中皿（CT32・33）など17世紀初頭から後半頃のものである。他に瀬戸・美濃播鉢がみられ、細片のため決め手には欠けるが口縁部形状では17世紀後半頃と考えられる。細片が多く明確でない部分もあるが、陶磁器全体では明らかに18世紀代に下るものはない。17世紀末以降に出現する大堀相馬・小野相馬が出土しないこともあり、17世紀前半代を含んだ17世紀後半の資料でまとまるものと考えられる。

土師質土器は皿のみの出土で、CH7・8を示したが破片が多い。CH8は器面全体が黒色化している。

木製品では、加工痕のある木材片等が多く、製品は比較的少ないが、下駄、櫛（W25）、人形の頭（W23・24）、柄（W26）、折敷の一部（W22）などが出土した。W26は、和箱の鞆轆（おろぎ）に形状が類似する可能性があるが、破損部分もあり不明確である。下駄は崖南下駄と歯であるが木質の残存状態が悪く固化していない。漆碗も木胎の状態が悪く漆膜のみや破片である。WL28は漆塗製品の取っ手部分で下地のみが残った状態で、WL27は桶の天板で漆がわずかに残存した状態である。

銅製品では、「通」部分が残存した寛永通寶（MC3）、煙管吸口（MO7・8）のほか、鉢状の銅製品（MO13）が出土している。MO13は埋土8層からの出土で、外面に小紋胡麻と菱の文様を帯状に配した非常に薄手の作りで、香炉や仏具を連想させるが用途は確かでない。石製品は碁石2点（S14・15）のみである。他に古代瓦（T1）が1点出土している。

【10号遺構】（図15、図版16） 磁器3点、陶器2点、土師質土器2点、瓦質土器1点、瓦1点（100g）、木製品4点、漆塗製品2点、レンガ1点が出土している。遺構の南北両端が近代以降に擾乱を受けているため、レンガはその混入と考えられる。

磁器は17世紀前葉（明末清初）の中国磁器小坏（CJ28）で漆継痕が確認される。他に肥前白磁の小碗片（あるいは猪口）・肥前色絵磁器小片が出土しており、17世紀後半かと考えられる。

陶器は播鉢2点である。CT38は、口縁部がなく不明確ではあるが、無軸体部と胎土の特徴から岸窯系とみられる。播目は摩滅してほとんど残らないほど使用されている。仙台城下で岸窯系播鉢が出土する17世紀中葉～18世紀初頭頃と考えられる。他は瀬戸・美濃播鉢とみられるが、播目がわずかにわかる程度の残存状況のため年代は不明である。

土師質土器は皿の小破片2点のみで、そのうち1点は口縁に煤状付着物が確認され灯明皿として使用されたものである。木製品は、加工痕のある木材片のみで製品はない。漆塗製品は碗と蓋が出土しているが、碗は小片で特徴はわからない。蓋（WL5）は内外ともに黒色で無文の製品である。

【12号遺構】（図16、図版17） 磁器9点、陶器19点、土師質土器9点、瓦質土器3点、土人形1点、軟質軸輪陶器1点、木製品5点、漆塗製品2点、火打石1点が出土している。調査時に埋土を分層せずにまとめて取り上げた遺物も含まれる。

磁器は18世紀代の見込み五弁花文（コンニャク判）のいわゆる「くらわんか手」の肥前皿（CJ29）、高台径の小さい17世紀中葉頃の肥前皿（CJ30）、17世紀後葉～18世紀前半の肥前丸碗（CJ31）がみられる。CJ29・31は漆継痕が確認される。陶器は、17世紀末～18世紀前葉の肥前刷毛目文碗、18世紀前葉以降の大堀相馬の鉄軸流し掛け碗（CT42）と灰軸碗、18世紀中葉以降の大堀相馬の鉄軸灰軸掛け分け碗（CT41）、18世紀前半の京・信楽の色絵碗（CT39）、18世紀代の備前の人形徳利（CT40）、18世紀代の東北産鉄軸播鉢などが出土している。陶磁器は17世紀後半～18世紀中葉以降の比較的幅広い年代の陶磁器が出土している。

土師質土器は、皿破片のほか、鉢の可能性のある口縁部破片1点が出土したが全体形状はわからない。瓦質

土器は火鉢（CG1）、五徳（CG2）が出土している。CG1は口縁部が髯縁状で短い頸部を持ち、火鉢と考えたが他の器種の可能性も残る。CG2は、板作りで内側に曲がる鉤状の支えが3ヶ所ある形態の五徳と推測される。土人形（CO4）は破片のため全体像は不明であるが、型作り中空で沈線状の文様が数本みられる。軟質施軸陶器は極小片のため器種はわからない。漆塗製品は漆膜のみが残存した状態で、木製品は加工痕のある木材片が出土しているが製品はない。火打石（S16）は石英製で、鋭角の縁辺や稜線上に集中的に打撃による剥離や潰れが残っている。

【37号遺構】（図版18）磁器1点、漆塗製品1点が出土した。漆塗製品は赤色の漆膜である。磁器は肥前の口紅のある白磁皿（CJ32）で、面取りした口縁部の作りなどから17世紀代と考えられる。

【39号遺構】（図17、図版19）磁器7点、陶器7点、土師質土器21点、土人形1点、瓦5点（135g）、碁石1点（S17）、火打石1点が出土した。

磁器は埋土1層から17世紀代の肥前大皿（CJ33）、埋土2層から17世紀後葉～18世紀前葉の肥前碗、埋土3層から17世紀前半の肥前皿（CJ34）が出土している。陶器で年代が判明するのは、埋土3層の志野向付（CT43、16世紀末～17世紀初頭）のみである。他に埋土1層から陶器甕（産地不明）、埋土2層から天目碗の可能性のある瀬戸・美濃碗、肥前の灰釉碗などがみられるが、小片のため年代はわからない。

土師質土器の皿は細片のみで、他に焼塩壺（CH45）1点が出土している。CH45は、ロク口成形で外面に格子状明き目を持つ地元産の破片で、17世紀末～18世紀後葉頃に確認される（『年報』19第5分冊）。土人形（CO5）は猿の頭部である。

【40号遺構】（図17、図版20）陶器1点（CT44）が出土したのみである。瀬戸・美濃の灰釉折縁ソギ皿で、ほぼ完形の状態出土している。削り出し高台と口縁折縁部が玉縁状になるところから、大窯第4段階（瀬戸市史編纂委員会1993）の16世紀末～17世紀初頭と考える。煤状付着物が口縁部から底部の内外面に広く観察され、部分的に厚い箇所もあり灯明皿として繰り返し使用された痕跡が認められる。

【42号遺構】（図版20）磁器1点、陶器6点、土師質土器8点、瓦質土器1点、瓦1点（10g）、碁石1点（S18）、火打石1点が出土した。

磁器は17世紀前葉（明末清初）の中国青花磁器と推測される小片1点のみで、図化したものはない。陶器は、検出面で19世紀代大瀬馬の青土版片1点がみられるが、他の陶磁器から考えて上層からの混入であろうと判断した。それ以外は、瀬戸・美濃灰釉大鉢（CT45）、絵唐津向付（CT46）、志野向付片など、16世紀末～17世紀前半頃の陶器でまとまる。瀬戸・美濃大鉢（CT45）は黄緑色系の灰釉が一部白濁しており、口縁部外面に密詰め時の癒着とみられる痕跡がある。絵唐津（CT46）は仙台城跡二の丸地区第9地点で同じ文様構成のものが出土している（『年報』8）。他に鉄軸挿鉢（CT47）は、口縁部にわずかに描目が確認される程度の残存状況で、胎土は岸窯系や唐津に類似するように見えるが産地不明とした。土師質土器は小片のみだが、CH11はやや大きい破片で、器面内外面全体が黒色化している。

【57号遺構】（図17、図版18）陶器1点（CT48）が出土したのみである。鉄絵で横線状の文様が描かれた17世紀初頭の志野織部で、長石釉には一部に縮みや白濁がみられる。頭部上端の欠損部分に漆継痕が確認される。

【64号遺構】（図版18）磁器2点、土師質土器の皿2点が出土した。磁器2点はいずれもごく小さい破片であるが、うち1点（CJ35）は肥前の輪花皿の口縁部破片で17世紀中葉頃かと考える。もう1点の破片はさらに小さく確実でない部分もあるが、肥前ではなく中国青花磁器の可能性があり、その場合17世紀前半代で磁器の年代はまとまることが考えられる。土師質土器の皿もごく小さい破片であり、詳細は不明である。

【1号溝】土師質土器1点、瓦1点（70g）が出土したのみである。近世ではあるが、年代推定できる遺物は出土していない。土師質土器の皿は底部破片で、内面・外面に煤状の付着物がみられ、灯明皿として使われたものと考えられるが年代などは不明である。瓦は種類不明の小片である。

【3号溝】(図18、図版21・22) 磁器16点、陶器37点、土師質土器42点、土人形1点、瓦37点(3622g)、漆塗製品2点、石器・石製品2点、金属製品3点が出土している。遺物は埋土1～2層が多く、埋土3層より下層では非常に少ない。

埋土1～2層からは、18世紀後半～19世紀代の陶磁器が多いが、17世紀末～18世紀前半頃も含まれており、比較的年代幅は広い。瀬戸磁器や陶器土瓶は確認されないことから、19世紀前葉～中葉までは下らないものと考えられる。磁器は肥前のみである。見込蛇の目輪刺ぎの小中皿(CJ37)は、残存部位に文様がいないことから二重斜格子文より古手の17世紀後半～18世紀前半頃のものとして推測した。CJ40の「富口長口」銘は17世紀末～18世紀後葉までみられるが、小振りの碗形から18世紀前半頃かと推測する。CJ36は19世紀前半の輪花小中皿である。

陶器は出土量もやや多く、比較的残存状況もよいものが多い。18世紀～19世紀代の陶器が中心で、大堀相馬の鉄軸灰軸掛け分け碗、灰軸碗、瓶類、小野相馬の鉄軸流し掛け鉢(CT54)、東北産の鉄軸片口鉢(CT49)、鉄軸小甕(CT51)、鉄軸搦鉢などがある。大堀相馬は透明度の高い灰軸のほか、18世紀末～19世紀初頭頃の糠白色の失透軸(CT55)もみられる。他に、肥前の口縁部鉄軸体部刷毛目文の瓶(CT53、17世紀末～18世紀後葉)、京・信楽の色絵碗(CT50、18世紀前半)、瀬戸・美濃の摺絵灰軸皿(CT52、18世紀初頭～中葉)など18世紀前半を含む可能性の陶器もみられる。

陶磁器以外の遺物は少なく、残存状態もよくない。土師質土器は皿破片のみ、瓦は九瓦、平瓦、板葺瓦、海鼠瓦などの破片、古銭も破片で詳細はわからない。漆塗製品は漆膜片のみである。CH12は灯明皿とみられるが、煤の付着状況から使用頻度は比較的少ないまま廃棄されたと推測される。土人形(CO6)は鱗状の文様と人物の脚部分の破片で、型押しで作られた「銅乗り」などの破片と推測される。S19は両端が欠損しているが泥岩製の砥石で、一面には粗い擦痕が残る、他面は比較的平滑である。

埋土3層からの出土は少ない。磁器は肥前のみで、17世紀中葉(～後葉)の生掛けで高台内無軸の碗(CJ42)はやや古手であるが、丸文の瓶(CJ39)は17世紀末～18世紀代と考えられる。陶器は出土していない。他に土師質土器の皿、瓦、煙管がみられるが、いずれも小片で不明である。

遺構編(「調査報告」7)で述べているように、埋土1～2層は遺物も多く、埋土に礫や粘土ブロックを斑状に含むことから、溝の埋め戻し土の可能性が考えられる。3号溝埋土3層以下は遺物がほとんど含まれず、砂と粘土がラミナ状に堆積する状況から、溝機能時の埋土と考えられる。遺物の年代からは、1期(17世紀代)から機能している溝を、18世紀後半～19世紀初頭頃(埋土1～2層)に埋め戻した可能性が考えられる。

【5号井戸】(図19、図版23) 磁器8点、陶器9点、土師質土器6点、瓦質土器2点、瓦2点(275g)、木製品15点、漆碗1点、不明粘板岩1点と少ない。

埋土3層と4層(掘方)からは小片であるが、磁器では中国漳州窯系呉須赤絵皿(CJ43、17世紀前葉)、肥前の小杯(CJ44、17世紀代か)、陶器では丹波搦鉢(CT56、17世紀中葉～後葉)、瀬戸・美濃搦鉢(CT57、17～18世紀)、肥前呉器手碗破片が出土している。土師質土器の皿、漆塗碗、加工木材も出土しているが、いずれも小片である。

埋土も小片が多い。磁器は肥前のみで、17世紀末～18世紀初頭もしくは前半代の肥前の碗(CJ46)・皿(CJ45)、17世紀前半代の皿口縁部破片、色絵水滴の一部などがみられる。陶器では肥前呉器手碗(CT58、17世紀後葉～18世紀前葉)、丹波搦鉢(CT59、17世紀中葉～後葉)、小野相馬の鉢(CT60、18世紀代)が出土している。遺物は17世紀後半～18世紀代まで考えられるが、18世紀後葉以降の遺物は認められない。CJ46は漆継ぎ痕がみられる。土師質土器では皿の小片のほか、焼塩壺の破片が出土している。全体形状は不明だが、コップ状で格子叩き目のある地元産焼塩壺と考えられ、17世紀末～18世紀後葉のものである。W95は差菌下駄の菌部分である。

【ピット70】(図20、図版25) 陶器1点、土師質土器の皿1点、古寛永通寶1点が出土した。陶器(CT61)は楕円部分はないが、口縁部形態と無軸焼締の胎土から17世紀代の丹波搦鉢と考えられる。土師質土器の皿はごく

小片で詳細は不明である。古寛永通寶（MC5）は、寛永十三（1636）年から明暦二（1656）年まで幕府によって鑄造され（江戸遺跡研究会編2001）、寛文八（1668）年以降に新寛永通寶が鑄造されると新寛永に通用が置き換わると考えられており、当遺構内では陶器の年代とも矛盾していない。

【ビット102】（図20、図版25）土師質土器の焼塩壺1点（CH46）が出土している。ごく小さな破片ではあるが、手づくね成形で、内部に輪積みによる粘土の接合痕が確認される。仙台城跡三の丸（結城慎一・佐藤洋1985）や二の丸北方武家屋敷地区第7地点（『年報』17第2分冊・第5分冊）で出土した17世紀代の畿内系焼塩壺に類似するものと考えられる。

【ビット200】（図版25）磁器1点（CJ47）が出土した。前述64号遺構のCJ35に類似する肥前の輪花皿の口縁部破片で、同様に17世紀中葉頃かと考える。

【ビット205】（図20、図版24）陶器1点（CT62）が出土した。17世紀前葉の肥前（唐津）長石軸の碗で、胎土には白色・黒色の砂粒がみられる。高台は露胎で、兜中と呼ばれる円錐状に突出した形状をしており、朝鮮系の碗を意識した器形をしている。断面には漆継痕が確認されている。

【ビット217】土師質土器8点、瓦1点（300g）が出土した。土師質土器は細片のため器種不明で、瓦は丸瓦片であるが、詳しい年代などは不明である。

【ビット239】（図版25）陶器3点、土師質土器8点が出土した。陶器は、17世紀初頭の鳴海織部の向付（CT63）が出土している。他はごく小片で産地・年代などは不明確であるが、明らかな18世紀代の陶器はみられない。土師質土器の皿は小片のみである。

【ビット245】（図版26）磁器1点（CJ48）が出土した。17世紀前葉（明末清初）の中国漳州窯系の皿底部破片で、高台内に砂粒が確認される。割れ口がきれいに成形されており、小型方形に加工して玩具などに再利用された可能性も考えられる。

【ビット250】（図版26）陶器1点（CT64）、土師質土器3点が出土した。CT64は淡い緑色軸の破片で、17世紀初頭の織部の変形皿（あるいは向付）口縁部の可能性が考えられる。土師質土器の皿のうち1点は灯明皿として用いられている。

【杭57】（図版26）磁器1点（CJ49）、陶器1点（CT65）が出土した。CJ49は高台径が小さい肥前皿である。CT65は、刷毛目文に鉄絵緑彩のある唐津二彩手大鉢である。磁器・陶器とも小破片で不確かな部分はあるが、17世紀代と考えられる。

なお、I期の遺構のうち、1号建物、4号建物、6号柱列、6号遺構、61号遺構、ビット64・74・84・92・107・213・236・248・266・284からは遺物は出土していない。

（2）I～IIa期の遺構出土遺物

【ビット15】（図版27）磁器1点（CJ50）が出土した。肥前の雨降文の碗破片とみられ、文様から17世紀末～18世紀初頭かと推測される。

【ビット77】（図版27）陶器2点（CT66）が出土した。CT66は瀬戸・美濃の鉄絵文大鉢で、17世紀後半～18世紀前葉頃ととらえた。他に肥前の刷毛目文碗小片があり、同じ年代と考えられる。

【ビット162】平瓦とみられる小破片など6点（415g）が出土したのみで、近世ではあるが、詳しい年代が判明する遺物は出土していない。

【ビット165】（図版27）陶器2点（CT67）、瓦質土器1点が出土した。CT67は大堀相馬の灰軸碗とみられる極小片で、18世紀中葉以降と考えられる。他に17世紀後半～18世紀後半の呉器手腕の小破片が出土している。

【ビット188】（図版27）磁器2点、陶器1点、土師質土器2点が出土した。磁器は17世紀前葉（明末清初）の

中国漳州窯系の呉須赤絵皿 (CJ51) で、漆継痕が確認される。CJ52は肥前の碗かとみられるが小片のため年代はしめない。陶器は産地不明の甕口縁部破片で年代不明である。

なお、Ⅰ～Ⅱa期の遺構のうち、ピット164・166・170・294から遺物は出土していない。

(3) Ⅰ～Ⅱb期の遺構出土遺物

【15号遺構】 (図21、図版28) 磁器4点、陶器5点、土師質土器1点、木製品3点、漆塗製品3点が出土した。磁器は小片のみである。CJ53は肥前白磁菊花鉢の口縁部破片で、17世紀後葉～18世紀代とした。漆継痕が観察される。陶器は、京・信楽の錆絵染付碗 (CT68) で、17世紀末～18世紀前葉頃と考えられる。体部下半は無軸で筒 (しのぎ) による文様を加え、高台内を渦巻状に調整したかなり丁寧な作りの碗で、茶器と考えられる。他に肥前の京焼風陶器碗、東北産鉄鉢類の高台部などが出土している。木製品は柄杓の柄 (W27) 以外は、加工痕のある木材片である。漆塗製品は、椀1点と漆塗である。漆椀は残存状態が悪く腐化していないが、内外面赤色、高台内黒色で、文様のない製品である。

【16号遺構】 (図22、図版29) 磁器11点、陶器9点、土師質土器3点、瓦質鉢類1点、軟質施釉陶器1点、瓦11点 (1400g)、加工痕のある木片1点、不明古銭1点 (MC6)、レンガ1点が出土した。遺構編 (『調査報告』7) でも述べているように、16号遺構は最深部で約3mほど掘り下げているが遺構底面までは達していない。遺物は少なくすべて小片で、近世の陶磁器と近代レンガが共存して出土することが確認される。埋土の状況から、近代以降に井戸を人為的に埋め戻した層と考えられる。

磁器では、17世紀中葉の肥前輪花皿 (CJ54)、17世紀前葉 (明末清初) の中国青花釉裏紅小杯 (CJ55) のほか、17世紀後葉～18世紀代とみられる白磁皿底部など年代幅は広い。陶器は、17世紀代～18世紀前葉頃の丹波無軸焼締鉢鉢 (CT72)、肥前呉器手碗 (CT70) などである。他にCJ56・CT69・CT71のような漆継痕のある小片も含まれる。瓦は瓦当面に唐草文のある軒平瓦類1点を含む。

【26号遺構】 (図版30) 磁器3点、陶器5点、土師質土器14点、瓦2点 (270g)、石製品2点、鉄滓1点 (VA6)、その他1点が出土した。磁器は小片で年代のわかるものはない。陶器は17世紀代とみられる瀬戸・美濃の長石釉丸皿 (CT73) のほか、瀬戸・美濃の甕や瓶類破片があるが、これらの年代はわからない。大塚相馬の可能性のある器種不明小破片1点を含むことから、18世紀代まで下る可能性がある。石製品は加工痕跡のある粘板岩破片で、硯の可能性のある小片である。

【35号遺構】 (図23、図版31) 磁器1点、陶器1点、土師質土器6点、不明土製品1点、和釘1点が出土した。年代の判明する遺物は、肥前磁器小皿 (CJ57、17世紀中葉～後葉)、大塚相馬の碗とみられる陶器小片 (CT75、18世紀代) のみで、年代的まともりはみられない。

【74号遺構】 (図24、図版31) 陶器1点 (CT76)、焼塩壺1点 (CH47) が出土した。CT76は、瀬戸・美濃の口縁部がヒダ状を呈する鉄軸皿である。美濃の元屋敷東1号A窯などのヒダ皿に比べ、規則的で直線的なヒダが並び、口径が大きいなど異なる特徴を持つ。しかし、18世紀まで下るものではないと考え、積極的根拠に欠けるが17世紀代と推測した。CH47は、ロクロ成形で緩やかな曲線状の体部を持ち、下半にはわずかに格子状の叩き目が観察される。仙台城跡三の丸地区出土 (結城慎一・佐藤洋1985) に類似がみられ、17世紀初頭～前葉頃の地元産焼塩壺の一種と考えられる。

【7号溝】 丸瓦の小片1点 (10g) のみである。近世の瓦と推測されるが、詳細は不明である。

【ピット38】 (図版32) 磁器1点、陶器1点 (CT77) が出土した。磁器は肥前であるが、小片のためそれ以上はわからない。CT77は瀬戸・美濃の灰釉碗で、小片ではあるが17・18世紀代と推測される。

【ピット181】 土師質土器の皿3点、和釘1点の出土で、年代の詳細はわからない。CH13は計測値を示した。

【ビット185】 陶器2点、土師質土器2点が出土した。陶器は瀬戸・美濃の灰軸製品と産地不明であるが、いずれも小破片で年代は不明である。土師質土器は皿小破片である。

【ビット215】 磁器1点が出土した。肥前の17世紀後葉以降の碗の可能性が考えられるが、小片のため不明である。

【ビット225】 (図版32) 陶器1点 (CT78)、土師質土器の皿破片1点が出土した。陶器は瀬戸・美濃の碗破片であるが、詳細な年代は不明である。

【ビット240】 (図版32) 陶器1点 (CT79) が出土した。肥前の刷毛目文碗破片で、17世紀後半以降の可能性を考えた。

【ビット260】 (図版32) 磁器1点 (CJ58) が出土した。肥前の小坏で、17世紀後葉～18世紀代の可能性を考えた。

【ビット279】 (図版32) 陶器1点、瓦1点 (5g) が出土した。陶器 (CT80) は肥前の呉器手碗破片で、17世紀後葉～18世紀前葉頃かと考えられる。

【ビット143・201・202・204・277・281】 表3の遺物集計表に示すように、各ビットからは遺物が数点出土しているが、いずれも小破片や年代不明の遺物であり、詳細は不明である。

なお、Ⅰ～Ⅱb期の遺構のうち、46号遺構、47号遺構、58号遺構、59号遺構、68号遺構、72号遺構、ビット40、116、180、189、191、195、218、227、237、251、254、256、257、258、265、274、275、282、283、285から遺物は出土していない。

(4) Ⅰ～Ⅲ期の遺構出土遺物

【5号建物】 (図25、図版33) 陶器1点、土師質土器1点、金属製品3点が出土した。柱2から出土した陶器の皿破片 (CT81) は、胎土と輪調から東北産 (あるいは産地不明) とし、年代は18世紀以降と考えられる。柱3からは古寛永通寶2点 (MC7・MC8) が背合わせに付いた状態で出土している。

【4号柱列】 磁器1点、陶器1点、土師質土器5点が出土した。柱5から肥前磁器の碗破片、小野相馬陶器の破片が出土している。いずれも小片で図化したものはない。18～19世紀ではあるが詳細は不明である。

【7号遺構】 (図26、図版34) 磁器1点、土師質土器3点、瓦2点 (470g)、加工痕のある角材片1点、漆塗碗1点が出土している。磁器は肥前とみられるが、極少破片で詳細は不明である。土師質土器のうち、皿1点は口縁部に煤状附着物があり、灯明皿として用いられている。漆塗製品の碗 (WL6) は、内外面が黒色、赤色で植物文が描かれたものである。

【28号遺構】 土師質土器1点が出土したが、小破片で詳細は不明である。

【1号井戸】 (図27～35、図版35～40) 磁器38点、陶器68点、土師質土器38点、瓦質土器4点、土人形1点、軟質施軸陶器20点、瓦47点 (12830g)、木製品148点、漆塗碗9点、碗以外の漆塗製品8点、石器・石製品4点、金属製品5点、ガラス2点、レンガ1点が出土しており、遺物量は比較的多い。埋土2層・埋土3層からの出土が多く、磁器や陶器は完形の個体や比較的大きな破片も含まれている。

埋土4層 (掘方) からは、小野相馬の中型丸碗 (CT82)、京・信楽の色絵碗の小片など、18世紀代と考えられる陶器がわずかに出土した。井戸の構築年代は18世紀代に遡るものと考えられる。

埋土1層から埋土3層は、埋土間で遺物が接合する場合もあり、陶磁器は概ね19世紀前半代でまとまる。磁器は、肥前以外に瀬戸産磁器 (CJ65・70・71・73・74) が出土する。他に産地不明としたが、胎土・呉須がなくすんだ発色の広東碗 (CJ66) もみられ、産地は不明だが肥前、瀬戸以外の磁器も含まれるものと推測される。器種では中碗とその蓋、小碗が特に多い。丸碗 (CJ67・75) 以外に、端反碗 (CJ61・74)、広東碗 (CJ64・66・72)、小型端反碗 (CJ65・70)、小型筒丸碗 (CJ73)、中碗と組む蓋 (CJ59・71) がみられる。小碗はいくつか揃いの出土もみられ、CJ65は他に1点、CJ70は他に2点の同様の碗が出土している。他に肥前皿小片1点、肥前

の御神酒徳利 (CJ63・68)、猪口 (CJ62) が出土する。御神酒徳利 (CJ63・68) は揃いで使われていたものである。CJ74・75では焼継痕が確認される。

陶器の産地は、大堀相馬 (CT83・85・87・88・91・94)、相馬系 (CT86・89・90)、東北産 (CT84) が多く出土し、瀬戸・美濃 (CT96)、京・信楽、小野相馬 (CT82) もわずかに含まれているが、肥前陶器は出土していない。なお、堤の可能性の陶器は東北産に含めて提示している。器種では端反や平形の碗 (CT89・90・93・95) と、土瓶 (CT85～87) の出土が多い。CT90の碗は、CT86の土瓶と胎土・釉薬が類似する。大堀相馬の土瓶にみられる白泥鉄絵の文様があるが、胎土は大堀相馬よりやや粗く異なるため、相馬系陶器とした。CT90は仙台市川内A遺跡 (佐藤甲二ほか2007) から類例が出土している。CT89は内面長石軸、外面灰軸を掛け分けた端反碗である。CT90と同様のやや粗い胎土で、鉄絵文や高台の作りの類似点から相馬系陶器とした。CT93は白濁した失透性釉薬で、胎土から小野相馬と考えた。これら相馬系とした陶器は、弘前大学人文学部岡根達人氏からご教示いただいた。土瓶は大堀相馬が主で、灰軸 (CT85)、青軸、白泥簡描灰軸 (CT87) のほか、白泥鉄絵灰軸 (CT86) などがみられる。CT86は薄手であるが他の土瓶より胎土が粗く、CT90の碗とも類似する胎土のため、産地を相馬系としている。CT85の土瓶は、井戸埋土に投げ込まれた円礫や木材でできた空隙に挟まるように出土したため、ほぼ完形である。使用時の受熱痕がみられ、器面の釉薬は貫入に沿って細かく剥がれ落ちる状態で、内面のほぼ全面と底部外面には煤状の付着物が確認され、使用中に土瓶を焦がしたものと考えられる。陶器のうち、皿類の出土は少なく、大堀相馬の鉄絵灰軸皿 (CT83)、小野相馬の灰軸皿が出土しているのみである。播鉢は破片中心で点数は多くないが、東北産鉄軸製品のほかに丹波焼締播鉢1点 (CT92) を含む。東北産鉄軸播鉢には堤の可能性が考えられるものも含まれる。他に大堀相馬 (CT91) と瀬戸・美濃 (CT96) の鑄軸徳利、東北産灰軸流し鉄軸小甕 (CT84)、大堀相馬灰軸仏花瓶 (CT88・94) が出土している。CT88・94の仏花瓶はほぼ完形の揃いのもので、白濁した灰軸の製品である。小甕 (CT84) は完形に近く、胎土・釉薬から堤の可能性が考えられる。陶磁器の器種は、喫茶、飲酒、神仏に関連するものが多く、播鉢、焙烙 (CN1～3)、鉄鍋などの調理に関連した遺物も比較的多く含まれている。

土師質土器は少なく、皿 (CH15) のほか、さな (CH48) や蓋など、いずれも小片である。また土師質ではあるが、ひび割れて砕けた状態の極小片が多数含まれ、皿などの製品ではなく、構築材などの可能性も考えられるが不明である。瓦質土器は持ち手部分に印花文のある十能 (CG3) が出土しているのみである。

軟質施軸陶器の焙烙は、持ち手が短く小孔のあるもの (CN1) と、持ち手が長く小孔のないもの (CN3) がある。CN1の底部は丸みがあり、外面に沈線状の段が付く器形であるが、CN2は底部が直線的で外面に段が付かないなど異なる形態が出土している。

瓦は、両付箱熨斗瓦 (T16)、板状瓦 (T17)、特殊瓦 (T18) など、やや特殊な瓦が多い。金属製品では、寛永通寶の一部1点のほか、鉄鍋の破片が出土している。

石英製火打石 (S21) は、打撃による細かい剥離が並び、潰れと摩滅が広範囲に認められる。S20は縄文・弥生時代のチップとみられ、遺構の年代を示すものではない。背面に対抗剥離が残り、腹面の打点付近には剥離時に砕けた痕跡がみられる。

木製品はやや多く出土している。板材や角材、小片などの加工痕のある木材片が多いほか、桶の部材となる天板 (底板) や銅板の出土も多い。W32～41、およびW43～45は、それぞれ木質や長さ・厚さが揃った銅板であり、一個体の桶の可能性が考えられる。特にW43～45は、桶の掻跡の位置や、「井桁にホ」の焼印が共通している。W47は鉄製錘に木製の柄がついた製品で、W46は鋏先と柄の一部である。漆塗碗は、身および蓋が比較的よい状態で残存しているものが多い (WL7～13)。椀 (WL7～10) は背の高い器形で外面黒色、内面赤色で共通するが、家紋や文様はそれぞれ異なる。

1号井戸埋土の出土遺物は、陶磁器は細片も含まれるが、完形あるいは完形に近い比較的大きい破片の出土も

多く、木材や樫の隙間から出土する状況が観察された。御神酒德利や仏花版はほぼ完形のものが多いで出土しており、破損による廃棄ではない可能性がうかがえる。漆碗の潰れ・変形も比較的少なく、桶も一まとまりで出土している。このような出土状況から、幕末明治初頭の武家屋敷廃絶に伴う屋敷の片付けに伴って、井戸に廃棄された資料の可能性があるのではと推測される。

【ビット224】(図版40) 陶器1点、土師質土器の皿1点が出土した。陶器(CT97)は緑軸(織部軸)の見られる口縁部破片で、織部の向付の可能性があり、17世紀前葉頃の年代が考えられる。土師質土器の皿は、底部の小破片で詳細は不明である。

【ビット81・83・90・100・104・125・126・134・145・146・190】表3～4の遺物集計表に示すように、各ビットからは遺物が数点程度出土しているが、いずれも小破片のため年代不明の遺物であり、詳細は不明である。

なお、2号建物、7号建物、7号柱列、75号遺構、ビット13・17・36・62・79・85・88・95・128・130・142・144・179・184・203・238・244からは遺物は出土していない。

(5) II a 期の遺構出土遺物

【3号池状遺構】(図36、図版41) 磁器7点、陶器6点、土師質土器の皿1点、瓦1点(50g)、木製品1点、金属製品5点と、出土遺物はごく少ない。

陶磁器は、産地・年代の判断がつかないものが多い。肥前磁器小中皿(CJ76)は、基筒底の17世紀中葉頃と考えられる。他は細片のため不明確だが、少なくとも18世紀後半以降とみられる磁器は含まれない。陶器では志野向付(17世紀初頭)と考えられる破片、肥前の京焼風陶器(CT98)、大堀相馬の淡緑灰白色の灰軸碗破片など、17世紀～18世紀代の陶器を含む。遺物量も少なく小片のため積極的根拠には欠けるが、17世紀代から18世紀前葉頃の可能性が考えられる。他に、木製品は人形の頭(W51)、煙管雁首(MO1)、火箸(MO14)とみられる銅製品が出土している。

【18号遺構】(図37、図版41) 磁器6点、陶器5点、土師質土器9点、瓦質土器1点、軟質軸輪陶器1点、瓦1点(60g)、木製品13点、漆塗製品2点、砥石1点が出土している。埋土2層からは木材片がややまとまって出土している。

磁器は、肥前「くらわんか手」碗(CJ77)以外は細片である。陶器は、肥前の呉器手碗と銅緑軸丸皿の破片が確認されるが、他は細片のため産地・年代は不明である。陶磁器の出土点数は少ないが、17世紀後半から18世紀代の可能性が考えられる。

瓦質土器は丸みを帯びた破片で、外面がガラス質状に変化する部分があり、増場の可能性を考えた。木製品は、箸の一部とみられる1点以外は、加工痕のある木材小片である。漆塗製品は漆膜のほか、黒色漆の塗られた小孔付き棒状加工木があり、製品や建具などの一部分とみられるが詳細は不明である。

【5号溝】(図38・39、図版42) 磁器21点、陶器30点、土師質土器45点、瓦質土器4点、土人形4点、瓦74点(6246g)、石器・石製品4点、金属製品5点が出土した。埋土1層、埋土2層に集中するが、遺物量はそれほど多くはない。埋土3層、埋土4層からは、磁器、土師質土器、瓦が各1点出土したのみである。

埋土1層、埋土1a層、埋土1b層は、18世紀代の肥前磁器が多く、コンニャク判による菊花文、雨降文、口縁内四方禪文などの小片がみられる(CJ78・79・81)。陶器では、大堀相馬の鉄軸灰軸掛け分け中碗、鉄軸流し掛け灰軸丸碗(CT100)、筒形碗、瓶類、小野相馬の灰軸碗、灰軸中皿、京・信楽の色絵灰軸碗、東北産鉄軸搦鉢、鉄軸甕、瀬戸・美濃の灰軸小碗、鉄軸搦鉢などが出土している。搦鉢や甕などでやや大きな破片も含まれているが器形全体がわかるものは非常に少ない。大堀相馬を中心に18世紀後半～19世紀初頭頃の製品が多く、大堀

相馬焼 (CT100) は赭白色に濁る失透性の釉薬であり、18世紀末～19世紀初頭頃と考えられる。東北産鉄釉磁鉢 (CT99) は埴の可能性も考えられる。瀬戸の磁器や土瓶は出土しないことから、19世紀前葉～中葉までは下らないものと考えられる。ほかに肥前呉器手焼 (CT101)、京焼写しなどの17世紀後葉～18世紀前葉の若干年代的に廻る陶器がわずかに出土している。

土師質土器では皿破片以外に、焙烙の持ち手部、羽釜が出土している。焙烙は小孔のある持ち手部の破片で、小片で不確実な部分もあるが透明釉はみられないため、軟質施釉陶器ではなく土師質土器ととらえた。土師質焙烙は、二の丸地区第9地点の18世紀後葉の土坑から出土した例が確認される〔年報〕9)。羽釜は口縁部付近のみで全形は不明であるが、鐙が付く形態をしている。瓦質土器では火鉢の口縁部破片が出土している。瓦は、丸瓦や軒丸瓦類などに多少大きな破片が含まれるが、抽出資料はない。軒丸瓦類の瓦当面は、摩擦によって文様はわからない状態である。他に硯 (S22・23) と碁石 (S24) が出土している。硯はいずれも粘板岩製である。S23は陸部に使用による凹みがあり、海部端に墨跡とみられる付着物が観察される。裏面に判読できないが、篆刻の文字 (あるいは記号) がみられる。

埋土2層・3層・4層は、磁器・陶器とともに細片が多く (CJ80・82)、18世紀代と推測されるが詳細は不明である。CO7は土製品の猿の胴体部分で、頭部・手足は欠損しているが、沈線による体毛の表現がみられる。CO8は東屋などの屋根部分とみられる土製品である。

遺構編〔調査報告〕7) で述べているように、埋土1b層、埋土2層は埋土に礫が多量に含まれている。遺物と堆積状況からは、埋土2～4層が溝機能時の埋土 (18世紀中葉以前) で、埋土1a・1b層は18世紀後半～19世紀初頭頃の埋め戻し層の可能性が推測される。

(6) II a～II b期の遺構出土遺物

【9号遺構】(図40、図版43) 磁器5点、陶器7点、土師質土器の皿6点、瓦2点 (50g)、木製品9点、漆椀か1点、石臼1点、和釘1点、鉄滓1点が出土している。

磁器は、埋土7層から中世 (13・14世紀か) の中国青磁鉢 (あるいは碗か) (CJ84)、埋土から17世紀前葉の肥前端反碗 (CJ83) など古手の製品も含まれる。中世の青磁鉢 (CJ84) は漆痕がみられ、年代的に当時の伝世した品と考えられる。他に小片ではあるが17・18世紀代の肥前碗 (CJ85)、陶器は細片が多く年代・産地のわかる資料は少ないが、埋土7層から18世紀代の小野相馬とみられる破片 (CT102)、埋土1層から18世紀代の京・信楽の色絵破片が出土しており、陶磁器の年代幅は比較的広い。木製品は箸破片3点と加工痕のある木材片のみである。石臼 (S25) は下臼と考えられる。安山岩製で約半分が残存する。上面には8分画された放射状の刻線があり、刻線内部は粉状の付着物が残存している。軸部の穴は正方形を呈し、側面の受け皿部分は意図的に取り除かれており、一部分が残るのみである。

【69号遺構】(図版44) 磁器1点、土師質土器の皿小片2点が出土している。磁器 (CJ86) は小片であるが、雨降文のある丸碗で、18世紀代と考えられる。

【2号井戸】(図41、図版44) 磁器20点、陶器35点、土師質土器114点、瓦質土器3点、土人形2点、石器・石製品4点、木製品13点、漆塗碗1点、瓦1点 (10g)、金属製品25点、摺糸状繊維1点が出土している。

堀方の埋土からは、磁器は肥前のみで、コンニャク判による雨降文の小碗 (CJ87)、五葉若葉重文の端反碗 (CJ88) など18世紀前半頃と考えられる。陶器は、織部の向付 (CT103、17世紀初頭) がやや古手であるが、17世紀末～18世紀前葉の小野相馬の碗と肥前京焼風陶器が出土している。陶磁器はいずれも小片ではあるが、明確に18世紀後半と考えられるものは含まれていない。他に、土師質土器の皿破片3点が出土したが、いずれも小片である。

井戸の埋土では、埋土3層からの出土が最も多く、埋土1層、埋土2層はほとんど遺物を含まない。磁器は肥

前のみで、18世紀代としたCJ89以外は小片が中心である。素描き文様で18世紀末～19世紀代と考えられる蓋物の蓋も含まれ、磁器の年代幅は比較的広い。漆継痕のある白磁皿小片も含まれる。陶器は、肥前の呉器手碗、刷毛目文碗、銅緑釉蛇ノ目釉剥ぎの小中皿、大堀相馬の灰軸小碗（CT104）と鉄軸流し掛け灰軸丸碗（CT105）、小野相馬の灰軸丸碗があるが、陶器も小片が中心である。17世紀後葉～18世紀前葉頃の肥前碗に加え、18世紀後葉～19世紀初頭に多くなる大堀相馬の失透性の灰軸碗（CT105）・灰軸小碗（CT104）が含まれるなど、陶器にも年代幅がみられる。他に小片の播鉢（丹波、東北産）、大壺（信楽）が出土している。陶磁器では、瀬戸磁器や土瓶などの明らかな19世紀前葉以降のものは出土していないため、19世紀前葉以降までは下らないと考えられる。

土師質土器は111点とやや多い点数であるが、0.5～1cm程度の大きさにひび割れて砕けた状態の極小片がかなり含まれている。繊維を含んだ破片で、皿や他の製品ではなく、構築材の一部などの可能性も考えられるが細片のため種類はわからない。瓦質土器は小片3点で、火鉢1点以外は細片のため器種不明である。

漆塗製品は漆碗1点が出土したのみである（WL16）。ほぼ完形の蓋とみられ、外面黒色、内面赤色で文様はない。木製品（W52）は、欠損しているが膳の脚部の可能性が考えられる。金属製品は、新寛永1点、文銭1点、寛永通寶とわかる細片1点のほか、煙管吸口2点（MO9・10）が出土している。MO24は釘を留めるような小孔2ヶ所があり、調度部品の一部などが推測される。火打石（S26）は不純物を含む石英製で、火打石から打ち欠かれた破片と考えられる。

【6号井戸】（図42～48、図版45～50）磁器51点、陶器38点、土師質土器214点、瓦質土器16点、土製玩具1点、軟質施軸陶器4点、瓦70点（1783g）、木製品2342点、漆塗製品34点、石器・石製品21点、金属製品241点、その他9点が出土している。埋土8～10層からの出土が多い。素掘りの井戸で、崩落などの安全上の理由で埋土11層より下は掘り下げていないため、井戸底面の遺物は含まれていない。また、検出面近くの埋土からは、近代磁器が2点混入している。出土点数は多いものの、破片が多く特徴のわかる遺物は限られている。

埋土および埋土2～4層では、磁器は肥前の丸碗（CJ90・91）、色絵紅猪口（CJ96）など、陶器は大堀相馬の鉄軸流し掛け灰軸碗（CT111）や灰軸皿など、18世紀代が中心である。陶器ではやや古手の肥前系の藁灰軸碗（17世紀代）、瀬戸・美濃の笠原鉢（17・18世紀）などの小破片もわずかに含まれる。CT112は瀬戸・美濃の灰軸鉢（あるいは向付）で、口縁部がヒダ状になる器形をしたもので、漆継痕が確認される。

埋土6～11層からも17世紀後葉～18世紀代の陶磁器（CJ95・CT108・109）に加えて、17世紀前葉の肥前磁器小中皿（CJ94）、中国景徳鎮系磁器の端反碗（CJ92）などが出土する。特に陶器では、18世紀代とみられる大堀相馬灰軸碗（CT108）、鉄軸流し掛け灰軸碗、東北産鉄軸播鉢（CT109）に加えて、瀬戸・美濃の天目碗（17世紀代か）、岸室系播鉢（CT106、17世紀中葉～18世紀初頭）、肥前系の藁灰軸碗（17世紀代）、唐津の白泥鉄軸大鉢（CT110、17世紀後半）など、やや古手の17世紀代の破片もみられる。CT107は鶏形の製品で、産地は瀬戸・美濃とみられる。型作りで鉄軸が掛けられ、鶏の口・背・底部に孔がある。底部に孔があるため、水滴とは考え難く、笛などの可能性も考えられるが用途は不明である。様々な製品が作られるようになる18世紀以降の可能性を推測した。CJ92～94には漆継痕が確認されることから、補修してある程度の長期間使用されていたことが考えられる。陶磁器の年代幅は大きく、軟質施軸陶器の焙烙口縁部破片2点を含むことから、少なくとも18世紀末～19世紀初頭までは下ることが考えられる。

土師質土器は、比較的点数は多いものの、皿2点（CH17・18）以外は器形のわからない小片が多い。焼塩壺など他の器種は出土していない。瓦質土器も壺甕類1点がある以外は小片のため種類不明である。土人形・土製品1点は、飯事道具の甕などの底部破片で、施軸されたものである。瓦では古代瓦2点（T2・3）が含まれている。近世瓦では小破片のみで特徴のわかるものはない。

木製品は埋土6層以下から多く出土しており、種類も豊富である。箸は完形16点のほか、欠損172点（一端欠損、両端欠損）と多い。串状木製品28点（W53～60）、折敷の一部6点（W67～70）、漆塗碗（蓋含む）14点（WL17

～20) など、土師質土器の皿とともに、宴席に関連する遺物が出土している。WL29は塗装製品で、漆膜のみ残存する状態の棒状製品で、黒色に金色・赤色で帯状の彩色が確認される。通常の箸よりも径が細いため塗着ではないとみられる。釣り道具の一部なども類推されるが、欠損しているため詳細は不明である。他の木製品では、曲物4点、篋状木製品7点、柄杓の柄2点、柄杓部品1点など、台所関連の製品もみられる。楔状木製品は19点出土しており、概ね類似したものである(W102～116)。下駄はW97・100が法量・形態からみて一揃いの可能性がある。木筒4点、墨書のある木製品2点が出土している(WT5～7)。WT5では、表面に「木幡様」、他面に品物と人名と考えられる文字が確認される。W66は木製の蓋に「フ」の文字が確認されるが、欠損もあり、文字の意味は不明である。製品以外にも、板材、角材、丸材などの加工痕のある木材片の出土も多く、屋根材の木羽もややまとまって出土している。鉄製品では、刃物(MO25・26)が2点出土しており、これらも台所道具に関連しているかもしれない。MO25は木製の柄が付いた状態で出土した。

その他では、火打石は石英製(S30・31)と玉髓製(S28)が出土している。S30は水晶の自然結晶を素材とし、両端に打ち欠いた割離痕が残る。S31は三日月形を呈する割片の縁辺に打撃が繰り返された痕跡がみられる。S28は周縁と背面の稜線上につぶれと微細割離痕が観察される。S27は縄文・弥生時代の凝灰岩製割片石器であり、最も長い縁辺両面に使用による不規則な微細割離痕が観察される。VA10は木製の山高型のボタンと考えられる。VA8は籠甲製で金彩があり、化粧道具の一部かと推測するが欠損もあり詳細は不明である。VA9はモモの種子で、意図的に切断されており、孔がある形状の加工製品である。

【ピット226】(図版51) 陶器1点、種類不明瓦1点(20g)が出土している。陶器(CT113)は、鉄軸麩の底部破片とみられ、東北産(あるいは産地不明)と考えられる。口縁部に炭化物が付着しており、外面の鉄軸にも変色がみられ、火を受けた痕跡の可能性が考えられる。

(7) II a～III期の遺構出土遺物

枕18・19・20からは遺物は出土していない。

(8) II b期の遺構出土遺物

【1号柱列】(図49、図版51) 磁器11点、陶器17点、土師質土器34点、瓦質土器1点、不明土製品2点、瓦20点(1293g)、和釘3点が出土した。

磁器では、柱3から中国漳州窯系色絵大皿(CJ98、17世紀前葉)が出土しているが、柱5から肥前の筒型碗(CJ99)、「くらわんか手」で蛇ノ目凹形高台の小中皿(CJ97)など、18世紀後葉以降の様相を示している。陶器は、各柱から大堀相馬の各種製品(灰釉腰折碗・CT114、灰釉丸碗・CT115、鉄軸灰軸掛け分け碗・CT118、鉄軸流し掛け灰釉碗・CT119、灰釉袋物製品・CT120)や、小野相馬の鉢類破片、東北産鉄軸擂鉢、鉄軸麩(CT116)などが出土しており、18世紀後半の様相を示している。CT117は、高台中央の円形のケズリと胎土から18世紀代の肥前京焼風陶器と推測し、上半は残存していないが、内面に軸切れ箇所があることから袋物状の製品と考えられる。

【2号柱列】(図版52) 陶器1点、土鈴1点、瓦3点(110g)が出土した。陶器は、17世紀後半の肥前の白泥刷毛目文の碗破片(CT121)である。土鈴は土玉のみが出土した。

【1号池状遺構】(図50、図版52) 磁器69点、陶器58点、土師質土器37点、瓦質土器9点、軟質施軸陶器3点、瓦29点(3136g)、木製品6点、塗装製品2点、石器・石製品3点、金属製品5点が出土した。

埋土1層(調査時の取り上げ埋土1・2層を含む)からは、明治初頭とみられる瀬戸の磁器(CJ100・103)や陸軍食器の湯呑(CJ102)が出土している。陶器は小破片が多いが、堤の可能性のある東北産鉄軸擂鉢と鉄軸小麩(CT124)、大堀相馬の土甌や土鍋破片、鉄給皿(CT123、18世紀末以降)など、19世紀前葉～中葉以

降の様相が強い。なお、17・18世紀代の陶磁器も一定程度含まれている。焼塩壺と考えられる土師質土器底部(CH51)が1点出土している。ろくろ成形で、底部に回転糸切り痕がみられ、器厚は薄い。二の丸地区や武家屋敷地区において、18世紀後葉以降に出土する印籠形の焼塩壺(「年報」18、「年報」19第5分冊)の可能性が考えられる。他に、土師質土器の皿(CH19・20)、瓦質土器の火鉢、炭櫃、軟質施軸陶器の焙烙の小破片、三巴文の軒丸瓦(T6)が出土している。

埋土2層からは、埋土1層のような明らかな明治期の陶磁器はみられない。小片が多いが、おおむね18世紀後半以降で、瀬戸の磁器小碗(CJ105、19世紀前葉～中葉)頃までと考えられる。陶器では、変形碗(CT125)、小碗、土瓶、乗燭(CT126)、仏花瓶(CT127)など、大堀相馬の製品が多く、他に東北産鉄軸鉢鉢、京・信楽の色絵碗など、18世紀後葉～19世紀代を示す。埋土2層からは、漳州窯系大皿(CJ106)、肥前小中皿(CJ104)、志野の向付1点など、17世紀初頭～前半の遺物をわずかに含む。全体の様相から見て、これらの17世紀代の陶磁器は、当時の伝世品や下部に重複する4号池状遺構、3号池状遺構からの遺物の巻き上がりの可能性も考えられ、1号池状遺構の上限を示すものではないとみられる。他に、焼印のある桶の天板(W83)、漆碗(WL22)、古寛永通寶(MC14)、硯(S32)などが出土している。桶天板(W83)や漆碗(WL22)の残存状況はあまりよくない。WL22は内面赤色、外面黒色で、銀色で家紋が配されるとみられるが、木胎が収縮して漆膜に割れが生じており、家紋の残りが明確ではない。硯(S32)は粘板岩製で、欠損部分も大きいが陸部には捺痕がみられる。裏面に覆手(ふしゅ)と呼ばれる浅い内割りがあり、「高島上」の線刻が観察される。

【4号遺構】(図51、図版53) 磁器22点、陶器16点、土師質土器7点、瓦質土器3点、軟質施軸陶器焙烙1点、瓦8点(540g)、加工痕のある木片5点、漆膜2点、火打石1点、洋釘1点が出土した。埋土1層には酸化コバルトを用いた近代磁器1点、洋釘1点など、近代遺物が混入している。

陶磁器は、18世紀後半以降のものが主体である。磁器は肥前の碗(CJ107・109、18世紀末～19世紀初頭)、蓋(CJ108、18世紀後半～19世紀代)、小中皿(CJ110、18世紀後半以降)などで、そのうちCJ110には焼痕が確認される。陶器も大堀相馬の灰軸碗、鉄軸流し掛け灰軸碗(CT128)、鉄軸灰軸掛け分碗、小野相馬の灰軸鉢など、18世紀後半以降のものが多い。軟質施軸陶器の焙烙(CN4)は、18世紀末以降に出現する器種である。他に18世紀代の京・信楽の色絵皿(CT129)、17世紀後半の肥前の銅緑釉蛇ノ目軸刺し皿(CT130)が出土しているが、瀬戸磁器や陶器土瓶などがみられないことから、18世紀後半～19世紀初頭までが主体と考えられる。

【13号遺構】(図52、図版54) 磁器4点、陶器14点、土師質土器の皿3点、瓦質土器火鉢1点、種類不明瓦1点(10g)、加工痕ある木材小片2点が出土した。

磁器はすべて肥前である。CJ111は18世紀代の髪油壺で、他に17世紀末～18世紀代頃の白磁猪口や染付碗などがあるが小片である。陶器は、大堀相馬の灰軸丸碗(CT132)、鉄軸流し掛け灰軸碗、鉄軸灰軸掛け分碗、小野相馬の碗破片(あるいは鉢か)、東北産鉄軸鉢鉢、甕類などがみられ、全体として18世紀代でも中葉～後半の様相が強い。ただし、陶器は丹波とみられる甕(CT131、17世紀後葉～18世紀前半)、唐津の鉄絵緑影白泥刷目文大鉢(CT133、17世紀後半)などや年代の古いものもみられる。他の遺物は小片のみで、特徴のわかるものはない。

【ピット151】(図版55) 磁器1点が出土したのみである。肥前の碗(CJ112)で、17世紀後半以降～18世紀代とみられるが、破片のため詳細は不明である。

【ピット156】(図版55) 磁器1点、陶器7点、土師質土器の皿破片4点、瓦質土器の鉢類破片1点、瓦5点(300g)が出土した。

磁器は肥前であるが、極細片のみのため詳細はわからない。陶器も小片が多いが、大堀相馬の鉄軸流し掛け灰軸碗(CT134)、小野相馬の灰軸碗(あるいは鉢か)、産地不明の甕類がみられ、大堀相馬・小野相馬陶器の年代から18世紀代でも中葉～後半かと考えられる。他の遺物は小片のみで、特徴のわかるものはない。

【ビット161】 瓦4点(160g)が出土したが、平瓦1点と、種類不明瓦3点と特徴のわかるものはないため、図化したものはない。

なお、ビット159・160からは遺物は出土していない。

(9) IIb～III期の遺構出土遺物

【5号遺構】(図版55) 磁器81点、陶器89点、土師質土器17点、瓦質土器3点、土人形・土製品2点、軟質施釉陶器6点、瓦5点(110g)、木製品1点、石器・石製品1点、鉄製品8点、レンガ1点、板ガラス1点が出土している。レンガや板ガラスを含むことから、近代までの遺物を含む遺構である。埋土1層からの出土が多い。陶磁器の点数は比較的多いものの、小片のみである。

埋土1層は、磁器は、酸化コバルトを用いた近代磁器(CJ114)を含み、19世紀代の瀬戸の小碗(CJ113・115)や18世紀代とみられる小片磁器も混在して出土している。陶器も小片が主で、大堀相馬の灰釉碗、灰釉皿、灰釉土瓶、小野相馬の灰釉皿、東北産鉄軸摺鉢、鉄軸甕など18世紀後半～19世紀代とみられるものが出土する。18世紀末以降に出現する軟質施釉陶器の焙烙も含まれる。埋土2層以下は出土点数が少なく、青磁の火入・香炉が1点、19世紀代の大堀相馬の土瓶片(CT136)などがみられる程度で、他の遺物もすべて細片で特徴のわかるものは含まれていない。

【50号遺構】(図版57) 磁器3点、土師質土器3点、不明土人形1点、碁石1点(S33)、砥石1点が出土したが、いずれも小片である。磁器(CJ117・118)は、肥前の18・19世紀代と考えられるが、小片のため詳細は不明である。

【65号遺構】(図53・54、図版56) 磁器30点、陶器37点、土師質土器6点、瓦質土器4点、土人形1点、瓦4点(345g)、金属製品3点が出土している。

埋土1層は、土師質土器の乗場1点(CH21)と飾り金具の一部かとみられる鉄製品の破片が出土した。

埋土2層では、磁器は肥前のみで、素描きの文様(CJ121・122)、口縁内四方禪文の猪口(CJ120)など、18世紀後半～19世紀前半のままとまりがみられる。小瓶(CJ119)も19世紀代と考えられる。陶器は大堀相馬の鉄絵皿(CT137・138)が揃って出土しており、他に大堀相馬の灰釉碗片、小野相馬の灰釉小中皿片、東北産鉄軸摺鉢など、18世紀末～19世紀代の様相と考えられる。他に土師質土器の皿(CH22)がみられる。

埋土では、磁器はすべて肥前で、素描き文様を用いた碗(CJ124)がみられるなど、埋土2層と同様に18世紀後半～19世紀前半を中心とした様相である。18世紀代(CJ123・125)や17世紀代の肥前皿片などもわずかに含まれる。また、CJ123・125・126は漆継痕が確認される。

陶器は、東北産鉄軸摺鉢(CT141)、大堀相馬の灰釉丸碗、灰釉腰折碗、鉄軸流し掛け灰釉碗、小野相馬の灰釉鉢など、18世紀後半以降のものが出土している。18世紀末～19世紀初頭以降に多くなる大堀相馬の灰釉小碗も含まれる。CT139は木瓜形で内面無釉の特徴から、火入・香炉とし、京・信楽の鎗絵染付の製品で17世紀末～18世紀代と推測した。CT140は、陶胎漆器の銚子と考えられる。軟質の胎土で、型押で魚子地に菊花文が陽刻されている。銚子の注口内面と体部下内面にも茶褐色の塗布物が薄くみられるが、内面の塗布物は漆か鉄軸かは目視では判別つかない。陶胎漆器は、東京都新宿四丁目遺跡(山本典幸・大口和樹ほか2008)、沙留遺跡(小林博範・斎藤進・小島正裕ほか2000)で小坏が出土している。いずれも年代不明の京都産としており、CT140も同様の可能性が考えられる。

他に、土師質土器の皿(CH23・24)、土製玩具の茶釜(CO9)、鉄製鍋の一部(MO27)が出土している。茶釜は上下合わせの型作りで、上部には葎地文と木の葉文、茶釜の鉄付の表現があり、細かい細工になっている。CH23は口縁部に煤状付着物があり、灯明皿として用いられている。

陶磁器は18世紀後葉～19世紀代と推測されるが、瀬戸の磁器や陶器の土版がみられないため、19世紀前葉以降までは下らない可能性も考えられる。遺物量はそれほど多くはないが、時間的なまとまりがあり、陶磁器を中心に比較的大きめの破片もみられることから、18世紀末～19世紀初頭（あるいは前葉か）の小規模な廃棄土坑の可能性も考えられる。

【ピット49】（図版57）陶器3点が出土した。大堀相馬の灰軸平杉碗（CT143、18世紀後半）、瓶類（CT142）、肥前の呉器手碗である。瓶類（CT142）は、失透性の灰軸で、大堀相馬の土版にみられるような緑軸を掛けており、土版と同じ時期の19世紀代と推測する。

【ピット113】土師質土器の皿1点が出土したが、小破片のため詳細は不明である。

なお、ピット223からは遺物は出土していない。

（10）Ⅲ期の遺構出土遺物

【6号建物】（図版58）磁器1点、土師質土器の皿破片2点、不明鉄製品1点が出土した。柱5のCJ127は中国磁器（17世紀前葉）かと推測したがごく小片のため明確ではない。他に年代の判明する遺物は出土していない。

【9号柱列】種類不明の瓦1点（50g）が出土したのみで、年代がわかる遺物は出土していない。

【2号遺構】（図版58）磁器4点、陶器5点、不明土師質土器1点、瓦26点（5065g）、丸杭1点が出土した。

磁器はすべて肥前であるが、CJ128以外は小片で詳細はわからない。CJ128は花唐草文の小中皿で、17世紀末～18世紀前葉頃とみられる。陶器は大堀相馬の鉄軸流し掛け灰軸碗、灰軸土版（CT144）、白化粧灰軸土版、東北産鉄軸播鉢がみられ、18世紀後半以降で、土版が出土する19世紀前葉～中葉までの年代が考えられる。瓦は平瓦1類でやや大きめの破片が出土しているが、計測や特徴など抽出対象となるものはなかった。

【14号遺構】（図55、図版59）磁器18点、陶器14点、土師質土器の皿1点、瓦質土器2点、瓦1点（10g）、杭1点、漆塗製品3点が出土した。

磁器は近代の可能性のある瀬戸の磁器（CJ132）を含んでいる。他の磁器は肥前で、17世紀後葉～18世紀前葉の陶胎染付の火入・香炉（CJ129）、18世紀前半の丸型碗（CJ130）、18世紀後葉～19世紀初頭の筒形碗（CJ131）など、比較的広い年代の磁器が出土している。陶器は大堀相馬の鉄軸流し掛け灰軸碗、灰軸土版、鉄軸土版、鉄軸土鍋、東北産鉄軸播鉢など、18世紀後半以降から19世紀前葉～中葉の製品が多い。CT145は京・信楽の色絵灰吹、CT147は小野相馬の鉄軸流し掛け灰軸碗で、いずれも18世紀代とした。CT146は17世紀前葉（明末清初）の中国華南緑軸三彩の盤で、本調査区に隣接する武家屋敷地区第7地点池状遺構からも、同様の盤が出土している（『年報』19第2分冊）。漆塗製品では、内面赤色・外面黒色で、赤色で菊花文を描く椀（WL23）が出土している。

【20号遺構】（図56、図版58）磁器17点、陶器12点、土師質土器16点、瓦10点（2765g）、硯1点、鉄製品5点が出土している。磁器・陶器・土師質土器ともに小破片中心である。

磁器は肥前18世紀代（CJ134～136）とともに、瀬戸・美濃の近代以降に量産される連続したm字文様の磁器（CJ137）、摺絵磁器（CJ138）などが出土している。CJ136は18世紀前半の肥前陶胎染付の火入（あるいは香炉）と考えられる。陶器は、大堀相馬の灰軸碗、灰軸土版、小野相馬の灰軸小中皿、東北産鉄軸土版の蓋など、18～19世紀代とみられるが、いずれも小片である。陶磁器からは18世紀代から近代までの年代幅が考えられる。硯は陸部分のみが残存した破片である。他に小柄の一部とみられる鉄製品（MO28）が1点出土している。

【21号遺構】（図版60）磁器2点、陶器4点、土師質土器の皿2点が出土した。いずれも小片中心である。

磁器2点は肥前で、18世紀後半以降かと考えられる腰折碗がみられるが、小片で特徴が少なく不明確である。陶器は、大堀相馬の小中皿（CT148）で糠白色に白濁した灰軸のものや、灰軸土版（CT149）など、18世紀末以降で19世紀前葉～中葉までの年代とみられる。

【23号遺構】 磁器2点、陶器1点が出土したが、いずれも小片のため詳細は不明で、図化したものはない。17世紀前半や19世紀代の陶磁器ではないと推測され、消極的根拠ではあるが18世紀代の可能性が考えられる。

【25号遺構】 (図57、図版60) 磁器4点、陶器5点、土師質土器の皿11点、瓦4点(100g)、渡米銭1点が出土した。

磁器はいずれも肥前であるが、17世紀前葉の口縁折縁皿(CJ139)以外は、年代不明の小片である。碗破片は17世紀後半～18世紀代の可能性も考えられるが、小片のため判別は難しい。陶器も、志野の向付(CT150、16世紀末～17世紀初頭)以外は特徴がわかりにくく産地・年代不明である。渡米銭(MC15)は「□元通□」の文字が確認され、「宋元通寶」「周元通寶」などいくつかの可能性が考えられるが、残存状態が悪くわからない。渡米銭は、寛永十三年(1636)年に「寛永通寶」が鑄造開始されると比較的速やかに切り替えが行われたと考えられていること(鈴木公雄1999)から、陶磁器を含め、17世紀前半代の遺物がいくつか出土しているが、17世紀前半代に限定される遺物のみではない。

【30号遺構】 (図58、図版62) 磁器19点、陶器24点、土師質土器13点、瓦質土器の蚊遣り1点、土製品2点、軟質施軸陶器焙烙1点、瓦5点(440g)、金属製品2点が出土している。埋土での年代差はみられない。

磁器は中国小坏(CJ144)、肥前の中碗(CJ140)など17世紀前葉・中葉～後葉も含まれるが、主体は18世紀後葉～19世紀前葉の肥前(CJ141～143・145)である。CJ142は焼継痕が確認されることから、廃棄されたのは18世紀末以降と考えられる。陶器は、大堀相馬の灰軸碗(CT153)、鉄軸流し掛け灰軸碗、鉄軸腰折碗(CT151)、小野相馬の灰軸鉢(CT152)、京・信楽の色絵碗など18世紀代でも後半以降の様相が強い。瀬戸・美濃の磁器や、大堀相馬の土瓶や土鍋が含まれないため、19世紀前葉以降までは下らない可能性が考えられる。

瓦質蚊遣り(CG4)は上半と下半のくびれ部分で、下半に焚口が開いた部分の破片である。土製品は土鈴(CO11)、器台(CO10)が出土している。CO11は比較的良好に出土する土鈴(例えば、66号遺構CO14・15)より大きい作りであり、珍しい。瓦質蚊遣りや軟質施軸陶器焙烙(CN5)は、仙台城跡二の丸地区では18世紀末以降に出現する器種であり(『年報』9、『年報』19第5分冊)、陶磁器の年代とも一致する。

【31号遺構】 (図59、図版63) 磁器18点、陶器23点、土師質土器47点、瓦質土器1点、土人形2点、軟質施軸陶器4点、瓦5点(293g)、漆膜2点、金属製品6点が出土した。埋土での年代差はみられない。

磁器は、肥前の碗・皿(CJ148～150)と、瀬戸の広東碗(CJ147)が出土し、18世紀末～19世紀前葉頃のみとまりがみられる。また、CJ149には18世紀末以降に用いられる焼継痕が、CJ147には高台内に焼継印が確認される。陶器は、大堀相馬の灰軸碗・鉄軸灰軸掛け分け小中皿(CT155)・灯明皿・灰軸土瓶・青土瓶(CT156)、東北産鉄軸乗燭など、18世紀後葉～19世紀中葉が中心である。18世紀末以降に出現する軟質施軸陶器の焙烙破片も1点確認される。やや古手の陶磁器も若干含まれており、肥前の花唐草文・高台内鍋「福」銘の磁器小中皿(CJ151、17世紀末～18世紀前葉頃)、肥前の白泥鉄絵緑彩のある陶器大鉢(CT154、17世紀代)などが確認される。

土人形は、恵比寿(CO12)の頭部破片、相撲取り(CO13)の腹部破片で、いずれも中空型作りの製品である。CO12は、ふくよかな顔と頭巾をかぶった後頭部から恵比寿とみられるが、体部は欠損して不明である。CO13は、顔と上半は欠損しているが、腹・へそ・化粧廻しの垂れなどの表現から相撲取りが台座に座した土人形と推測した。底部は開口で、表面の凹み部分に胡粉とみられる白色の塗布物がわずかに残存しているのが観察される。その他では、火箸とみられる銅製品(MO15)が1点出土しており、竹の節のモチーフをしている。

【34号遺構】 磁器1点、陶器1点、土師質土器の皿1点が出土しているが、図化したものはない。

磁器は肥前の色絵製品とみられるが、小片のため年代不明である。陶器は備前などの焼締陶器の瓶・壺類の一部と考えられるが、小片のため詳細はわからない。

【48号遺構】 (図60、図版61) 磁器11点、陶器24点、土師質土器4点、瓦質土器1点、軟質施軸陶器4点、瓦4点(215g)、金属製品2点が出土した。小片中心で埋土での年代差はみられない。

磁器は18世紀後半以降の肥前のほか、19世紀前半の瀬戸端反碗(CJ152)がみられる。陶器は大堀相馬の灰軸

碗、灰釉土瓶、青土瓶、青釉鉄灰釉土瓶 (CT159)、鉛釉豆壺、東北産鉄軸擂鉢、土鍋、肥前の刷毛目鉢などがみられ、18世紀後半以降から19世紀代が多い。軟質施釉陶器の焙烙1点 (CN6) が含まれ、瀬戸磁器、土鍋や土瓶が多いことから19世紀前葉～中葉主体かと考えられる。他に、わずかではあるが、17世紀前葉 (明末清初) の華南三彩の盤 (CT158)、伊賀 (あるいは信楽) とみられる水差 (CT157、16世紀末～17世紀初頭頃) など、古手の陶磁器が含まれる。銅製品では煙管の吸口1点 (MO12) が出土している。また、S8は安山岩製の擦痕のある礫石器で、縄文・弥生時代の可能性が考えられるものが出土している。表裏と側面に平滑面を持ち、不明瞭ながら擦痕と摩滅痕が観察される。

【51号遺構】 (図版64) 陶器2点が出土したのみである。CT160は、16世紀末～17世紀初頭の志野の向付である。CT161は18・19世紀の東北産鉄軸製品の裏底部であり、年代的まとまりはみられない。

【62号遺構】 土師質土器の皿破片1点、漆塗製品1点が出土したが、残存状態が悪く図化したものはない。漆塗製品は碗とみられるが、漆膜のみのため、詳細は不明である。

【63号遺構】 (図版65) 磁器4点、陶器7点、土師質土器57点、瓦質土器1点、瓦1点 (20g)、加工痕のある木材小片1点、和釘1点が出土した。いずれも小片が多い。

磁器は、17世紀前葉 (明末清初) の中国漳州窯系色絵磁器、17世紀前葉の肥前の小坏 (CJ153) や小中皿が出土した。陶器は、17世紀前葉の肥前長石釉の中碗 (CT162)、17世紀代の肥前碗 (CT163)、17世紀後半の肥前刷毛目碗、肥前の長石釉の水指蓋 (CT164、17・18世紀)、産地不明鉄軸擂鉢などが出土している。17世紀代の陶磁器がいくつ出土しているが、小片中心のため不明確なものも多い。CT163には漆擦痕が確認される。土師質土器の皿破片は、破片数は比較的多いが計測・抽出できるものはなかった。

【66号遺構】 (図61、図版66・67) 磁器18点、陶器18点、土師質土器10点、瓦質土器1点、土人形・土製品4点、軟質施釉陶器1点、瓦5点 (2000g)、木製品1点、漆塗製品4点、石器・石製品1点、金属製品2点が出土している。

埋土 (遺物取り上げ時の埋土1～3層を含む) からは、磁器では素描き文様などの18世紀後葉～19世紀前葉の肥前磁器 (CJ154～156・158) が中心である。他に17世紀前葉の中国漳州窯系磁器皿の小片が1点含まれる。CJ154・158・159には焼擦痕がみられる。陶器は大堀相馬の鉄軸灰軸掛け分け碗、灰釉腰碗、小野相馬の見込印花文皿 (CT167) など18世紀後半以降の様相が強く、大堀相馬の鉄軸乗壺 (CT166)、産地不明の土瓶も含まれることから、19世紀以降も含まれている。埋土4層からは大堀相馬の外内面青釉・内面白灰釉に青釉流掛けの端反碗 (CT165) があり、青土瓶と共通する釉薬であることから19世紀前葉～中葉かと考えられる。当遺構から大堀相馬の青土瓶自体は出土していない。

土人形では埋土4層から四足動物の脚部 (CO16) が、埋土・埋土3層から土鈴 (CO14・15) が出土している。CO16は、脚部は中実で、胴部より上部は型作り中空であるが、頭部や体部上半は欠損しているため、動物の種類は不明である。前脚と後脚は接合はしないため、どちらが頭部側・尻部側かわかりにくい、前に突き出した表現がある方を頭部と考えた。脚部は単純な円筒状で、残存する体部も全体的にあまり装飾性はない。土師質の皿 (CH25) では、口縁部付近に小孔2ヶ所とその対面に小孔1ヶ所が確認され、通常の皿以外の用途が考えられる。埋土3層からは鉄銭の「仙臺通寶」が1点出土した。「仙臺通寶」は、天明四 (1784) 年から5年間、仙台藩領内の流通に限定する条件で幕府から铸造許可を得た鉄一文銭であり (阿部正光・佐藤敏幸1997、仙台市史編さん委員会編2004)、他の陶磁器の年代とも一致する。漆塗製品は、漆碗 (あるいは蓋) が埋土3層から2点、漆膜のみ残存したものが埋土1層・埋土4層から1点ずつ出土しているが、いずれも残存状態はよくない。

【71号遺構】 (図版68) 渡来銭1点、不明銅製品1点が出土した。渡来銭 (MC17) は、欠損はあるものの「永楽通寶」と考えられる。寛永十三 (1636) 年に「寛永通寶」が铸造されると、渡来銭から寛永通寶に切り替えは比較的速やかに進んだとされていることから (鈴木公雄1999)、17世紀前半代までの可能性が考えられるが1点のみの出土のため明確ではない。

【4号溝】(図版68) 磁器7点、陶器10点、土師質土器12点、瓦3点(280g)が出土しているが、いずれも小片のみである。

磁器は肥前のみとみられるが、18世紀末～19世紀前葉の中碗(CJ160)以外は、極小片で特徴はわからない。陶器も小片中心で、大堀相馬の鉄軸灰軸掛け分け中碗、灰軸中碗、灰軸中皿などと、東北産鉄軸播鉢、産地不明の灰軸柔燭など、18世紀後半～19世紀初頭の可能性が考えられる。東北産鉄軸播鉢は、胎土と軸から堤の可能性も考えられる。土師質土器は皿と器種不明の小片のみ、瓦は丸瓦類の小片のみで、詳細は不明である。

【6号溝】(図62、図版68) 磁器9点、陶器16点、土師質土器13点、瓦質土器1点、土人形1点、軟質施軸陶器2点、瓦3点(50g)、和釘1点である。埋土2層の出土した土人形1点以外は、埋土1層の出土である。

磁器は肥前山本文の小皿(CJ161)、素描き文様の中碗(CJ162)で、18世紀末～19世紀中葉頃と考えられる。他にピンク色を用いた19世紀代の肥前色絵磁器破片が含まれる。陶器は小片のみであるが、大堀相馬の灰軸碗、鉄軸流し掛け灰軸碗、灰軸土瓶、小野相馬の灰軸小中鉢、東北産鉄軸灯火具など18世紀後葉以降を中心としている。大堀相馬は、18世紀末以降に多くなる白濁した糠白軸の碗を含む。他に17世紀前葉の肥前陶器の絵唐津破片1点を含む。土人形(CO17)は、西行法師などの袴を履いた人物の足部分と考えられるが、全体形状は不明である。土師質土器の皿、瓦質土器の鉢、軟質施軸陶器の焙烙、瓦はいずれも小片のため、詳細はわからない。

【4号井戸】(図63、図版69) 磁器15点、陶器12点、土師質土器6点、土人形1点、瓦10点(1930g)、木製品45点、漆塗製品の椀1点、不明粘板岩1点と少ない。井戸掘方からは瓦片が3点出土したのみで、詳細な時期はわからない。

埋土の遺物は小片中心で、17世紀代から19世紀前葉頃までと年代幅も比較的に広く、まとまりはみられない。磁器は、埋土5層から中国磁器2点出土している。それ以外はすべて肥前であり、埋土1層から17世紀末～18世紀とみられる肥前の菊花散文中碗の破片、埋土から肥前青磁の花入(CJ164、17世紀代か)が出土している。陶器では、埋土1層から大堀相馬の鉄軸流し掛け灰軸筒型碗(CT168、18世紀後葉～19世紀前葉)、産地不明の土瓶底部片、瀬戸・美濃の笠原鉢(17・18世紀)が、埋土5層からは、岸室系播鉢(CT169、17世紀中葉～18世紀初頭)が出土している。埋土6層では、大堀相馬の灰軸丸碗(CT171、18世紀後葉～19世紀初頭)と、高台内に「薩池」の刻印があるCT170が出土している。CT170は京焼の御菩薩池焼の刻印の一部と考えられ、17世紀代と推測される。CT168・171は失透性の釉で糠白色に白濁したものである。磁器のCJ163・164には漆継ぎ痕が確認される。

土師質土器は皿、鉢類などの小片で、瓦も小片のみのため、詳細はわからない。CO18の土人形は、着物の袂か裾の一部かと推測した。漆塗椀は、木胎部分は朽ちて漆膜のみ残存する状態で、内面赤色、外面黒色で、赤色で三引両文が描かれることは確認できるが状態は非常に悪い。桶の銅板(W84)は、外面のタグ部分以外が黒色に変化している。

【ビット136】(図版70) 陶器3点、土師質土器2点が出土した。陶器は肥前灰軸碗、大堀相馬の灰軸碗と土瓶底部(CT172)である。すべて小片で年代は決めたいが、土瓶が含まれることから19世紀前葉～中葉頃と推測される。

【ビット152】(図版70) 磁器1点、陶器3点、土師質土器2点、瓦2点(80g)が出土している。磁器は18世紀代の肥前網目文碗の口縁部破片である。陶器は、肥前の17世紀後半以降の呉器手碗とみられる破片のほか、18世紀後半以降の大堀相馬の鉄軸灰軸掛け分け碗の破片(CT173)がある。土師質土器は皿破片1点の他に、掃目がかなり摩耗した播鉢の底部破片が1点出土している。

【ビット177】(図64、図版70) 土師質土器の焼塩壺1点、瓦質土器の播鉢1点が出土した。焼塩壺(CH52)は、ロクロ成形の口縁部破片で地元産であろうと考えられる。口縁部のみのため年代は不明である。瓦質播鉢(CG5)は掃目が摩耗して残っていない状態である。瓦質播鉢が出土するのは主に17世紀前半頃までが中心で、その後は陶器播鉢が多く出土する傾向にあるため、17世紀前半代の瓦質播鉢の可能性が考えられるが、他に年代決定

できる遺物が出土していないため、詳細はわからない。

【ピット280】(図64、図版71) 磁器1点、陶器5点、土師質土器の皿4点、不明瓦質土器1点、石器・石製品2点が出土している。小破片が多く、特徴のわかる遺物は限られている。磁器は肥前であることはわかるが、小片のため年代などの詳細は不明である。陶器は、17世紀後葉～18世紀前葉に多くみられる肥前の碗・皿破片(CT174～176)と推測される。他に、火打石と破破片1点が出土している。火打石(S34)は石英製で、縁辺状に重複する打撃痕や潰れが観察される。

【ピット292】(図版71) 磁器1点、陶器2点、土師質土器の皿1点、和釘1点が出土している。磁器(CJ165)は肥前の碗とみられる。陶器は、瀬戸・美濃の鉄軸甕底部(CT177)、産地不明の焼締陶器小片が出土している。いずれも17～18世紀代の範囲と考えられるが、それ以上年代を絞ることはできない。

【ピット123・129・138・197・222・230・246・261・270・272・287・291】表5～7の遺物集計表に示すように、これらのピットからは遺物が数点出土している。しかし、いずれも小破片のため年代不明の遺物であり、詳細は不明である。

なお、41号遺構、44号遺構、60号遺構、70号遺構、2号溝、ピット25・171・173・174・175・178・183・186・192・193・198・199・214・219・221・233・259・263・269・271からは遺物は出土していない。

また、時期不明に区分した遺構からは、時期決定のできる遺物は出土していないため、特筆していない。

(11) 関連区の遺構出土遺物

【関連2区 遺構】(図65、図版72) 磁器1点、陶器3点、土師質土器の皿1点、瓦2点(120g)が出土した。陶磁器は小片のみで明確ではないが、磁器は18世紀末～19世紀前葉の肥前碗破片である。陶器で大堀相馬の鉄軸碗、灰軸土版の可能性のある小片があり、18世紀後葉～19世紀前葉と推測される。土師質土器の皿(CH27)は比較的残存状態がよい。

【関連4区 遺構】(図版72) 磁器1点、陶器1点、瓦2点(100g)が出土した。陶器(CT178)は、瀬戸・美濃の灰軸銅緑釉流しの大鉢(あるいは皿)で、見込みに印花菊花文がみられる17世紀前半のものである。磁器は文様がなく定かではないが、高台径が比較的小さいことから、17世紀前半代のものの可能性が高い。

(12) 基本層出土遺物

基本層では、1層、2a-2層、2b層から遺物が出土している。陸軍期・米軍期・大学造成期などの整地によって、調査区西側では、基本層2a-2層、2b層がすでに削平されていて残存していない範囲が多く、基本層2a-2層の分布は限定されている(「調査報告」7図15)。また、基本層2b層は遺物をほとんど含まない層である。そのため、基本層出土の遺物はあまり多くはない。

【基本層2a-2層】(図66、図版73) 磁器74点、陶器111点、土師質土器199点、瓦質土器12点、土人形・土製品3点、軟質施釉陶器5点、瓦120点(4821g)、漆塗製品1点、石器・石製品3点、金属製品31点が出土した。小片が中心のため、図化した遺物は多くない。

陶磁器は、17世紀初頭～19世紀初頭頃までの遺物が特にまとまりなく出土する状況である。磁器は、17世紀前葉(明末清初)の中国小坏(CJ170～172)、17世紀初頭～前葉頃の鑄のある肥前天目碗(CJ174)など、17世紀代でも古いものも含まれる。CJ167は、『薬田コレクションV』(九州陶磁文化館1997 30頁)に類例がみられる。扉面に紅葉と唐草が描かれた高台の高い皿で、CJ167もこれと同様の器形で、見込み文様も扉の一部と山水文の文様と考えられることから、17世紀後葉頃と推測した。CJ173は、『柿右衛門様式—その様式の全容』(九州陶磁文化館1999 56頁)に類例があり、柿右衛門様式の色絵鶏置物の羽の一部分ではないかと推測される。ごく小

い破片であるが型押と上絵付けで羽毛状の表現がみられる。CJ166は、肥前の皿で18世紀代と推測する。CJ168は型押による白磁の兎形製品であるが、欠損が大きく用途は不明である。口・耳・体部下半が欠損している。図示した以外に、18世紀代のコンニャク判とみられる文様破片や、18世紀末～19世紀初頭頃の素描き文様の碗破片などが含まれ、磁器の年代幅は広い。また、瀬戸磁器は、可能性のあるものが1点含まれるが、小片のため判断できない。

陶器は、絵唐津、志野の向付など16世紀末～17世紀初頭の古手の破片や、17世紀代の肥前長石軸碗、呉器手碗、刷毛目碗、二彩手大鉢、丹波播鉢、瀬戸・美濃の大鉢（CT181）など、17・18世紀代の肥前銅緑軸蛇ノ目軸割ぎ皿、瀬戸・美濃鉄軸系碗（CT179・180）、尾呂茶碗のほか、18世紀代の大堀相馬灰軸碗、鉄軸灰軸掛け分碗が含まれ、17～18世紀代の多様な陶器がみられる。しかし、いずれも小片が多い。

2a・2層の下限は、軟質施軸陶器の焙烙の持ち手破片が含まれているため、18世紀末～19世紀初頭以降ではあるが、大堀相馬の鉄軸皿や土瓶・土鍋が出土しないこと、明確な瀬戸磁器がないことから、19世紀前葉以降までは下らないのではないかと考えられる。焼塩壺では、17世紀末～18世紀後葉の地元産焼塩壺とみられる口縁部破片（CH53）が1点出土している。

【基本層2b層】（図67、図版74） 磁器5点、陶器8点、土師質土器14点、瓦質土器1点、軟質施軸陶器1点、瓦4点（208g）、硯1点、和釘1点が出土している。遺物は小片のみで残存状況のよいものはなく、明確でない部分も多いが、年代的なまよりはみられない。17世紀前半代から18世紀代の陶磁器の小片が出土する状況である。硯1点を図示したのみである。

磁器は肥前の17世紀後葉以降とみられる小坏底部、18世紀代の小碗口縁部と、17世紀前葉（明末清初）の中国磁器の可能性のある小破片がみられる程度である。陶器は17世紀後半の肥前碗底部、18世紀前半の肥前陶胎染付碗口縁部、18世紀代の大堀相馬体部破片と小野相馬体部破片がみられるが、いずれも小片のため、明確ではない。軟質施軸陶器は焙烙の口縁部破片の可能性があるが、小片のため明確ではない。硯（S35）は粘板岩製で、縁はほぼ欠損している。陸部を含む下半は意図的に半分に切断され、切断後に加工されて使用されていた可能性が考えられる。

【基本層1層】（図68～70、図版75～77） 近代の陸軍第二師団期から米軍期・大学造成期・現表土の近代～現代までの遺物のため、出土量は多い。重機掘削後に、手掘りで調査を行った分の遺物であり、近現代の遺物が中心である。そのうち、近世の遺物を中心に、特に残りのよいものなどを選択的に図化した。

磁器では、CJ177・188・189の漆継痕、CJ190に焼継痕がみられる。CJ183は白磁型打陽刻で区画に梅枝文が施されている。CJ184は肥前の青磁香炉である。CJ182は肥前の小壺で、釉薬が生掛けの可能性があり、江戸初期の製品かと推測される。CJ188は中国磁器の皿で、高台内は無軸で放射状のケズリが観察される。陶器では、CT183は大堀相馬の灯明皿と考えられるが、ほぼ使用した痕跡がない状態で出土した。CT184は袴姿の武士の人形とみられ、陶器製としたが磁器の可能性も考えられる。頭部は欠損し、呉須と鉄鍍で肩文に文様が付けられ、左脇には刀を差せるように細工した小孔がある。

焼塩壺（CH54）は、17世紀末～18世紀後葉の地元産であるが、中でも特に底部が厚く、凹みが浅いのが特徴的である。土人形では、いずれも型作り中空で、猫の頭部（CO19）、法師（CO20）、狸と猫（CO22）などがみられる。CO19は、猫（あるいは狐か）の頭部片側で、目や口、牙などの表現がみられる。CO20は法師（童子）の頭部で、型作りのほほえんだ表情をしている。CO22は、猫などの耳のある動物と推測するが目鼻口部分は欠損している。動物ではなく、髪を結った人物などの可能性も考えられるが欠損しており、わからない。底があり、胴部に狸（あるいは鯛）とみられる魚が付いている。

碁石（S36）は粘板岩製で、楕円形を呈し、両面にわずかな擦痕がみられる。硯（S37・38）はいずれも粘板岩製である。S37は海部を含む上半分が破損し、陸部には上下方向の擦痕が観察される。S38は縁に破損があり、

陸部中央の凹みに擦痕が集中して観察される。側面には直線的な線状痕があり、その中に赤墨が残存している。表面に「硯友堂 黒瀧清秀 忠臣義士卅巴 白菊哉」と線刻されている。「毛筆生産月報」という昭和21～22年に日本筆硯精算連盟宮城県支部によってまとめられた筆の生産記録があり（車田敦・茂木裕樹2010）、昭和22年7月の記録に筆職人として「黒瀧清秀」の名前が確認される。他の文字の意味や関連までは確認できなかったが、硯に線刻された人物は筆職人であった可能性が考えられる。

3. 主要な遺物の特徴

(1) 近世以前の遺物（表35・表55）

本調査区からは、近世以前の遺物として、縄文・弥生時代の可能性のある土器片3点、縄文・弥生時代の石器・石製品6点、古代瓦4点が出土した。

縄文・弥生土器の可能性のある極小破片3点は、基本層1層と6号井戸から出土した。極小破片のため、図化していない。縄文・弥生時代の石器・石製品と考えられるものは6点出土した。そのうち5点（S1・6・10・20・27）を図化した。2号池状遺構から3点、1号井戸から1点、6号井戸から1点、2a-2層から1点である。

2号池状遺構出土石器・石製品（図10、図版11）は磨製石斧（S1）・紡錘車（S6）・石鎌（S10）、1号井戸（図35、図版40）からはチップ（S20）、6号井戸（図48、図版50）からは剥片（S27）、2a-2層からチップが出土している。縄文・弥生時代の土器や石器・石製品は基本的に混入品であるが、川内地区では少数ながら各調査地点で出土している。

古代瓦は4点出土した。全て小破片であるが、2点は平瓦1類である。4号池状遺構1点（T1、図13、図版14）、6号井戸2点（T2・3、図43、図版46）、基本層1層1点（T4、図69、図版76）出土している。いずれも小破片であり、混入品と理解できる。T1・T2・T4は、凸面は縄を巻いた原体で叩いた縄叩きの痕跡が確認され、凹面は布目の痕跡である。同様の整形・調整痕跡が確認される。細かくは凸面の縄叩きの縄幅がT1→T2→T4の順で大きい。T3は凸面を平滑に仕上げられており、個体差が明瞭である。川内地区での古代瓦の出土は、二の丸北方武家屋敷地区の第4地点で3点（『年報』13）、同地区第7地点で1点（『年報』19第3分冊）、同地区第11地点で1点（『調査報告』1）と本調査区例と合わせて計9点の出土となる。

川内地区は近世以降二の丸とその北方武家屋敷造営に伴う土地の改変が行われており、近世以前の様相は明瞭ではないが、川内南地区（二の丸）・北地区（北方武家屋敷地区）の各調査区からは、近世以前の遺構や遺物の出土が報告されている。以下簡単に触れたい。

二の丸地区では、西端の調査区（二の丸地区第6地点）で斜面部に窓跡の最奥部と思われる遺構が確認され、古代の堯の口縁部～体部破片が出土している（『年報』3）。遺構に伴うものではなく混入品であるが、二の丸地区の第4地点・第5地点・第7地点・第9地点で縄文土器や、縄文・弥生時代以前の石器・石製品が確認されている（『年報』3・4・5・9・18）。

武家屋敷地区では、本調査地区に隣接する第7地点（BK7）において縄文時代の陥し穴と考えられる33号土坑が調査されており、基本層2層に混入して古代の平瓦の可能性のある小破片が出土している（『年報』19第1分冊）。特に武家屋敷地区第4地点（BK4）は縄文土器・弥生土器が104点、縄文・弥生時代の石器374点、古代の須恵器（長頸瓶）1点、古代瓦3点と、川内地区の調査では、近世以前の遺物が最も出土している。より細かく見ていくと、武家屋敷地区第4地点では自然の沢状の落ち込みが確認され、この沢状の落ち込みを埋める6層から、縄文土器、弥生土器、石器が比較的多数出土している。近世の遺構では3号池状遺構Gからは多賀城創建期の軒平瓦1点が確認されている。その他の近世の遺構の埋土や基本層からも縄文土器や縄文・弥生時代の石器、長頸瓶と推定される古代の須恵器片、古代の平瓦小破片2点が出土した（『年報』13）。

その他に武家屋敷地区第6地点・同第8地点・同第9地点・同第11地点・同第13地点からは、縄文・弥生時代

以前の石器、土師器、須恵器、古代瓦が確認されている（『年報』14・20・21・『調査報告』1・2）。

川内地区では縄文・弥生時代や古代の遺跡の存在が予想され、本調査区から出土した縄文・弥生時代の土器や石器・石製品、古代瓦も周辺の遺跡から混入したことが予想される。

（2）陶磁器（表20～29）

出土した陶磁器は、武家屋敷地の整備が開始される17世紀以降の年代がほとんどである。17世紀より古い陶磁器は、中世（13・14世紀か）の中国青磁蓮弁文碗（CJ84）、16世紀末の瀬戸・美濃陶器折縁ソギ皿（CT44）の2点である。CJ84は9号遺構（Ⅱa～Ⅱb期：18世紀～19世紀初頭）出土であるが、他の9号遺構出土遺物に比べて年代的にかなり古く、漆継痕のある中国磁器であることから、当時の伝世品と考えられる。CT44は、40号遺構から1点のみ出土している。スズ状付着物が広く付着し、灯明皿として転用され、繰り返し使用した痕跡が観察される。

17世紀前半段階の陶磁器は、一括して出土する遺構・層序はなく、この時期の陶磁器は相対的に少ない。8号柱列（図版2）、25号遺構（図版60）、57号遺構（図版18）、ピット224（図版40）、ピット239（図版25）、ピット245（図版26）からは、17世紀前半頃の陶磁器のみが出土しているが、破片資料が数点出土するような状況である。むしろ17世紀後半や18世紀代と考えられる遺構に、17世紀前半代の陶磁器が数点含まれて出土するという状況がとも多い。17世紀前半段階の磁器では、中国景德鎮系の端反碗あるいは小坏、小中皿や、漳州窯系色絵印判手の皿などがみられるが、いずれも細かい破片状で、完形に近いものはみられない（CJ1・9・15・18・21・22・26～28・43・48・51・55・92・98・101・106・127・144・170～172・188）。肥前磁器はあまり多くはないが、その中でも碗（CJ83・174）より小中皿（CJ10、34、94、139）の方が多くみられる。当調査地点で最も早い段階の肥前磁器は、天日碗で外面箱状削りなどの特徴のあるCJ174である。陶器では、志野（CT3・43・150・160・189）、織部（CT64・97・103）、志野織部（CT32・33・48）、鳴海織部（CT63）の向付・小中皿・瓶などの美濃陶器、瀬戸・美濃の大鉢（CT45・178）、絵唐津向付や長石釉碗の肥前陶器（CT37・46・62・162）のほか、伊賀（あるいは信楽か）の水指破片（CT157）、華南三彩の盤の破片（CT146・158）などがみられる。いずれも茶陶に関連した製品が中心である。破片資料数点中の差ではあるが、肥前より美濃製品がやや多い。志野の破片が複数の遺構から出土しているが、ほとんどがごく小さな破片に割れた状態で出土し、接合して同一個体になる場合がほとんどない状況であった。絵唐津（CT46）は、二の丸第9地点（『年報9』）から同文様の製品が出土している。華南三彩の盤（CT146、158）は武家屋敷地区第7地点（『年報』19第2分冊）から同様の製品が出土しており、これら華南三彩の盤3点の接合を試みたが、接合はしなかった。

17世紀後半以降の陶磁器では、2号池状遺構（図3・4、図版4～7）、5号井戸（図19、図版23）、6号井戸（図42・43、図版45・46）、3号溝（図18、図版21・22）など多数の遺構から出土する。磁器は肥前中心となり、前代から多い小中皿に加えて、小型・中型の丸碗（CJ3～7・31・89・91・95）も多くなる。他に端反碗、猪口、瓶類、水滴、白磁鉢、青磁鉢・花入・香炉、陶胎染付火入（あるいは香炉）、槽型的水滴や柿右衛門様式と考えられる色絵の置物（鶏か、CJ173）など、器種・種類にバラエティーが増える。陶器では、17世紀後半から18世紀前半頃までは、白泥刷毛目文の碗・瓶・大鉢、呉器手碗、京焼風陶器などの肥前製品と、腰鉦碗、摺絵小中皿、搦鉢、甕類、大鉢などの瀬戸・美濃製品が多数出土している。他に丹波の甕（CT131）、京・信楽の錆絵染付や色絵製品（CT39・50・68・145）が少ないもの含まれる。搦鉢は、17世紀代では丹波（CT1・8・56・59・61・72・92）、岸（CT24・38・106・169）、堺（CT11）、瀬戸・美濃（CT30・57）など産地が多様であるが、18世紀以降はこれらの産地の搦鉢はあまりみられなくなり、代わって東北産とみられる鉄軸搦鉢（CT26・99・109・135）が多くなる。この東北産鉄軸搦鉢も、口縁部形態や軸調などが単一ではないため、いくつかの窯が存在すると推測される。

また、2号池状遺構埋土2層からは「正徳三年」と記載された木簡(WT2・3、図9、図版10)が相伴しており、このことから出土遺物は18世紀初頭～前葉頃であることが明確となったことが特筆される。2号池状遺構段階(図4、図版5～7)では、大堀相馬、小野相馬は灰釉碗のみが数点出土する程度で、肥前や瀬戸・美濃陶器が中心である。2号池状遺構段階では大堀相馬や小野相馬はごく限られた出土状況であることが理解される。この次の段階に相当するのが、享保年間の本簡を伴った武家屋敷地区第7地点2号遺構である(『年報』19第2分冊)。第7地点2号遺構では、肥前や瀬戸・美濃製品が多数を占めることに共通点を持ちながらも、灰釉碗を中心とした大堀相馬・小野相馬製品が陶器の約2割程度を占めるようになり、数点の出土状況であった2号池状遺構段階に比べ、大堀相馬・小野相馬の割合が順調に増えていることが考えられる。

次の18世紀後半(中葉以降)段階では、例えば1号池状遺構(図50、図版52)や1号柱列(図49、図版51)などでは、大堀相馬、小野相馬、東北産鉄軸陶器が主体となり、肥前や瀬戸・美濃製品は出土してもごく限られたものになる。18世紀後半の大堀相馬は灰釉碗、鉄軸流し掛け碗、鉄軸灰釉掛け碗など、小野相馬では灰釉碗、鉢(片口鉢含む)などが多数出土している。

18世紀後葉以降から19世紀代の陶磁器は、1号井戸(図27～29、図版35～36)、30号遺構(図58、図版62)、31号遺構(図59、図版63)、65号遺構(図54、図版56)、66号遺構(図61、図版66)、6号溝(図62、図版68)などから主に出土している。肥前磁器では丸碗、小中皿に加えて、端反碗、広東碗、壺付碗(及びその蓋)、猪口、御神酒徳利、小瓶、水滴など器種が多様になる。陶器は瀬戸・美濃の徳利がみられるが、ほぼ大堀相馬と東北産陶器が主体である。19世紀代では、端反碗や小中皿などの瀬戸磁器が出土し、大堀相馬で土瓶(CT85・87)、徳利(CT91)、仏花瓶(CT88・94)、乗燭(CT126・166)などの碗皿以外の器種も増えている。東北産陶器では、搦鉢(CT141)、甕(CT84)、片口鉢(CT49)など鉄軸の比較的大型品が多い。

(3) 土師質土器・瓦質土器(表30・31・32)

【土師質土器】 土師質土器は、皿、焼塩壺、さな、鉢、焙烙、釜、搦鉢、器台などが出土している。接合と同一個体識別作業後の土師質土器全体の破片数では、皿1568点、焼塩壺18点、さな2点、焙烙1点、搦鉢3点、鉢類11点、器台2点、蓋1点、釜1点、極小破片97点、不明654点が出土している。皿が多く、それ以外の土師質土器の出土量は多くない。小破片が多数を占める。

土師質土器の皿は、基本層、各遺構から満遍なく出土しているが、小破片を多く含むもの2号池状遺構470点、4号池状遺構94点、1号池状遺構35点、6号井戸77点、63号遺構53点、3号溝40点、5号溝32点と、特定の遺構から多数出土したことが判明する。資料については、口縁部から底部まで残っており、口縁部もしくは底部外周6分の1が残存し、なおかつ器高が判明するものを抽出し、口径、底径、器高の復元及び諸属性の観察を行った。上記の基準で抽出した資料は40点である。これらのうち、器形や調整技法が判明する代表的な16点を図化した。遺構出土資料はI段階からIII段階まで確認されるが、資料数26点と、出土量に比べ多くない。

土師質土器の皿の製作技術は『年報』9で整理されており、これに従って整理したい。ロクロ整形で、底部を回転糸切りし、再調整を施さないA類と、ロクロ整形後に底部を回転糸切りした後、外面にミガキによる再調整を施すB類とが存在する。分類可能な資料34点のうち、A類は27点、B類は7点である。従来の指摘どおりA類が多数を占める様相が確認された。

皿の底部には回転糸切りの痕跡が観察され、2つの種類が確認できる。糸切り痕跡の中心がどちらか一方に偏るものを技法a、糸切り痕の中心が底面のほぼ中央に位置するものを技法bとしている。また、a・bの技法にはそれぞれ右回転のものと、左回転のものが存在する。a類は15点、b類は12点、左回転は18点、右回転10点である。

法量についても分析が行われており(『年報』19第5分冊)、口径10cm以下の小型のもの、10cm～15cmの中

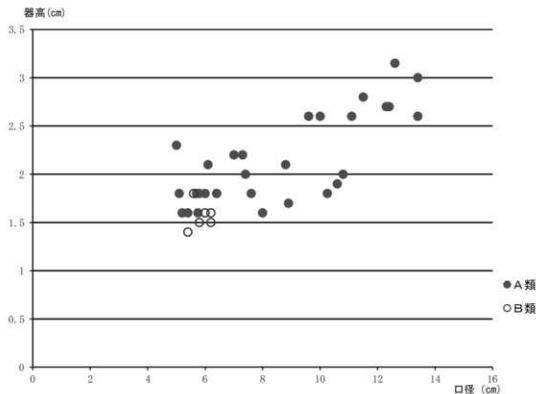


図1 土師質土器(皿)の法量分布図
Fig.1 Scatter diagrams of size of ceramic dishes from BK14

型のもの、15cm以上の大型のものに分けられるが、口径が観察できる資料36点のうち、大型の資料は確認できず、中型10点、小型26点の割合である。

また、ススカ付着したものを観察すると、CH12 (図18、図版22)・CH13・CH14・CH18 (図43、図版46)・CH23 (図54、図版56)・CH31・CH33・CH34など小型8点の口縁部の縁に1ヶ所ないし数ヶ所、ススカ付着することが確認でき、小型の皿を中心に灯明皿として利用されている。その他にCH8 (図13、図版14)・CH11・CH27 (図65、図版72)・CH37・CH38は全面的に被熱しており、内外面スサなどの炭化物が付着し、胎土内部も黒色化している。

図1は遺構から出土した土師質土器の皿の口径と器高の法量分布図である。I期からIII期を通した状況は、口径10cm以下の小型品と、10cm～15cmの中型品にそれぞれ分布が偏る状況が明瞭に見取れる。さらに細かく見れば小型品については口径5cm～6.5cmと7cm～8cmにある程度のまとまりが確認できる。このまとまりはI期の遺構から出土した資料にも反映しており、小型・中型・大型などの法量の区分が17世紀初頭～前半から19世紀中葉までの資料に通して確認できるとした指摘(『年報』9)とも矛盾しない。なお器高2.5cmを超えるものは基本的に口径10cmを超えており、器高2.5cm以下のものは口径12cm以下で大半が6cm～8cmのものである。なお本地点出土資料では、B類は10cm以下の小型品に限られる。

焼塩壺は『年報』7で仙台城と仙台領内出土資料を基にロクロ成形のものが在地生産された可能性を指摘し、『年報』9と『年報』19第5分冊で分類基準と編年が整備されている。出土した18点のうち、成形・調整技法や格子叩きなどが確認できる9点を図示した。コップ状の口縁部と体部に格子叩きの痕跡を持つ地元産のD類の破片が多く、2号池状遺構から3点(CH41・42・44、図5、図版7)、39号遺構1点(CH45、図17、図版19)、2a-2層1点(CH53、図66、図版73)、1層1点(CH54、図69、図版76)の計6点出土した。CH54は完形品で、D類でも内面の深度が器高に比べて浅く作られるD2類に該当する。2号池状遺構2層～3層出土土器は17世紀

末～18世紀前葉にまとまりがあり（V章参照）、同様に39号遺構埋土2層からは、17世紀後葉から18世紀前葉の肥前碗が出土しており、17世紀末葉以降確認できるD類の出土は無理なく理解できる。

74号遺構3層から出土したCH47（図24、図版31）は口縁部から体部の小破片である。緩く湾曲した体部と体部下部分にある格子叩きの痕跡からC類の破片と判断した。17世紀初頭～前葉の地元産と考えられている（『年報』9）。74号遺構（I～IIb期）は遺構の重複関係から18世紀後葉以前であり、出土遺物は少ないものの陶器も17世紀代の陶器が出土しており、年代的に大きな矛盾はない。CH46（図20、図版25）は、2つの粘土帯を丸めて上下に接合して体部を成形したことが内面の粘土帯の接合痕跡から判明する。畿内産焼塩壺に類似した製品であり、仙台城三の丸（結城慎一・佐藤洋1985）や二の丸地区第9地点の寛永15（1638）年以前の整地層（『年報』8）から出土している。17世紀代の資料と考えられる。ピット102（I期）出土である。CH51（図50、図版52）は、18世紀後葉以降に出土するロクロ整形で印籠形の在産焼塩壺と推定される。1号池状遺構（IIb期）の1層から出土し、1層は19世紀前葉から19世紀中葉の遺物が含まれており、年代的に整合する。仙台城跡二の丸地区第9地点16号土坑や二の丸地区第17地点14号土坑・2号溝（『年報』8）、武家屋敷地区第7地点4号土坑（『年報』19第5分冊）に類例がある。

その他に、CH50（図版42）は、土師質土器の焙烙の柄の小破片である。5号溝出土遺物から、18世紀後半から19世紀初頭の時期の所産と考えられる。土師質の焙烙の数は多くないものの、武家屋敷地区第7地点2号遺構から18世紀前葉の資料が（『年報』19第2分冊）、二の丸地区第9地点（NM9）15号土坑から18世紀後葉の資料（『年報』8）が出土しており、18世紀を中心に類例が増えつつある。

【瓦質土器】 瓦質土器は残存状態のよい資料がほとんどない。火鉢は、肥厚した口縁部破片、体部破片、底部破片などの特徴から判別しているが、鉢類とした破片には火鉢破片が含まれている可能性が考えられる。火鉢20点、炭櫃3点、十能2点、播鉢2点、敷造り2点、火消壺蓋1点、五徳1点、焔炉1点、埴塀1点、鉢類38点、壺蓋類3点、不明6点が出土したが、そのうち比較的残存状態のよいものは、火鉢（CG1）、五徳（CG2）、十能（CG3）、敷造り（CG4）、播鉢（CG5）である。

火鉢はほとんどが小破片で、『年報』9、『年報』19第5分冊で分類した口縁部が肥厚し体部の立ち上がりが緩いA類と、体部の立ち上がりが強いB類の口縁部や、これらの体部や底部とみられる破片が中心である。今回の資料では、A類・B類の火鉢は小片のみで図化できたものはなかった。火鉢（CG1、図16、図版17）は、火鉢A類、B類とは異なる形態の火鉢と考えられる。口縁部が罫縁状になり、短い頸部を持つ器形で、体部下分の形態は欠損していて不明であるが、外面全体が丁寧なミガキ調整されている。

五徳（CG2、図16、図版17）は、武家屋敷地区第4地点（『年報』13）や仙台市桜ヶ岡公園遺跡（主濱光朗ほか2011）で類例が出土している。類例から推測すると、内側に鉤状に曲がる支えが3ヶ所ある器形と推測され、CG2は支え1ヶ所が残存したものと考えられる。鉤状部分は白色～褐色に色が褪けた状態に変化しており、火を受けた部分と考えられる。

十能（CG3、図29、図版37）はこれまでにもみられる器形であるが、持ち手部分の印花文が押される例は比較的少ない。二の丸地区第17地点（『年報』18）、武家屋敷地区第4地点で印花文を持つ十能が出土しているが、それぞれ印花の形が異なり、一様ではないことがわかる。

敷造り（CG4、図58、図版62）は、上半と下半のくびれ部分のみが残存した状態で、下半には焚口となる広口の孔が部分的に残存している。内面は火を受けて白色化しているが、煤状の付着物などはみられない。敷造りは二の丸地区第9地点（『年報』8）、武家屋敷地区第11地点（『調査報告』1）、第13地点（『調査報告』3）などに類例があり、ほぼ同様の器形であるが全体形状がわかる例はまだみられない。

瓦質播鉢（CG5、図64、図版70）は、播目は摩滅してほとんどわからない状態まで使われたもので、下半が白色～褐色に変化している。瓦質播鉢は中世から継続する器種であり、仙台城跡三の丸跡（結城慎一・佐藤洋

1985)の17世紀初頭～前葉の資料、武家屋敷地区第4地点、第7地点、第11地点(『年報』13、『年報』19第2分冊)の17世紀前半を中心とした遺構からいくつか出土している。17世紀後半から18世紀以降に岸窯系陶器揃鉢や東北産陶器揃鉢が出土するようになると、わずかに共存する例はあっても揃鉢の主体ではなくなるものと考えられる。そのため、CG5も17世紀前半代の可能性が考えられる。

(4) 土人形・土製玩具(表34)

2号池状遺構から6点出土した以外は、まとまって出土する遺構はみられない。破片資料が多く、全体形状が不明なものもあり、人形の一部分と考えられるものを土人形不明、それ以外を土製品不明とした。施軸されていない土師質製がほとんどで、軟質施軸製は6号井戸のミニチュア甕の体部破片1点のみである。

土人形の猿(CO1・5・7)はすべて手握ね製であった(図5・17・38、図版7・19・42)。完形品はなく、CO5は頭部の特徴から、CO1・7は背中への体毛の表現から猿と推測している。これまでの出土例でも、猿はさまざまなポーズをしていることが多いが、胴部に頭部・手足を貼り付けて作るため、貼り付けた部分で剥落している例が多い。CO1・5・7の猿も手足は剥落しており、どのような体勢を表現していたかはいずれも不明である。

型作りの土人形では、器厚が比較的薄く、内部が中空のものが多い(CO4・6・12・13・18・19・21・22)。型で成形した際に粘土を押し付けた痕跡が、内面に指紋と共に観察される。型作り土人形の一部ではあるが、何を模っているか不明のもの、背面側で特徴が乏しい破片なども含まれる(CO4・18・21)。種類では鯛乗り(CO6、図18、図版22)、相撲取り(CO13、図59、図版63)、恵比寿(CO12、図59、図版63)、四足動物(CO16、図61、図版67)、法師(CO20、図69、図版76)、猫(CO19、図69、図版76)、鯛と猫(CO22、図69、図版76)など縁起物・めでたい物を模った例が多い。四足動物は、顔と胴体の付き方から最も近いのは熊型が考えられるが、当資料が熊となるかどうかまでは断定できない。

型作りの土人形のうち、中実で底部に穿孔があるもの(CO3・17、図5・62、図版7・68)がみられたが、残存状態のよいものが少なく、全体像はわかるものはない。いずれも内面に貫通しない小孔がみられるが、製作時に棒状工具を差して型で成形した痕跡の可能性が考えられる。多層塔(CO2、図5、図版7)も底部に小孔があり、同様の製作工程が考えられる。

土製玩具は、飯事道具の茶釜(CO9、図54、図版56)と器台(CO10、図58、図版62)、箱庭道具の屋根(CO8、図39、図版42)と多層塔(CO2、図5、図版7)、土鈴などの種類がみられる。CO8は東屋などの屋根で、型作りで成形した後、刺突によって屋根の細部を表現している。類例では、武家屋敷地区第11地点(『調査報告』1)から瓦質製の屋根が出土しているが、屋根の細部表現などに違いがみられる。土鈴(CO11・14・15)は過去の調査でも多数出土しているが、CO14・15(図61、図版67)と類似したものが多い。CO11(図58、図版62)の土鈴は比較的大きく、前後合わせの型作りで作られている点で他とは異なる特徴を持つ。いずれも中の土玉は欠損している。

多層塔(CO2)と相撲取り(CO13)には塗布物が観察される。CO2は表面には「キラ粉」と呼ばれる光沢を持つ塗布物が部分的に残存している。CO13は凹部の一部に白色の彩色が残り、胡粉が塗布されていたかもしれない。

(5) 瓦(表35～表39)

瓦の分類・集計・計測の基準は『年報』6・7・8・9で示しており、『年報』18・『調査報告』1でも一部あらたに設定を行い、分類基準を明確にしている。今回報告した資料は、基本的にこれらの分類基準を踏襲している。

出土した瓦は、軒丸瓦、軒丸瓦類、軒平瓦、軒平瓦類、軒棧瓦、平瓦1類、平瓦2類、丸瓦、丸瓦類、板瓦瓦、

棟瓦、鬘斗瓦、古代瓦、不明瓦の14種類と特殊瓦に分類された。瓦の出土総数は728点(24791g)である。各遺構から満遍なく出土するが、2号池状遺構の95点、5号溝の74点、6号井戸の70点、1号井戸の47点など、井戸や池状遺構からの出土数がやや多い。

これまでの抽出基準(『年報』6)にしたがって、法量を計測するための基準は、次のようにした。軒丸瓦・軒平瓦・軒棧瓦については、瓦当の一部が残っている資料、平瓦1類・平瓦2類・棧瓦・棧瓦類・丸瓦・丸瓦類・板瓦・棟瓦・鬘斗瓦については、幅、長さのどちらかが計測可能な資料を抽出した。近代の瓦のため図化したかった資料は計測した法量を観察表にまとめている。

古代瓦は(1)で触れている。基本的に小破片が多いが、軒丸瓦と軒丸瓦類は一部瓦当の文様が遺存している。瓦当部の文様は形態と組み合わせが整理されており(『年報』6・7・9、『調査報告』6)、この分類に準拠する。軒丸瓦のT5(図5、図版7)は連珠三巴文の一部が、T6(図版52)は小破片であるが、三巴文の一部がわずかに確認される。

軒平瓦類の3点は、一部瓦当の文様が遺存している。瓦当部の文様は形態と組み合わせが整理されている(『年報』6・7・9、『調査報告』6)。T7(図5、図版7)は剣形桔梗2類+唐草3b類である。T8(図22、図版29)は唐草文2類の一部が遺存しているものの、表面の大部分が剥落している。T9(図58、図版62)は唐草文2類の文様が一部遺存している。

(6) 木製品(表40～表46)

木製品・竹製品は、水分を多く含む埋土に覆われた池状遺構や井戸状遺構から5018点出土した。特に2号池状遺構の埋土2層や、6号井戸の埋土8層～10層から多様な木製品が出土した。出土木製品は、下駄、箸状木製品、串状木製品、折敷、刳物、櫛、桶、椀、栓、曲物、人形、札、建築部材、加工製品、木筒、千枚通し、鎌、犁?など多種多様な生活用具、飲食用具、調理用具、玩具、工具、建築部材・関連製品が占める。報告では162点を図化した。その他にも加工痕跡のある木材や枕、不明竹製品などがある。なお合計点数からは除外しているが、屋根を葺いた板材の木羽や樹皮、自然木、炭化材、製品以外の竹なども多量に出土している。主要な木製品についてまとめた。

【下駄】下駄は49点出土しており、残存状態が良いものを中心に、代表的な形状のものや、台部や歯の形状に特徴があるものなどを選択して16点図化した。2号池状遺構から37点出土しており、その大半を占める。下駄の分類と変遷について『年報』9にて整理されており、本稿もこの分類基準に従う。下駄は大きくは一本作りで台部と歯を作り出した連歯下駄、別材の台と歯を組み合わせた差歯下駄、一本作りで歯を持たない無歯下駄の3つに分類され、連歯下駄は前後の歯が独立するものと、台部から歯が必ずしも独立しないものがあり、後者を割り下駄とする。差歯下駄は、台部にあるホゾ穴に歯を差し込んで接続する露卯差歯下駄と、ホゾ穴がなく、台部裏の溝に歯を接続する陰卯差歯下駄がある。

連歯下駄では、平面形が丸みを持つ丸型連歯下駄が2点(W98、図45、図版48)と長方形を呈する角型連歯下駄が8点(W85・86・87・93・94・97・99・100、図6・7・45、図版8・9・48)が確認できた。全体の形状が判明する数は多くないが、角型連歯下駄の方が多い。角型連歯下駄は、長方形(W86・97・100)のもの以外に、四隅を面取りするもの(W85・87・99)と、四隅を丸く仕上げ隅丸にするもの(W93・94)がある。歯の状況は比較的磨り減っているものが多い。横溝が後歯の前にくるもの(W85・98)と後歯の後ろになるもの(W86・87・93・99)が確認される。

また、W94・97・100は、連歯下駄でも歯が独立しない角型の「割り下駄」である。歯が台部から続いた形態である。W97とW100は前歯底面の前歯に鼻緒が一部残存している。W97は後歯が欠損しているが、共に6号井戸から出土しており、規模もほぼ揃うことから、W100と対になる可能性がある。

差歯下駄について、W88・89・90（図6、図版8）は露卯差歯下駄である。平面形についてW88・89は隅丸の角型、W90は丸型である。露卯差歯下駄の歯（W95・96）の破片は13点である。W89・95（図19、図版23）・W96（図45、図版48）の歯の平面形は台形を呈する。

無歯下駄は2点（W91・92、図7、図版8）である。その他に下駄の破片であるものの、小破片のため細かな部位が特定できないものが20点ある。

年代的な様相では、I段階の2号池状遺構は連歯下駄5点、差歯下駄及び差歯の部品が13点、無歯下駄2点、4号池状遺構は差歯下駄の歯が4点、IIa～IIb段階の6号井戸から連歯下駄4点、差歯下駄の歯が2点出土している。

17世紀を中心とした時期（I段階）に差歯下駄と連歯下駄が一定数存在し、18世紀を中心とした時期（IIa～IIb段階）に連歯下駄が増加するとした指摘（『年報』9）と矛盾しない。

【楔】 楔は20点出土した。一端を薄く尖らせた道具で、農耕具や建具などさまざまなものを固定するのに使用された。小さいものは長さ6.8cm、最長で15.1cmのものが確認されるが、幅は約2cm～3cm、厚さは1.5cm～2.5cmの範囲にまとまる。長さに長短があるものの、比較的似通った規格の製品である。2号池状遺構（図8、図版9）から出土した1点を除き、6号井戸（図45・46、図版48・49）からまとまって出土した。

【箸状木製品】 箸状木製品は、直径が5～6mm程度の箸状の形態をしたものである。376点出土した。両端が残っているもの26点、一端が残るもの180点、両端が欠損したもの170点である。全て白木製である。2号池状遺構と6号井戸からそれぞれ173点、188点出土しており、ほぼこの2基の遺構からの出土である。箸状木製品は先端形状や断面形状の特徴を表している。代表的なものを選択して、39点を図化した。

箸状木製品は、先端の形状によりA～F類に分類される（『年報』9、『年報』19第5分冊）。A類は特に加工を加えず、切断面の形状を残すもの。B類は、先端を作り出すが、切断面を残すもの。C類は切断面を残さないほど、先端を尖らせたものである。D類は先端をヘラ状に作り出すもの、E類は先端を片側だけ削って尖らせたものである。F類はこれら以外で特殊な形状のものをまとめたものである。表45では、両端の形状を組み合わせてAAやACのように示している。

先端形状で圧倒的に多いのはAAの組み合わせである。組み合わせの判明する26点のうち、20点がAA、BBが3点、AB、AD、AEの組み合わせがそれぞれ1点である。AA類は、AB類、BB類とともに「寸胴箸」と呼ばれるものに相当すると思われる。なお一方の先端が焦げて尖るW127（図8、図版9）については、串状に刺して使用し、火にかけた可能性がある。先端を尖らせたものについては、箸以外に串として料理に使用した可能性も考えられる。

2号池状遺構から出土した長さが判明する箸状木製品は10点あり、うち7点は230mmを超え、そのほか3点も226mm～229mmであり、おおむね8寸に近い値である。6号井戸から出土した長さが判明する箸状木製品は、16点中13点が234mm～241mmの範囲にあり、平均237.8mmとほぼ8寸に該当する。

北方武家屋敷地区第7地点（BK7）の2号遺構から完形品だけでも461点と多量の箸状木製品が出土している。2号遺構は仙台城二の丸から搬出したゴミを廃棄した土坑であり、出土遺物は木簡に記載されている年号から、18世紀前葉の一括資料とされる。2号遺構出土箸は、210mm～219mmに顕著な集積が見られ、18世紀前葉に箸状木製品の長さが8寸から7寸に切り替わったことが推定されている（『年報』19第5分冊）。2号池状遺構と6号池状遺構から出土した資料は長さが判明した資料が少数なため、この様相が反映しているかは検討を要するが、I期の2号池状遺構の資料は先の指摘と矛盾はなく、IIa～IIb期の6号井戸は出土遺物から18世紀には埋没していたことが判明しており、8寸の資料は17世紀から18世紀の過渡の様相を反映している可能性が考慮される。

【串状木製品】 全体を面取りした細長い板状ないし多角形の木製品で、先端を作り出すものを串状木製品として

いる。44点出土した。2号池状遺構から13点、6号井戸から28点出土しており、ほぼこの2つの遺構からの出土である。先端部は両側から削り、山形にするW13(図8、図版9)・W53(図43、図版46)や、斜めにカットするW56(図43、図版46)・W58(図43、図版46)、先端部に向かって中央付近から多方向に削り、尖らせるW16(図8、図版9)・W55(図43、図版46)の他に、長方形のもので、幅はそのままに厚みをもう一端より薄く加工するW15(図8、図版9)がある。両側から削る山形の先端は、先端が中央に作り出されるのではなく、一方に偏って斜めに削られたものが多い。

【人形】 W23・24・51は角材を四つ割にし、頭部と頭部を一体で彫った人形である。棒状の頭部を胴体の部品に差し込む可能性もあるが、棒状の部分を直接手で握り、操ることも考慮される。江戸時代の木製人形は17世紀前葉～17世紀末が最も多く、18世紀前葉以降少なくなる傾向が指摘(安芸穂子2016)されており、W23(図13、図版14)・W24(図13、図版14)が出土した4号池状遺構(Ⅰ段階)、W51(図36、図版41)が出土した3号池状遺構(Ⅱa段階)の年代からも、この傾向と矛盾はない。木製人形は、武家屋敷地区第11地点の1号遺構の下部埋土から1点出土している。長さ14.7cm、幅4.0cm、厚さ2.7cm角棒状の木製品の一部に人物の顔を彫り込んでいる。1号遺構は自然流路とその埋土を彫り込んだ長方形の遺構で、出土遺物から17世紀初頭から前葉に位置づけられている(『調査報告』1)。W18(図8、図版9)は陽物と推定される。類例としては、北方武家屋敷地区第7地点2号遺構から出土した多量の木製品の中に、板状ではあるが陽物を象った木製品が2点ある(『年報』19第3分冊)。

【加工木製品】 さまざまな木製品の部品と思われる加工された木製品を一括して、加工木製品としている。80点と最も数が多く、多様な形態を含む。80点のうち、2号池状遺構から36点、同様に6号井戸から36点が出土しており、この2つの遺構で72点を占める。

なお、形状が判明し、残存状況の良い16点を図示した。代表的なものを取り上げれば、W6(図7、図版9)・W48(図34、図版39)・W77(図44、図版47)のような断面長方形の板状の木製品で、端部を段状もしくは端部を一部除去して「L」字形にして、釘も使用して他の部材と組み合わせる建築に関わる部材や箱の部材などが想定される。その他にW52(図41、図版44)のように弧状に加工してあり、脛の脚になる可能性があるものや、W74(図44、図版47)のような側面が山形になるよう台座状の製品などもある。

なお、W48(図34、図版39)のような両端をL字状に仕上げ、端部の突出部や短辺側面に釘穴や木釘の痕跡が認められるような資料は、同形の部材が二の丸地区第9地点1号池から出土し、箱状の製品の部材の可能性が指摘されている(『年報』8)。

【その他の木製品】 W46(図33、図版40)のような鍬柄と鍬台が一体で作られている鍬は、本来鉄製の鍬先が付属するものと推測されるが、鍬先は出土していない。なお武家屋敷地区第7地点の2号遺構からは、鍬柄と鍬台が一体化している鍬と、鍬柄と鍬台が分離した鍬がそれぞれ出土している(『年報』19第3分冊)。その他の農具として、W26(図13、図版14)は、犂の犂轅(なりぎ)の可能性がある。犂轅は牛馬の引く柄や繩と接続し、牛馬の力を犂身に伝える部品である。犂轅を曲げた曲轅は、牛馬の力を安定的に犂先に与え、犂先の後ろ(床尻)が浮かないようにする工夫である。ただし、W26は現存長53.6cmであるが完形に近いと予想され、曲轅としては短く、最大幅2.7cmも華奢な印象がある。現状では犂の曲轅の可能性があると指摘をとどめた。

W47(図34、図版39)は鉄製の先端部と木製の柄を組み合わせた工具で、千枚通しと考えられる。鉄の先端部が多角形ながら円形を呈している。柄は切り込みが入れてあり、花弁状である。東京大学医学部付属病院入院棟A地点のSK3は元禄16(1703)年の火災層にバックされており、遺構一括遺物の下限を示しているが(成瀬晃司・小林照子ほか2016)、この遺構から同形のものが出土している。

【木簡・墨書ある木製品】 木簡は12点、墨書ある木製品が2点出土した。木簡は2号池状遺構から7点、6号井戸から5点出土した。墨書のある木製品も6号井戸から出土しており、出土資料は2つの遺構にまとまる。文字

や墨の一部が確認できた資料9点を図化した。2号池状遺構から4点(WT1~4)、6号井戸から5点(WT5~7、W66a・66b)である。

木簡や墨書された木製品については、「年報」19第3分冊において、「木簡研究」で提示されている型式を基準として、近世木簡のため「木簡研究」の型式に合わないものについて、型式を追加して報告している。本報告の分類基準もこれに従う。下線を付けたものが「年報」19第3分冊において追加した型式である。本地点出土木簡と墨書のある木製品の形態は下記の型式に該当する(表46)。

011型式	短冊形のもの。
011-c型式	長方形でも、下端がやや細くなるもの。051型式に入れたいもの。
019型式	一端が方頭で、他端が折損・腐食で原型が失われたもの。
051型式	長方形の材の一端を尖らせたもの。
061型式	用途明瞭な木製品に墨書のあるもの。
081型式	折損・腐食その他によって原形が判明しないもの。

2号池状遺構(図9、図版10)では、WT1は両端部が破損しているが、下端はほぼ遺存しており、019型式と判断した。WT2・3も019型式と判断した。WT4は、折損した小破片であり、081型式である。

6号井戸(図43、図版46)は、WT5とWT6が完形品であり、WT5は051型式、WT6は011-c型式に該当する。WT7は両端部及び側面が折損しており、081型式である。W66aとW66bは箱状の木製品の蓋と推定され、061型式である。

木簡の記載内容

出土した木簡は少数で、完形品が少ないため、品物・数量・名前・年号が断片的に判明する。少数のため、遺構ごとに内容を整理する。

2号池状遺構のWT1は、一面のみ墨書が確認され、「□五斗入」とあり、□は豆の可能性が高い。武家屋敷第7地点2号遺構出土木簡(WT162)は、表面に「名取上余田村 源之助」、裏面に「大豆五斗入」と記載されており(「年報」19第3分冊)、品物と数量に差出人と地名が書かれた木簡であった可能性がある。

WT2は、両面墨書が確認され、「□□(正徳カ)三年」「□(御カ)用□(合カ)[]」とある。次のWT3も両面墨書が確認され、「正徳三年」、「□□金御下」の記載であることを考慮すると、WT2の年号も正徳三(1713)年の可能性がある。2号池状遺構埋土2層及び3層から出土した陶器・磁器は、17世紀末~18世紀前半にまとまること報告されており、出土遺物の年代とも一致する。

WT3は、裏面の「□□金御下」の記載から、正徳三(1713)年のながしかの金にかかわる内容であるが、上部も欠損しており、詳細は不明である。

WT4は、両面とも字の半分が折損しており、判読が難しく、詳細は不明である。

6号井戸のWT5は、「木□(轆カ)様[]」「御□(所カ)金□(屋カ) □(狩カ)野□□□(新兵衛カ)」とある。人名について「木轆様」とすると、本調査地点周辺の区画では、絵図から元禄4・5(1691・92)年には木轆修理という人物が住んでおり、享保9(1724)年には氏家養順に屋敷主が移り変わったことが判明する(「調査報告」7)。木簡が出土した11層も含め、17世紀後半から18世紀代(IIa~IIb期)の陶磁器が出土しており、6号井戸は18世紀代に埋没したことが判明している。年代的な接点もあり、絵図の「木轆修理」と関連するものの可能性も考えられる。裏面は断片的で詳細は不明である。

WT6は、上部に3字程文字の痕跡があるが、墨の残りが悪く明瞭ではない。木目にそって縦方向に表面を削った痕跡がある。

WT7は文字と判断できないが、一部墨書の痕跡がある。W66は箱の蓋と考えられるが、大部分が折損しており、蓋の外側(W66b)と内側(W66a)にそれぞれ文字が1字程度判明する。内面は「刁」である。干支の「寅」

に特に用いるくずし字である。外面は文字の半分が折損しており、不明である。

(7) 漆塗製品 (表47・48)

漆碗の器形分類は、『年報』9の分類以降に増加した資料を加えて、『年報』19第5分冊で再編成しており、その分類に基づいている。分類の詳細は『年報』19第5分冊を参照の上、今回の資料に用いた分類についてのみ説明すると、以下ようになる。

碗身B1a類：口径が深さの2～3倍の碗。A類に比して浅めであるが、口径は同じか、若干大きめの値をとり、比較的大型の碗。体部と高台の形状により、さらに4類型に細分されるうち、B1a類は、体部に稜線を持たず、高台が高め、ロクロ挽き込みが極端に浅く、底部が厚い。

碗身B1b類：体部に稜線を持たず、B1a類より高台は低めで、底部も薄い。

碗身B2a類：口径が深さの2～3倍の碗のうち、稜を持つ。高台が高め、ロクロ引き込みが浅く、底部が厚い。

碗身B2b類：稜を持つが、B2a類より高台は低めで、底部も薄い。

碗身C2a類：口径が深さの3～4倍の浅めの碗のうち、稜を持つもの。高台が高め、ロクロ引き込みが浅く、底部が厚い。

碗身C2b類：稜を持つが、C2a類より高台は低めで、底部も薄い。

碗身C3類：体部が筒状に短く直立する。体部の中にタガ状の隆帯や2条の稜線(面取り)を持つ場合がある。高台はいずれも低い。

漆塗碗は24基の遺構(図9・15・26・34・35・41・47・50・55、図版10・16・34・40・44・50・52・59)から出土しており稀な遺物ではないが、出土時点ですでに木胎は朽ちて漆膜だけ残存した状態のものも多く、形態や文様が判明するものは限られている。2号池状遺構、1号井戸、6号井戸からは比較的状态のよい漆塗碗が出土している。4号池状遺構はやや点数は多いものの、出土時点では漆塗碗と確認できるが木胎が朽ちて形状を保てない状態のものが多数で、図化できたものはない。

遺構によって漆塗碗の特徴に多少の傾向がみられる。2号池状遺構(WL1～4、図9、図版10)、10号遺構(WL5、図15、図版16)、6号井戸(WL17～20、図47、図版50)は文様のない無文の碗・蓋が多い。6号井戸で14点中1点に植物文(銀色)のある蓋が出土しているのみで、他はすべて無文の碗であった。また、10号遺構で無文の碗1点(WL5)が出土している。一方、1号井戸(図34・35、図版40)では、無文2点を含むものの、家紋や植物文などの文様がつく漆塗碗が多い。家紋(WL7～9・15)は4種類みられ、それぞれ異なっている。植物文ではWL11・14が金色で描かれた植物文(牡丹か)であり、揃いの漆塗碗の可能性も考えられる。他に、1号池状遺構から家紋の漆塗碗1点(WL22、図50、図版52)、7号遺構から植物文の漆塗碗1点(WL6、図26、図版34)が出土している。家紋の碗では、家紋を3ヶ所に配する点については、定型化されている。

器形は、口縁部や高台に欠損があるものや歪みのある碗も多く、確定的な分類は難しいものが多い。碗身A類(口径と深さの比率が2:1より深い背の高い碗)は出土しておらず、B類・C類のみである。2号池状遺構の碗は、碗の深さは異なるが、体部に稜を持つ器形のB2類・C2類という共通点がみられる(WL1～4)。WL1・3・4は内外面の漆の色も共通するため、三つ碗など組になる可能性も考えられるが確証はない。1号井戸では、体部に稜をもたないB1類(WL7～10・14・15)が中心であるが、それぞれに高台の厚いもの(B1a類)、薄いもの(B1b類)があり、すべて同じ器形ではない。上述のように、家紋が異なるため、これらは組み碗にはならないと考えられるが、WL11・14は植物文が共通するため、碗と蓋の組みの可能性も考えられる。6号井戸では、体部に稜を持つB2類(WL17・20)、稜を持たないB1類(WL19)、体部が筒状に短く直立し2条の稜線(面取り)を持つC3類(WL18)など、器形はさまざまで共通性は薄い。

漆塗りで最も多いのは、内面赤色・外面と高台内黒色のもの（WL7～11・13～16・19・22・23）で、器形に関わらずみられる。必ずではないが、外面に加飾されていることも多い。全面赤色（WL2・18・20）、全面黒色（WL5・6・12）の碗は多くはない。全面赤色では加飾はみられなかったが、全面黒色ではWL6で植物文が加飾されている。また、内外面赤色で高台内のみ黒色の碗もみられ（WL1・3・4・17）、高台内に赤色の銘がみられる場合も多い。全面赤色の碗（WL2）にも銘がみられ、こちらの銘は金色であった。高台内の銘では、WL17の「田中」ははっきりと読み取れる。ただし、WL1・2・3は、銘は確認できるが、文字のかすれや漆膜の剥がれがあり、明確に読み取ることは難しい。WL3と同様の銘は、資料化していない漆膜のみの碗で2点の類例が確認される。それらを含めるとWL3の銘は「みはり」という文字の可能性が挙げられるが、断定は難しく、結論は他の類例の増加を待ちたい。WL1は、四角に「間」という一文字の可能性が挙げられるが明瞭ではない。

碗以外では、曲物の一部（WL24）、箱状製品の一部（WL25）、箸状製品（WL26）、甲板木製品（WL27）、桶の取手部分（WL28）、不明棒状製品（WL29）など、完形品はなく、製品の一部分に漆が塗られたものである（図9・14・47、図版10・11・14・49）。曲物（WL24）は、ごく一部の残存であるが、黒色の外面に流水菊文（銀か）の細やかな文様がみられる製品である。不明棒状製品（WL29）は、黒色漆の地に金・赤で帯状に彩色加飾した製品で、上手の品と考えられるが、部分的な残存のためよくわからない。塗著よりは細く、釣り道具の一部などが推測されるが、どのような製品かは不明である。

（8）金属製品（表49～53）

古銭は、渡米銭3点、寛永通寶22点（古寛永12点、文銭3点、新寛永3点、不明4点）、仙臺通寶1点、不明3点、1セントコイン1点が出土している。渡米銭はいずれも残存状況が悪く、文字に欠損がみられ、すべての文字が判明するものはない。MC17（図版68）は、「永」「楽」「寶」の文字のみだが永楽通寶と考えられ、MC15（図57、図版60）は「通」「元」の文字が残存しており、文字の位置から「開元通寶」「開元通寶」「宋元通寶」のいずれかと考えられるが断定はできない。MC19（図版73）は、「祥」「寶」の文字が残存しており、「祥符元寶」の可能性が考えられる。MC23～28（図70、図版76・77）は、寛永通寶が6枚が繋がった状態で出土し、そのうちMC25のみ新寛永で、残りは古寛永である。MC16（図版66）は、仙臺通寶で、撫角銭といわれる丸い正方形の粗悪な鉄銭である。文字はかろうじて確認できる程度で状態は悪い。天明四（1784）年からの5年間、仙台藩領内の流通に限定する条件で幕府から鑄造許可を得た鉄一文銭で（阿部正光・佐藤敏幸1997、仙台市史編さん委員会編2004）、「悪銭」のうえ、領外にも流通し、銭相場を混乱させる要因となった。多量に鑄造されたようであるが、仙台城跡および武家屋敷地区周辺からの出土は初めてとなる。仙台市内では元袋遺跡（主濱光朗2004）、富沢遺跡（斎野裕彦1987）から、宮城県内では亙理町田東山寂光寺跡（佐藤剛之ほか1989）、涌沢遺跡（初鹿野博之ほか2015）、登米市柳津館山館跡（平沢英二部・阿部恵1984）から、仙台藩領内では一関市大平遺跡（工藤武1985）、奥州市東館遺跡（及川真紀ほか2003）、境田遺跡（遠藤栄一2010）、安久沢東遺跡（伊藤みどり2009）から、14例ほど確認された。大平遺跡、東館遺跡、境田遺跡、安久沢東遺跡では、近世墓坑から六道銭として仙臺通寶が一括して出土した事例が確認されている。

銅製の煙管（図10・14・36・41・48・60・70、図版11・15・41・44・49・61・77）は、雁首7点、吸口7点、雁首か吸口か判断できないもの3点が出土した。形態分類は『年報』18の基準に基づいて行っている。吸口では、一本の管から作った肩のないまっすぐな形状（ⅡB類、MO6・9～12）が多いが、MO12は全体に丸みをもつ形状をしているなど、一様ではない。他に、二本の管から肩と吸口を別個に作った形状（ⅠB類、MO7、8）が2点みられる。雁首は、MO1が肩付きの階返し直線的で短い形状（ⅠC類）、MO3が肩がない一本の管から作られた形（ⅡB類）であるが、火皿部分のみ残ったものも多く（MO2・4・5）、特徴はわからない。MO2

は煙管の雁首と考えたが、他より器厚が薄く、径もやや大きいことから煙管以外の銅製品の可能性も考えられる。

銅製品では他に、火箸や銅鉢、銅鏡がある（図14・36・59・70、図版15・41・63・77）。MO13（図14、図版15）とMO16（図70、図版77）は、鏡や鉢形の形状であり、薄手で細やかな文様を配する点で類似するが、MO13は小紋胡麻状文様と菱形文で、MO16は小紋菊菱文と異なる文様であるため、組みになるものではないと考えられる。MO13は鉢あるいは香炉に近い形状で、MO16は鏡型に近い形状をしている。

鉄製品は、小柄、鉢、包丁か、鍋、賽、鴛口、鑑、帯状金具などの比較的種類が多くあり、他に和釘447点、洋釘5点が出土している。小柄（MO17・28、図10・56、図版11・58）としたのは、いずれも柄の部分とみられるが残存状況は悪い。MO18（図10、図版11）はにぎり鉢の片側部分で、MO19（図10、図版11）は比較的大型で包丁のような刃物、MO26（図48、図版50）は小型の包丁や小刀のような刃物とみられる。MO20（図10、図版11）は残存する破片から、円形の網目状と推測されるが、それぞれは接合はしない。赤褐色に変色した受熱痕跡が残ることから、火おこし器などの底面の質部分の可能性が考えられる。

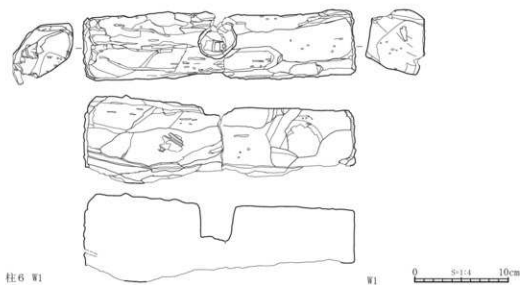


图2 3号建物(Ⅰ期)出土遺物
Fig.2 Various artifacts from No.3 building at Phase I

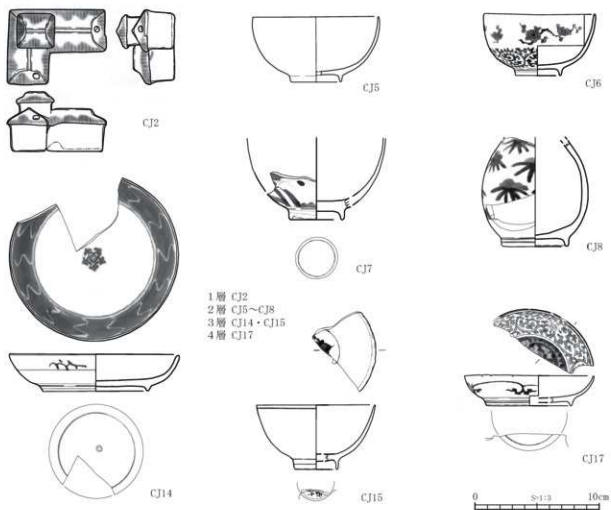


图3 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(1)
Fig.3 Various artifacts from No.2 pond at Phase I (1)

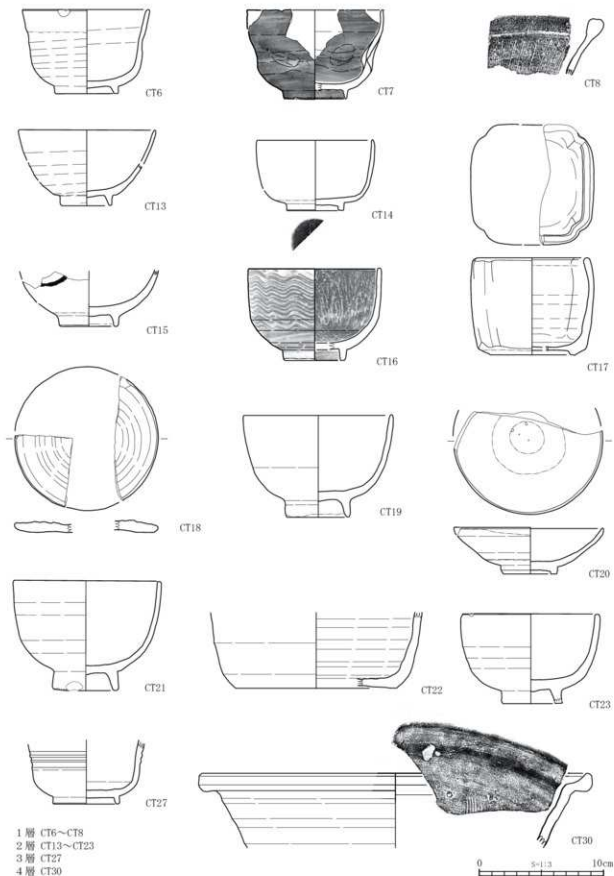
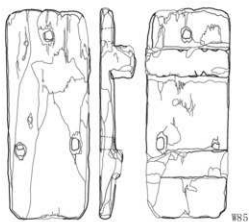


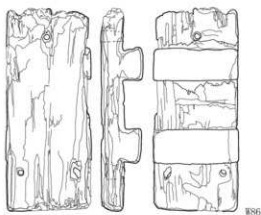
图4 2号池状遺構(1期)出土遺物(2)
 Fig. 4 Various artifacts from No. 2 pond at Phase I (2)



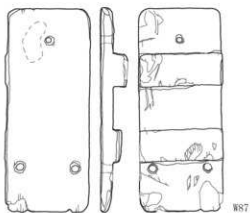
图5 2号池状遺構（I期）出土遺物（3）
 Fig. 5 Various artifacts from No. 2 pond at Phase I (3)



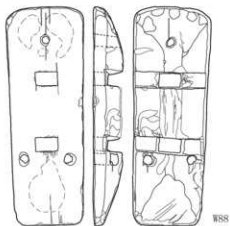
W85



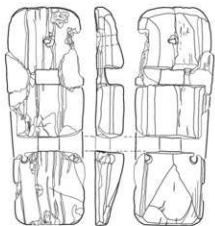
W86



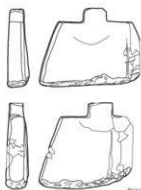
W87



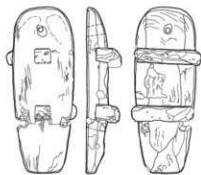
W88



W89a



W89b



W90

2層 W85~W90

0 5 10cm

图6 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(4)
Fig.6 Various artifacts from No.2 pond at Phase I (4)

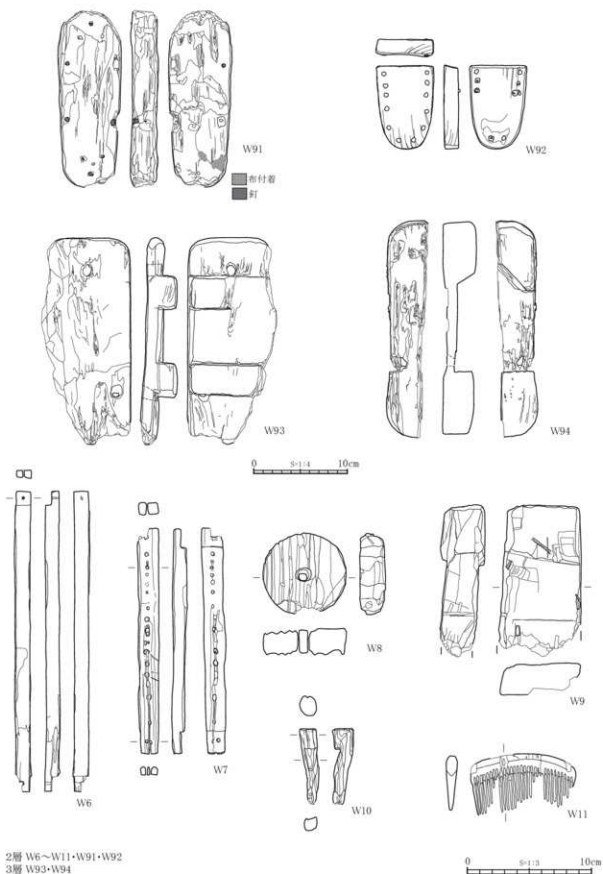


图7 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(5)
Fig.7 Various artifacts from No.2 pond at Phase I (5)

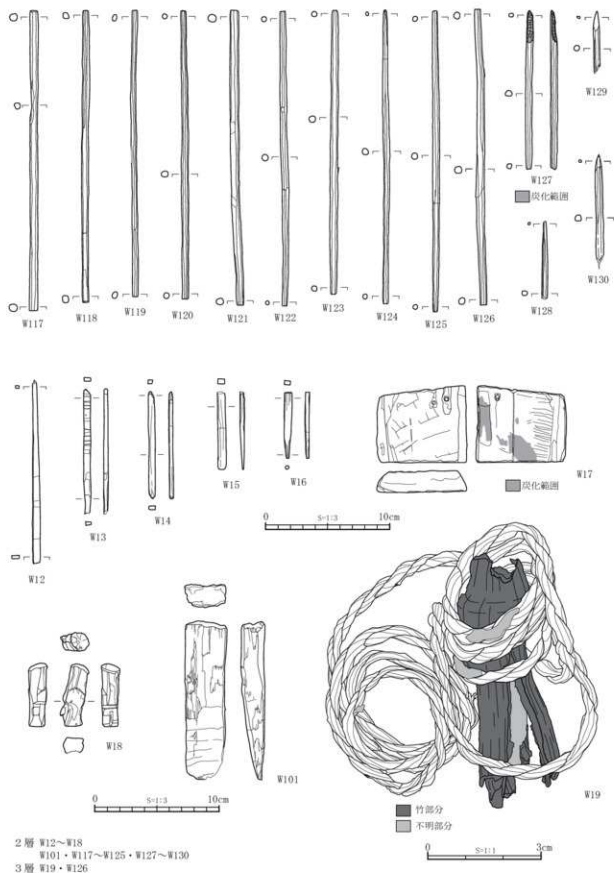


図8 2号池状遺構（I期）出土遺物（6）
Fig.8 Various artifacts from No.2 pond at Phase I (6)

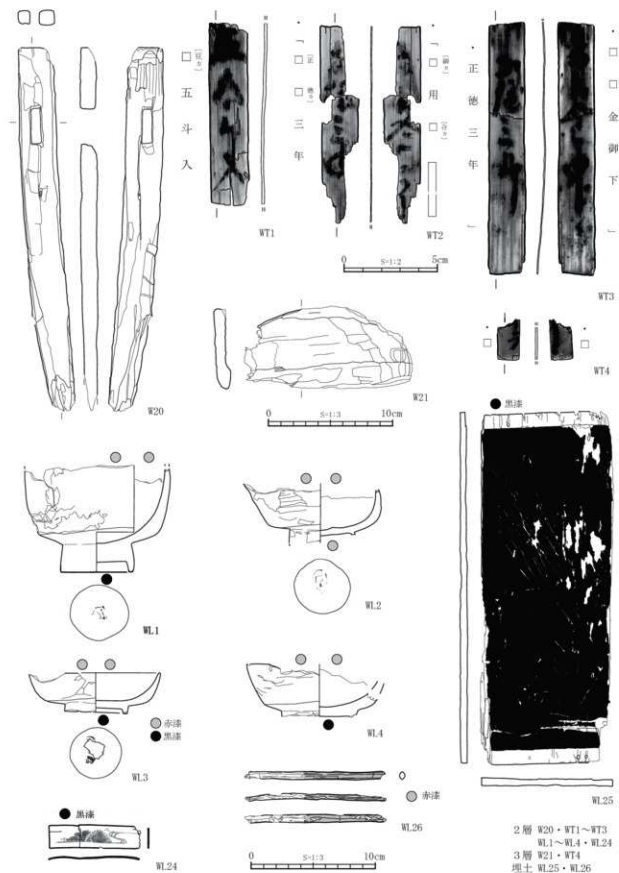


図9 2号池状遺構（I期）出土遺物（7）

Fig.9 Various artifacts from No.2 pond at Phase I (7)

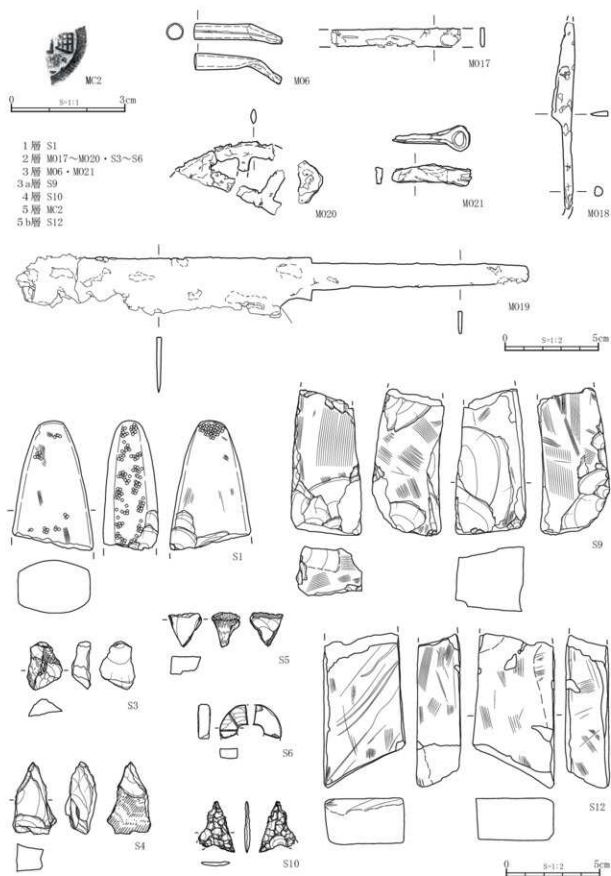
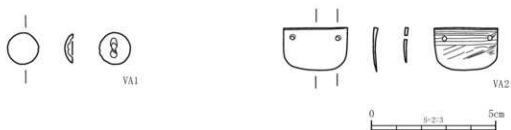
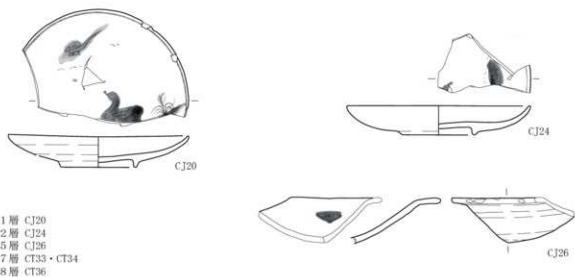


图10 2号池状遺構（I期）出土遺物（8）
 Fig.10 Various artifacts from No.2 pond at Phase I (8)



2層 VA1・VA2

图11 2号池状遺構(1期)出土遺物(9)
Fig.11 Various artifacts from No.2 pond at Phase I (9)



1層 CJ20
2層 CJ24
5層 CJ26
7層 CT33・CT34
8層 CT36

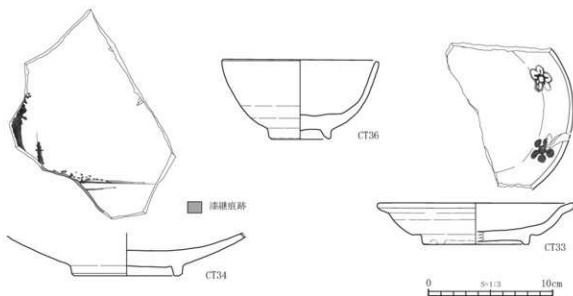


图12 4号池状遺構(1期)出土遺物(1)
Fig.12 Various artifacts from No.4 pond at Phase I (1)

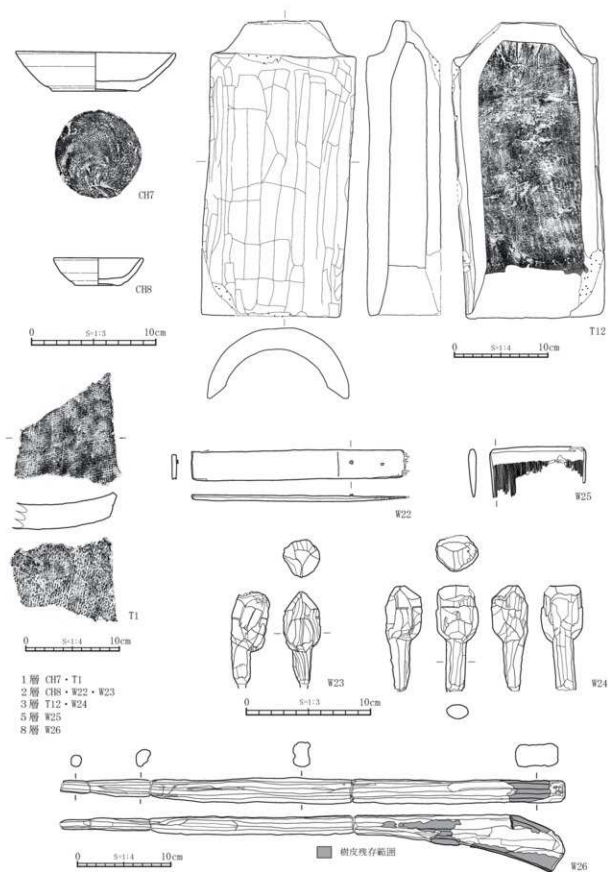
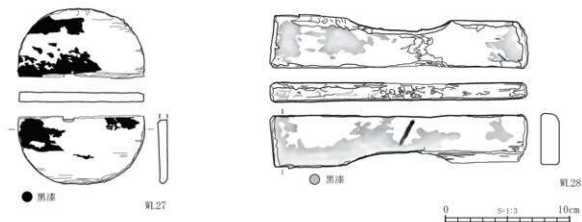


圖13 4号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(2)
 Fig.13 Various artifacts from No.4 pond at Phase I (2)



5層 WL27・MC3・M07・M023
 7層 M022
 8層 M013・M08
 埋土 WL28

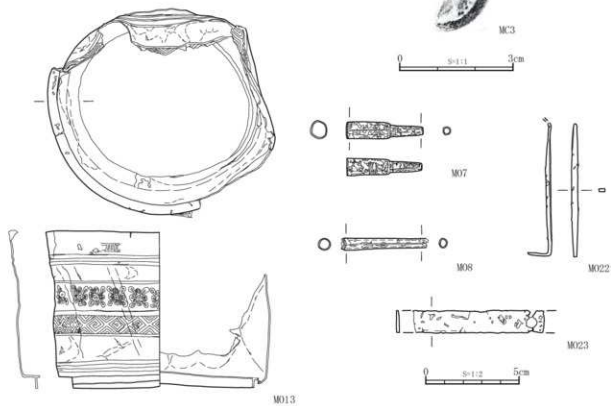


图14 4号池状遺構 (I期)出土遺物 (3)
 Fig.14 Various artifacts from No.4 pond at Phase I (3)

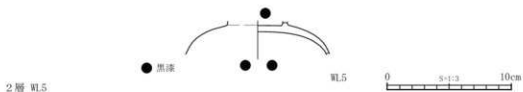


图15 10号遺構 (I期)出土遺物
 Fig.15 Various artifacts from No.10 structural remains at Phase I

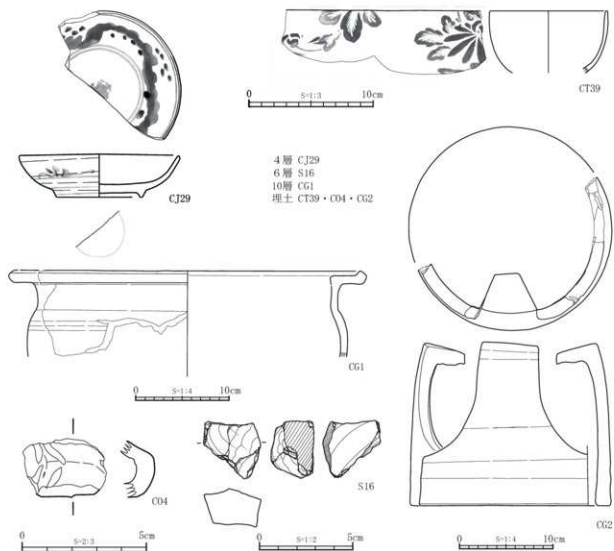


図16 12号遺構 (I期) 出土遺物

Fig. 16 Various artifacts from No. 12 structural remains at Phase I



図17 39・40・57号遺構 (I期) 出土遺物

Fig. 17 Various artifacts from No. 39・40・57 structural remains at Phase I

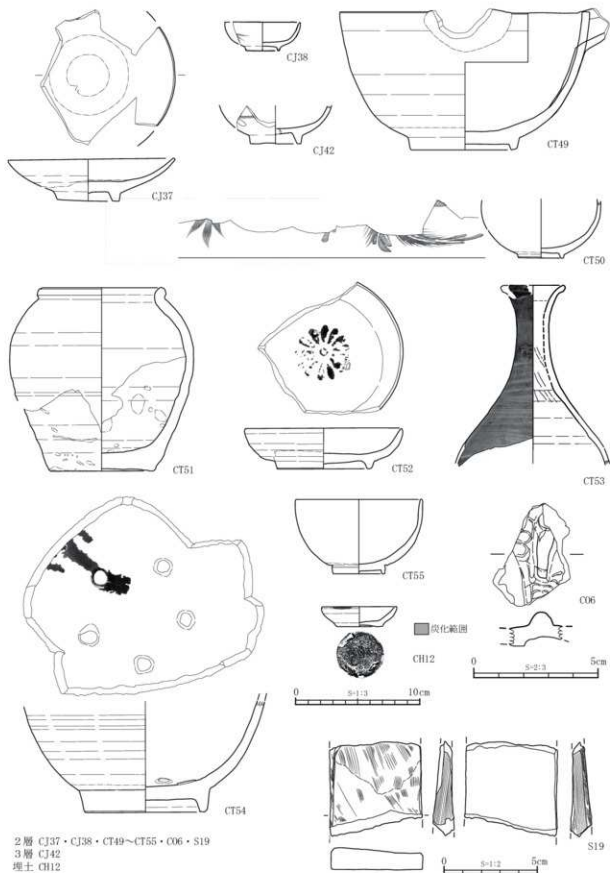


圖18 3号溝(1期)出土遺物

Fig. 18 Various artifacts from No. 3 ditch at Phase I

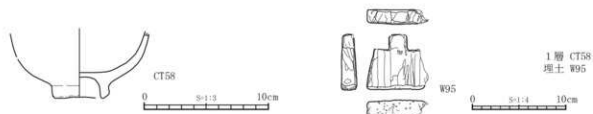


図19 5号井戸(Ⅰ期)出土遺物
Fig.19 Various artifacts from No.5 well at Phase I



図20 ビット70・102・205(Ⅰ期)出土遺物
Fig.20 Various artifacts from No.70・102・205 pit at Phase I

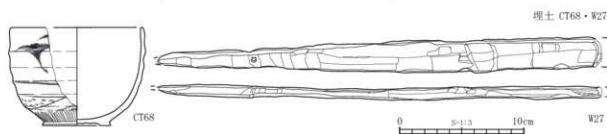


図21 15号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物
Fig.21 Various artifacts from No.15 structural remains at Phase I-IIb

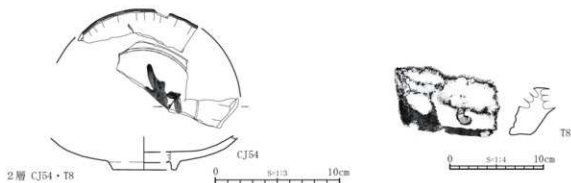


図22 16号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物
Fig.22 Various artifacts from No.16 structural remains at Phase I-IIb

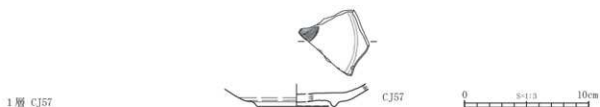


図23 35号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物
Fig.23 Various artifacts from No.35 structural remains at Phase I-IIb



图24 74号遺構 (I~IIb期) 出土遺物
Fig. 24 Various artifacts from No. 74 structural remains at Phase I-IIb



图25 5号建物 (I~III期) 出土遺物
Fig. 25 Various artifacts from No. 5 building at Phase I-III



图26 7号遺構 (I~III期) 出土遺物
Fig. 26 Various artifacts from No. 7 structural remains at Phase I-III

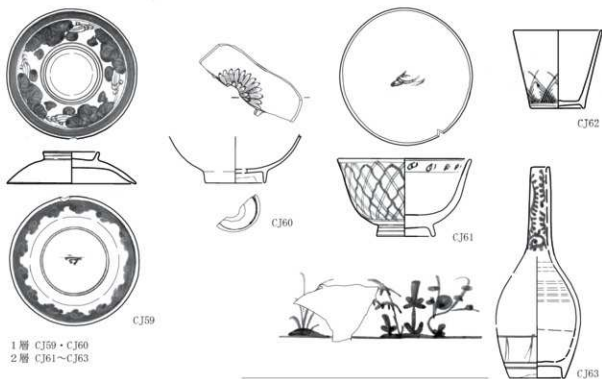


图27 1号井戸 (I~III期) 出土遺物 (1)
Fig. 27 Various artifacts from No. 1 well at Phase I-III (1)

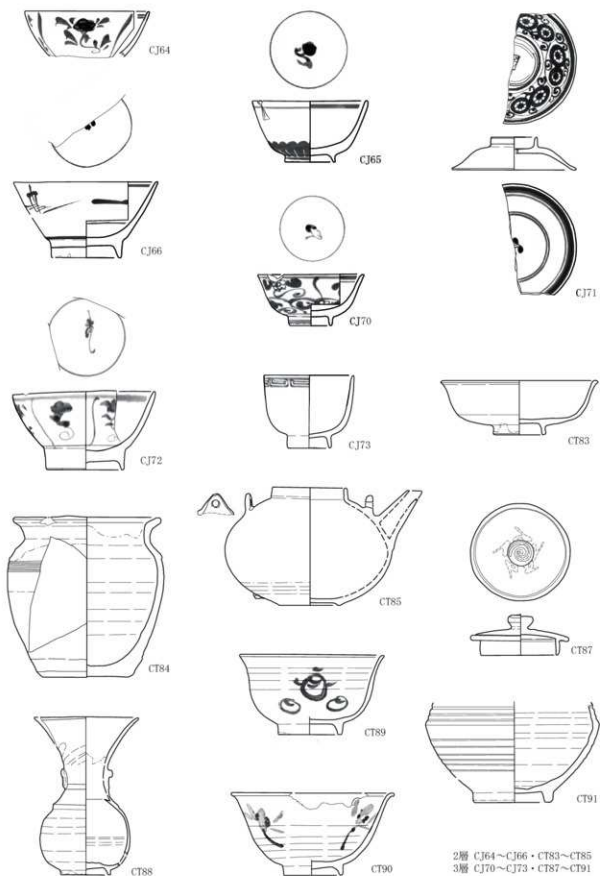


图28 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(2)
Fig. 28 Various artifacts from No. 1 well at Phase I-III (2)

2層 CJ64~CJ66・CT83~CT85
3層 CJ70~CJ73・CT87~CT91

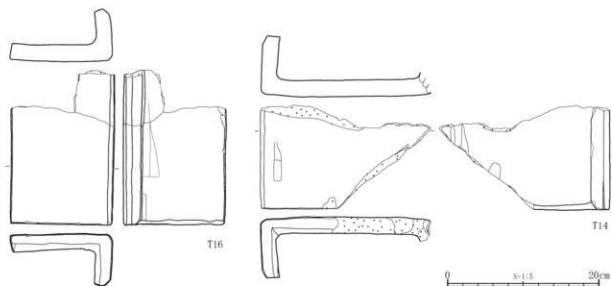
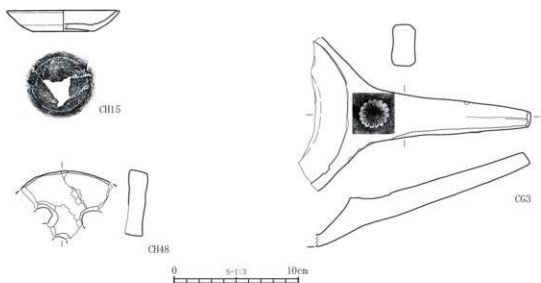
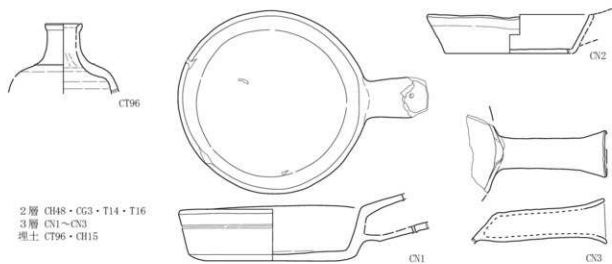


图29 1号井戸(Ⅰ~Ⅲ期)出土遺物(3)
Fig. 29 Various artifacts from No. 1 well at Phase I-III (3)

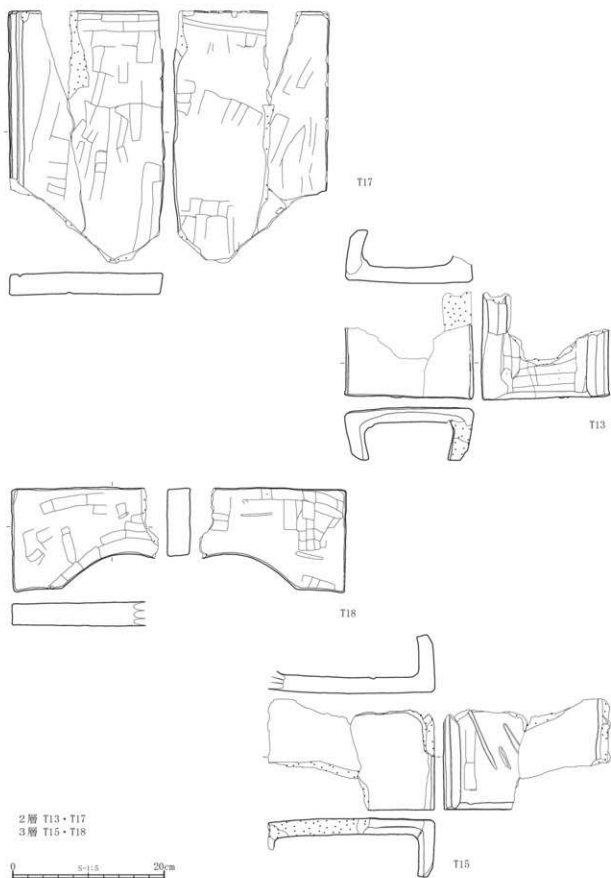


图30 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(4)
Fig.30 Various artifacts from No.1 well at Phase I-III (4)

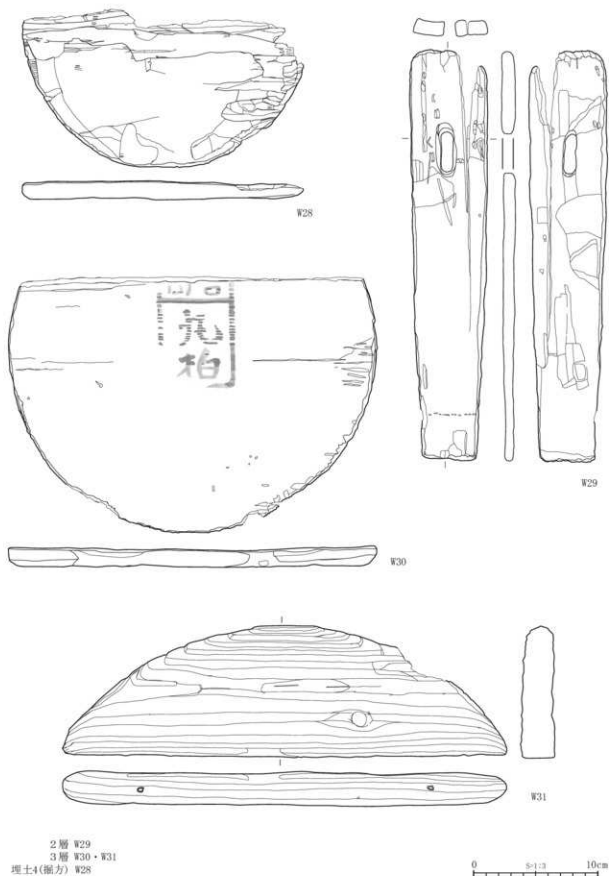


图31 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(5)
Fig.31 Various artifacts from No.1 well at Phase I-III (5)

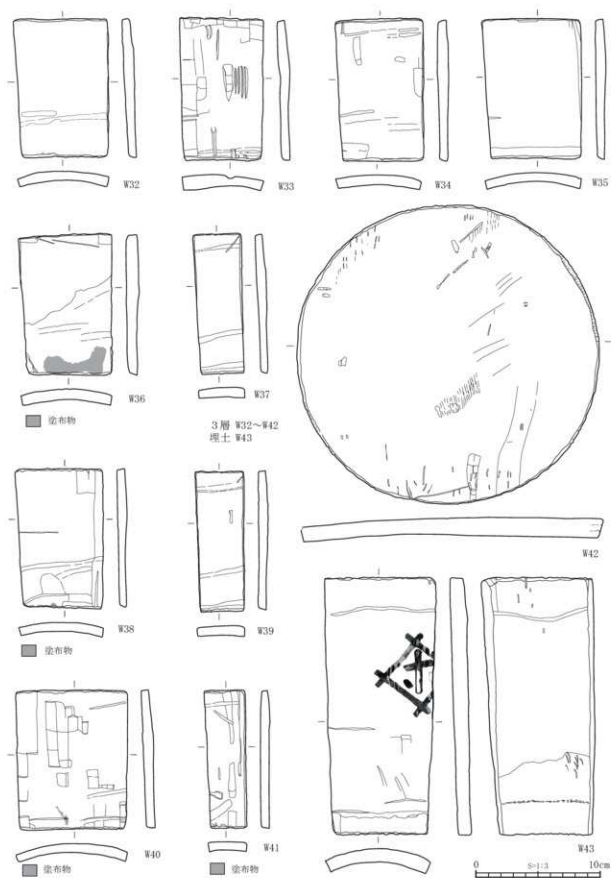


图32 1号井戸(I~III期)出土遺物(6)

Fig. 32 Various artifacts from No. 1 well at Phase I-III (6)

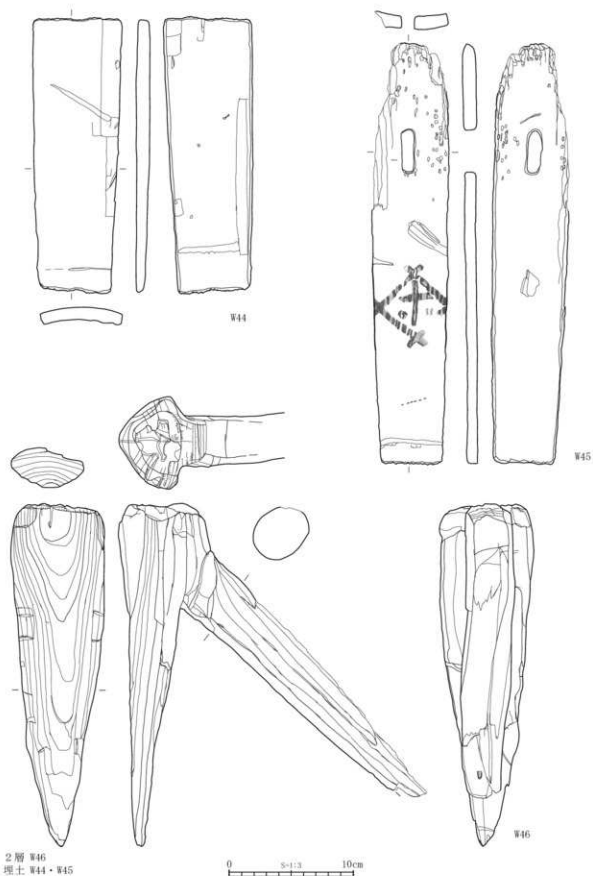


图33 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(7)
Fig.33 Various artifacts from No.1 well at Phase I-III(7)

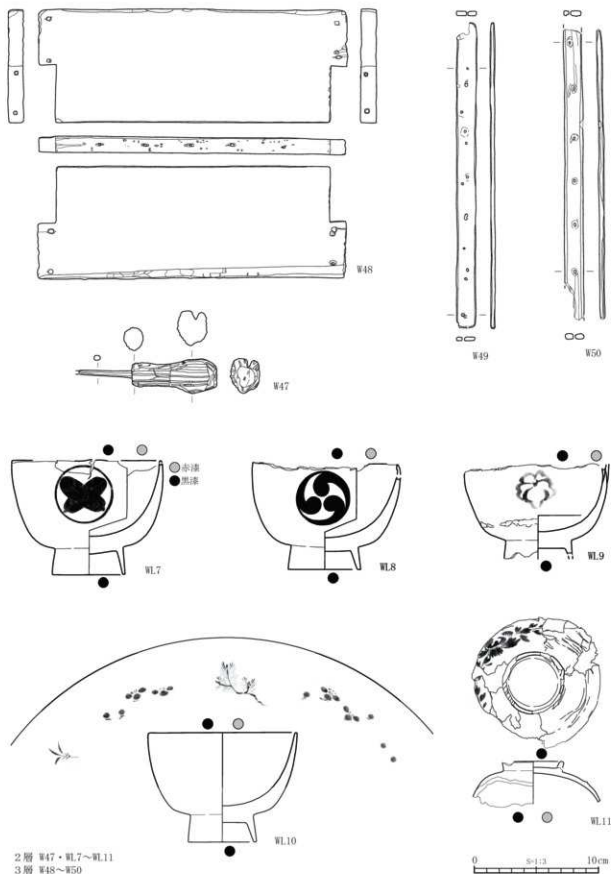
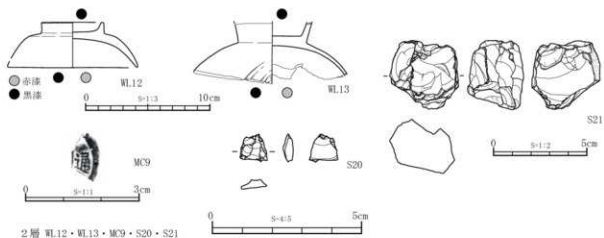


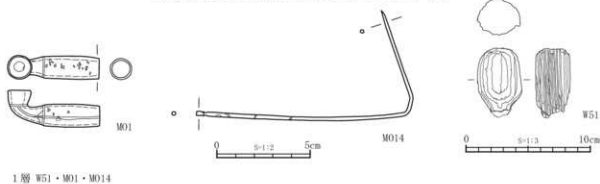
图34 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(8)
Fig. 34 Various artifacts from No. 1 well at Phase I-III (8)



2層 WL12・WL13・MC9・S20・S21

図35 1号井戸(I~III期)出土遺物(9)

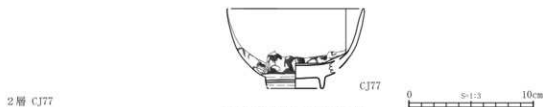
Fig.35 Various artifacts from No.1 well at Phase I-III(9)



1層 W51・M01・M014

図36 3号池状遺構(IIa期)出土遺物

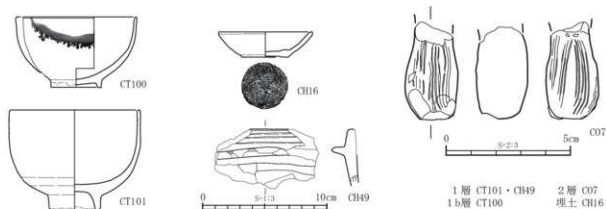
Fig.36 Various artifacts from No.3 pond at Phase IIa



2層 CJ77

図37 18号遺構(IIa期)出土遺物

Fig.37 Various artifacts from No.18 structural remains at Phase IIa



1層 CT101・CH49
2層 C07
1b層 CT100
埋土 CH16

図38 5号溝(IIa期)出土遺物(1)

Fig.38 Various artifacts from No.5 ditch at Phase IIa(1)

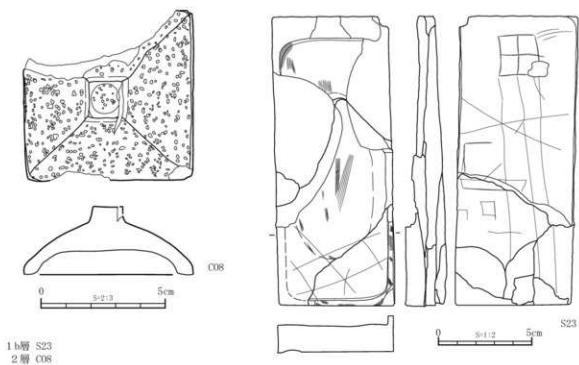


圖39 5号溝(Ⅱa期)出土遺物(2)

Fig. 39 Various artifacts from No. 5 ditch at Phase IIa(2)

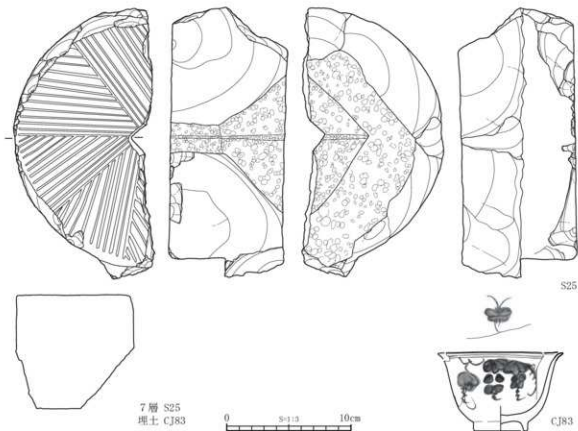


圖40 9号遺構(Ⅱa~Ⅱb期)出土遺物

Fig. 40 Various artifacts from No. 9 structural remains at Phase IIa-IIb

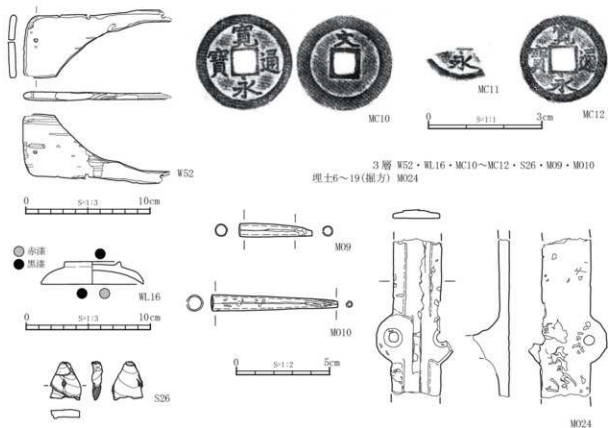


图41 2号井戸(IIa～IIb期)出土遺物

Fig.41 Various artifacts from No.2 well at Phase IIa-IIb

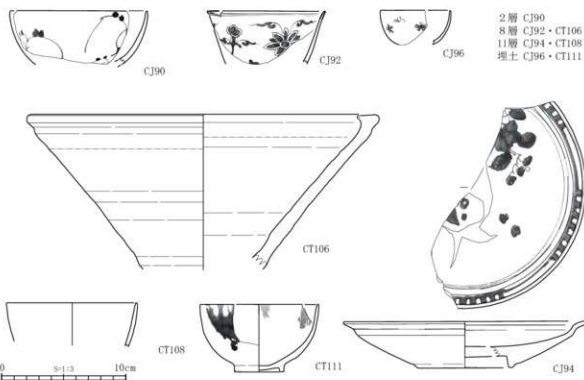


图42 6号井戸(IIa～IIb期)出土遺物(1)

Fig.42 Various artifacts from No.6 well at Phase IIa-IIb(1)

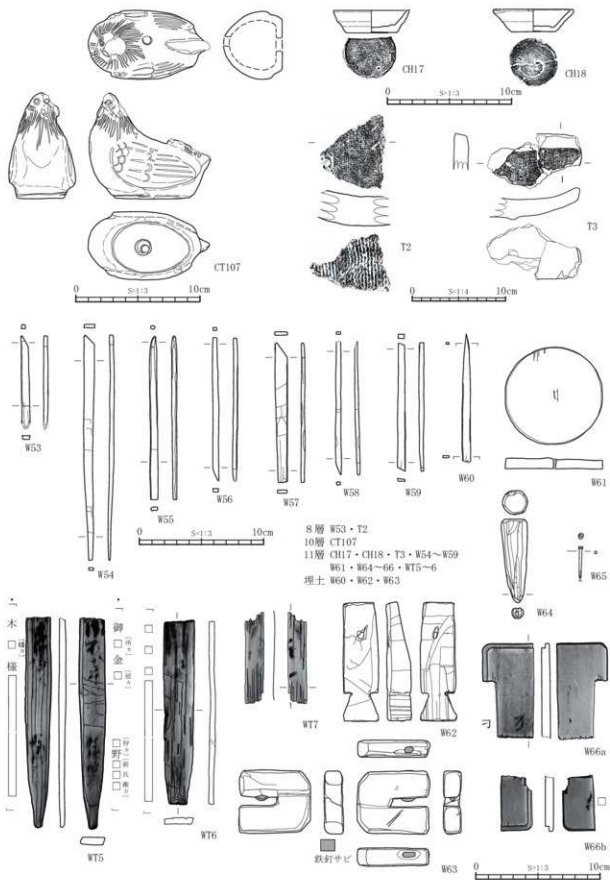


图43 6号井戸(IIa~IIb期)出土遺物(2)
 Fig.43 Various artifacts from No.6 well at Phase IIa-IIb(2)

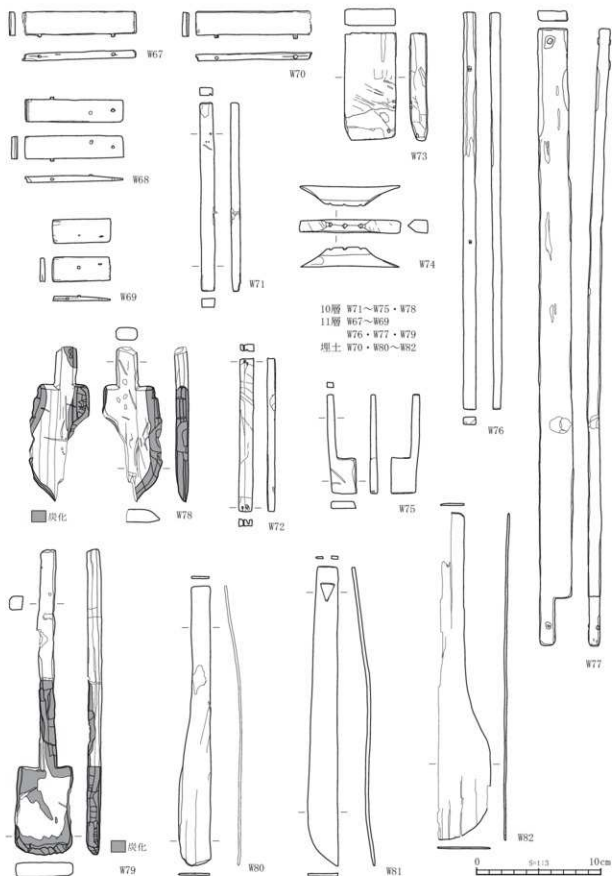


图44 6号井戸(Ⅱa~Ⅱb期)出土遺物(3)
 Fig.44 Various artifacts from No.6 well at Phase Ⅱa~Ⅱb(3)

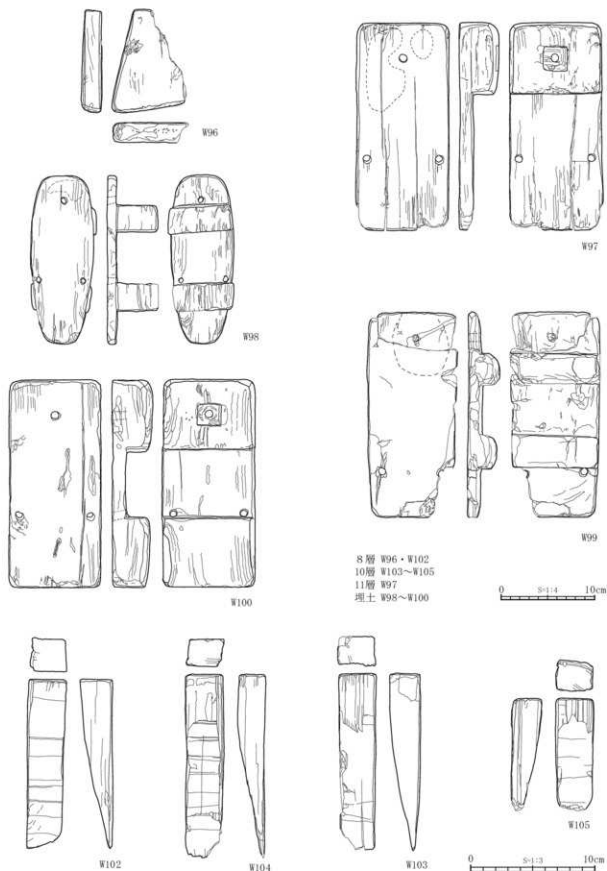


図45 6号井戸(IIa~IIb期)出土遺物(4)
 Fig.45 Various artifacts from No.6 well at Phase IIa-IIb(4)

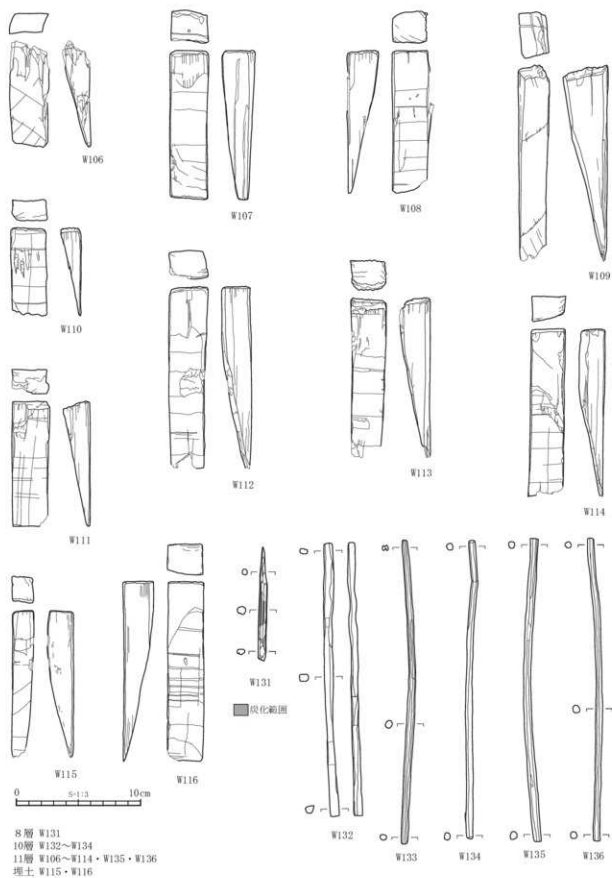


图46 6号井戸(IIa~IIb期)出土遺物(5)

Fig. 46 Various artifacts from No. 6 well at Phase IIa-IIb(5)

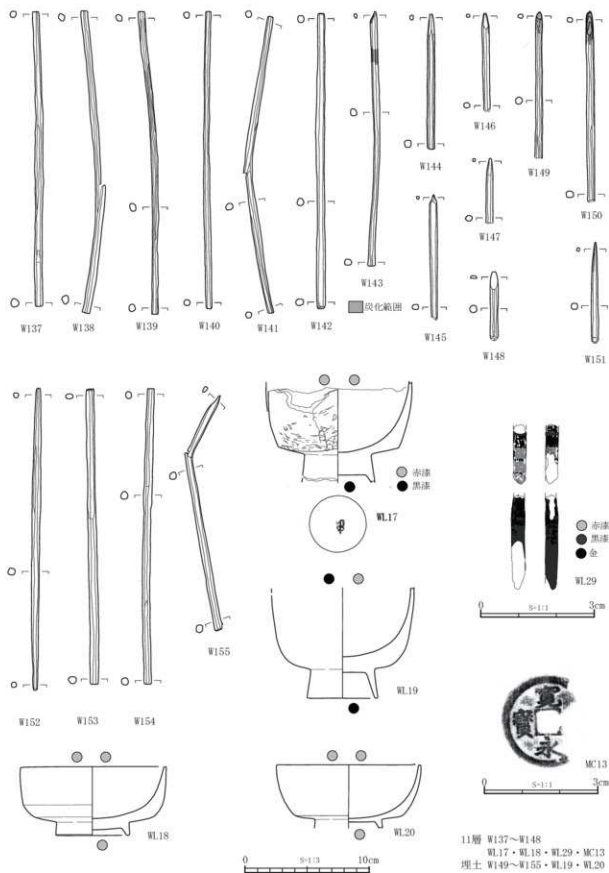


图47 6号井戸(IIa~IIb期)出土文物(6)
Fig. 47 Various artifacts from No. 6 well at Phase IIa-IIb(6)

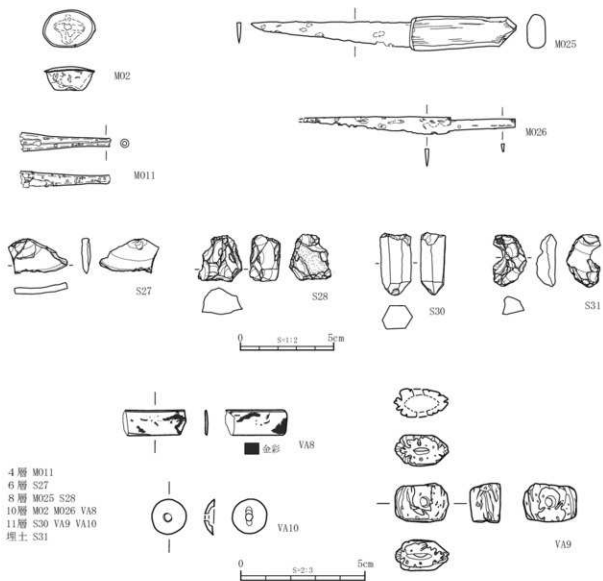
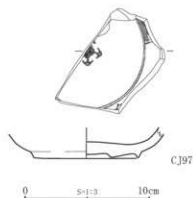
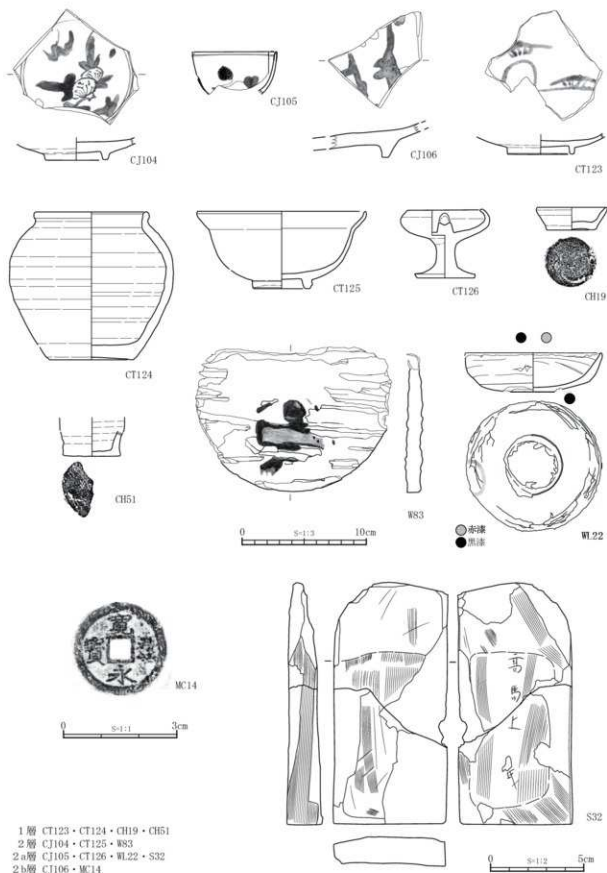


图48 6号井尸(IIa~IIb期)出土遗物(7)
Fig. 48 Various artifacts from No. 6 well at Phase IIa-IIb(7)



柱5 CJ97

图49 1号柱列(IIb期)出土遗物
Fig. 49 Various artifacts from No. 1 pillars at Phase IIb



- 1層 CT123・CT124・CH19・CH51
 2層 CJ104・CT125・W83
 2a層 CJ105・CT126・W1.22・S32
 2b層 CJ106・MC14

图50 1号池伏道横(Ⅱb期)出土遗物
 Fig.50 Various artifacts from No.1 pond at Phase IIb

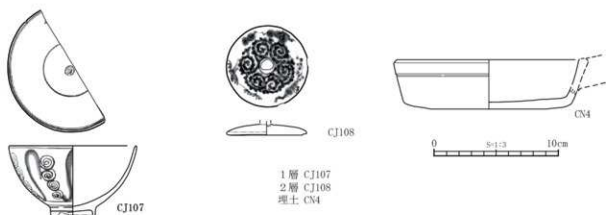


图51 4号遺構(Ⅱb期)出土遺物
Fig. 51 Various artifacts from No. 4 structural remains at Phase II b

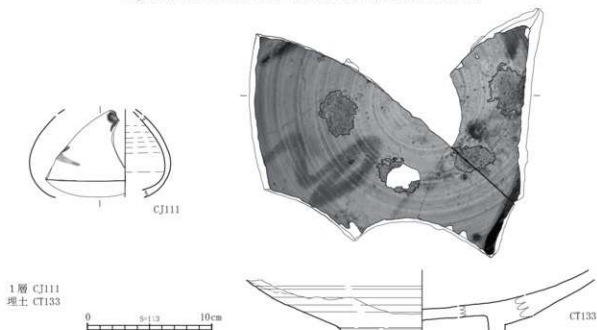


图52 13号遺構(Ⅱb期)出土遺物
Fig. 52 Various artifacts from No. 13 structural remains at Phase II b

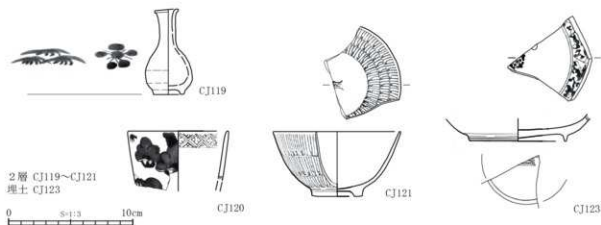


图53 65号遺構(Ⅱb~Ⅲ期)出土遺物(1)
Fig. 53 Various artifacts from No. 65 structural at Phase II b-III (1)

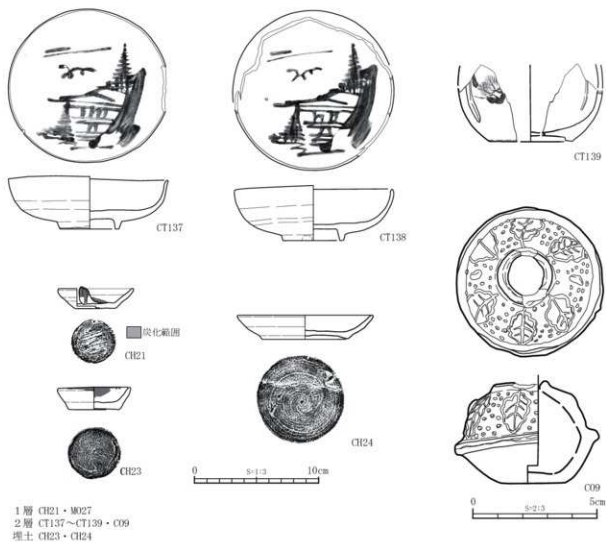


图54 65号遺構(Ⅱb~Ⅲ期)出土遺物(2)
Fig. 54 Various artifacts from No. 65 structural at Phase IIb-III (2)

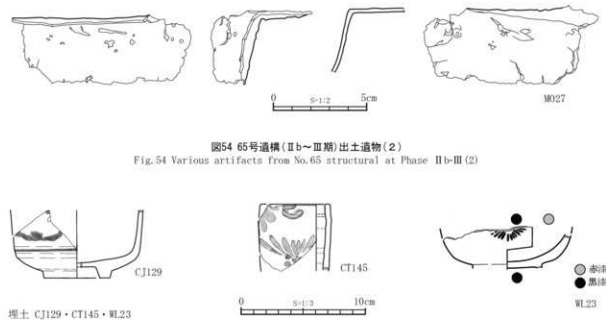


图55 14号遺構(Ⅲ期)出土遺物
Fig. 55 Various artifacts from No. 14 structural at Phase III



1層 M028
2層 CJ136

圖56 20号遺構(Ⅲ期)出土遺物

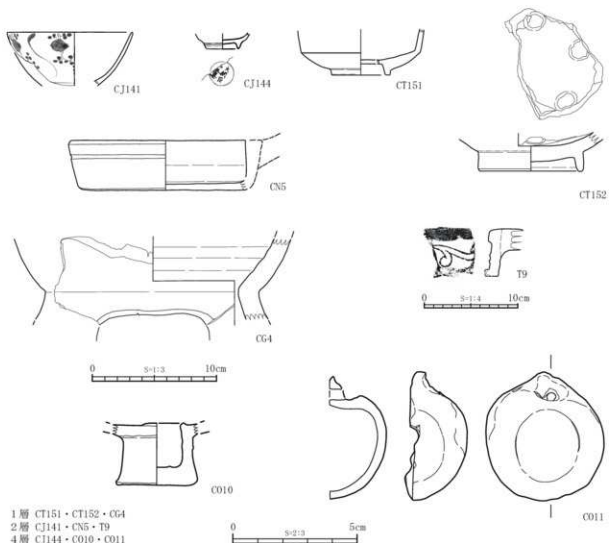
Fig. 56 Various artifacts from No. 20 structural at Phase III



1層 MC15

圖57 25号遺構(Ⅲ期)出土遺物

Fig. 57 Various artifacts from No. 25 structural at Phase III



1層 CT151・CT152・CG4
2層 CJ141・CN5・T9
4層 CJ144・C010・C011

圖58 30号遺構(Ⅲ期)出土遺物

Fig. 58 Various artifacts from No. 30 structural at Phase III

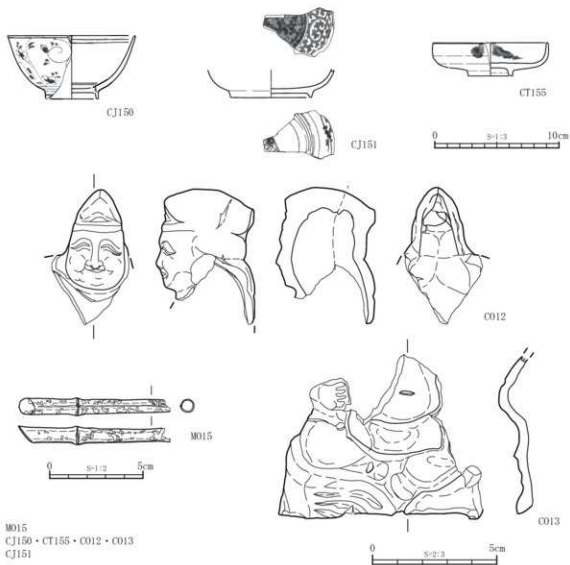


图59 31号遺構(Ⅲ期)出土遺物

Fig. 59 Various artifacts from No. 31 structural at Phase III

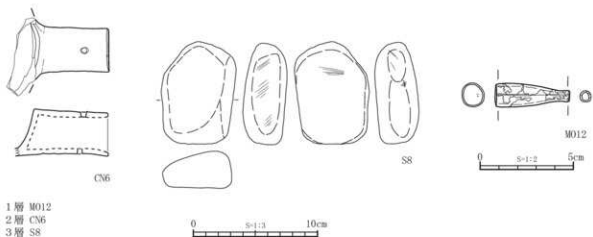


图60 48号遺構(Ⅲ期)出土遺物

Fig. 60 Various artifacts from No. 48 structural at Phase III

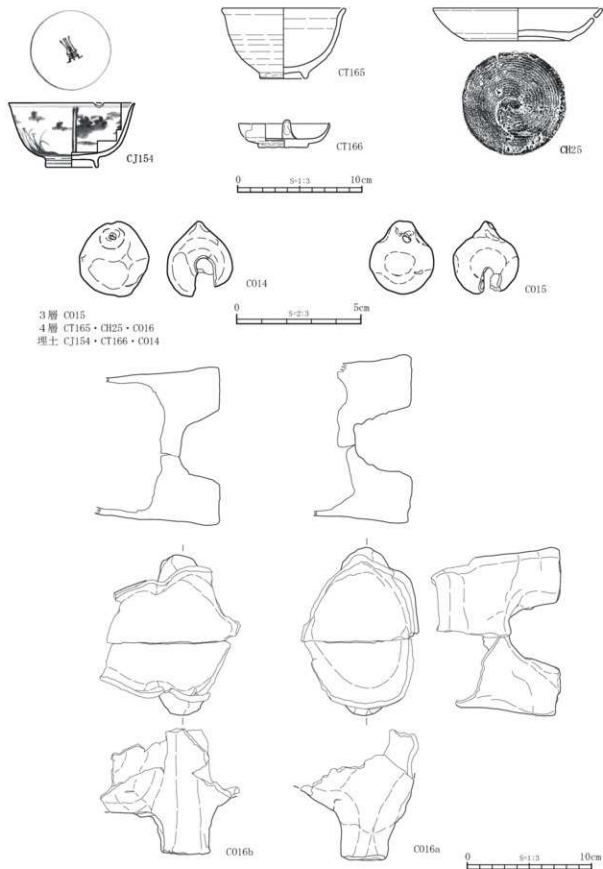


图61 66号遺構(Ⅲ期)出土遺物

Fig.61 Various artifacts from No.66 structural at Phase III

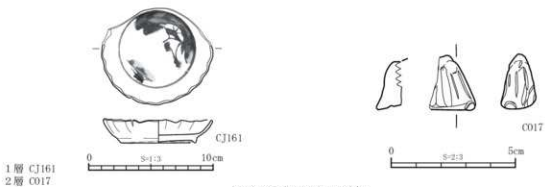


図62 6号溝(Ⅲ期)出土遺物
Fig.62 Various artifacts from No.6 ditch at Phase III

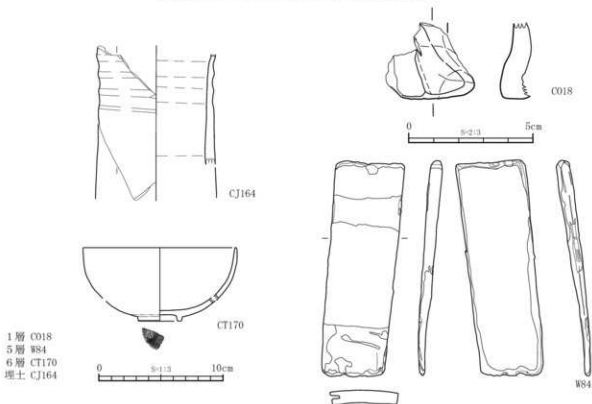


図63 4号井戸(Ⅲ期)出土遺物
Fig.63 Various artifacts from No.4 well at Phase III

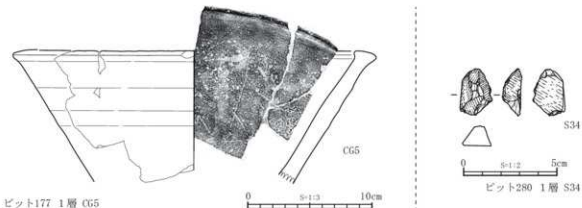
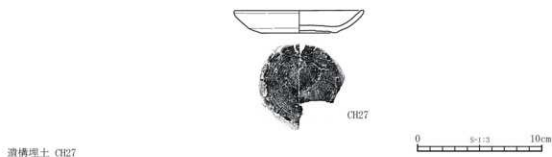


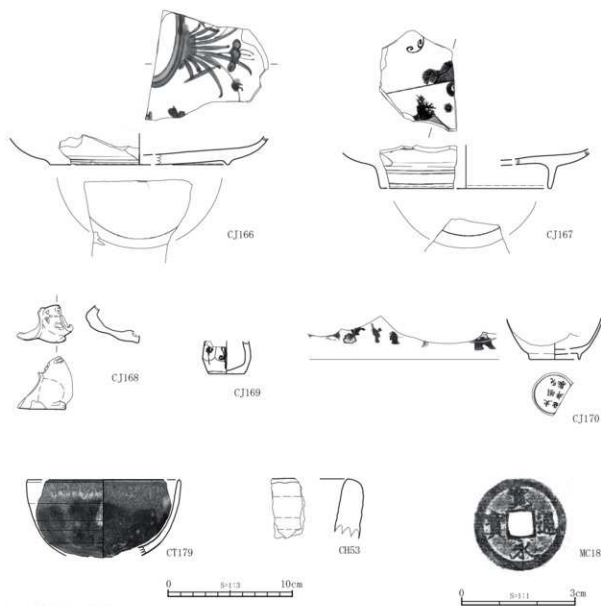
図64 ピット177・280(Ⅲ期)出土遺物
Fig.64 Various artifacts from No.177・280 Pit at Phase III



遺構埋土 CH27

图65 簡連2区出土遺物

Fig.65 Various artifacts from the second construction area



2a-2層 CJ166~CJ170
CT179・CH53・MC18

图66 基本層2a-2層出土遺物

Fig.66 Various artifacts from layer2a-2

2b層 S35

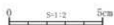
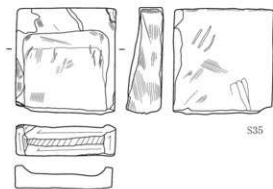
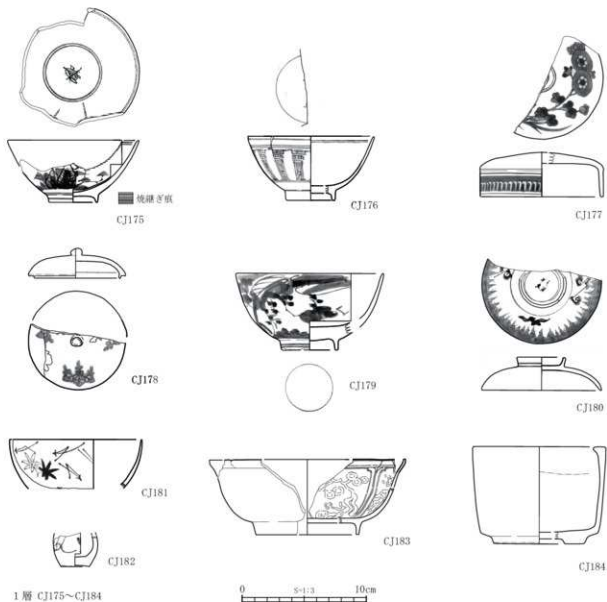


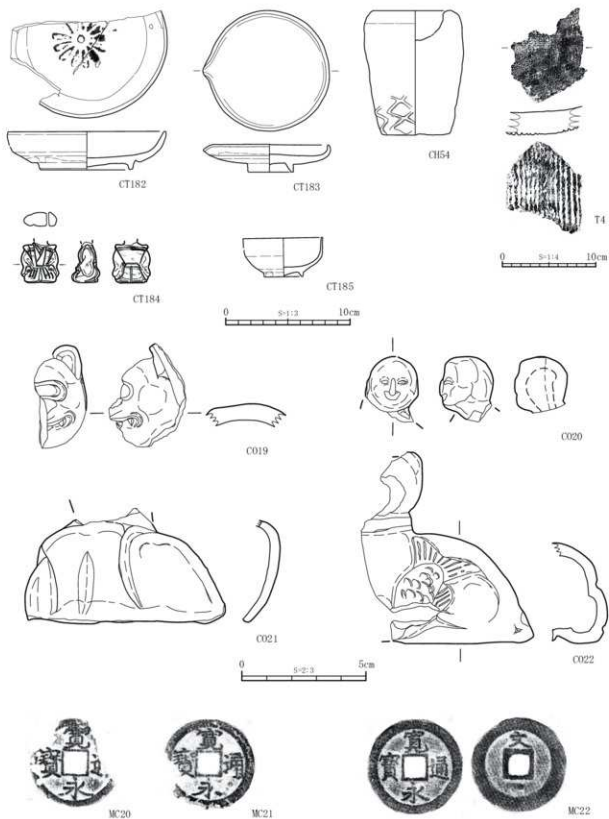
图67 基本層 2b層出土遺物
Fig.67 Various artifacts from layer2b



1層 CJ175~CJ184



图68 1層出土遺物(1)
Fig.68 Various artifacts from layer1(1)



1層 CT182~CT185・CH54
T4・C019~C022・MC20~MC22

图69 1層出土遺物(2)
Fig. 69 Various artifacts from layer1(2)

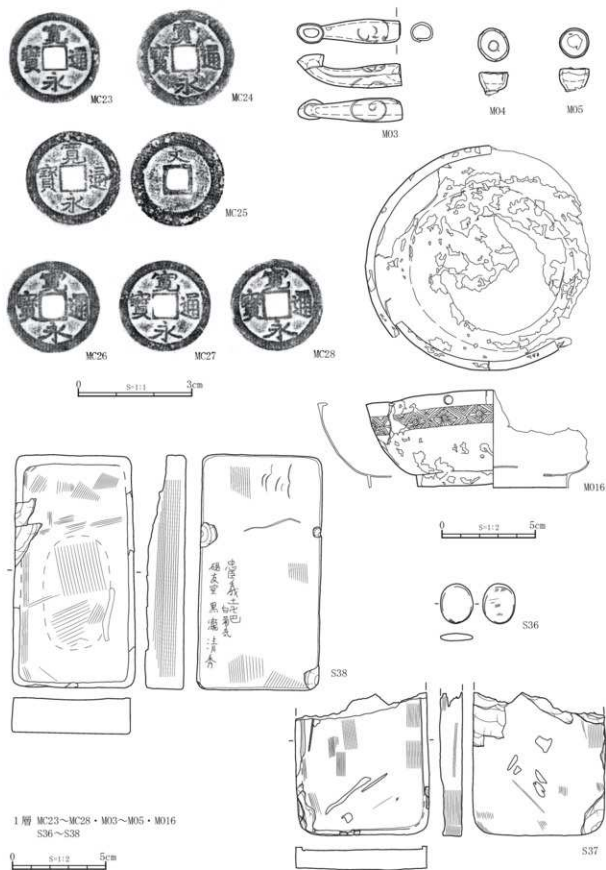


图70 1層出土遺物(3)

Fig. 70 Various artifacts from layer1(3)

表1 遺物集計表(1)
Tab.1 Distribution of archaeological remains at BK14 (1)

段階	出土場所	磁器	陶器	土師 土器	瓦質 土器	土人形 土製品	軟質陶 胎陶器	瓦	瓦	木製品	漆器 製品	石器・ 石製品	その他	金属 製品	
基本期	1層	1103	942	390	36	10	33	25	7394		12	12	24	33	
	2・2層	74	111	199	12	3	5	120	4821		1	3		31	
	2層	5	8	14	1		1	4	206			1		1	
I	1号建物	遺物なし													
	3号建物	柱5			1										
		柱6		1							3				
		柱15							1	340					
	計		1	1				1	340	3					
	4号建物	遺物なし													
	5号柱列	柱1		1	4										
		柱3			1										
	計		1	5											
	6号柱列	遺物なし													
8号柱列	柱1			3											
	柱2	1	1		1										
計	1	1	3	1											
10号柱列	柱1		2	5				3	81					1	
	柱2		1												
計		3	5				3	81					1		
2号池状遺構	埋土1層	37	56	104		6		18	616	2	2	8		1	
	埋土2層	64	81	214	11		6	36	764	1832	33	9	2	138	
	埋土3層	21	20	110	1		1	16	861	252	2	1	2	15	
	埋土3a層		2	3	1										
	埋土2b層	2	2	16	1			4	30	5				2	
	埋土4層	9	10	65	2			8	231	28		2		9	
	埋土5a層	7	4	16				1	5	22		2		2	
	埋土5b層	4			1			7	212	19		1		3	
	埋土5c層			98											
	埋土5層		4	8				5	225	5				3	
	埋土6層			58											
	埋土	1								4	1				
	計	145	179	692	16	6	7	95	2944	2169	38	24	4	173	
4号池状遺構	埋土1層	7	3	14			6	1223	4						
	埋土2層	10	2	30	1		3	15	80	9			2		
	埋土3層	2		7			3	1907	29	4			2		
	埋土4層			4					3				1		
	埋土5層	6	2	24			1	510	70	3			10		
	埋土6層		4	15			2	7	5				3		
	埋土7層	1	6	3	1		1	400	10	1	1		7		
	埋土8層	4	2	9			1	160	19	2	1		7		
	埋土9層			2					5						
	埋土10層		1							1					
	埋土	3								1	1				
計	33	20	108	2			17	4222	226	20	2		32		
6号遺構埋土	遺物なし														
10号遺構	埋土2層		1							3	1		1		
	埋土4層														
	埋土	1						1	100	1					
計	3	2	1	1			1	100	4	2		1			
12号遺構	埋土1層		2	4	1	1					1				
	埋土2層		2												
	埋土4層	1								3					
	埋土6層	1	1							2		1	1		
	埋土10層			1											
	埋土	7	14	5			1								
計	9	19	9	3	1	1			5	2	1				
39号遺構	埋土1層	1		6				3	20		1				
	埋土2	4	6	11				2	115			1			
	埋土3	2	1	1								1			
	埋土	7	7	21		1		5	135			2			
40号遺構	埋土1	1													
	埋土2層	1	5	3	1			1	10			2			
42号遺構	埋土1層	1													
	埋土2層	1		5											
埋土	1	6	8	1			1	10			2				
55号遺構	遺物なし														
61号遺構	遺物なし														

表2 遺物集計表(2)
Tab.2 Distribution of archaeological remains at BK14 (2)

段階	出土場所	磁器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質陶器	瓦	瓦	木製品	漆器製品	石器・石製品	その他	金属製品	
I	64号遺構 埋土1層	2		2											
	1号溝 埋土1層			1				1	70						
	3号溝	埋土1層	5	6	29				9	760		1			1
		埋土2層	8	28	3		1		24	2415		1	2		1
		埋土3層	3		3				4	447					1
		埋土4層		3	7										
	5号舟戸	計	16	37	42		1		37	3622		2	2		3
		敷土1層	3						1	5	1				
		敷土2層		2											
		敷土3層	1		3						4	1			
		埋土1層	1										1		
	I	ビッド64	5	5	3	2			1	270	10				
		計	8	9	6	2			2	270	15	1	1		
		ビッド70	埋土1層												1
		ビッド74	埋土1層		1	1									
		ビッド84	埋土1層												
		ビッド92	埋土1層												
		ビッド102	埋土1層			1									
		ビッド107	埋土1層												
		ビッド200	埋土1層		1										
		ビッド205	埋土1層		1										
		ビッド213	埋土1層												
		ビッド217	埋土1層				8			1	300				
		ビッド236	埋土1層												
		ビッド229	埋土2層		3	8									
		ビッド245	埋土1層		1										
		ビッド248	埋土1層												
ビッド250		埋土1層		1	3										
ビッド266		埋土1層													
ビッド284		埋土1層													
杭26		埋土1層													
杭27		埋土1層													
杭28		埋土1層													
杭29		埋土1層													
杭53		埋土1層													
杭57		埋土1層		1											
I期遺構		合計	229	294	868	26	9	8	164	12099	2417	66	34	5	210
I		IIa	ビッド15	埋土1層	1										
	ビッド77	埋土1層		2											
	ビッド102	埋土1層						6	415						
	ビッド164	埋土1層													
	ビッド165	埋土1層		2		1									
	ビッド166	埋土1層													
	ビッド170	埋土1層													
	ビッド188	埋土1層		1	2										
ビッド294	埋土1層														
I-IIa期遺構	合計	3	5	2	1			6	415						
I	15号遺構	埋土1層									1				
		埋土1層	4	5	1						3	2			
		計	4	5	1						3	3			
	16号遺構	埋土1層	2	4				1	130				1		
		埋土2層	1	1	1	1		1	3	570				1	
		埋土3層	2		1										
		埋土4層	2		1						200	1			
		敷土1層	3		1				5	490					
		敷土2層	2		1				1	20					
		計	11	9	3	1		1	11	1400	1			1	1
	26号遺構	埋土1層		2	6										1
		埋土2層	3	3	8				2	270			2	1	1
		計	3	5	14				2	270			2	1	1
	25号遺構	埋土1層		1	6		1							1	
	46号遺構	埋土1層													
	47号遺構	埋土1層													
	38号遺構	埋土1層													
	59号遺構	埋土1層													
	48号遺構	埋土1層													
	72号遺構	埋土1層													
71号遺構	埋土1層		1												

表3 遺物集計表(3)
Tab.3 Distribution of archaeological remains at BK14 (3)

段階	出土場所	磁器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質陶器	瓦	瓦	木製品	漆器製品	石器・石製品	その他	金属製品
I IIb	74号遺構	埋土3層		1										
	計		1	1										
	7号溝	埋土						1	10					
	ピット28	埋土	1	1										
	ピット40	遺物なし												
	ピット116	遺物なし												
	ピット143	埋土						1	30					
	ピット180	遺物なし												
	ピット181	埋土1層			3									1
	ピット185	埋土1層		2	2									
	ピット189	遺物なし												
	ピット191	遺物なし												
	ピット195	遺物なし												
	ピット201	埋土1層	1											
	ピット202	埋土1層			1									
	ピット204	埋土1層			1									
	ピット215	埋土1層	1											
	ピット218	遺物なし												
	ピット225	埋土1層		1	1									
	ピット227	遺物なし												
	ピット237	遺物なし												
	ピット240	埋土1層		1										
	ピット251	遺物なし												
	ピット254	遺物なし												
	ピット256	遺物なし												
	ピット257	遺物なし												
	ピット258	遺物なし												
	ピット260	埋土1層	1											
	ピット265	遺物なし												
	ピット274	遺物なし												
	ピット275	遺物なし												
	ピット276	埋土			1									
	ピット277	埋土			1									
	ピット279	埋土		1					1	5				
	ピット281	埋土							1	40				
	ピット282	遺物なし												
	ピット283	遺物なし												
	ピット285	遺物なし												
	杭14	遺物なし												
	杭21	遺物なし												
	杭30	遺物なし												
	杭31	遺物なし												
	杭32	遺物なし												
杭36	遺物なし													
杭40	遺物なし													
杭41	遺物なし													
杭42	遺物なし													
杭43	遺物なし													
I-IIb期遺構 合計		23	27	35	1	1	1	17	1755	4	3	2	2	4
I III	2号建物	遺物なし												
	5号建物	柱1			1									1
		柱2		1										
		柱3												2
	計		1	1									3	
	7号建物	遺物なし												
	4号柱列	柱5	1	1	3									
		柱6			2									
	計	1	1	5										
	7号柱列	遺物なし												
	7号遺構	埋土	1		3			2	470	1	1			
	28号遺構	埋土			1									
	25号遺構	遺物なし												
	1号井戸	敷土(遺構)	1	3							2			
埋土1層		3		1									1	
埋土2層		20	28	26	4		10	24	7790	40	9	3	1	4
埋土3層		12	35	11		1	10	23	5040	84	7	1	1	
埋土		2	2							22	1			1
計	38	68	38	4	1	20	47	12830	148	17	4	3	5	

表4 遺物集計表(4)
Tab.4 Distribution of archaeological remains at BK14 (4)

段階	出土場所	磁器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質陶軸陶器	瓦	瓦	木製品	漆器製品	石器・石製品	その他	金属製品		
I III	ビット13	遺物なし														
	ビット17	遺物なし														
	ビット36	遺物なし														
	ビット62	遺物なし														
	ビット79	遺物なし														
	ビット81	埋土	2													
	ビット83	埋土1層	1													
	ビット85	遺物なし														
	ビット88	遺物なし														
	ビット90	埋土								1						
	ビット95	遺物なし														
	ビット100	埋土			2											
	ビット104	埋土						1	3							
	ビット125	埋土1層			1											
	ビット126	埋土1層		1												
	ビット128	遺物なし														
	ビット130	遺物なし														
	ビット134	埋土			3											
	ビット142	遺物なし														
	ビット144	遺物なし														
	ビット145	埋土1層			2					1						
	ビット146	埋土1層			2	2										
	ビット179	遺物なし														
	ビット184	遺物なし														
ビット190	埋土1層				1											
ビット202	遺物なし															
ビット224	埋土1層		1	1												
ビット228	遺物なし															
ビット244	遺物なし															
杭11	遺物なし															
I-III期遺構	合計	43	72	59	7	1	20	50	13303	151	18	4	3	8		
IIa	3号池状遺構	埋土1層	7	5	1			1	50	1				4		
		埋土4層												1		
		計	7	5	1									5		
	18号遺構	埋土1層	4	1	6				1	60	1					
		埋土2層	4	2	2											
		埋土3層	2	2	1			1			13	2	1			
		計	6	5	9	1		1	1	60	13	2	1			
	5号溝	埋土1層	4	18	27		1		38	3319			2		4	
		埋土1a層	2	4	2				2	43			1		1	
		埋土1b層	4	4	6	2	1		8	1001						
		埋土2層	10	3	9	2	2		25	1793						
		埋土3層														
埋土4層		1		1				1	90							
	埋土		1													
	計	21	30	45	4	4		74	6246			4		5		
IIa期遺構	合計	34	41	55	5	4	1	76	6326	14	2	5		10		
IIa IIb	9号遺構	埋土1層	3	1	2											
		埋土7層	3	5	2						8	1	1			
		埋土8層	1													
	40号遺構	埋土	1	1	2				2	50	1				2	
		埋土	5	7	6				2	50	9	1	1		2	
		埋土	1		2											
	2号舟戸	埋土1層	4	3												
		埋土7層	1	2					1	10						
		埋土8層	2	1	3											
		埋土9層	1													
		埋土10層	4	1							1				2	
		埋土11層	1	1												
		埋土12層	7	24	111	3	2				9	1	4	1	23	
		埋土13層	0	3							3					
			計	20	35	114	3	2		1	10	13	1	4	1	25
		6号舟戸	埋土1層		1	2				8	340					
	埋土2層		3									1				
	埋土3層		1													
埋土4層	3		3	1										1		
埋土6層	2		1	1							19		1			
埋土7層	2		3								8	1				

表5 遺物集計表(5)
Tab.5 Distribution of archaeological remains at BK14 (5)

段階	出土場所	磁器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質陶軸陶器	瓦	瓦	木製品	漆器製品	石器・石製品	その他	金属製品		
II a I II b	6号井戸	埋土8層	22	8	68	9			34	680	429	6	8	2	64	
		埋土9層									14				1	
		埋土10層	1	4	19				2	5	391	4			2	34
		埋土11層	6	11	108	4	1	1	19	628	1179	13	7	5	127	
		埋土	11	7	15	3		3	7	130	399	9	5		14	
ピット225	埋土1層	51	38	214	16	1	4	70	1783	2342	34	21	9	241		
II a-II b期遺構	合計	77	81	336	19	3	4	74	1863	2366	36	26	10	268		
II a I II b	杭18	遺物なし														
	杭19	遺物なし														
	杭20	遺物なし														
II a-III期遺構	合計	遺物なし														
II b	1号柱列	柱1	3	4	13											
		柱2	1	2					10	450						
		柱3	4	4	9				3	463						
		柱4	4	4	2	1	1		4	160						
		柱5	2	3	10		1		3	220					3	
	計	11	17	34	1	2		20	1293					3		
	2号柱列	柱1		1					1	10						
		柱2					1		2	100						
	計		1			1		3	110							
	1号池状遺構	埋土1層	37	24	8	8		2	22	2151					1	
		層11・2層	3	2												
		築土1b層														
		築土2a層	6	2	2				1	50	3	1	1			
		築土2b層	9	15	13				2	155	1	1	1		3	
		埋土2層	13	14	11	1		1	4	780	2		1			
	東石列基台	1	1	3												
	計	69	58	37	9		3	29	3136	6	2	3		5		
	4号遺構	埋土1層	4	2	1	1			5	460						
		埋土2層							1	50						
		埋土3層	2	4	1	1			2	30						
		埋土5層	4	2	3	1						1				
		埋土8層	1	2								5	1			
	計	10	6	2	1		1							1		
	13号遺構	埋土1層	22	16	7	3		1	8	540	5	2	1		1	
		埋土	3	3		1										
計	4	11	3	1				10	2							
ピット151	埋土1層	1	14	3	1			1	10	2						
	埋土	4	14	3	1			1	10	2						
ピット156	埋土1層	1	7	4	1			5	300							
ピット159	遺物なし															
ピット160	遺物なし															
ピット161	埋土1層							4	160							
II b期遺構	合計	108	113	85	15	3	4	70	5549	13	4	4		9		
II b I II b	5号遺構	埋土1層	43	29	6	1	1		3	70			1	2	2	
		埋土2層	1		8				1	1						
		埋土9層							1	1						
		埋土	37	52	9		1	5	1	10	1				6	
		計	81	89	17	3	2	6	5	110	1		1	2	8	
50号遺構	埋土1層	3		3		1						2				
	埋土													1		
65号遺構	埋土2層	6	9	1	4	1								1		
	埋土	24	28	4				4	345					1		
計	30	37	6	4	1		4	345					3			
ピット49	埋土															
ピット113	埋土			1												
ピット223	埋土	遺物なし														
II b-III期遺構	合計	114	129	27	7	4	6	9	455	1		3	2	11		
III	6号建物	柱2			1										1	
		柱4			1											
		柱5	1													
	計	1		2												
	9号柱列	柱3							1	50					1	
		埋土1層							6	305						
	2号遺構	埋土3層		1							1					
埋土		4	4	1				20	4760							
計	4	5	1				26	5065	1							
14号遺構	埋土	18	14	1	2			1	10	1	3					

表6 遺物集計表(6)
Tab.6 Distribution of archaeological remains at BK14 (6)

段階	出土場所	磁器	陶器	土師 土器	瓦質 土器	土人形 土製品	軟質陶 軸陶器	瓦	瓦	木製品	漆器 製品	石器・ 石製品	その他	金属 製品
20号遺構	埋土1層	5	4	11				4	335				5	
	埋土2層	7	7	2				3	125					
	埋土3層	3	1	3				3	2305					
	埋土4層	1												
	埋土	1												
	計	17	12	16				10	2765		1		5	
21号遺構	埋土1層	2	2	2										
	埋土2層	2	2	2										
	計	2	4	2										
25号遺構	埋土1層	2	1											
	埋土2層	4	1	5				3	50				1	
	埋土3層	1	4	2				1	50					
	埋土4層	0	4	2										
	計	4	5	11				4	100				1	
30号遺構	埋土1層	6	12	5	1			1	50				1	
	埋土2層	7	7	1				4	390				1	
	埋土3層	1	1	3			1							
	埋土4層	5	3	3		2							1	
	埋土5層	0	1	1										
	埋土	0	1	1										
	計	19	24	13	1	2	1	5	440				2	
31号遺構	埋土1層	5	3	7	1			3	262				1	
	埋土2層	2	5	12			2	2	30		2		1	
	埋土3層	1	1	12									2	
	埋土4層	5	2	15		2	2						2	
	埋土5層	4	12	1										
	埋土	2	2											
	計	18	23	47	1	2	4	5	293		2		6	
34号遺構	埋土2層	1	1	1										
埋土6層	1	1	1											
	計	1	1	1										
41号遺構	遺物なし													
44号遺構	遺物なし													
48号遺構	埋土1層	8	15	2	1		1	2	65				2	
	埋土2層	2	3	1				2	30					
	埋土3層	1	5	1				1	120					
	埋土													
	計	11	24	4	1		4	4	215				2	
51号遺構	埋土		2											
60号遺構	遺物なし													
62号遺構	埋土2層			1						1				
63号遺構	埋土1層	3	4	53	1			1	20				1	
	埋土2層	1	3	3						1				
	埋土3層	0												
	埋土	4	7	57	1			1	20	1			1	
66号遺構	埋土1層	1				1					1	1		
	埋土3層	1				1					2		2	
	埋土4層	17	16	2		1		5	2000	1	1			
	埋土	18	18	10	1	4	1	5	2000	1	4	1	2	
	計	18	18	10	1	4	1	5	2000	1	4	1	2	
70号遺構	遺物なし													
71号遺構	埋土1層												2	
2号溝	遺物なし													
4号溝	埋土1層	7	10	12				3	280					
	埋土2層	9	16	13	1		2	3	50				1	
	埋土3層	1	3	3										
	計	9	16	13	1	1	2	3	50				1	
4号井戸	軒下・廊下							3	900					
	埋土1層	9	8	5		1		6	840		1			
	埋土5層	4	2	1				1	190					
	埋土6層	1	2											
	埋土	1	2											
	計	15	12	6		1	10	1930	45	1	1			
ピット25	遺物なし													
ピット123	埋土1層			1										
ピット129	埋土2層			1										
ピット136	埋土1層			1										
	埋土	3	1											
	計	3	2											

表7 遺物集計表(7)
Tab.7 Distribution of archaeological remains at BK14 (7)

段階	出土場所	磁器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質陶軸陶器	瓦	瓦	木製品	漆器製品	石器・石製品	その他	金属製品
Ⅲ	ビット138 埴土1層			9										
	ビット152 埴土1層	1	3	2				2	80					
	ビット171	遺物なし												
	ビット173	遺物なし												
	ビット174	遺物なし												
	ビット175	遺物なし												
	ビット177 埴土1層				1	1								
	ビット178	遺物なし												
	ビット183	遺物なし												
	ビット186	遺物なし												
	ビット192	遺物なし												
	ビット193	遺物なし												
	ビット197 埴土1層				2									
	ビット198	遺物なし												
	ビット199	遺物なし												
	ビット214	遺物なし												
	ビット219	遺物なし												
	ビット221	遺物なし												
	ビット222 埴土				2									
	ビット230 埴土2層								1	100				
	ビット233	遺物なし												
	ビット246 埴土1層			1	1									
	ビット259	遺物なし												
	ビット261 埴土1層				1				23	160				
	ビット263	遺物なし												
	ビット269	遺物なし												
	ビット270 埴土		1	2	1				1	50				
	ビット271	遺物なし												
	ビット272 埴土1層		1	1	1									
	ビット280 埴土1層		1	5	4	1						2		
ビット287 埴土1層				5										
ビット291 埴土1層		2		3				3	10					
ビット292 埴土		1	2	1									1	
杭23	遺物なし													
杭25	遺物なし													
杭33														
杭37	遺物なし			1										
杭38	遺物なし													
杭39	遺物なし													
杭56	遺物なし													
Ⅲ期遺構	合計	157	195	235	10	10	12	108	13618	49	11	5		24
不明	3号柱列	遺物なし												
	55号遺構	遺物なし												
	56号遺構	遺物なし												
	65号遺構	遺物なし												
	73号遺構	遺物なし												
	ビット7	遺物なし												
	ビット10	遺物なし												
	ビット11	遺物なし												
	ビット12	遺物なし												
	ビット14	遺物なし												
	ビット19	遺物なし												
	ビット21	遺物なし												
	ビット28	遺物なし												
	ビット29 埴土													1
	ビット34	遺物なし												
	ビット35	遺物なし												
	ビット39	遺物なし												
	ビット41	遺物なし												
	ビット45	遺物なし												
	ビット52	遺物なし												
ビット54	遺物なし													
ビット57	遺物なし													
ビット58	遺物なし													
ビット65	遺物なし													
ビット66	遺物なし													
ビット67	遺物なし													
ビット68	遺物なし													
ビット69	遺物なし													

表8 遺物集計表(8)
Tab.8 Distribution of archaeological remains at BK14 (8)

段階	出土場所	磁器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質土器	瓦	瓦	g	木製品	漆器製品	石器・石製品	その他	金属製品
	ピット60	遺物なし													
	ピット72	遺物なし													
	ピット82	遺物なし													
	ピット93	遺物なし													
	ピット94	遺物なし													
	ピット97	遺物なし													
	ピット98	遺物なし													
	ピット108	遺物なし													
	ピット109	遺物なし													
	ピット110	遺物なし													
	ピット112	遺物なし													
	ピット119	遺物なし													
	ピット122	遺物なし													
	ピット124	遺物なし													
	ピット127	遺物なし													
	ピット135	遺物なし													
	ピット139	遺物なし													
	ピット141	遺物なし													
	ピット147	遺物なし													
	ピット148	遺物なし													
	ピット167	遺物なし													
	ピット168	遺物なし													
	ピット187	遺物なし													
	ピット206	遺物なし													
	ピット209	遺物なし													
	ピット211	遺物なし													
	ピット253	遺物なし													
	ピット262	遺物なし													
不明	石	遺物なし													
	坑1	遺物なし													
	坑2	遺物なし													
	坑3	遺物なし													
	坑4	遺物なし													
	坑5	遺物なし													
	坑6	遺物なし													
	坑7	遺物なし													
	坑8	遺物なし													
	坑9	遺物なし													
	坑10	遺物なし													
	坑12	遺物なし													
	坑13	遺物なし													
	坑16	遺物なし													
	坑17	遺物なし													
	坑24	遺物なし													
	坑25	遺物なし													
	坑44	遺物なし													
	坑45	遺物なし													
	坑46	遺物なし													
	坑47	遺物なし													
	坑48	遺物なし													
	坑49	遺物なし													
	坑50	遺物なし													
	坑51	遺物なし													
	坑52	遺物なし													
	坑54	遺物なし													
関連2区	1層・雑瓦	12	11	2				1	1	10					
	2層・瓦			1											
	遺構埋土	1	3	1				2		120					
関連4区	遺構埋土1層	1	1					2		100					

表9 磁器算計表 (1)
Tab.9 Distribution of porcelains at BK14 (1)

段階	出土場所	大塚			中塚			小塚			里			焼物 種類	磁器口 - 紅皿	その他	合計				
		丸型 底蓋	丸型 蓋	その他 不明	丸型 底蓋	丸型 蓋	その他 不明	丸型 底蓋	丸型 蓋	その他 不明	丸型 底蓋	丸型 蓋	その他 不明								
I層	2	116	32	3	9	29	33	筒形	2	201	195	7	15, 大鉢1	23	12	裏6 身3	小鉢8、香和皿、水入3、合子2、 紅皿5、水入、香和子、飯糰3、筒形4、 紅筒口6、筒子7、木皿1、筒口22、湯杓8 蓋物蓋1	不明	1103		
	2b-2層	11	1	1	1	1	1	天目	1	13	27					裏2	紅皿1 小鉢1、蓋物 (器) 1 小笠1、蓋物 (器) 1、筒口2	5	74		
	2b層									1	2	1							不明	5	
	18分柱列																			不明	1
	29巻状遺構	25	1			7				35	25	4			6, 中鉢1	1	紅筒口1	湯杓1、合子蓋1、筒口8、 小鉢1、水皿1、香和子1	21	145	
	49巻状遺構									13	5	1	1							不明	5
	10分遺構									1	2									不明	3
	12分遺構	2																		不明	9
	57分遺構	2																		不明	7
	39分遺構	2																		不明	7
II層	42分遺構																			不明	1
	39分遺構	2																		不明	2
	64分遺構																			不明	1
	39分遺構	2																		不明	2
	59分片付	1																		不明	1
	レット200	1																		不明	1
	レット245																			不明	1
	レット245 鉢57																			不明	1
	I-レット15																			不明	1
	IIa-レット188																			不明	2
I層	15分遺構	1																		不明	2
	16分遺構																			不明	1
	26分遺構																			不明	1
	36分遺構																			不明	1
	I-35分遺構																			不明	1
	IIb-レット38																			不明	1
	レット201																			不明	1
	レット215																			不明	1
	レット260																			不明	1
	II層	49分柱列	1																		不明
7分遺構																				不明	1
I-19分片付																				不明	1
II-レット81																				不明	1
レット83																				不明	1
39巻状遺構		2																		不明	7
IIa-18分遺構																				不明	1
59分遺構		7																		不明	2

表10 磁器集計表(2)
Tab.10 Distribution of porcelains at BK14 (2)

政源	出土場所	大塚			中塚			小塚			破損	破損原因	種類	袋物			紅顔口・紅里	その他	不明	合計	
		大塚	中塚	小塚	大塚	中塚	小塚	不明	その他	不明				その他	不明	その他					
I a	6号遺構		1					1	2											5	
	6号遺構																				5
	2号丹下	3	1						7	3										1	20
	6号丹下	7	2	1	筒形3				13	7	1	9									51
	1号柱列	1			筒形1				3	4	1										11
	1号池状遺構	5	2	1	6	6	4		20	12	1	2	1							8	69
	4号遺構	7			2	1			2	4		1								2	22
	13号遺構	2																			4
	ビレット151								1												1
	5号遺構	6	1		筒形3	3	3		2	25	20	1	4							13	81
	50号遺構	1							1												3
I b	6号遺構	3	1	1					8	9										1	30
	6号遺物	1																			1
	2号遺構								1	2											4
	14号遺構	7	1		筒形1					2											1
	20号遺構	1							2	8											1
	21号遺構																				1
	23号遺構	1							1												2
	25号遺構								1												4
	30号遺構	7							1	5		2									4
	31号遺構	4	1						5	1		3									19
	II	34号遺構																			
48号遺構		1	2						3	2											1
63号遺構																					1
66号遺構		7	1	1					4	1	1										1
4号溝									4	1											7
6号溝		3							1	4											9
4号丹下		2							2	5	5										15
ビレット132																					1
ビレット270		1																			1
ビレット272																					1
ビレット280																					1
ビレット281																				1	
ビレット282																				1	
四連区 遺構E11層																					1
四連区 遺構E11層																					1
四連区 遺構E11層																					2
四連区 遺構E11層																					12

表11 陶器集計表(1)
Tab.11 Distribution of glazed ceramics at BK14 (1)

段階	出土場所	瓦型	中環	小瓶	前(中)小	鉢	小中	その他	土器	土蓋	壺・甕・甌	灰物	灯火具	その他	不明	合計	
I層	25-2層	9	腰折1	7	32	16	42	66	向付5 楕小皿1	44	147	14	大壺2, 中壺6 大壺18, 大壺1 大壺1, 大壺1 大壺1, 大壺1 土鍋14, 中壺1, 仏化瓶2	大壺2, 中壺6 大壺18, 大壺1 大壺1, 大壺1 土鍋14, 中壺1, 仏化瓶2	23	53	942
			腰折1	7	32	16	42	66	向付5 楕小皿1	44	147	14	大壺2, 中壺6 大壺18, 大壺1 大壺1, 大壺1 土鍋14, 中壺1, 仏化瓶2	大壺2, 中壺6 大壺18, 大壺1 大壺1, 大壺1 土鍋14, 中壺1, 仏化瓶2	23	53	942
			腰折1	7	32	16	42	66	向付5 楕小皿1	44	147	14	大壺2, 中壺6 大壺18, 大壺1 大壺1, 大壺1 土鍋14, 中壺1, 仏化瓶2	大壺2, 中壺6 大壺18, 大壺1 大壺1, 大壺1 土鍋14, 中壺1, 仏化瓶2	23	53	942
I層	26層	3号屋簷		1												1	
		5号柱列		1													1
		8号柱列															1
		10号柱列															1
		2号表柱遺構	腰折1	24		大鉢1	1	向付1									1
		4号表柱遺構	腰折2, 天目2		37	1	16	8	向付2	2	大壺1, 中壺1, 中壺1, 中壺1, 大壺1, 大壺1						3
		10号遺構	1		4		大鉢2	2	3								4
		12号遺構	3		8		2	1	向付1								1
		30号遺構		3		3											1
		42号遺構															1
		40号遺構															1
		57号遺構		3		6	3	1	向付3	1							6
		3号溝		2		1	1	3	2								1
		5号丹戸				1	1	1									3
		ゼット70															1
ゼット205															1		
ゼット209															1		
ゼット250															1		
株57															1		
IIa	I層	ゼット77		1												1	
		ゼット165		2												2	
		ゼット188														1	
		13号遺構		1												1	
		16号遺構		1												1	
		25号遺構		1												1	
		26号遺構		1												1	
		70号遺構		1												1	
		ゼット28		1												1	
		ゼット85		1												1	
		ゼット225		1												1	
		ゼット240		1												1	
ゼット279		1												1			
IIb	I層	5号屋簷		1												1	
		4号柱列		1												1	
		1号丹戸		3		腰折1, 腰折1 平鉢1, 腰折2	11	5	2	15	1	仏化瓶2, 小壺1, 腰折2 朝飯皿1, 腰折1				18	
IIb	I層	ゼット126														1	
		ゼット224														1	

表12 陶器集計表(2)
Tab.12 Distribution of glazed ceramics at BK14 (2)

段階	出土場所		中級		小碗		碗不明		鉢		皿		土瓶		燈火具	その他	不明	合計
	丸型	その他	不明	小碗	不明	小中	その他	小中	その他	不明	不明	不明	不明	不明				
Ⅱa	3号瓶状遺構				3													6
	18号遺構				1													5
	5号溝	4	信形2	5	1													30
	9号遺構	1	腰形1	4	1													7
	2号片付	3	湖反1 天目瓶1	2	5													35
Ⅱb	6号片付	2	大鉢2															28
	ピット25	2	湖反1	2	5													17
	1号柱列	2	湖反1	2	5													17
	2号柱列	1																1
	1号池状遺構	1	折巻形1	5	13													59
Ⅱc	4号遺構	1			8													16
	13号遺構	3		3	2													14
	ピット156	1		1	2													7
	5号遺構	1	湖反1	5	26													89
	65号遺構	6	湖反1	2	1	10												37
Ⅲ	ピット49	1	平砂形1															3
	2号遺構	1			1													3
	14号遺構	2			2													5
	20号遺構	1			1													4
	21号遺構	1			1													4
	23号遺構	1			1													5
	25号遺構	3			3													3
	30号遺構	1	腰形1		12													24
	31号遺構	11	大鉢2															24
	34号遺構	34			4													1
Ⅳ	48号遺構	1			1													2
	51号遺構	3	信形1	3	9													18
	63号遺構	3	信形1	5	2													10
	66号遺構	3	信形1	3	2													16
	4号溝	2	信形1	1	5													7
	6号溝	2	信形1	1	5													7
	4号片付	2	信形1	1	5													7
	ピット136	2			2													4
	ピット152	1			2													3
	ピット246	1			2													3
Ⅴ	ピット270	2			2													2
	ピット272	1			1													1
	ピット280	1			2													5
	ピット292	1			1													2
	遺構理土	1			1													2
調査区	1層・桜瓦	1			3													11
	遺構理土	1			3													11

表13 土器・土製品集計表(1)
Tab.13 Distribution of unglazed ceramics and clay objects at BK14 (1)

段階	出土場所	土師質土器				瓦質土器				軟質施軸陶器			土人形・土製品				
		甕	徳地壺	その他	不明合計	火鉢	その他	不明	合計	種類	不明	合計	軟質施軸	土師質	合計		
1層	271			火鉢1 鉢類4 5 拵鉢2 器付2 他1	104	390		1	鉢類14 十能1 1 俵91、拵鉢1 炭甕2、炊道1 壺薬類1	14	36	1	15	33	10	人形不明5 髷と動物1 人形頭部1 甕?1 土鈴2	
2s-2層	190	1			8	199	1	鉢類2	9	12	1	1	5	3	3	土製品不明2 土鈴1	
2b層	12				2	14	1					1					
I	3号建物					1	1										
	5号柱列	1				4	5										
	8号柱列	3				4	3			1	1						
	10号柱列	4				1	5										
	2号 池状遺構	470	6		1	215	692		鉢類9 火消壺蓋1	6	16	6	1	7	6	人形不明3、多塚塔1 土製品不明1、甕1	
	4号 池状遺構	94				14	108	1			1	2					
	10号遺構	2					2	鉢類1				1					
	12号遺構	7		鉢類1		1	9	2	5他1		3		1	1	1	人形不明1	
	39号遺構	19	1			1	21									1	甕1
	42号遺構	7				1	8			1	1						
	64号遺構	2					2										
	1号溝	1					1										
	3号溝	40					2	42									銅葉1
	5号井戸	3	1			2	6		壺薬類1	1	2						
	ビット70	1					1										
	ビット102		1				1										
	ビット217						8	8									
ビット239	6					2	8										
ビット250	2					1	3										
I-a	ビット165									1	1						
II-a	ビット188	1				1	2										
I-b	15号遺構	1				1	1										
	16号遺構	2		鉢類?1		3		鉢類1		1	1	1					
	26号遺構	12				2	14										
	35号遺構	5				1	6									1	土製品不明1
	74号遺構			畿内系1		1	1										
	ビット181	3				3	3										
	ビット185	2				2	2										
	ビット202	1				1	1										
	ビット204	1				1	1										
	ビット225	1				1	1										
	ビット276	1				1	1										
	ビット277	1				1	1										
	I-c	5号建物					1	1									
4号柱列		1				4	5										
7号遺構		1				2	3										
28号遺構						1	1										
1号井戸		7		榎小破片13 蓋1、さな1	16	38		十能1	3	4	11	9	20		1	土製品不明1	
ビット100						2	2										
ビット125		1				1	1										
ビット134						3	3										
ビット145		2				2	2										
ビット146						2	2			2	2						
ビット190									1	1							
ビット224	1				1	1											
II-a	3号 池状遺構	1				1	1										
	18号遺構	8				1	9		用瀬1		1	1	1			土製品不明3 屋敷1	
	5号溝	32				10	45	2	鉢類1	1	4					4	
II-b	9号遺構	6				6	6										
	69号遺構	2				2	2										
II-b	2号井戸	11		鉢類2、榎小破片74	27	114	1			2	3					土製品不明2	
	6号井戸	77		榎小破片8	129	214	4	壺薬類1	11	16	16	2	4	4	4	玩具薬類1	
	1号柱列	27		鉢類1	6	34		鉢類1		1						土製品不明2	
II-b	2号柱列															1	土鈴1
	1号 池状遺構	35	1		1	37	2	鉢類3 炭甕1	3	9	1	3					
	4号遺構	6			1	7		鉢類1	2	3	1	1					
	13号遺構	3				3	1				1						
	ビット156	4				4		鉢類1									
II-b	5号遺構	10		さな1	6	17	2	鉢類1	3	1	6					不明1、甕1	
	50号遺構	1			2	3			3	1	6					人形不明1	

表14 土器・土製品集計表(2)
Tab.14 Distribution of unglazed ceramics and clay objects at BK14(2)

段階	出土場所	土師質土器				瓦質土器			軟質施釉陶器			土人形・土製品		合計				
		甗	埴壇	その他	不明	合計	火鉢	その他	不明	合計	種類	不明	合計		軟質施釉	土師質		
Ⅱ	65号遺構	3		葉燗1	2	6												
	ビット113	1			1												茶釜1	
	6号建物	2				2												
	2号遺構				1	1												
	14号遺構	1				1	1			1	2							
	20号遺構	11				5	16											
	21号遺構	2					2											
	25号遺構	11					11											
	30号遺構	10					3	13										器台1, 土鈴1
	31号遺構	10					37	47										恵比寿1, 相模取1
	34号遺構	1					1											
	48号遺構	4					4											
	62号遺構						1	1										
	63号遺構	53					鉢類3	1	57	1								
	66号遺構	4					榊小破片2	4	10									西足動物1, 土鈴3
	4号溝	7					5	12										
	6号溝	10					3	13										
	4号升戸	1					鉢類2	3	6									人形不明1
	ビット123	1						1										人形不明1
	ビット129	1						1										
	ビット136	2						2										
	ビット138	9						9										
	ビット152	1						播鉢1	2									
	ビット177		1						1									
	ビット197	2							2									
	ビット222	2							2									
	ビット246	1							1									
	ビット261	1							1									
	ビット270	1							1									
	ビット272	1							1									
	ビット280	4							4									
	ビット287	5							5									
	ビット291								3	3								
	ビット292	1							1									
	杭33	1							1									
	Ⅲ	1層・覆瓦	1				1	2										
2a-2層							1	1										
溝埋土		1					1											

表15 石器・石製品・その他の遺物集計表
Tab.15 Distribution of various implements at BK14

段階	出土場所	石器・石製品			その他の遺物		合計
		甗	碁石	その他	合計	その他	
1層		7	3	碁石1, 不明粘板岩1	12	硬質陶器16, ガラス(粒)1, 瓶1, 不明2, 板1, 土器2, 磨盤パイプ1	24
2a-2層				碁石2, チップ1	3		
2b層		1			1		
Ⅰ	2号池状遺構	3	4	火打石12, 石芥1, 石鏃1, 碁石2, 粘鉢半1	24	磨甲裝飾部品1, ボタン1, ガラス不明2	4
	4号池状遺構		2		2		
	19号遺構					レンガ1	1
	12号遺構			火打石1	1		
	29号遺構			火打石1	1		
	42号遺構			火打石1	1		
	3号溝			温石?1, 碁石1	2		
5号升戸			不明粘板岩1	1			
Ⅰ-	16号遺構					レンガ1	1
Ⅱb	26号遺構			硯石2	2	鉄洋1	1
Ⅰ-Ⅲ	1号升戸			火打石3, チップ1	4	レンガ1, 不明1, ガラス不明1	3
Ⅱa	18号遺構			碁石1	1		
	5号溝	3	1		4		
Ⅱa-	9号遺構			石?1	1		
	2号升戸			火打石3, 不明粘板岩1	4	磨糸状繊維1	1
Ⅱb	6号升戸	1	1	火打石14, 不明粘板岩1, 剥片1, 碁石2, 不明石葉1	21	ボタン1, 樹殻状不明1, 種子加工品1, 不明1, 金箔1, タイル?1, 不明土器1, ガラス不明1, 磨甲留道具?1	9
Ⅱb	1号池状遺構	2			2		
	4号遺構			火打石1	1		
Ⅱb-	5号遺構			不明粘板岩1	1	レンガ1, ガラス不明1	2
	50号遺構		1	碁石1	1		
Ⅲ	20号遺構	1			1		
	66号遺構			火打石1	1		
	4号升戸			不明粘板岩1	1		
	ビット280	1		火打石1	1		

表16 瓦(種類別)集計表(1)
Tab.16 Distribution of roof tiles at BK14 (1)

段階	出土場所	平瓦1類	平瓦2類	丸瓦	丸瓦類	軒丸瓦	軒丸瓦類	軒平瓦	軒棧瓦	棧瓦	板瓦	棟瓦	その他	不明	合計
1層	個数	4	1	2	3				4	2			古代瓦1	8	25
	重量g	1245	110	260	370				2549	2510			190	70	7304
2a-2層	個数	15		6	6										93
	重量g	2460		716	503										1143
2b層	個数	2		1											4
	重量g	142		61											208
I	3号建物	個数	1												1
	重量g	340													340
	10号柱列	個数			1	1									1
	重量g			30	50										81
	2号池状遺構	個数	12	1	3	14	1	1	1	1					61
	重量g	880	50	210	560	190	220	300	50						484
	4号池状遺構	個数	2		4	2								古代瓦1	8
	重量g	460		3310	25								350	77	4222
	10号遺構	個数			1										1
	重量g				100										100
	39号遺構	個数			2										3
	重量g				120										135
	42号遺構	個数													1
	重量g														10
	1号溝	個数													1
重量g														70	
3号溝	個数	3		2	10						3		なまこ瓦1	18	
重量g	710		105	1180							400		530	697	
5号井戸	個数				1									1	
重量g					270									275	
ビット217	個数			1										1	
重量g				300										300	
I-a	ビット162	個数	2												4
	重量g	400													415
I-b	16号遺構	個数	4		1	3							軒平瓦類1	2	
	重量g	800			50	190							220	140	
	26号遺構	個数		1		1									
	重量g		110		160										
	7号溝	個数			1										
	重量g			10											
	ビット143	個数													
重量g															
ビット279	個数														
重量g															
ビット281	個数	1													
重量g	40														
I-III	7号遺構	個数	2												
	重量g	470													
	1号井戸	個数	2	8	1	1					4	3	新付瓦1 板瓦1	26	
重量g	730	1560	230	10						1770	2690	3630	2220		
ビット104	個数														
重量g															
II-a	3号池状遺構	個数													
	重量g														
	18号遺構	個数			1										
	重量g			60											
5号溝	個数	17		2	10		1		1						
重量g	2450		1390	950		90			160						
II-a II-b	9号遺構	個数													
	重量g														
	2号井戸	個数					1								
	重量g						10								
6号井戸	個数	3		2	5							古代瓦1	59		
重量g	210		410	380								170	613		

表17 瓦(種類別)集計表(2)
Tab.17 Distribution of roof tiles at BK14 (2)

段階	出土場所	平瓦1型	平瓦2型	丸瓦	丸瓦型	軒丸瓦	軒丸瓦型	軒平瓦	軒棧瓦	棧瓦	板解瓦	種瓦	その他	不明	合計	
II a- II b	ビット226	個数													1	
		重量g														20
II b	1号柱列	個数	1	2		3		1						板状瓦1	12	20
		重量g	150	280		120		100						450	70	1293
	2号柱列	個数	1	1											1	3
		重量g	30	70											10	110
	1号池状遺構	個数	10	1		6		1				2		製斗瓦2	7	29
		重量g	1830	150		290		5				310		120	431	3136
	4号遺構	個数	1	1		2									4	8
		重量g	50	100		220									170	540
	13号遺構	個数													1	1
		重量g													10	10
ビット156	個数	1												4	5	
	重量g	260												40	300	
ビット161	個数	1												3	4	
	重量g	50												110	160	
II b III	5号遺構	個数				1									4	5
		重量g				10									100	110
65号遺構	個数			1	1									2	4	
	重量g			100	190									55	345	
III	9号柱列	個数													1	1
		重量g													50	50
	2号遺構	個数	9	1		1									15	26
		重量g	4370	210		50									435	5063
	14号遺構	個数													1	1
		重量g													10	10
	20号遺構	個数	5			2					1				2	10
		重量g	1990			10					750				15	2765
	25号遺構	個数				1									3	4
		重量g				50									50	100
	30号遺構	個数							1			1			3	5
		重量g							60			200			180	440
	31号遺構	個数	1		1	1									2	5
		重量g	40		220	10									23	293
	48号遺構	個数	1								1				2	4
		重量g	30								60				125	215
	63号遺構	個数													1	1
		重量g													20	20
	66号遺構	個数	1									2			2	5
		重量g	660									1030			310	2000
4号溝	個数				3										3	
	重量g				280										280	
6号溝	個数													3	3	
	重量g													50	50	
4号井戸	個数	1		1	5									3	10	
	重量g	260		230	1340									100	1930	
ビット152	個数				1									1	2	
	重量g				70									10	80	
ビット230	個数														1	
	重量g				100										100	
ビット261	個数				23										23	
	重量g				160										160	
ビット270	個数													1	1	
	重量g													50	50	
ビット291	個数													3	3	
	重量g													10	10	
関連2区 1層・擾乱	個数													1	1	
	重量g													10	10	
関連2区 遺構埋土	個数				1									1	2	
	重量g				60									60	120	
関連4区 遺構埋土1層	個数				2										2	
	重量g				100										100	

表19 金属製品集計表
Tab.19 Distribution of metal implements at BK14

段階	出土場所	銅製品					鉄製品				その他 金属製品		
		古銭	標管	その他	不明	合計	釘		その他	不明		合計	
			雁首				吸口	組					洋
1層	寛永通寶 (古3、文1、不明1)	3		兼美2、小板状1、ボタン1 円板状1、板状1 1セントコイン1、鉄状1 銅圓1、火箸1		1	19	10	10	ナット・ボルト1		15	銃弾(鉛)1
2a-2層	新寛永1、渡来銭1	1		小筒状1		1	5	24	24	輪状1		25	銃弾(鉛)1
2b層								1	1			1	
I	10号柱列							1	1			1	
	2号 池状遺構	寛永通寶1 不明1		吸口1 不明1		平棒状1	2	7	108	108	刃物? 2、刃物2 簧1、小片41、小柄1 火箸? 1、匙口1	9	166
	4号 池状遺構	寛永通寶1	1	2		小筒状1、銅圓1 小棒状1	2	9	19	19	帯状金具1、鉄浮1 火箸? 1	1	23
	3号溝	不明1		不明1			2	1	1				1
	ビット70	古寛永1					1						
I IIb	16号遺構	不明1					1						
	26号遺構							1	1				1
	35号遺構							1	1				1
	ビット81							1	1				1
I-III	5号建物	古寛永2					2				鏝? 1		1
	1号井戸	新寛永1				針金1	2	2	2		鏝1		3
IIa	3号 池状遺構		1			板状2、火箸1	4				火箸か1		1
	5号溝			不明1		小筒状1	2	2	2			1	3
	9号遺構							1	1	鉄浮1			2
IIa IIb	2号井戸	寛永通寶 (新1、文1、不明1)		2			5	18	18			2	20
	6号井戸		1	1		小板状1、瓶1	4	231	231	刀子1、筒1、刃物1 鏝? 1、鉄浮2			237
IIb	1号柱列							3	3				3
	1号 池状遺構	古寛永2				楕円状1	3	2	2				2
	4号遺構												1
IIb-III	5号遺構							7	7			1	8
	65号遺構					御り金具1	1	1	1	鏝1			2
III	6号建物											1	1
	20号遺構							4	4	小柄1			5
	25号遺構	渡来銭1					1						
	30号遺構					小帯状1	1			刃物? 1			1
	31号遺構					火箸? 1	1	5	5				5
	48号遺構		1				1	1	1				1
	63号遺構							1	1				1
	66号遺構										仙童通寶1	1	2
	71号遺構	渡来銭1 (水菜口賣)					1	2					
	6号溝							1	1				1
	ビット20							1	1				1
不明	ビット20							1	1				1

表21 磁器観察表(2)
Tab.21 Notes on porcelains at BK14 (2)

登録番号	産地	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様	胎土	生産地	製作年代	備考	図
C138	I	3号溝埋土2層	紅皿	6.0	2.7	2.3	唐文	普通	肥前	18・19世紀		18
C139	I	3号溝埋土3層	紅皿	-	-	-	丸に花・纏菊・松・扇形散らし文	普通	肥前	17世紀末-18世紀		21
C140	I	3号溝埋土2層	中筒瓦瓶	-	4.0	-	花唐草文高台内(高)口内(高)	普通	肥前	18世紀前半		21
C141	I	3号溝埋土2層	中筒瓦瓶	-	5.2	-	文様あり	普通	肥前	17・18世紀		21
C142	I	3号溝埋土3層	中筒不明	-	4.3	-	文様あり	黄	中国	17世紀前半-中葉	高台内無軸生掛け	18
C143	I	5号井戸埋土3層(覆方)	小皿	-	-	-	色絵印柄手(赤・緑)	不全埋	中国	17世紀前半	明末清初(漳州窯系)	-
C144	I	5号井戸埋土4層(覆方)	小皿	-	-	-	口縁内圓縁	普通	肥前	17世紀代々	見立絵ノ目輪減瓦貫入 体底下半無軸流在見か	23
C145	I	5号井戸埋土	中筒不明	-	4.2	3.6	文様あり	不全埋	肥前	17世紀末-18世紀初頭		23
C146	I	5号井戸埋土	中筒不明	-	4.8	-	文様あり	黄	肥前	17世紀末-18世紀前半		23
C147	I	ピット200埋土層	小中皿	-	-	-	口紅・梅花	普通	肥前	17世紀代	漆繪あり	25
C148	I	ピット268埋土層	小中皿	-	-	-	文様あり	普通	中国	17世紀前半	明末清初(漳州窯系)底部分有羞 おぼしき状に加工した可能性あり	26
C149	I	坑57	小中皿	-	-	-	文様あり	黄	中国	17世紀前半		26
C150	I-E	ピット15埋土	碗	-	-	-	唐文	普通	肥前	17世紀末-18世紀初頭		27
C151	I-E	ピット188埋土層	中筒瓦瓶	-	-	-	色絵印柄手(緑)	不全埋	中国	17世紀前半		27
C152	I-E	ピット188埋土層	碗	-	-	-	梅花文	黄	肥前	17・18世紀		27
C153	I-E	15号溝埋土	中鉢	-	-	-	白磁	普通	中国	17世紀後半-18世紀		28
C154	I-E	16号溝埋土2層	小中皿	-	5.1	-	口紅あり見立草花文	普通	中国	17世紀前半	漆繪あり菊花鉢	28
C155	I-E	16号溝埋土4・5層	小中皿	-	-	-	青花・輪流紅文様あり	普通	中国	17世紀前半	明末清初	29
C156	I-E	16号溝埋土1層	小中皿	-	-	-	文様あり	普通	肥前	17世紀前半		29
C157	I-E	ピット35号溝埋土層	小中皿	-	6.2	-	見立草花文	普通	肥前	17世紀代々		29
C158	I-E	ピット350埋土	小皿	-	-	-	梅花文	普通	中国	17世紀中葉-後葉		31
C159	I-E	1号井戸埋土1層	蓋	10.5	4.4	2.5	外側唐草文・口縁部唐草文・見立赤文	普通	肥前	17世紀前半		32
C160	I-E	1号井戸埋土1層	中筒瓦瓶	10.5	4.7	-	見立草花文・高台内圓縁	普通	不明	19世紀前半-中葉	非常に薄手	32
C161	I-E	1号井戸埋土2層	口筒	7.0	4.3	6.2	交文草文	普通	不明	19世紀後半-中葉	ほぼ完成	35
C162	I-E	1号井戸埋土2層	御神酒徳利	1.5	4.4	16.8	唐草文松竹梅文	普通	肥前	19世紀前半	漆繪あり	35
C163	I-E	1号井戸埋土2層	御神酒徳利	1.5	4.4	16.8	唐草文松竹梅文	普通	肥前	19世紀前半	ほぼ完成	35
C164	I-E	1号井戸埋土2層	中筒瓦瓶	9.1	4.0	4.9	松笠祝手文	普通	肥前	18世紀後半-19世紀初頭	ほぼ完成	35
C165	I-E	1号井戸埋土2層	中筒瓦瓶	11.5	5.6	6.1	海濱風景文・見立草文様あり不明	普通	肥前	19世紀前半	C168と類似	35
C166	I-E	1号井戸埋土2層	中筒瓦瓶	9.5	-	-	唐草文	普通	不明	18世紀中葉-後葉	類似する別個体1点あり	28
C167	I-E	1号井戸埋土2層	中筒瓦瓶	9.5	-	-	唐草文	普通	不明	18世紀後半以降	切込か	28
C168	I-E	1号井戸埋土2層	御神酒徳利	1.5	4.8	16.4	唐草文松竹梅文	普通	肥前	18世紀後半以降	C163と類似	-
C169	I-E	1号井戸埋土2層	小筒瓦瓶	-	-	-	色絵(赤・緑・金)・唐草文宝文	普通	肥前	18・19世紀		35
C170	I-E	1号井戸埋土3層	中筒瓦瓶	8.4	3.4	4.1	松笠祝手文・見立草花文	黄	肥前	19世紀前半	類似する別個体2点あり	28
C171	I-E	1号井戸埋土3層	中筒瓦瓶	9.9	-	2.6	輪流唐草文・角形散らし文	黄	肥前	19世紀前半	つまみ径3.7cm	28
C172	I-E	1号井戸埋土3層	中筒瓦瓶	11.3	6.4	6.3	立通唐草文・角形散らし文	黄	肥前	18世紀末-19世紀前半	類似する別個体1点あり	28
C173	I-E	1号井戸埋土3層	中筒瓦瓶	7.2	3.4	5.8	赤唐草文	黄	肥前	19世紀前半		28
C174	I-E	1号井戸埋土3層	中筒瓦瓶	-	4.7	5.7	赤唐草文・唐草文松竹梅文	黄	肥前	19世紀前半	漆繪あり	-
C175	I-E	1号井戸埋土3層	中筒瓦瓶	15.0	-	-	唐草文・口縁内四方柳文	黄	肥前	18世紀後半-19世紀初頭	漆繪あり	35
C176	II-E	3号溝埋土4層(覆方)	小中皿	-	4.9	-	唐草文・口縁内四方柳文	普通	肥前	17世紀前半	新産	-
C177	II-E	18号溝埋土2層	中筒瓦瓶	10.8	4.4	6.4	唐草文	普通	肥前	18世紀代	くらねふか手・軸口蓋	37

表22 磁器類発表表(3)
Tab.22 Notes on porcelains at BK14 (3)

登録番号	図号	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様	胎土	生産地	製作年代	備考	図取
C778	Ⅱa-59	溝渚11a層	蓋物	9.2	-	-	菊花文(コンニャク型)	普通	肥前	18世紀代		42
C779	Ⅱa-59	溝渚11a層	小中皿	-	4.9	-	見込長竹梅文	普通	肥前	18世紀代		42
C780	Ⅱa-59	溝渚12層	中碗	-	-	-	山本文か	普通	肥前	18世紀代		42
C781	Ⅱa-59	溝渚11層	中碗丸盤	8.8	-	-	相模文	普通	肥前	18世紀代		42
C782	Ⅱa-59	溝渚12層	瓶口	-	-	-	包絵文	密	肥前	18世紀前半		43
C783	Ⅱa-59	溝渚12層	中碗丸盤	10.0	4.2	6.2	包絵文見込梅文	密	肥前	17世紀前半	生掛け	40
C784	Ⅱa-59	溝渚12層	鉢	-	-	-	包絵文見込梅文	密	肥前	17世紀前半	生掛け	43
C785	Ⅱa-59	溝渚12層	鉢	-	-	-	包絵文見込梅文	密	肥前	17世紀前半	生掛け	43
C786	Ⅱa-59	溝渚12層	鉢	-	-	-	包絵文見込梅文	密	肥前	17世紀前半	生掛け	43
C787	Ⅱa-59	溝渚12層	中碗丸盤	-	-	-	相模文	普通	肥前	17-18世紀		44
C788	Ⅱa-59	溝渚12層	中碗丸盤	-	-	-	相模文	普通	肥前	18世紀代		44
C789	Ⅱa-59	溝渚12層	中碗丸盤	-	-	-	五葉若葉文	普通	肥前	18世紀前半		44
C790	Ⅱa-59	溝渚12層	中碗丸盤	10.9	-	-	刺繍文	普通	肥前	18世紀前半		44
C791	Ⅱa-59	溝渚12層	中碗丸盤	8.8	-	-	草文	普通	肥前	18世紀代		45
C792	Ⅱa-59	溝渚12層	中碗丸盤	9.4	-	-	菊花唐花文	密	肥前	18世紀前半		45
C793	Ⅱa-59	溝渚12層	小中皿	-	-	-	文様あり	密	中国	17世紀前半	明末清初 景徳鎮系 生掛けあり	42
C794	Ⅱa-59	溝渚11層	小中皿	19.3	7.6	3.7	輪文 桜文	普通	肥前	17-18世紀	生掛け	45
C795	Ⅱa-59	溝渚11層	中碗丸盤	-	4.6	-	山本文 意内内線あり	密	肥前	17世紀後半-18世紀代	生掛け 生掛け	45
C796	Ⅱa-59	溝渚11層	紅瓶口	5.6	-	-	包絵(赤・金) 桜花唐らし文	密	肥前	18世紀前半		42
C797	Ⅱb-19	柱列B5	小中皿	-	8.2	-	見込五右衛門文(手面)	普通	肥前	18世紀後半	くろわんかん手裏見	49
C798	Ⅱb-19	柱列B3	大皿	-	-	-	包絵印柄文(赤・緑)	密	中国	17世紀前半	肥ノ目形高台	51
C799	Ⅱb-19	柱列B5	中碗丸盤	8.4	-	-	包絵印柄文(赤・緑)	密	中国	17世紀前半	肥ノ目形高台	51
C799	Ⅱb-19	柱列B5	中碗丸盤	8.4	-	-	包絵印柄文(赤・緑)	密	中国	17世紀前半	肥ノ目形高台	51
C100	Ⅱb-19	池状遺構埋土1層	中碗丸盤	-	3.3	-	右に刺繍文(口縁内四方唐文)	普通	肥前	18世紀後半-19世紀初頭	肥ノ目形高台	51
C101	Ⅱb-19	池状遺構埋土1層	中碗丸盤	-	-	-	兼手文 見込唐文	普通	肥前	19世紀中葉-後葉	C795と同形の碗	52
C102	Ⅱb-19	池状遺構埋土1層	蓋物	-	-	-	口縁内相輪 口縁外面相輪	密	中国か	17世紀前半	明末清初 生掛けあり	52
C103	Ⅱb-19	池状遺構埋土1層	蓋物	-	-	-	白磁	密	肥前	明治以降	陸奥食器か	52
C104	Ⅱb-19	池状遺構埋土1層	中碗丸盤	-	5.0	-	竹文か	密	肥前	19世紀後半		52
C105	Ⅱb-19	池状遺構埋土2層	小中皿	-	5.0	-	無花果葉文	密	肥前	19世紀後半	生掛け	52
C106	Ⅱb-19	池状遺構埋土2層	小中皿	6.7	-	-	何唐文	密	肥前	19世紀前半-中葉		50
C107	Ⅱb-19	池状遺構埋土2層	大皿	12.2	-	-	包絵印柄文(赤・緑)	密	中国	18世紀末-19世紀前半	明末清初 景徳鎮系高台高台に修仕番	50
C107	Ⅱb-19	池状遺構埋土1層	中碗丸盤	10.2	3.5	5.6	調羹文 見込唐文	密	中国	18世紀末-19世紀前半		51
C108	Ⅱb-19	池状遺構埋土2層	蓋物	6.4	-	-	松竹梅文 唐文	普通	肥前	18世紀後半-19世紀		53
C109	Ⅱb-19	池状遺構埋土3層	中碗丸盤	11.5	-	-	兼手唐文 蓮文 雪輪	密	肥前	18世紀後半-19世紀	生掛け	53
C110	Ⅱb-19	池状遺構埋土5層	小中皿	-	-	-	如意文 文 口紅	普通	肥前	18世紀代後半	油塗か	52
C111	Ⅱb-19	池状遺構埋土1層	瓶口	-	-	-	文様あり	普通	肥前	18世紀代後半		54
C112	Ⅱb-19	池状遺構埋土1層	小碗(不明)	-	3.0	-	文様あり 見込品二重相輪	普通	肥前	17世紀後半-18世紀		55
C113	Ⅱb-19	池状遺構埋土1層	小碗(不明)	-	4.2	-	草文	密	肥前	18世紀代後半		55
C114	Ⅱb-19	池状遺構埋土1層	小碗(不明)	-	4.5	-	草文 意内内線あり	密	肥前	19世紀前半以降	生掛けに強化コバルト手書き文様	55
C115	Ⅱb-19	池状遺構埋土1層	小碗(不明)	-	4.5	-	草文 意内内線あり	密	肥前	19世紀前半以降	生掛けに強化コバルト手書き文様	55
C116	Ⅱb-19	池状遺構埋土1層	瓶口	-	-	-	文様あり 石明 意内内線あり	密	肥前	18世紀代後半	ハリ支え	55

表23 磁器製器表 (4)
Tab.23 Notes on porcelains at BK14 (4)

登録番号	図号	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様	胎土	生産地	製作年代	備考	図号
CJ117	Ⅱ-3	50号道徳理土層	瓶口	-	-	-	文様あり	普通	肥前	18・19世紀		-
CJ118	Ⅱ-3	50号道徳理土層	小瓶	-	-	-	竹文か	普通	肥前	18・19世紀		-
CJ119	Ⅱ-3	50号道徳理土層	小瓶	1.9	2.5	6.6	文文か	普通	肥前	19世紀	ははて彩形	-
CJ120	Ⅱ-3	65号道徳理土層	瓶口	8.0	-	-	松竹文口縁内四方飾文	普通	肥前	18世紀後半-19世紀初頭		53
CJ121	Ⅱ-3	65号道徳理土層	中瓶丸腹	10.2	4.0	5.2	期文内面飾文見込草文	普通	肥前	18世紀後半-19世紀初頭	瓶口目四角高台	53
CJ122	Ⅱ-3	65号道徳理土層	中瓶丸腹	-	3.6	-	山本文見込文様あり	密	肥前	18世紀末-19世紀初頭		-
CJ123	Ⅱ-3	65号道徳理土層	小中瓶	-	7.7	-	花唐草文見込五弁花文(手掻)	普通	肥前	18世紀代	漆継あり	53
CJ124	Ⅱ-3	65号道徳理土層	中瓶小皿	-	3.6	-	写輪文見込五弁花文(手掻)	密	肥前	18世紀後半-19世紀初頭		-
CJ125	Ⅱ-3	65号道徳理土層	中瓶小皿	-	3.8	-	文様あり高台内文様あり	普通	肥前	18世紀代	くらわんか手 漆継あり	-
CJ126	Ⅱ-3	65号道徳理土層	本酒か	-	-	-	写輪草文	普通	不明	不明	漆継あり	-
CJ127	Ⅱ-3	6号器物15	中瓶丸腹	-	-	-	文様あり	密	中国	17世紀前半	明末清初	-
CJ128	Ⅱ-3	14号道徳理土層	火入・香炉	-	-	-	花唐草文 外面唐草文口紅	密	肥前	17世紀前半		-
CJ129	Ⅱ-3	14号道徳理土層	中瓶丸腹	5.3	-	-	文様あり	租	肥前	17世紀末-18世紀前半		58
CJ130	Ⅱ-3	14号道徳理土層	中瓶丸腹	10.1	4.3	-	水雲に雲松花唐草文高台内滿「福」紋	密	肥前	18世紀後半-18世紀初頭	陶胎灰付 灰見見か	55
CJ131	Ⅱ-3	14号道徳理土層	中瓶丸腹	-	3.6	-	網目区画彩色文見込文様あり	普通	肥前	18世紀前半		-
CJ132	Ⅱ-3	14号道徳理土層	小中瓶	-	-	-	内面文様あり	密	肥前	19世紀中葉-後葉		-
CJ133	Ⅱ-3	14号道徳理土層	薬物身	12.8	-	-	雲松松枝文	普通	肥前	18世紀代	漆継あり	-
CJ134	Ⅱ-3	20号道徳理土層	小中瓶	-	-	-	唐草文	普通	肥前	18世紀代		-
CJ135	Ⅱ-3	20号道徳理土層	小中瓶	-	-	-	半菊花文	普通	肥前	18世紀代		-
CJ136	Ⅱ-3	20号道徳理土層	火入・香炉	-	7.1	-		租	肥前	18世紀前半	陶胎灰付 総の目四角高台 写入 灰見見か	56
CJ137	Ⅱ-3	20号道徳理土層	小中瓶	-	6.0	-	唐草文か	密	肥前	近代		-
CJ138	Ⅱ-3	20号道徳理土層	小中瓶	-	-	-	内面四角	密	肥前	近代	外須に酸化コバルト・手掻き 乳須に酸化コバルト・四角	-
CJ139	Ⅱ-3	25号道徳理土層	小中瓶	-	-	-	網目文か	普通	肥前	17世紀前半		-
CJ140	Ⅱ-3	30号道徳理土層	中瓶丸腹	-	-	-	網目文	普通	肥前	17世紀前半-後葉	生跡け	60
CJ141	Ⅱ-3	30号道徳理土層	中瓶丸腹	10.0	-	-	立蓮草文	普通	肥前	18世紀末-19世紀前半		-
CJ142	Ⅱ-3	30号道徳理土層	中瓶丸腹	-	-	-	扇風風雲文	密	肥前	18世紀後半		58
CJ143	Ⅱ-3	30号道徳理土層	中瓶丸腹	-	-	-	満多曼文	普通	肥前	18世紀後半-19世紀初頭	漆継あり	62
CJ144	Ⅱ-3	30号道徳理土層	小中瓶	-	2.6	-	高台内「大明成」単葉「福」紋	普通	中国	17世紀前半	CJ107と同じ手 明末清初	62
CJ145	Ⅱ-3	30号道徳理土層	瓶口	-	-	-	口縁内四方飾文 外面文様あり	密	肥前	18世紀後半		-
CJ146	Ⅱ-3	30号道徳理土層	中瓶丸腹	-	-	-	見込五弁花文 高台内文様あり	密	肥前	18世紀代		-
CJ147	Ⅱ-3	31号道徳理土層	中瓶丸腹	-	5.6	-	唐草文か見込雲掛短文	密	肥前	18世紀末-19世紀初頭	高台内内面網目(串)あり	-
CJ148	Ⅱ-3	31号道徳理土層	中瓶丸腹	-	-	-	唐草文か見込雲掛短文	密	肥前	18世紀末-19世紀初頭		-
CJ149	Ⅱ-3	31号道徳理土層	瓶	-	-	-	網目文	密	肥前	近代	漆継あり	-
CJ150	Ⅱ-3	31号道徳理土層	中瓶丸腹	10.2	4.2	5.0	文様あり	密	肥前	18世紀末-19世紀初頭		63
CJ151	Ⅱ-3	31号道徳理土層	中瓶丸腹	-	6.4	-	花唐草文 外面唐草文 高台内滿「福」紋	密	肥前	18世紀末-18世紀初頭	CJ128と同じ手 高台内ハリ支え!	59
CJ152	Ⅱ-3	48号道徳理土層	中瓶丸腹	11.0	-	-	草文文	密	肥前	19世紀前半		-
CJ153	Ⅱ-3	63号道徳理土層	小中瓶	-	-	-	文様あり	普通	肥前	17世紀前半		-
CJ154	Ⅱ-3	66号道徳理土層	中瓶丸腹	10.0	5.1	4.1	区画扇風風雲文見込文様あり	普通	肥前	18世紀末-19世紀初頭	漆継あり	-
CJ155	Ⅱ-3	66号道徳理土層	中瓶丸腹	-	-	-		普通	肥前	18世紀末-19世紀初頭	漆継あり	61

表24 磁器類発表 (5)
Tab.24 Notes on porcelains at BK14 (5)

登録番号	図案	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様	胎土	生産地	製作年代	備考	図
CJ155	III	66分遺埋理土	中筒瓦甕	10.3	3.5	5.4	丸に横文字「区(瀬川)日付文」	普通	肥前	18世紀後半-19世紀前半	-	66
CJ156	III	66分遺埋理土	小中皿	13.3	-	3.6	一橋目文	普通	肥前	18世紀後半-19世紀前半	くらわんか手 流石見	66
CJ157	III	66分遺埋理土	小中皿	-	6.4	-	見立草文に花文 外面唐草文 高台内「製」跡	普通	肥前	18世紀後半-19世紀前半	流石見あり	66
CJ158	III	66分遺埋理土	中筒瓦甕	9.2	-	-	文様あり	普通	肥前	18世紀後半-19世紀前半	流石見あり	66
CJ159	III	66分遺埋理土	小中皿	-	-	-	文様あり	普通	肥前	18世紀後半-19世紀前半	流石見あり	66
CJ160	III	4号遺埋理土	中筒不明	-	-	-	本流き 蓮子格子に花文	普通	肥前	18世紀末-19世紀前半	CJ162と同じ手	68
CJ161	III	6号遺埋理土	小中皿	8.8	6.0	2.0	見立草文に山水文	普通	肥前	18世紀前半-19世紀前半	輪花直江CJ183に類似	68
CJ162	III	6号遺埋理土	小中皿	10.5	-	-	本流き 蓮子格子に花文	普通	肥前	18世紀前半-19世紀前半	流石見あり	68
CJ163	III	4号井戸遺土	中皿	-	-	-	内面文様あり 外面花文か	普通	肥前	17-18世紀	流石見あり	69
CJ164	III	4号井戸遺土	花入	-	-	-	草文	普通	肥前	天明17世紀(代)	流石見あり	69
CJ165	III	ベース2023層	中皿	-	-	-	草文	普通	肥前	17-18世紀	流石見あり	71
CJ166	III	基本層2a-2層	小中皿	-	14.3	-	草文文 高台内「出に備」跡か	普通	肥前	18世紀代	66, 73	66
CJ167	III	基本層2a-2層	小中皿	-	13.6	-	扇面唐草松葉文	普通	肥前	18世紀代	66, 73	66
CJ168	III	基本層2a-2層	人物(壺)	-	-	-	白磁 掬押成形	普通	肥前	不明	耳、口、体部下半欠損 風船跡り付	66, 73
CJ169	III	基本層2a-2層	小瓮	-	2.9	-	唐草文	普通	肥前	17世紀	66, 73	66
CJ170	III	基本層2a-2層	小坏	-	4.0	-	横置唐人文 高台内「大明成化年製」跡	普通	中国	17世紀前半	明末清初CJ171と同じ手	66, 73
CJ171	III	基本層2a-2層	小坏	-	4.2	-	横置唐人文 高台内「大明成化年製」跡	普通	中国	17世紀前半	明末清初CJ170と同じ手	66, 73
CJ172	III	基本層2a-2層	小坏	-	-	-	横置山水文	普通	中国	17世紀前半	明末清初	73
CJ173	III	基本層2a-2層	器物(壺)	-	-	-	色絵(赤・緑・茶) 掬押筒形	普通	肥前	17世紀後半	林右衛門様式 体部下半の一説の可能性九州陶磁文化館1999「梅台龍門一そ」の様式の食形 1596に類似	73
CJ174	III	基本層2a-2層	中筒天目鉢	-	-	-	緑	普通	肥前	17世紀初-前半	流石見あり	73
CJ175	III	基本層1層	中筒瓦甕	10.5	3.9	4.9	漢風風雲文 見立草文	やぐり	肥前	19世紀前半-中葉	流石見あり	68, 75
CJ176	III	基本層1層	中筒瓦甕	10.1	3.8	5.1	東隣脚し唐字文 見立草文 流石見あり	普通	肥前	19世紀前半-中葉	流石見あり	68, 75
CJ177	III	基本層1層	蓋	6.9	-	3.5	草花文 細面唐草文	普通	肥前	17世紀後半-18世紀	流石見あり	68, 75
CJ178	III	基本層1層	蓋	9.8	-	2.4	桐散文(コンニャク柄)	普通	肥前	18世紀代	最大径7.8cm つまみみ10.0cm	68, 75
CJ179	III	基本層1層	中筒瓦甕	11.3	4.4	6.2	平筒松竹梅文	やぐり	肥前	18世紀代	くらわんか手 流石見	68, 75
CJ180	III	基本層1層	中筒瓦甕	9.5	-	2.6	扇面唐草文 高台内「大徳年間」跡	普通	肥前	18世紀代	買入 つまみみ径3.8cm	68, 75
CJ181	III	基本層1層	中筒瓦甕	10.5	-	-	松葉紅雲散らし文	普通	肥前	19世紀前半	買入 つまみみ径3.8cm	68, 75
CJ182	III	基本層1層	小瓮	-	2.3	-	文様あり	普通	肥前	19世紀前半	生跡け?	68, 75
CJ183	III	基本層1層	小中鉢	15.5	8.2	6.0	白磁 掬打扇柄枝文口耳	普通	肥前	18世紀後半	肥ノ目四角高台	68, 75
CJ184	III	基本層1層	香印	10.6	7.2	7.7	草磁	普通	肥前	18世紀代	肥ノ目四角高台	68, 75
CJ185	III	基本層1層	小中皿	9.0	6.1	2.0	見立草文に山水文	普通	肥前	19世紀前半-中葉	輪花直江CJ161に類似	75
CJ186	III	基本層1層	風皿	1.8	-	-	朝唐草文	普通	肥前	18世紀代	輪花直江CJ161に類似	75
CJ187	III	基本層1層	大筒瓦甕	-	6.2	7.7	扇草文 見立草文(コンニャク柄) 高台内漢「扇」跡	普通	肥前	18世紀後半	くらわんか手 流石見	75
CJ188	III	基本層1層	小中皿	-	6.2	-	見立草文	普通	中国	17世紀前半	明末清初 高台内放射状のケズリ 高台内無流石見あり	75
CJ189	III	基本層1層	中筒瓦甕	10.2	-	5.3	草花文 高台内文様あり	普通	肥前	18世紀代	流石見あり くらわんか手	75
CJ190	III	基本層1層	鉢	-	-	-	色絵(赤・緑) 染有草花文 外面唐字? (赤)	普通	肥前	18世紀後半	流石見あり	75

表25 陶器観察表(1)
Tab.25 Notes on glazed ceramics at BK14 (1)

登録番号	政源	出土場所	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	文様	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図
C71	I	3号墓附柱6	磁鉢	-	-	-	無釉	青	丹波	17世紀代	無釉磁鉢	-
C72	I	5号柱列物1	中碗	12.6	-	灰釉 (淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	粗	瀬戸・美濃	17世紀代	無釉磁鉢 買入	-
C73	I	8号柱列物2	小中皿	-	-	白化粧土 透影	長石釉	粗	美濃	16世紀末-17世紀初頭	上野買入	-
C74	I	10号柱列物1	大鉢	94	-	白化粧土 透影	透明釉	やや粗	京・信濃系	16世紀末-17世紀初頭	買入 買入	-
C75	I	10号柱列物2	大鉢	-	-	白化粧土 透影	透明釉	普通	肥前	17世紀代末	買入 買入	-
C76	I	2号墓状遺構埋土1層	中碗	100	5.0	上部・内面灰釉 (淡黄灰白色)	無釉 (暗褐色)	普通	瀬戸・美濃	17世紀末-18世紀初葉	灰釉買入 磨研陶	4
C77	I	2号墓状遺構埋土1層	中碗香彩形	52	7.0	上部・内面灰釉 (淡黄灰白色)	透明釉 (一部白濁)	粗	丹波	17世紀代末-18世紀初葉	買入	4
C78	I	2号墓状遺構埋土1層	磁鉢	-	-	灰釉 (淡黄灰白色)	無釉 (暗褐色)	粗	丹波	17世紀代末-18世紀初葉	無釉磁鉢 項目6表一組	4
C79	I	2号墓状遺構埋土1層	香彩小	66	-	灰釉 (淡黄灰白色)	無釉 (暗褐色)	粗	丹波	17世紀代末-18世紀初葉	灰釉 (淡黄灰白色)	4
C710	I	2号墓状遺構埋土1層	香彩小	36	-	灰釉 (淡黄灰白色)	無釉 (暗褐色)	普通	小野相馬	17世紀代末-18世紀初葉	灰釉 (淡黄灰白色)	4
C711	I	2号墓状遺構埋土1層	磁鉢	37.0	-	無釉	無釉	やや粗	不明	18世紀	無釉磁鉢	-
C712	I	2号墓状遺構埋土1層	磁鉢	-	-	灰釉 (青灰色)	無釉	普通	不明	18世紀	無釉磁鉢	-
C713	I	2号墓状遺構埋土2層	中碗丸碗	109	4.0	白化粧土 透影	灰釉 (淡黄灰白色)	普通	肥前	17世紀代末-18世紀初葉	無釉	4
C714	I	2号墓状遺構埋土2層	中碗香彩形	92	4.4	灰釉 (淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	青	肥前	17世紀代末-18世紀初葉	灰釉 (淡黄灰白色)	4
C715	I	2号墓状遺構埋土2層	中碗丸碗	-	4.6	灰釉 (淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	やや粗	小野相馬	18世紀前半	灰釉 (淡黄灰白色)	4
C716	I	2号墓状遺構埋土2層	中碗丸碗	11.0	5.2	白化粧土 透影	透明釉	やや粗	小野相馬	18世紀前半	白化粧土 透影	4
C717	I	2号墓状遺構埋土2層	火入・香彩	-	7.7	灰釉 (淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	普通	京・信濃	17世紀代末-18世紀初葉	買入 買入	4
C718	I	2号墓状遺構埋土2層	水指差	11.7	-	灰釉 (淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	やや粗	信濃系	17・18世紀	透影 胎土に白色砂粒あり	4
C719	I	2号墓状遺構埋土2層	中碗丸碗	11.8	5.1	外面灰釉 (淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	普通	肥前	17世紀代末-18世紀初葉	灰釉 買入 買入	4
C720	I	2号墓状遺構埋土2層	小中皿	11.7	4.2	外表面灰釉 (淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	普通	肥前	17世紀代末-18世紀初葉	灰釉 買入 買入	4
C721	I	2号墓状遺構埋土2層	中碗丸碗	11.8	5.0	灰釉 (淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	普通	肥前	17世紀代末-18世紀初葉	灰釉 買入 買入	4
C722	I	2号墓状遺構埋土2層	香彩	-	6.3	無釉	無釉 (暗褐色)	粗	瀬戸・美濃	17世紀代末-18世紀初葉	見込肥の目録あり	4
C723	I	2号墓状遺構埋土2層	香彩	-	6.3	無釉	無釉 (暗褐色)	粗	瀬戸・美濃	17世紀代末-18世紀初葉	見込肥の目録あり	4
C724	I	2号墓状遺構埋土2層	中碗丸碗	10.9	4.9	体部無釉	灰釉 (淡黄灰白色)	粗	瀬戸・美濃	17世紀代末-18世紀初葉	見込肥の目録あり	4
C725	I	2号墓状遺構埋土2層	磁鉢	32.4	-	体部無釉	灰釉 (淡黄灰白色)	粗	瀬戸・美濃	17世紀代末-18世紀初葉	見込肥の目録あり	4
C726	I	2号墓状遺構埋土2層	磁鉢	11.4	-	体部無釉	灰釉 (淡黄灰白色)	粗	瀬戸・美濃	17世紀代末-18世紀初葉	見込肥の目録あり	4
C727	I	2号墓状遺構埋土2層	磁鉢	35.2	-	体部無釉	灰釉 (淡黄灰白色)	粗	瀬戸・美濃	17世紀代末-18世紀初葉	見込肥の目録あり	4
C728	I	2号墓状遺構埋土2層	中碗丸碗	-	5.3	上部・内面灰釉 (淡黄灰白色)	無釉 (暗褐色)	普通	京・信濃	17世紀末-18世紀初葉	灰釉 買入 磨研陶	4
C729	I	2号墓状遺構埋土3層	大鉢	10.4	-	灰釉 (淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	粗	小野相馬	17世紀末-18世紀初葉	胎土に白色砂粒含む	-
C730	I	2号墓状遺構埋土4層	磁鉢	30.8	-	白化粧土 透影	灰釉 (淡黄灰白色)	粗	瀬戸・美濃	17世紀代末-18世紀初葉	無釉	-
C731	I	4号墓状遺構埋土2層	大鉢	14.8	-	白化粧土 透影	長石釉	普通	美濃	17世紀代末-18世紀初葉	御津二彩手	4
C732	I	4号墓状遺構埋土6層	小中皿	43.2	-	鉄彩	透明釉	普通	美濃	17世紀代末-18世紀初葉	御津二彩手	-
C733	I	4号墓状遺構埋土7層	小中皿	13.3	8.4	鉄彩繪文	長石釉	普通	美濃	17世紀初頭	上野磯部	-
C734	I	4号墓状遺構埋土7層	小中皿	-	8.4	鉄彩繪文	長石釉	普通	美濃	17世紀初頭	上野磯部 買入 見込目録3	12
C735	I	4号墓状遺構埋土7層	大鉢	-	-	灰釉 (淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	普通	肥前	17世紀代末	見込と高台内・黒色付動物	12
C736	I	4号墓状遺構埋土8層	大鉢	12.4	4.9	灰釉 (淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	やや粗	肥前	17世紀代末	御津 買入 買入	-
C737	I	4号墓状遺構埋土8層	碗	-	6.3	無釉 (暗褐色)	無釉 (暗褐色)	粗	肥前	17世紀代末	御津 買入 買入	-
C738	I	10号遺構埋土	磁鉢	-	11.2	無釉	無釉	やや粗	得か	17世紀中葉-18世紀初頭	項目は摩滅	-
C739	I	12号遺構埋土	中碗丸碗	9.4	-	色絵 (青・緑)	灰釉 (淡黄灰白色)	青	京・信濃	18世紀前半	外周下半部黒い目録	16
C740	I	12号遺構埋土1層	人形徳利	-	-	無釉	無釉	青	京・信濃	18世紀前半	買入	16
C741	I	12号遺構埋土2層	中碗丸碗	-	4.2	上部灰釉 (緑灰白色)	無釉	普通	大塚相馬	18世紀代末	人形徳利	17

表26 陶器観察表(2)
Tab.26 Notes on glazed ceramics at BK14 (2)

器種	段階	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図版
香炉	C142	12号遺構埋土3層	中型丸瓶	10.2	-	-	灰緑(赤褐色)	灰釉(淡青灰白色)	普通	大瀬相馬	16世紀前半-19世紀初頭	百人	- 17
香炉	C143	39号遺構埋土3層	向付	-	-	-	-	灰釉(淡青灰白色)	粗	美濃	18世紀前半-17世紀初頭	志野 内外面にスス付着 右側面に転用	- 19
香炉	C144	40号遺構埋土2層	小中皿	11.2	5.0	2.4	-	灰釉(淡青灰白色)	普通	美濃	16世紀末	口唇部に墨着痕あり 軸の一部が白濁	17 20
香炉	C145	42号遺構埋土1層	大鉢	26.8	-	-	-	灰釉(淡青灰白色)	やや粗	瀬戸・美濃	17世紀前半	転用	- 20
香炉	C146	42号遺構埋土1層	向付	-	5.0	-	-	灰釉(淡青灰白色)	普通	肥前	16世紀末-17世紀初頭	転用	- 20
香炉	C147	42号遺構埋土1層	鉢鉢	26.8	-	-	-	灰釉(淡青灰白色)	粗	不明	17世紀初頭	不明	- 18
香炉	C148	57号遺構埋土	鉢鉢	-	-	-	鉄絵墨線文	灰釉(暗茶褐色)	粗	不明	17世紀初頭	不明	17 18
香炉	C149	3号遺構埋土2層	片口鉢	19.8	8.4	11.2	-	灰釉(淡青灰白色)	普通	東北産	18・19世紀	津波 志野焼部	18 21
香炉	C150	3号遺構埋土2層	中型丸瓶	-	3.6	-	色絵(青・緑)松竹文	灰釉(淡青灰白色)	普通	京・信楽	18世紀前半	転用	18 21
香炉	C151	3号遺構埋土2層	小壺	10.0	8.2	14.6	-	灰釉(暗緑褐色)	普通	東北産	18・19世紀	軸の廻り廻みが見られる 底部跡2	18 21
香炉	C152	3号遺構埋土2層	小中皿	12.6	7.5	3.3	附絵青花文 白泥胡毛目文	灰釉(淡青灰白色)	普通	瀬戸・美濃	18世紀初頭-中葉	見立跡3 直人	18 21
香炉	C153	3号遺構埋土2層	中瓶	5.1	-	-	口縁部鉄絵(暗茶褐色)	透明釉	普通	肥前	17世紀末-18世紀後葉	見立跡3 直人	18 21
香炉	C154	3号遺構埋土2層	小中鉢	-	9.4	-	鉄絵(淡青灰白色)	灰釉(淡青灰白色)	やや粗	小野相馬	18世紀	矢込跡 見立跡5 片口跡少	18 22
香炉	C155	3号遺構埋土2層	中型丸瓶	10.1	4.2	5.9	鉄絵(暗茶褐色)	灰釉(淡青灰白色)	粗	大瀬相馬	18世紀末-19世紀初頭	矢込跡 直人	18 21
香炉	C156	5号丹戸埋土4(潮方)	鉢鉢	-	4.2	-	鉄絵(暗茶褐色)	無釉	粗	丹波	17世紀中葉-後葉	無釉焼部	- 23
香炉	C157	5号丹戸埋土4(潮方)	鉢鉢	-	-	-	鉄絵(淡青灰白色)	灰釉(淡青灰白色)	粗	丹波	17世紀後半-18世紀	無釉焼部	- 23
香炉	C158	5号丹戸埋土1層	中型丸瓶	-	4.5	-	鉄絵(淡青灰白色)	灰釉(淡青灰白色)	粗	肥前	17世紀後半-18世紀前半	直人 見立跡手 高台跡付存着	19 23
香炉	C159	5号丹戸埋土	鉢鉢	-	14.4	-	無釉	無釉	粗	丹波	17世紀中葉-後葉	胎土に鉄粒含む 無釉焼部 底部の窪目は摩滅	- 23
香炉	C160	5号丹戸埋土	小中鉢	-	5.6	-	鉄絵(淡青灰白色)	灰釉(淡青灰白色)	やや粗	小野相馬	18世紀代	矢込跡	- 23
香炉	C161	レット70埋土1層	鉢鉢	29.4	-	-	無釉	無釉	粗	丹波	17世紀代	無釉焼部	- 25
香炉	C162	レット205柱状配埋土	中型強瓦瓶	13.8	6.4	7.1	-	灰釉(淡青灰白色)	粗	丹波	17世紀代	無釉焼部	20 24
香炉	C163	レット239埋土2層	向付	-	-	-	鉄絵松竹文	灰釉(淡青灰白色)	やや粗	肥前	17世紀前半	胎土に白・藍色の鉄粒含む	- 25
香炉	C164	レット250埋土1層	変形皿	-	-	-	鉄絵松竹文	灰釉(淡青灰白色)	粗	美濃	17世紀初頭	胎土に白・藍色の鉄粒含む	- 25
香炉	C165	1-1a 鉢37	大鉢	32.4	-	-	白泥胡毛目文	透明釉	普通	瀬戸・美濃	17世紀初頭	瀬戸・美濃	- 26
香炉	C166	1-1b レット77埋土	大鉢	-	-	-	鉄絵文様あり	透明釉	普通	肥前	17世紀代	瀬戸・美濃	- 26
香炉	C167	1-1b レット165埋土1層	碗	-	-	-	鉄絵文様あり	透明釉	普通	肥前	17世紀後半-18世紀前半	瀬戸・美濃	- 27
香炉	C168	1-1b 15号遺構埋土1層	中型丸瓶	10.6	5.3	7.8	鉄絵松竹文	灰釉(淡青灰白色)	普通	大瀬相馬	17世紀末-18世紀前半	直人	27
香炉	C169	1-1b 16号遺構埋土1層	変形皿	-	-	-	鉄絵松竹文	灰釉(淡青灰白色)	普通	京・石楽	17世紀末-18世紀前半	直人	21 28
香炉	C170	1-1b 16号遺構埋土1層	中皿	-	-	-	鉄絵(暗緑茶褐色)	灰釉(淡青灰白色)	粗	瀬戸・美濃	17・18世紀	瀬戸・美濃	- 29
香炉	C171	1-1b 16号遺構埋土4層	大鉢	-	-	-	鉄絵(暗緑茶褐色)	灰釉(淡青灰白色)	粗	肥前	17世紀後半-18世紀前半	瀬戸・美濃	- 29
香炉	C172	1-1b 16号遺構埋土4・5層	鉢鉢	26.0	-	-	鉄絵(淡青灰白色)	灰釉(淡青灰白色)	粗	瀬戸・美濃	17世紀後半-18世紀前半	瀬戸・美濃	- 29
香炉	C173	1-1b 26号遺構埋土2層	小中皿	-	7.6	-	緑釉流し	灰釉(淡青灰白色)	粗	丹波	17世紀代	無釉	- 29
香炉	C174	1-1b 26号遺構埋土2層	碗	-	-	-	鉄絵流し	灰釉(淡青灰白色)	粗	大瀬相馬	17世紀末-18世紀	見立跡1	- 30
香炉	C175	1-1b 35号遺構埋土1層	碗	-	-	-	鉄絵(淡青灰白色)	灰釉(淡青灰白色)	普通	大瀬相馬	18世紀後半	直人	- 31
香炉	C176	1-1b 74号遺構埋土1層	變形皿	15.6	7.9	3.3	鉄絵(暗茶褐色)	灰釉(淡青灰白色)	粗	瀬戸・美濃	17世紀代	直人	24 31
香炉	C177	1-1b レット28埋土	碗	-	-	-	鉄絵(淡青灰白色)	灰釉(淡青灰白色)	粗	瀬戸・美濃	17・18世紀	直人	- 32
香炉	C178	1-1b レット225埋土1層	小中皿	-	-	-	鉄絵(淡青灰白色)	灰釉(淡青灰白色)	普通	瀬戸・美濃	不明	不明	- 32

表27 陶器観察表 (3)
Tab.27 Notes on glazed ceramics at BK14 (3)

登録番号	政所	出土場所	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	文様	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図
CT179	I-Ⅰb	ビレット246埋土1層	碗	-	-	白尻頭目文	透明釉	青	肥前	17世紀後半-18世紀前半	百人	- 32
CT180	I-Ⅰb	ビレット246埋土	中皿	-	-	灰釉 (淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	青	肥前	17世紀後半-18世紀前半	百人, 呉器手	- 32
CT181	I-Ⅰ	5分罐物柱2	小中皿	-	-	-	灰釉 (淡緑色)	やや粗	東北産	18世紀以降	百人	- 33
CT182	I-Ⅰ	1号舟形埋土4層	中皿大碗	-	-	-	灰釉 (淡黄灰白色)	やや粗	小野相馬	18世紀	失透釉	- 36
CT183	I-Ⅰ	1号舟形埋土2層	小中皿	12.5	4.3	鉄絵	灰釉 (淡黄灰白色)	青	大瀬相馬	18世紀末-19世紀中葉	見立目録/失透釉 百人	28 36
CT184	I-Ⅰ	1号舟形埋土2層	小皿	11.7	6.7	口縁部灰釉 (暗緑褐色)	灰釉 (暗茶褐色)	普通	東北産	19世紀	或か/内面が青色化 底部外面に灰化物付着 外面の釉は白濁し細かく剥落	28 36
CT185	I-Ⅰ	1号舟形埋土2層	土瓶	5.8	4.8	94	灰釉 (灰白色)	青	大瀬相馬	19世紀前半	失透釉	28 36
CT186	I-Ⅰ	1号舟形埋土2層	土瓶蓋	-	-	白尻鉄絵文	灰釉 (緑灰白色)	やや粗	相馬系	19世紀中葉	つまみ径2.1cm	- 36
CT187	I-Ⅰ	1号舟形埋土3層	土瓶蓋	6.1	3.3	白尻鉄絵文	灰釉 (淡緑灰白色)	普通	大瀬相馬	19世紀中葉	失透釉	28 36
CT188	I-Ⅰ	1号舟形埋土3層	弘花瓶	8.3	4.0	12.5	灰釉 (淡黄灰白色)	青	大瀬相馬	19世紀前半-中葉	失透釉 CT194と組	28 36
CT189	I-Ⅰ	1号舟形埋土3層	中皿大碗	11.5	5.0	6.3	鉄絵(淡黄灰白色)	やや粗	相馬系	19世紀中葉	長石釉 百人	28 36
CT190	I-Ⅰ	1号舟形埋土3層	中皿大碗	12.4	4.7	6.5	鉄絵(淡黄灰白色)	やや粗	相馬系	19世紀前半	一部被熱	28 36
CT191	I-Ⅰ	1号舟形埋土3層	器鉢	4.6	6.0	-	灰釉 (茶褐色)	粗	大瀬相馬	19世紀中葉-中葉	失透釉	28 36
CT192	I-Ⅰ	1号舟形埋土3層	器鉢	4.6	-	-	無釉	粗	丹波	18世紀中葉	焼跡の外面に指押え痕あり	- 36
CT193	I-Ⅰ	1号舟形埋土3層	中皿大碗	11.6	5.4	6.1	灰釉 (淡黄灰白色)	やや粗	小野相馬	19世紀代	失透釉	- 36
CT194	I-Ⅰ	1号舟形埋土3層	弘花瓶	8.6	4.0	12.7	灰釉 (淡黄灰白色)	青	大瀬相馬	19世紀前半-中葉	失透釉 CT188と組	- 36
CT195	I-Ⅰ	1号舟形埋土3層	小皿大碗	-	-	白尻鉄絵(淡黄灰白色)	灰釉 (淡黄灰白色)	普通	不明	19世紀中葉	失透釉	- 36
CT196	I-Ⅰ	1号舟形埋土	器鉢	2.9	-	-	無釉	普通	瀬戸/大瀬	18世紀後半-19世紀	無釉 器鉢 百人	29 36
CT197	I-Ⅰ	ビレット22埋土1層	高付	-	-	織部釉	灰釉 (淡黄灰白色)	青	大瀬	17世紀初頭	織部 百人	- 40
CT198	I-Ⅰ	3号船形土4層	袋物不明	-	-	-	灰釉 (淡黄灰白色)	粗	肥前	17世紀後半-18世紀前半	京焼陶器の可能性	- 41
CT199	I-Ⅰ	5号船形土4層	器鉢	-	-	-	灰釉 (暗茶褐色)	粗	東北産	18・19世紀	失透釉	- 42
CT100	I-Ⅰ	5号船形土4層	中皿大碗	9.6	4.6	5.6	灰釉 (暗茶褐色)	青	大瀬相馬	18世紀後半-19世紀初頭	百人	38 42
CT101	I-Ⅰ	5号船形土1層	中皿大碗	10.3	4.0	8.0	灰釉 (淡黄灰白色)	青	相馬	17世紀後半-18世紀前半	百人, 呉器手	38 42
CT102	I-Ⅰ	9号船形埋土7層	碗か	-	-	-	灰釉 (青灰白色)	粗	小野相馬	18世紀代	失透釉	- 43
CT103	I-Ⅰ	2号舟形埋土2層	高付	-	-	-	灰釉 (淡黄灰白色)	やや粗	瀬戸/大瀬	17世紀初頭	織部	- 44
CT104	I-Ⅰ	2号舟形埋土3層	小皿不明	-	3.0	-	灰釉 (淡黄灰白色)	青	大瀬相馬	18世紀後半-19世紀初頭	百人	- 44
CT105	I-Ⅰ	2号舟形埋土3層	中皿不明	-	4.0	-	灰釉 (淡黄灰白色)	青	大瀬相馬	18世紀後半-19世紀前半	平失透釉 百人 樋目1条-1組	- 44
CT106	I-Ⅰ	6号舟形埋土5層	器鉢	29.4	-	-	口縁部灰釉 (淡緑灰白色)	やや粗	岸	17世紀中葉-18世紀初頭	底部付近の釉日は青威 口縁部は内外に張り出すが 時により欠損	42 45
CT107	I-Ⅰ	6号舟形埋土10層	人影 (箱)	既出(表)	-	-	灰釉 (暗茶褐色)	普通	瀬戸/大瀬	18世紀以降	平野加部, 尾匠欠損	43 45
CT108	I-Ⅰ	6号舟形埋土11層	中皿大碗	10.4	-	-	灰釉 (淡黄灰白色)	普通	大瀬相馬	18世紀中葉-後葉	百人新着 器鉢	42 45
CT109	I-Ⅰ	6号舟形埋土11層	器鉢	36.4	-	-	灰釉 (暗茶褐色)	やや粗	東北産	18世紀	目立合せ 器鉢	- 46
CT110	I-Ⅰ	6号舟形埋土11層	土鉢	31.0	-	-	灰釉 (暗茶褐色)	青	大瀬相馬	17世紀後半	釉日に著ねぬみの目跡あり	- 45
CT111	I-Ⅰ	6号舟形埋土11層	中皿大碗	10.4	4.0	5.3	灰釉 (淡黄灰白色)	青	大瀬相馬	18世紀後半-19世紀初頭	器鉢	42 46

表28 陶器観察表(4)

Tab.28 Notes on glazed ceramics at BK14 (4)

登録番号	政所	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図
CT112	Ⅱa-Ⅱb	6号房の障土層	鉢・向付	-	-	-	口縁部に文様	灰釉 (淡灰白色)	普通	瀬戸・近畿	17・18世紀代	通称 買入 新州に高化物付者 焼熱痕ありか?	- 46
CT113	Ⅱb	7号房列柱1	美	7.0	-	-	-	灰釉 (暗茶褐色)	普通	東北	18・19世紀	-	51
CT114	Ⅱb	1号柱列柱1	中型折房碗	-	-	-	-	灰釉 (淡緑灰白色)	普通	大塚相馬	18世紀後半	-	51
CT115	Ⅱb	1号柱列柱2	碗	-	-	-	-	灰釉 (淡赤灰白色)	普通	大塚相馬	18世紀後半	-	51
CT116	Ⅱb	1号柱列柱2	碗	-	-	-	灰釉 (暗赤褐色)	灰釉 (暗赤褐色)	やや粗	東北	18世紀後半以降	-	51
CT117	Ⅱb	1号柱列柱3	袋物不明	7.4	-	-	灰釉 (暗赤褐色)	灰釉 (淡灰灰白色)	密	肥前	18世紀代	灰物写し 高台内円形のメズリあり	- 51
CT118	Ⅱb	1号柱列柱3	碗	-	-	-	内面灰釉 (淡緑灰色)	灰釉 (淡赤灰白色)	普通	大塚相馬	18世紀後半	-	51
CT119	Ⅱb	1号柱列柱4	中型大碗	-	-	-	内面灰釉 (淡緑灰色)	灰釉 (暗赤褐色)	普通	大塚相馬	18世紀後半	-	51
CT120	Ⅱb	1号柱列柱4	袋物不明	-	-	-	灰釉 (茶褐色)	灰釉 (淡緑灰白色)	普通	大塚相馬	18世紀後半	-	51
CT121	Ⅱb	2号柱列柱1	碗	-	-	-	白泥網毛目文	透明釉	普通	肥前	17世紀後半	-	52
CT122	Ⅱb	1号池状遺構南側方	中碗	-	-	-	-	灰釉 (淡赤灰白色)	普通	大塚相馬	18世紀後半	-	52
CT123	Ⅱb	1号池状遺構南側方	小中皿	5.2	-	-	鉄絵山水文	灰釉 (淡赤灰白色)	普通	大塚相馬	18世紀末-19世紀中葉	灰釉は焼熱による白濁あり	50 52
CT124	Ⅱb	1号池状遺構南側方	小茶	8.8	6.7	11.8	-	灰釉 (暗赤褐色)	やや粗	東北	18・19世紀	50 52	
CT125	Ⅱb	1号池状遺構南側方	中型折房碗	13.3	4.6	6.2	-	灰釉 (淡灰灰白色)	密	大塚相馬	18世紀後半	手先遺物 買入 見込目録5 輪化彩	50 52
CT126	Ⅱb	1号池状遺構南側方	茶碗	5.9	4.6	5.4	-	灰釉 (暗赤褐色)	密	大塚相馬	19世紀前半-中葉	下半無釉 底部に小孔1 底部同様に赤褐色の紅斑	50 52
CT127	Ⅱb	1号池状遺構南側方	広花瓶	-	-	-	鉄絵流し掛け (黒褐色)	灰釉 (淡灰灰白色)	密	大塚相馬	19世紀前半-中葉	最大径4.1cm 買入	- 52
CT128	Ⅱb	4号遺構南側方	小中皿	4.0	-	-	灰釉 (淡赤灰白色)	灰釉 (淡赤灰白色)	普通	大塚相馬	18世紀末-19世紀初葉	買入 灰遺物	- 53
CT129	Ⅱb	4号遺構南側方	小中皿	4.7	-	-	鉄絵 (青・緑) 梅文	透明釉	普通	肥前	18世紀	買入 灰遺物	- 53
CT130	Ⅱb	4号遺構南側方	小中皿	4.7	-	-	鉄絵 (暗赤褐色)	灰釉 (暗赤褐色)	普通	肥前	17世紀後半	見込配の日輪酒ぎ 見込目録4	- 53
CT131	Ⅱb	13号遺構南側方	茶碗	18.4	-	-	やや粗	灰釉 (淡赤灰白色)	やや粗	肥前	17世紀後半-18世紀前半	長谷川2004分類のⅡa2類	- 54
CT132	Ⅱb	13号遺構南側方	中茶大碗	4.8	-	-	白泥網毛目文	透明釉	普通	大塚相馬	18世紀後半	曹津 二彩手 見込目録4 高台目録4	- 54
CT133	Ⅱb	13号遺構南側方	大鉢	13.3	-	-	鉄絵 緑梅形	透明釉	普通	肥前	17世紀後半	買入 見込目録4	52 54
CT134	Ⅱb	ゼット15号障土層	中碗	9.0	-	-	鉄絵流し掛け (暗赤褐色)	灰釉 (淡赤灰白色)	密	大塚相馬	18世紀後半	買入	- 55
CT135	Ⅱb-Ⅱc	5号遺構南側方	器鉢	-	-	-	-	灰釉 (暗赤褐色)	やや粗	東北	18・19世紀	-	55
CT136	Ⅱb-Ⅱc	5号遺構南側方	器鉢	-	-	-	-	灰釉 (青灰白色)	密	大塚相馬	18・19世紀	灰遺物	- 55
CT137	Ⅱb-Ⅱc	65号遺構南側方	小中皿	4.7	4.2	4.2	鉄絵山水風景文	灰釉 (淡赤灰白色)	普通	大塚相馬	18世紀前半以降	買入 CT138と同じ手	54 56
CT138	Ⅱb-Ⅱc	65号遺構南側方	小中皿	12.7	4.8	4.4	鉄絵山水風景文	灰釉 (淡赤灰白色)	密	大塚相馬	18世紀末-19世紀中葉	買入 CT138と同じ手	54 56
CT139	Ⅱb-Ⅱc	65号遺構南側方	火入・香知	6.6	-	-	鉄絵山水風景文	灰釉 (淡赤灰白色)	やや粗	京・信濃	17世紀末-18世紀	買入 割打	54 56
CT140	Ⅱb-Ⅱc	65号遺構南側方	菓子	-	-	-	型絵染付松枝文	内面灰釉 (茶褐色)	普通	不明	17世紀代か	外面漆喰 (赤)	- 56
CT141	Ⅱb-Ⅱc	65号遺構南側方	器鉢	17.0	-	-	鉄絵 (暗赤茶褐色)	灰釉 (暗赤茶褐色)	粗	東北	18・19世紀	-	56
CT142	Ⅱb-Ⅱc	ゼット49号障土層	飯皿	-	-	-	緑梅流し掛け	灰釉 (淡赤灰白色)	密	大塚相馬	18世紀後半	灰遺物	- 57
CT143	Ⅱb-Ⅱc	ゼット49号障土層	中野半砂碗	-	-	-	-	灰釉 (淡赤灰白色)	密	大塚相馬	18世紀後半	買入	- 57
CT144	Ⅱb	2号遺構南側方	手瓶	5.3	-	-	鉄絵 (青・緑) 菊花文	灰釉 (淡赤灰白色)	やや粗	京・信濃	19世紀前半-中葉	灰遺物	- 58
CT145	Ⅱb	14号遺構南側方	飯次	-	-	-	-	灰釉 (淡赤褐色)	普通	中国	17世紀前半	口縁部印打痕あり 買入 ? 黒色部は黒漆 上? 黒部は黒漆 黒部は黒漆	55 59
CT146	Ⅱb	14号遺構南側方	盤	-	-	-	鉄絵	灰釉 (淡赤褐色)	普通	中国	17世紀前半	買入	- 59
CT147	Ⅱb	14号遺構南側方	中茶大碗	12.0	4.2	6.9	鉄絵 (黒褐色) 流し掛け	灰釉 (淡赤灰白色)	普通	小塚相馬	18世紀	灰遺物	- 59
CT148	Ⅱb	21号遺構南側方	小中皿	-	5.0	-	灰釉 (淡赤灰白色)	灰釉 (淡赤灰白色)	密	大塚相馬	18世紀末-19世紀中葉	灰遺物	- 60
CT149	Ⅱb	21号遺構南側方	手瓶	-	-	-	灰釉 (淡赤灰白色)	灰釉 (淡赤灰白色)	密	大塚相馬	19世紀前半-中葉	灰遺物 買入	- 60
CT150	Ⅱb	25号遺構南側方	向付	-	-	-	灰釉 (淡赤褐色)	灰釉 (淡赤褐色)	粗	美濃	16世紀末-17世紀初葉	主野	- 60

表29 陶器観察表 (5)
Tab.29 Notes on glazed ceramics at BK14 (5)

登録番号	調査	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	文様	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図
CT151	Ⅲ	30号遺構埋土層	中唇煎餅碗	-	-	-		鉄釉 (黒褐色)	密	大塚相馬	18世紀		62
CT152	Ⅲ	30号遺構埋土層	小中鉢	-	8.1	-		鉄釉 (淡青灰白色)	やや粗	小野相馬	18世紀	見込目跡3 貫入	58
CT153	Ⅲ	30号遺構埋土層	大鉢	39.2	-	-		鉄釉 (淡青灰白色)	密	肥前	17世紀後半		62
CT154	Ⅲ	31号遺構埋土層	中唇及碗	-	-	-	白黒 幾何 線彩	透明釉	密	肥前	17世紀後半		63
CT155	Ⅲ	31号遺構埋土層	小中皿	-	-	-	鉄釉 (茶褐色) 波し掛け	鉄釉 (淡灰白色)	密	大塚相馬	18世紀前半		59
CT156	Ⅲ	31号遺構埋土層	土瓶	-	-	-		青釉	密	大塚相馬	19世紀前半 - 中葉		63
CT157	Ⅲ	38号遺構埋土層	水指	-	-	-		鉄釉 (淡緑褐色)	粗	伊賀	16世紀末 - 17世紀初頭	胎土に白色の砂粒が入る あるいは何層か	61
CT158	Ⅲ	48号遺構埋土層	盤	-	-	-	鴉打三彩	鉄釉	普通	中国	17世紀前半		61
CT159	Ⅲ	48号遺構埋土層	土瓶	-	-	-	青釉鉄絵松山水文	鉄釉 (淡灰白色)	密	大塚相馬	19世紀中葉		61
CT160	Ⅲ	51号遺構埋土層	向付	-	-	-	鉄絵区画文	長石釉	やや粗	美濃	16世紀末 - 17世紀初葉		64
CT161	Ⅲ	51号遺構埋土層	羹	-	-	-		鉄釉 (暗赤褐色)	粗	東北産	18 - 19世紀	志野 貫入顯著	64
CT162	Ⅲ	63号遺構埋土層	中国	12.6	-	-		透明釉	普通	肥前	17世紀前半	唐津	65
CT163	Ⅲ	63号遺構埋土層	中唇及碗	-	-	-		透明釉	普通	肥前	17世紀代		65
CT164	Ⅲ	63号遺構埋土層	水指蓋	-	-	-		長石釉	普通	肥前	17 - 18世紀		65
CT165	Ⅲ	66号遺構埋土層	小唇煎餅碗	9.9	3.7	5.6	内面鉄釉 (淡青灰白色) 青釉波し掛け	青釉	密	大塚相馬	19世紀前半 - 中葉		61
CT166	Ⅲ	66号遺構埋土層	茶碗	7.2	3.9	1.9	志野鉄釉 (淡緑灰白色)	鉄釉	密	大塚相馬	19世紀		66
CT167	Ⅲ	66号遺構埋土層	小中皿	-	-	-	見込印花文	鉄釉 (淡青灰白色)	粗	小野相馬	18世紀後半	志野部部に有る物 見用底か 見込配の目録無 失透釉	66
CT168	Ⅲ	4号井戸埋土層	中唇煎餅碗	8.6	-	-	鉄釉波し掛け (黒褐色)	鉄釉 (淡青灰白色)	粗	大塚相馬	18世紀後半 - 19世紀前半	失透釉	69
CT169	Ⅲ	4号井戸埋土層	鉢	25.8	-	-	体底無飾	口縁鉄釉 (淡緑灰白色)	普通	京・信楽	17世紀		69
CT170	Ⅲ	4号井戸埋土層	中唇及碗	11.1	3.5	6.2	高台内「幾何」印彩	鉄釉 (淡青灰白色)	普通	大塚相馬	18世紀前半	御書筒池 貫入	63
CT171	Ⅲ	4号井戸埋土層	中唇及碗	8.4	-	-		鉄釉 (淡青灰白色)	普通	大塚相馬	18世紀後半 - 19世紀初頭	半失透釉 貫入	69
CT172	Ⅲ	ビッタ180出土	土瓶	-	-	-		不明	普通	大塚相馬	19世紀前半	底底のみ	70
CT173	Ⅲ	ビッタ180埋土層	碗	-	-	-	内面鉄釉 (淡緑灰白色)	體底鉄釉 (暗茶褐色)	普通	大塚相馬	18世紀後半		70
CT174	Ⅲ	ビッタ280埋土層	中唇及碗	-	-	-		鉄釉 (淡青灰白色)	密	肥前	17世紀後半 - 18世紀前半	貫入 貝器手	71
CT175	Ⅲ	ビッタ280埋土層	中国	-	-	-		透明釉	密	肥前	17世紀代	種の一部が難白化	71
CT176	Ⅲ	ビッタ280埋土層	小中皿	-	-	-		鉄釉 (暗茶褐色)	密	肥前	17世紀代	京焼陶器の可能性	71
CT177	Ⅲ	ビッタ292埋土層	大鉢	-	8.0	-		鉄釉 (淡青灰白色)	密	肥前	17世紀後半		71
CT178	Ⅲ	四角区遺構埋土層	羹	11.2	-	-	印花菊花文 鉄釉波し	鉄釉 (暗茶褐色)	普通	瀬戸・美濃	17 - 18世紀		72
CT179	Ⅲ	基本層2-2層	中唇及碗	-	-	-	鉄釉波しかけ	鉄釉 (淡青褐色)	やや粗	瀬戸・美濃	17世紀前半		72
CT180	Ⅲ	基本層2-2層	中国	4.6	-	-		鉄釉 (黒褐色)	やや粗	瀬戸・美濃	17世紀末 - 18世紀前半		73
CT181	Ⅲ	基本層2-2層	大鉢	30.6	-	-	波線文	鉄釉 (暗茶褐色)	やや粗	瀬戸・美濃	18世紀前半		73
CT182	Ⅲ	基本層1層	小中皿	12.6	7.4	3.1	深緑文	鉄釉 (淡青灰白色)	普通	瀬戸・美濃	17世紀代		76
CT183	Ⅲ	基本層1層	灯明土	9.6	3.7	2.2		鉄釉 (淡緑灰白色)	普通	瀬戸・美濃	18世紀前半 - 中葉	見込目跡3 貫入	69
CT184	Ⅲ	基本層1層	人形 (武士)	幅10	9.9	2.2	鉄絵特須能々竹文様	鉄釉	密	大塚相馬	19世紀不明	貫入 未使用か 前後合わせ製作 須能々損	69
CT185	Ⅲ	基本層1層	水指	6.3	3.1	3.1	鉄釉 (淡緑灰白色)	鉄釉 (淡緑灰白色)	密	大塚相馬	18世紀末 - 19世紀初頭	貫入の少しあり 残存高3.2	76
CT186	Ⅲ	基本層1層	小中皿	0.7	2.0	4.0	白染刷毛日文	透明釉	普通	不明	不明		76
CT187	Ⅲ	基本層1層	小中皿	-	-	-	鉄絵 (茶褐色)	普通	東北産	不明		最大径2.9cm	76
CT188	Ⅲ	基本層1層	小中皿	-	5.0	-	見込山水文	鉄釉 (淡青灰白色)	密	肥前	17世紀後半	貫入	76
CT189	Ⅲ	基本層1層	向付	-	-	-	見込菊花文	長石釉	粗	美濃	16世紀末 - 17世紀初頭	志野	76

表30 土師質(皿)観察表
Tab.30 Notes on unglazed ceramic plates at BK14

登録番号	段階	出土場所	口径 cm	底径 cm	器高 cm	内面 調整	体部外 面調整	底部 糸切技法	回転 方向	炭化物付 着物部位	その他特徴	図	国版
CH1	I	2号池状遺構埋土1層	5.2	3.4	1.6	ナデ	ナデ	a	左	なし		-	-
CH2	I	2号池状遺構埋土1層	5.4	3.2	1.6	ナデ	ナデ	b	右	口縁部		-	-
CH3	I	2号池状遺構埋土2層	12.3	7.4	2.7	ナデ	ナデ	a	左	なし		5	7
CH4	I	2号池状遺構埋土2層	11.1	6.4	2.6	ナデ	ナデ	a	左	体部内面		5	7
CH5	I	2号池状遺構埋土2層	7.3	4.4	2.2	不明	不明	不明	不明	口縁部～ 体部内面	全面的に比熱痕跡	5	7
CH6	I	2号池状遺構埋土2層	11.5	6.1	2.8	ナデ	ナデ	b	左	なし		-	-
CH7	I	4号池状遺構埋土1層	12.6	6.9	3.15	ナデ	ナデ	a	左	なし		13	14
CH8	I	4号池状遺構埋土2層	7.0	3.6	2.2	不明	不明	b	右	全面に付着	全面比熱か 断面も黒色化	13	14
CH9	I	4号池状遺構埋土2層	-	6.8	3.6	ナデ	ナデ	ミガキ	右	なし		-	-
CH10	I	4号池状遺構埋土5層	9.6	6.0	2.6	ナデ	ナデ	不明	不明	なし		-	-
CH11	I	42号遺構埋土1層	-	7.8	2.5	ナデ	不明	a	左	全面に付着	全面比熱か 断面も黒色化	-	-
CH12	I	3号溝埋土	5.75	3.6	1.6	ナデ	ナデ	b	左	口縁部		18	22
CH13	I-Ⅱb	ビット181埋土	5.0	2.8	2.3	ナデ	ナデ	a	左	口縁部		-	-
CH14	I-Ⅲ	7号遺構埋土	5.4	3.0	1.4	ナデ	ナデ+ ミガキ	軽いミガキ	不明	口縁部		-	-
CH15	I-Ⅲ	1号井戸埋土	8.9	5.0	1.7	ナデ	ナデ	不明	不明	なし		29	37
CH16	Ⅱa	5号溝埋土	7.4	3.8	2.0	ナデ	ナデ+ ミガキ	a	右	なし		38	42
CH17	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸埋土11層	6.0	4.0	1.8	ナデ	ナデ	a	左	なし		43	46
CH18	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸埋土11層	6.4	3.5	1.8	ナデ	ナデ	b	右	口縁部		43	46
CH19	Ⅱb	1号池状遺構埋土1層	5.6	3.9	1.8	ナデ	ナデ	軽いミガキ	左	なし		50	52
CH20	Ⅱb	1号池状遺構埋土1層	7.6	5.0	1.8	不明	ナデ	不明	不明	なし	表面摩耗	-	-
CH21	Ⅱb-Ⅲ	65号遺構埋土1層	6.0	3.2	1.6	ナデ	ナデ+ ミガキ	ミガキ	左	全面的に薄く 付着	内面に灯芯あり 乗傷	54	56
CH22	Ⅱb-Ⅲ	65号遺構埋土2層	8.0	5.4	1.6	ナデ	ナデ	b	不明	なし		-	-
CH23	Ⅱb-Ⅲ	65号遺構埋土	5.7	4.0	1.8	ナデ	ナデ	a	不明	口縁部	表面一部摩耗	54	56
CH24	Ⅱb-Ⅲ	65号遺構埋土	10.6	6.6	1.9	ナデ	ナデ	b	左	なし		54	56
CH25	Ⅲ	66号遺構埋土4層	13.4	8.1	2.6	ナデ	ナデ	b	左	なし	約3mmの小孔を 3ヶ所体部に 穿孔あり	61	66
CH26	Ⅲ	66号遺構埋土4層	10.8	7.0	2.0	ナデ	ナデ	b	左	なし		-	-
CH27		関連2区 遺構埋土	10.25	6.0	1.8	不明	不明	a	右	全面に付着	全面比熱 断面も黒色化	65	72
CH28		基本層2a-2層	-	6.4	2.1	ナデ	ナデ	a	左	なし		-	-
CH29		基本層1層	5.1	3.2	1.8	ナデ	ナデ	a	左	なし	口縁部から底部外 面に一部付着物	-	-
CH30		基本層1層	5.8	3.8	1.8	ナデ	ナデ	b	右	なし		-	-
CH31		基本層1層	6.1	3.7	2.1	ナデ	ナデ	b	右	口縁部		-	-
CH32		基本層1層	-	6.3	2.6	ナデ	ナデ	a	左	なし		-	-
CH33		基本層1層	5.8	3.5	1.5	ナデ	ナデ	軽いミガキ	不明	口縁部		-	-
CH34		基本層1層	6.2	3.6	1.6	ナデ	ナデ	軽いミガキ	不明	口縁部		-	-
CH35		基本層1層	6.4	4.1	1.8	ナデ	ナデ	b	右	なし	内面一部剥離	-	-
CH36		基本層1層	6.2	3.6	1.5	ナデ	ミガキ	ミガキ	不明	なし		-	-
CH37		基本層1層	13.4	8.2	3.0	ナデ	ナデ	b	左	底部中心	全面的に被熱し、 断面も黒色化	-	-
CH38		基本層1層	12.4	7.1	2.7	ナデ	ナデ	a	右	口縁部～底部	全面的に被熱し、 断面も黒色化	-	-
CH39		基本層1層	10.0	5.6	2.6	不明	不明	不明	不明	なし	表面摩耗	-	-
CH40		基本層1層	8.8	7.0	2.1	ナデ	ナデ	不明	不明	なし		-	-

表31 土師質土器（その他）観察表
Tab.31 Notes on various unglazed ceramic at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調整	特徴	図	図版
CH41	I	2号池状遺構埋土2層	焼塩壺	-	5.5	-	ロクロ成形 内外面ロクロナデ	体部下破片 外面格子印き D類	5	7
CH42	I	2号池状遺構埋土2層	焼塩壺	-	-	-	ロクロ成形 内外面ロクロナデ	体部下破片 外面格子印き D類	5	7
CH43	I	2号池状遺構埋土2層	鉢	-	-	11.3	ロクロ成形 内外面ロクロナデ	口縁部から底部破片	-	7
CH44	I	2号池状遺構埋土3層	焼塩壺	-	6.1	-	ロクロ成形 内外面ロクロナデ	体部下破片 外面格子印き D類	5	7
CH45	I	30号遺構埋土2層	焼塩壺	-	-	-	ロクロ成形 内外面ロクロナデ	底部破片 外面格子印き	17	19
CH46	I	ビット102埋土	焼塩壺	-	-	-	上位と下位の押圧接合成形 内面ナデ	体部破片 畿内系統塩壺	20	25
CH47	I-1a	74号遺構埋土3層	焼塩壺	-	-	-	ロクロ成形 内外面ロクロナデ	器厚は薄手 口縁部から体部破片 格子印きあり C類 17世紀初頭から前葉	24	31
CH48	I-1b	1号井戸埋土2層	きな	-	-	-	上面と穿孔部丁寧なナデ 下面凹凸が多く、やや雑なナデ	上面一部比熱して剥落 下面一部スス付着	29	37
CH49	II a	5号溝埋土1層	羽釜	-	-	-	ロクロ成形 内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後へら削り	口縁部から胴部破片 口縁部外面が段状になる。	38	42
CH50	II a	5号溝埋土1層	焙烙	-	-	-	ロクロ成形 内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後へら削り	柄の破片 径2.5mm程の小孔あり	-	42
CH51	II b	1号池状遺構埋土1層	焼塩壺	-	4.6	-	ロクロ成形 内外面ロクロナデ	底部に糸切り痕跡 印籠形	50	52
CH52	III	ビット177埋土1層	焼塩壺	-	-	-	ロクロ成形 内外面ロクロナデ	胎土が赤色化 器厚0.6cmでロクロ 成形のため、在地産塩壺か	-	70
CH53		基本層2a-2層	焼塩壺				ロクロ成形 内外面ロクロナデ	D類の口縁部	66	73
CH54		基本層1層	焼塩壺	6.25	5.4	9.9	ロクロ成形 内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後へら削り	器厚は厚手で、凹みが浅い 外面下手格子印き D2類	69	76

表32 瓦質土器観察表
Tab.32 Notes on fumed ceramics at BK14

登録番号	段階	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴	図	図版
CG1	I	12号遺構埋土10層	火鉢?	37.8	-	-	外面:ミガキ 口縁部:ミガキ 内面:ミガキ 残存する部分には受熱痕はみられない	16	17
CG2	I	12号遺構埋土	五徳	-	21.5	17.4	外面:ヨコナデ、受熱により塵状に白色化 内面:ヨコナ デ、内面上半は受熱により白色化(褐色化)	16	17
CG3	I-II	1号井戸埋土2層	十徳	厚さ17cm		7.4	全面ミガキ 把手に菊花の印花文	29	37
CG4	III	30号遺構埋土1層	轆漥り	ぐびれ径16.9		-	外面:ヨコナデ、軽いミガキ 内面:ヨコナデ、軽いミガ キ内面上半は受熱による白色化	58	62
CG5	III	ビット177埋土1層	播鉢	28.9	-	-	外面:ヨコナデ 口唇部:ミガキ 内面:体部下手使用に よる磨滅顯著、播目はわずかに残る程度	64	70

表33 軟質施釉陶器観察表
Tab.33 Notes on lead glazed soft ceramics at BK14

登録番号	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴	図	図版
CN1	1号井戸埋土3層	焙烙	14.8	13.4	4.4	鉛輪 把手付き 把手に孔あり	29	36
CN2	1号井戸埋土3層	焙烙	13.1	10.2	3.1	鉛輪 底部内面にわずかに炭化物付着	29	36
CN3	1号井戸埋土3層	焙烙	把手端径3.5cm			鉛輪 把手部分	29	36
CN4	4号遺構埋土	焙烙	14.9	13.4	3.9	鉛輪	51	53
CN5	30号遺構埋土2層	焙烙	15.3	13.6	4.0	鉛輪	58	62
CN6	48号遺構埋土2層	焙烙	把手端径3.4cm			鉛輪 把手部分 把手に孔あり	60	61

表34 土人形・土製品観察表
Tab.34 Notes on clay objects and figures at BK14.

登録番号	段階	出土場所	器種	高さ a (cm)	幅 b (cm)	厚さ C (cm)	特徴	図	図版
CO1	I	2号池状遺構埋土1層	人形 猿	-	2.7	1.8	土師質 手づくね 中実 沈線で体毛表現 (刷毛状工具) 頭部上半欠損 両足は貼り付け部分から剥落	5	7
CO2	I	2号池状遺構埋土1層	玩具 多層塔	3.3	3.3	-	土師質 壓作り 対角線部分で貼り合わせ 中心部に穿孔 表面にキラ粉	5	7
CO3	I	2号池状遺構埋土1層	人形 不明	-	-	-	土師質 前後合型作り 中実 底部から穿孔あり	5	7
CO4	I	12号遺構埋土	人形 不明	-	-	-	土師質 壓作り 中空	16	17
CO5	I	39号遺構埋土2層	人形 猿	-	1.5	1.6	土師質 手づくね 中実 頭部のみ残存 沈線で体毛表現 (刷毛状工具) 沈線で口、額を表現 両耳貼り付け	17	19
CO6	I	3号溝埋土2層	人形 騎乗り?	-	-	-	土師質 前後合型作り 中空 型による鱗状の文様と左足?の表現	18	22
CO7	IIa	5号溝埋土2層	人形 猿	-	2.1	2	土師質 手づくね 中実 沈線で体毛表現 (刷毛状工具) 頭部、両手、左足は貼り付け部分から剥落 右足一部欠損 尾有り	38	42
CO8	IIa	5号溝埋土2層	玩具 屋根	6.7	6.7	2.7	土師質 壓作り 中空 刺突により屋根を表現	39	42
CO9	IIb-III	65号遺構埋土2層	玩具 茶釜	口径1.6、最大径5.8、 底径2.1、器高4.1		-	土師質 上下合型作り 中空 釜上半には 敷地文、木の葉文、鉄釘の表現あり	54	56
CO10	III	30号遺構埋土4層	玩具 器台	底径3.3cm		-	土師質 ロウロ成形成	58	62
CO11	III	30号遺構埋土4層	玩具 土鈴	5.1	4.7	-	土師質 前後合型作り 中空 貼り合わせ 部分で剥落し、半分のみ残存 内部の土玉はなし	58	62
CO12	III	31号遺構埋土4層	人形 患比寿	-	-	3.9	土師質 前後合型作り 中空 頭部のみ残存	59	63
CO13	III	31号遺構埋土4層	人形 相撲取り	-	8.1	-	土師質 前後合型作り 中空 内部に白色の彩色痕がわずかに残る へその表現あり 座す相撲取りを表現か	59	63
CO14	III	66号遺構埋土	玩具 土鈴	3	2.9	2.6	土師質 中空 下部欠損 内部の土玉はなし 内面上部にしほり目が観察される	61	67
CO15	III	66号遺構埋土3層	玩具 土鈴	2.9	2.5	2.6	土師質 中空 下部欠損 内部の土玉はなし 内面上部にしほり目が観察される	61	67
CO16	III	66号遺構埋土4層	人形 四足動物	-	13.3	-	土師質 左右合型作り 中空 脚部中実	61	67
CO17	III	6号溝埋土2層	人形 不明	-	-	-	土師質 壓作り 足部分か	62	68
CO18	III	4号井戸埋土1層	人形 不明	-	-	-	土師質 前後合型作りか 中空 人形着物の袂、または裾部分か	63	69
CO19		基本層1層	人形 猿?	-	-	-	土師質 前後合型作り 中空 頭部の一部残存 目、耳、牙の表現あり あるいは狐?	69	76
CO20		基本層1層	人形 人物	-	2.1	2.1	土師質 前後合型作り 中空 頭部のみ残存 顔の表現あり 法師か童子か	69	76
CO21		基本層1層	人形 不明	-	-	-	土師質 前後合型作り 中空	69	76
CO22		基本層1層	人形 狸と猫か	-	-	-	土師質 前後合型作り 中空 尾・鱗の表現あり あるいは狐と人物か?	69	76

表35 古代瓦観察表
Tab.35 Notes on ancient roof tiles at BK14

登録番号	段階	出土場所	瓦の種類	特徴	図	図版
T1	I	4号池状遺構埋土1層	平瓦1類	凸面鈍明き 凹面に布目	13	14
T2	II a - II b	6号井戸埋土8層	不明	凸面鈍明き 凹面に布目	43	46
T3	II a - II b	6号井戸埋土11層	平瓦1類	凸面はわずかにケズリの痕跡 凹面に布目	43	46
T4		基本層1層	不明	凸面鈍明き 凹面に布目	69	76

表36 軒丸瓦観察表
Tab.36 Notes on round eaves tiles at BK14

登録番号	段階	出土場所	瓦当文様	瓦当直径cm	瓦当内径cm	周縁幅	釘穴	図	図版
T5	I	2号池状遺構埋土4層	連珠三巴文	(152)	-	1.8cm	-	5	7
T6	II b	1号池状遺構埋土1層	三巴文小	-	-	1.8cm	-	-	52

表37 軒平瓦類観察表
Tab.37. Notes on flat eaves tiles at BK14

登録番号	段階	出土場所	瓦当文様	瓦当形状	瓦当垂長	頭幅	図	図版
T7	I	2号池状遺構埋土3層	刺形結核2類 + 唐草3b類	中朝	5.1cm	-	5	7
T8	I - II b	16号道構埋土2層	唐草2類	大朝	4.95cm	-	22	29
T9	III	30号道構埋土2層	唐草2類	中朝	5cm	-	58	62

表38 軒棧瓦観察表
Tab.38 Notes of eaves-pan tile at BK14

登録番号	出土場所	全長cm	全幅cm	きき幅cm	きき足cm	尻切込長cm	瓦当小巴部分文様	小巴径cm	瓦当垂れ部分文様	瓦当垂れ形状	瓦当垂長cm	図	図版
T10	1層	27.8	-	-	-	-	万十	8.5	無文	並朝	4.6	-	-
T11	1層	-	-	-	-	-	万十	8.4	無文	並朝	4.5	-	-

表39 その他の瓦観察表
Tab.39 Notes on various roof tiles at BK14

登録番号	段階	出土場所	瓦の種類	法量	釘穴	図	図版
T12	I	4号池状遺構埋土3層	丸瓦	胴長27.5cm 玉縁長3.9cm 尻幅15.3cm 高さ7.8cm	-	13	14
T13	I - III	1号井戸埋土2層	棟瓦	棟幅16.8cm 頂部内幅10.1cm 高さ7.0cm 中央厚さ2.0cm	-	30	37
T14	I - III	1号井戸埋土2層	棟瓦	頂部内幅17.4cm 高さ7.1cm 中央厚さ2.3cm	-	29	37
T15	I - III	1号井戸埋土3層	棟瓦	頂部内幅18.9cm 高さ7.8cm 中央厚さ2.1cm	-	30	37
T16	I - III	1号井戸埋土2層	両付箱型斗瓦	幅13.5cm 内幅10.2cm 高さ7.0cm 厚さ2.2cm	-	29	37
T17	I - III	1号井戸埋土2層	板状瓦	幅20.5cm 厚さ2.2cm	-	30	37
T18	I - III	1号井戸埋土3層	特殊瓦	長さ13.6cm 厚さ3.15cm	-	30	37
T19	III	20号道構埋土3層	平瓦1類	長さ26.1cm 厚さ2.0cm	-	-	-
T20		基本層1層	引掛棧瓦	全長26.6cm 全幅27.0cm きき幅26.7cm きき足20.2cm 尻切込長3.3cm 尻切込長4.0cm	-	-	-

表40 各種木製品観察表(1)
Tab.40 Notes on various wooden implements at BK14 (1)

登録番号	段階	出土場所	種類	法量	備考	図	図版
W1	I	3号建物柱6	不明	長さ28.8cm 幅6.95cm 厚さ9.3cm	中央の穴に本来別部材が嵌まる	2	1
W2	I	2号池状道構理土2層	円板状木製品	直径9.3cm 厚さ0.6cm	ほぼ定形	5	7
W3	I	2号池状道構理土2層	円板状木製品	縦幅5.05cm 横幅5.25cm 厚さ0.82cm	表面に歯布痕跡	5	7
W4	I	2号池状道構理土2層	栓	長さ4.95cm 幅1.5cm 厚さ0.95cm		5	7
W5	I	2号池状道構理土2層	栓	長さ2.85cm 最大幅1.7cm 厚さ0.45cm		5	7
W6	I	2号池状道構理土2層	部材	長さ23.9cm 幅1.2cm 厚さ1.1cm	両端部が段差と小孔を持つ部材	7	9
W7	I	2号池状道構理土2層	部材	長さ17.9cm 幅1.65cm 厚さ1.2cm	小孔を一例に多数穿孔	7	9
W8	I	2号池状道構理土2層	部材	径6.6cm 厚2.05cm	中央孔に軸が遺存	7	9
W9	I	2号池状道構理土2層	部材	長さ12.0cm 幅6.5cm 厚さ3.52cm		7	9
W10	I	2号池状道構理土2層	加工木片	長さ6.0cm 幅1.3cm 厚さ1.6cm		7	9
W11	I	2号池状道構理土2層	鏃	長さ8.3cm 幅(クシ刃先)4.9cm 厚さ0.9cm		7	9
W12	I	2号池状道構理土2層	串状製品	長さ14.6cm 幅0.6cm 厚さ0.29cm		8	9
W13	I	2号池状道構理土2層	串状製品	長さ9.91cm 幅0.55cm 厚さ0.3cm		8	9
W14	I	2号池状道構理土2層	串状製品	長さ8.5cm 幅0.5cm 厚さ0.35cm		8	9
W15	I	2号池状道構理土2層	串状製品	長さ6.2cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm		8	9
W16	I	2号池状道構理土2層	串状製品	長さ5.3cm 幅0.55cm 厚さ0.3cm		8	9
W17	I	2号池状道構理土2層	札	長さ7.2cm 最大幅6.1cm 厚さ1.7cm	小孔一箇所貫通 表面一部炭化	8	9
W18	I	2号池状道構理土2層	人形	長さ4.95cm 幅1.7cm 厚さ1.4cm	陶物か	8	9
W19	I	2号池状道構理土3層	竹製品の一部	-	縄が竹に結び付けられた状態	8	10
W20	I	2号池状道構理土2層	桶側板	長さ28.9cm 幅2.9cm 厚さ1.3cm	柄側板の持ち手	9	10
W21	I	2号池状道構理土3層	桶天板	長さ6.5cm 残存幅13.38cm 厚さ1.1cm	縁一部炭化 天板2/5	9	9
W22	I	4号池状道構理土2層	折敷	長さ17.3cm 幅2.3cm 厚さ0.35cm		13	14
W23	I	4号池状道構理土2層	人形	長さ7.3cm 幅2.9cm 厚さ2.85cm	頭部と頸部が一体化した人形	13	14
W24	I	4号池状道構理土3層	人形	残存長8.3cm 幅3.3cm厚さ2.9cm	頭部と頸部が一体化した人形	13	14
W25	I	4号池状道構理土5層	鏃	長さ7.7cm 幅(クシ刃先)4.0cm 厚さ0.6cm	約6割残存	13	14
W26	I	4号池状道構理土8層	壺の壺縁か	長さ53.6cm 幅2.7cm 高さ6.1cm	樹皮がわずかに遺存する ほぼ定形か	13	14
W27	I-II b	15号道構理土	柄状木製品	長さ35.3cm 幅2.55cm 厚さ1.0cm	先端側に小孔が貫通する	21	28
W28	I-III	1号井戸理土4(掘方)	桶天板	径22.4cm 厚1.5cm		31	38
W29	I-III	1号井戸理土2層	桶側板	長さ32.7cm 幅5.95cm 厚1.1cm	側板の持ち手	31	39
W30	I-III	1号井戸理土3層	桶天板	径29.2cm 厚さ1.5cm	焼印あり	31	38

表41 各種木製品観察表(2)
Tab.41 Notes on various wooden implements at BK14 (2)

登録番号	段階	出土場所	種類	法量	備考	図	図版
W31	I-III	1号井戸埋土3層	桶天板	長さ35.2cm 幅10.4cm 厚さ2.7cm	約1/5		31 38
W32	I-III	1号井戸埋土3層	桶側板	長さ11.0cm 幅7.5cm 厚さ0.83cm	W32~W41は同一個体か		32 38
W33	I-III	1号井戸埋土3層	桶側板	長さ11.35cm 幅6.6cm 厚さ0.85cm	W32~W41は同一個体か		32 38
W34	I-III	1号井戸埋土3層	桶側板	長さ11.4cm 幅6.98cm 厚さ0.9cm	W32~W41は同一個体か		32 38
W35	I-III	1号井戸埋土3層	桶側板	長さ11.1cm 幅7.8cm 厚さ0.75cm	W32~W41は同一個体か		32 38
W36	I-III	1号井戸埋土3層	桶側板	長さ11.2cm 幅7.4cm 厚さ1.0cm	W32~W41は同一個体か		32 38
W37	I-III	1号井戸埋土3層	桶側板	長さ11.1cm 幅3.8cm 厚さ0.8cm	W32~W41は同一個体か		32 38
W38	I-III	1号井戸埋土3層	桶側板	長さ11.1cm 幅7.0cm 厚さ0.8cm	W32~W41は同一個体か		32 38
W39	I-III	1号井戸埋土3層	桶側板	長さ11.5cm 幅3.9cm 厚さ0.75cm	W32~W41は同一個体か		32 38
W40	I-III	1号井戸埋土3層	桶側板	長さ11.1cm 幅8.9cm 厚さ0.85cm	W32~W41は同一個体か		32 38
W41	I-III	1号井戸埋土3層	桶側板	長さ11.0cm 幅3.3cm 厚さ0.7cm	W32~W41は同一個体か		32 38
W42	I-III	1号井戸埋土3層	桶天板	横24.0cm×縦23.6cm 厚さ1.5cm	定形		32 39
W43	I-III	1号井戸埋土	桶側板	長さ20.55cm 幅8.8cm 厚さ1.3cm	焼印あり W43~W45は同一個体か		32 39
W44	I-III	1号井戸埋土	桶側板	長さ22.05cm 幅7.0cm 厚さ1.1cm	W43~W45は同一個体か		33 39
W45	I-III	1号井戸埋土	桶側板	長さ33.0cm 幅6.0cm 厚さ0.9cm	側板持ち手 焼印あり W43~W45は同一個体か		33 39
W46	I-III	1号井戸埋土2層	鎌	頭長さ27.2cm 頭最大幅7.4cm 高さ24.4cm 柄長さ25.1cm 厚さ4.6cm			33 40
W47	I-III	1号井戸埋土2層	千枚通し	最大長11.0cm 刃部長4.3cm 刃部幅0.55cm 柄長6.75cm 柄幅2.7cm			34 39
W48	I-III	1号井戸埋土3層	加工木片	長さ24.6cm 幅9.0cm 厚さ1.3cm	両端部と両側面に小孔を穿孔		34 39
W49	I-III	1号井戸埋土3層	加工木片	長さ24.25cm 厚さ0.35cm 幅1.55cm	中央に間隔を空け小孔を穿孔 部品として定形		34 39
W50	I-III	1号井戸埋土3層	加工木片	長さ23.1cm 幅1.5cm 厚さ0.45cm	中央に間隔を空け小孔を穿孔		34 39
W51	IIa	3号池状遺構埋土1層	人形	長さ5.5cm 幅3.4cm 厚さ2.7cm			36 41
W52	IIa-IIb	2号井戸埋土3層	部材	長さ11.7cm 幅5.5cm 厚さ0.55cm	脛の脚小		41 44
W53	IIa-IIb	6号井戸埋土8層	串状製品	長さ7.4cm 幅0.58cm 厚さ0.3cm			43 46
W54	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	串状製品	長さ17.95cm 幅0.83cm 厚さ0.3cm			43 46
W55	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	串状製品	長さ13.0cm 幅0.6cm 厚さ0.35cm			43 46
W56	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	串状製品	長さ11.4cm 幅0.45cm 厚さ0.29cm			43 46
W57	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	串状製品	長さ11.1cm 幅1.0cm 厚さ0.28cm			43 46
W58	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	串状製品	長さ16.0cm 幅0.4cm 厚さ0.25cm			43 46
W59	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	串状製品	残存長10.1cm 幅0.6cm 厚さ0.35cm			43 46
W60	IIa-IIb	6号井戸埋土	串状製品	残存長10.25cm 幅0.64cm 厚さ0.19cm			43 46

表42 各種木製品観察表(3)
Tab.42 Notes on various wooden implements at BK14 (3)

登録番号	段階	出土場所	種類	法量	備考	図	図版
W61	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土11層	円板状木製品	直径7.7cm 厚さ0.85cm			43 46
W62	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土	柄状木製品	長さ9.5cm 幅2.8cm 厚さ1.9cm	柄杓の部品。先端部に不整形な穴が貫通		43 46
W63	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土	不明	長さ5.6cm 幅5.05cm 厚さ1.55cm	両側面に釘あり		43 46
W64	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土11層	栓	長さ6.65cm 最大幅2.05cm 厚さ1.88cm			43 46
W65	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土11層	木釘	長さ2.6cm 頭幅0.4cm			43 46
W66a	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土11層	墨書ある木製品	長さ7.5cm 残存幅4.0cm 厚さ0.68cm	内面に「フ」の文字「寅」のくずし字		43 46
W66b	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土11層	墨書ある木製品	長さ4.3cm 残存幅2.5cm 厚さ0.68cm	外面割読不明文字あり		43 46
W67	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土11層	折敷	長さ9.1cm 幅1.8cm 最大幅2.0cm 厚さ0.48cm			44 47
W68	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土11層	折敷	残存長7.8cm 幅1.8cm 最大幅2.05cm 厚さ0.45cm 最大厚0.55cm			44 47
W69	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土11層	折敷	長さ4.6cm 幅1.95cm 厚さ0.4cm 最大厚さ0.45cm			44 47
W70	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土	折敷	長さ9.2cm 幅1.85cm 厚さ0.6cm			44 47
W71	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土10層	部材	長さ15cm 幅1.15cm 厚さ0.7cm			44 47
W72	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土10層	部材	長さ12.2cm 幅1.1cm 厚さ0.6cm	両端部に2箇所穿孔 一方のみ貫通		44 47
W73	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土10層	部材	長さ8.5cm 幅4.0cm 厚さ1.3cm			44 47
W74	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土10層	不明	長さ8.0cm 幅1.05cm 高さ1.6cm	台座状の木製品		44 47
W75	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土10層	部材	長さ7.8cm 幅2.1cm 厚さ0.55cm			44 47
W76	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土11層	部材	長さ31.5cm 幅1.0cm 厚さ0.85cm			44 47
W77	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土11層	部材	長さ49.0cm 幅2.65cm 厚さ1.1cm	端部に軸と小穴あり		44 47
W78	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土10層	ヘラ状木製品	長さ12.35cm 最大幅4.7cm 角厚さ1.0cm	部分的に炭化		44 47
W79	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土11層	ヘラ状木製品	長さ24.3cm 最大幅4.6cm 厚さ1.1cm	部分的に炭化		44 47
W80	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土	ヘラ状木製品	長さ22.3cm 幅2.55cm 厚さ0.15cm			44 47
W81	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土	ヘラ状木製品	長さ23.8cm 幅2.4cm 厚さ0.25cm	端部に三角形の穴あり		44 47
W82	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸理土	ヘラ状木製品	長さ26.0cm 最大幅4.12cm 厚さ0.15cm			44 47
W83	Ⅱb	1号池状遺構理土2層	楡天板	径16.0cm 厚さ1.4cm	焼印あり		50 52
W84	Ⅲ	4号井戸理土5層	楡面板	長さ17.2cm 幅5.5cm 厚さ1.2cm			63 69

表43 下駄観察表
Tab.43 Notes on wooden clogs at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	法量 (cm)	残存状況	図	図版
W85	I	2号池状遺構埋土2層	連南下駄	長さ22.5cm 幅8.6cm 高さ3.7cm	一部欠損	6	8
W86	I	2号池状遺構埋土2層	連南下駄	長さ21.5cm 幅8.5cm 高さ4.4cm	ほぼ完形	6	8
W87	I	2号池状遺構埋土2層	連南下駄	長さ21.6cm 幅8.7cm 高さ2.9cm	一部欠損	6	8
W88	I	2号池状遺構埋土2層	差南下駄	長さ23.2cm 幅8.2cm 高さ3.1cm	本体は完形 歯は無し	6	8
W89	I	2号池状遺構埋土2層	差南下駄	長さ約23.1cm 幅8.0cm 高さ3.1cm	9割方残存	6	8
W90	I	2号池状遺構埋土2層	差南下駄	長さ17.5cm 幅6.3cm 高さ3.6cm	ほぼ完形	6	8
W91	I	2号池状遺構埋土2層	無南下駄	長さ18.5cm 幅6.7cm 高さ2.75cm	ほぼ完形	7	8
W92	I	2号池状遺構埋土2層	無南下駄	長さ8.8cm 幅6.0cm 高さ1.5cm	約1/2程残存	7	8
W93	I	2号池状遺構埋土3層	連南下駄	長さ21.9cm 幅9.4cm 高さ3.6cm	約9割程残存	7	8
W94	I	2号池状遺構埋土3層	連南下駄	長さ23.0cm 幅3.6cm 高さ3.5cm	約1/3程残存	7	9
W95	I	5号井戸埋土	歯(差南下駄)	長さ5.8cm 幅6.4cm 厚さ1.6cm	約9割程残存	19	23
W96	IIa-IIb	6号井戸埋土8層	歯(差南下駄)	長さ10.8cm 幅7.6cm 厚さ2.1cm	約1/3程残存	45	48
W97	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	連南下駄	長さ22.0cm 幅9.7cm 高さ4.2cm	約7割程残存	45	48
W98	IIa-IIb	6号井戸埋土	連南下駄	長さ17.8cm 幅6.6cm 高さ5.4cm	約9割程残存	45	48
W99	IIa-IIb	6号井戸埋土	連南下駄	長さ21.8cm 幅9.3cm 高さ3.3cm	約9割程残存	45	48
W100	IIa-IIb	6号井戸埋土	連南下駄	長さ22.1cm 幅9.5cm 高さ4.3cm	完形	45	48

表44 楔観察表
Tab.44 Notes on wooden implements shaped wedge at BK14

登録番号	段階	出土場所	残存状況	法量	図	図版
W101	I	2号池状遺構埋土2層	完形	長さ12.6cm 幅3.3cm 厚さ1.8cm	8	9
W102	IIa-IIb	6号井戸埋土8層	完形	長さ13.4cm 幅3.0cm 厚さ2.6cm	45	48
W103	IIa-IIb	6号井戸埋土10層	ほぼ完形	長さ14.1cm 幅3.0cm 厚さ2.4cm	45	48
W104	IIa-IIb	6号井戸埋土10層	ほぼ完形	長さ14.6cm 幅3.0cm 厚さ2.1cm	45	48
W105	IIa-IIb	6号井戸埋土10層	完形	長さ8.9cm 幅3.0cm 厚さ2.3cm	45	48
W106	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	完形?	長さ8.1cm 幅3.1cm 厚さ1.9cm	46	48
W107	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	完形	長さ11.8cm 幅3.1cm 厚さ2.6cm	46	48
W108	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ11.3cm 幅2.8cm 厚さ2.5cm	46	48
W109	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ15.4cm 幅2.4cm 厚さ3.5cm	46	48
W110	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ6.9cm 幅2.8cm 厚さ1.6cm	46	48
W111	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ9.9cm 幅2.9cm 厚さ2.1cm	46	48
W112	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ14.4cm 幅3.0cm 厚さ2.2cm	46	48
W113	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ12.6cm 幅2.8cm 厚さ2.4cm	46	49
W114	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ13.1cm 幅2.7cm 厚さ2.0cm	46	49
W115	IIa-IIb	6号井戸埋土	完形	長さ11.6cm 幅1.7cm 厚さ2.0cm	46	49
W116	IIa-IIb	6号井戸埋土	完形	長さ14.3cm 幅2.9cm 厚さ2.4cm	46	49

表45 箸観察表
Tab.45 Notes on wooden chopsticks at BK14

登録番号	段階	出土場所	先端形状		全長mm	最大径mm	整形の度合い	国	国産
W117	I	2号池状道溝埋土2層	A	A	239	6.1	普	8	9
W118	I	2号池状道溝埋土2層	A	A	232	5.0	普	8	9
W119	I	2号池状道溝埋土2層	A	A	228	4.5	良	8	9
W120	I	2号池状道溝埋土2層	A	A	229	5.3	良	8	9
W121	I	2号池状道溝埋土2層	A	A	234	7.0	良	8	9
W122	I	2号池状道溝埋土2層	A	B	234	5.2	良	8	9
W123	I	2号池状道溝埋土2層	A	A	236	6.0	普	8	9
W124	I	2号池状道溝埋土2層	B	B	234	5.0	普	8	9
W125	I	2号池状道溝埋土2層	B	B	240	5.0	良	8	9
W126	I	2号池状道溝埋土3層	B	B	236	5.6	良	8	9
W127	I	2号池状道溝埋土2層	E	-	126.5	5.6	良	8	9
W128	I	2号池状道溝埋土2層	B	-	62	4.5	普	8	9
W129	I	2号池状道溝埋土2層	C	-	50	4.5	普	8	9
W130	I	2号池状道溝埋土2層	C	-	90	6.0	良	8	9
W131	IIa-IIb	6号井戸埋土8層	C	-	91	6.0	普	46	49
W132	IIa-IIb	6号井戸埋土10層	A	A	217	7.0	粗	46	49
W133	IIa-IIb	6号井戸埋土10層	A	A	242	6.0	普	46	49
W134	IIa-IIb	6号井戸埋土10層	A	A	238	5.5	普	46	49
W135	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	A	A	241	6.0	良	46	49
W136	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	A	A	241	5.5	普	46	49
W137	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	A	A	234	6.5	普	47	49
W138	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	A	A	240	5.5	粗	47	49
W139	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	A	A	240	5.0	普	47	49
W140	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	A	A	237	5.0	良	47	49
W141	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	A	A	235	6.0	普	47	49
W142	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	A	A	235	6.8	普	47	49
W143	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	A	E	203	3.5	普	47	49
W144	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	A	D	108	6.3	普	47	49
W145	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	C	-	100	6.0	普	47	49
W146	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	C	-	78.5	5.2	普	47	49
W147	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	C	-	51.8	3.5	普	47	49
W148	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	E	-	55	6.2	良	47	49
W149	IIa-IIb	6号井戸埋土	E	-	115	6.0	普	47	49
W150	IIa-IIb	6号井戸埋土	F	-	151	6.0	普	47	49
W151	IIa-IIb	6号井戸埋土	C	-	80	5.0	普	47	49
W152	IIa-IIb	6号井戸埋土	A	A	240	6.8	普	47	49
W153	IIa-IIb	6号井戸埋土	A	A	235	7.0	普	47	49
W154	IIa-IIb	6号井戸埋土	A	A	234	6.5	普	47	49
W155	IIa-IIb	6号井戸埋土	E	-	188	6.0	普	47	49

表46 木簡観察表
Tab.46 Notes on wooden tablets at BK14

登録番号	段階	出土場所	型式	孔	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	記載事項(表)	記載事項(裏)	国	国産
WT1	I	2号池状道溝埋土2層	019	-	97	2.05	0.12	□〔豆力〕五斗入		9	10
WT2	I	2号池状道溝埋土2層	019	-	140	1.9	0.05	・「□□〔正徳令〕三年	・「□〔御力〕用□〔合力〕□□	9	10
WT3	I	2号池状道溝埋土2層	019	-	133	1.81	0.09	・正徳三年	・□□金御下	9	10
WT4	I	2号池状道溝埋土3層	081	-	219	1.1	0.1	・□	・□	9	10
WT5	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	051	-	168	2.0	0.6	・「木□〔榑力〕様□□	・「□□〔所力〕金□〔屋力〕 □〔榑力〕野□□〔新兵器力〕	43	46
WT6	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	011-c	-	146	2.5	0.45	「□□□ □□□」		43	46
WT7	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	081	-	7.0	1.5	0.05	墨書不明	墨書不明	43	46

表47 漆塗製品 (椀) 観察表
Tab.47 Notes on wooden bowl with lacquer at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	形態分類	法量cm				漆の色			高台内文字	文様	図	図版
					口径	底径 柄径	器高	高台 高挿高	内面	外面	高台内				
WL1	I	2号池状遺構埋土2層	身	B2a類	-	5.8	-	2.2	赤	赤	黒	黒(赤)角に文字か	跡は「間」と読める可能性もあるが不明	9	10
WL2	I	2号池状遺構埋土2層	身	B2b類	-	-	-	-	赤	赤	赤	黒(金)文字か	漆膜の剥がれ著しい	9	10
WL3	I	2号池状遺構埋土2層	身	C2b類	10.5	5.0	3.1	0.6	赤	赤	黒	黒(赤)文字か	「みはり」と読める可能性もあるが不明蓋の可能性あり	9	10
WL4	I	2号池状遺構埋土2層	身	C2b類	-	-	-	-	赤	赤	黒			9	10
WL5	I	10号遺構埋土2層	蓋	-	-	-	-	-	黒	黒	黒			15	16
WL6	I-III	7号遺構埋土	身	B1a類	(12.7)	6.3	(7.5)	1.9	黒	黒	黒		文様(赤):植物文	26	34
WL7	I-III	1号井戸埋土2層	身	B1a類	12.0	5.7	9.1	2.1	赤	黒	黒		文様(赤):家紋3ヶ所「丸に右車ね違い鷹の羽」ほぼ定形	34	40
WL8	I-III	1号井戸埋土2層	身	B1a類	(12.6)	5.8	(8.5)	1.9	赤	黒	黒		文様(赤):家紋3ヶ所「左三巴」	34	40
WL9	I-III	1号井戸埋土2層	身	B1a類	(11.5)	(5.5)	(7.6)	-	赤	黒	黒		文様(金):家紋3ヶ所「中陰鳥」	34	40
WL10	I-III	1号井戸埋土2層	身	B1a類	11.9	5.5	8.7	2.1	赤	黒	黒		文様(金):松竹梅文ほぼ定形	34	40
WL11	I-III	1号井戸埋土2層	蓋	-	-	5.0	-	0.8	赤	黒	黒		文様(金):植物文(牡丹か)WL14と同文様	34	40
WL12	I-III	1号井戸埋土2層	蓋	-	10.3	5.0	3.6	0.8	黒	黒	黒		文様なし	35	40
WL13	I-III	1号井戸埋土2層	蓋	-	-	(6.1)	-	-	赤	黒	黒		文様なし ほぼ定形	35	40
WL14	I-III	1号井戸埋土3層	身	B1b類	-	-	-	-	赤	黒	黒		文様(金):植物文(牡丹か)WL12と同文様	-	40
WL15	I-III	1号井戸埋土2層	身	B1b類	-	-	-	-	赤	黒	黒		文様(金):家紋系丸文3ヶ所 蓋の可能性あり	-	40
WL16	IIa-IIb	2号井戸埋土2層	蓋	-	8.1	4.5	1.8	0.4	赤	黒	黒		文様なし やや小振り	41	44
WL17	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	身	B2a類	-	(5.8)	-	-	赤	赤	黒	黒(赤)「田中」	体部に後縁を持つ器形	47	50
WL18	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	身	C3類	11.6	5.9	5.5	1.0	赤	赤	赤		体部に後縁2状(面取り)のある器形	47	50
WL19	IIa-IIb	6号井戸埋土	身	B1a類	(11.3)	5.7	(8.8)	2.3	赤	黒	黒		文様なし	47	50
WL20	IIa-IIb	6号井戸埋土	身	B2b類	11.5	(5.5)	(5.0)	-	赤	赤	赤		文様なし	47	50
WL21	IIa-IIb	6号井戸埋土	不明	漆膜のみ	-	-	-	-	赤	赤	黒	黒(赤)文字「五兵へ」	漆膜のみ残存	-	50
WL22	IIb	1号池状遺構埋土2a層	身	C1b類	10.9	-	-	-	赤	黒	黒?		文様(銀か):家紋系丸文3ヶ所 漆の剥がれ著しい蓋の可能性もあり	50	52
WL23	III	14号遺構埋土	身	B1b類かC1b類	-	-	-	-	赤	黒	黒		文様(赤):菊花文か	55	59

表48 漆塗製品 (椀以外) 観察表
Tab.48 Notes on wooden implements with lacquer at BK14

登録番号	段階	出土場所	器種	漆の色		法量	備考	図	図版
				外面	内面(裏)				
WL24	I	2号池状遺構埋土2層	曲物	黒	-	幅1.3cm 厚さ0.1cm	底水に菊文(銀か) 曲物の一部 外面のみ漆塗	9	10
WL25	I	2号池状遺構埋土	箱状製品	黒	塗りなし	長さ27.8cm 幅10.5cm 厚さ0.6cm	箱状製品の側板部分 一面は漆塗で表面に斜方向の傷 箱底に縦むす部分には塗りなく小孔あり 他面は塗りなし	9	11
WL26	I	2号池状遺構埋土	酒状製品	赤	-	径0.7cm	部分的に赤漆塗 著の端面は残存しない	9	10
WL27	I	4号池状遺構埋土5層	円板	黒	黒	径10.1cm 厚さ0.8cm	内外面とも漆の残存はわずか	14	14
WL28	I	4号池状遺構埋土	取手	黒	黒	長さ20.2cm 幅4.0cm 厚さ1.5cm	楕の取手部分 焼印?あり 漆でなく下地塗のみ残存か	14	14
WL29	IIa-IIb	6号井戸埋土11層	不明 棒状製品	黒	-	-	漆膜のみ部分的に残存 黒漆地に金・赤で帯状の彩色	47	49

表49 古銭観察表
Tab.49 Notes on coins at BK14

登録番号	段階	出土場所	銭名	外径 (mm)	穿径 (mm)	重量 (g)	備考	国	図版
MC1	I	2号池状遺構埋土2層	不明	-	-	-	ごく部分的に残存 錆化顕著	-	-
MC2	I	2号池状遺構埋土5層	寛永通寶	-	-	-	3/4欠損「通」のみ残存 錆化顕著	10	11
MC3	I	4号池状遺構埋土5層	寛永通寶	24.3	-	-	2/3欠損「通」のみ残存	14	15
MC4	I	3号溝埋土2層	不明	-	-	-	ごく部分的に残存 錆化顕著	-	-
MC5	I	ピット70埋土1層	寛永通寶(古寛永)	24.0	6.0	2.3	定形	20	25
MC6	I-Ⅱb	16号遺構埋土2層	不明	-	-	-	ごく部分的に残存 錆化顕著	-	-
MC7	I-Ⅲ	5号建物柱3	寛永通寶(古寛永)	23.7	6.0	4.7	MC7・MC8は2枚が符合わせて出土 錆化顕著	25	33
MC8	I-Ⅲ	5号建物柱3	寛永通寶(古寛永)	23.9	5.5	-		25	33
MC9	I-Ⅲ	1号井戸埋土2層	寛永通寶(新寛永)	-	-	-	7/8欠損「通」のみ残存	35	40
MC10	Ⅱa-Ⅱb	2号井戸埋土3層	寛永通寶(新寛永・文)	25.0	6.0	3.1	背文「文」	41	44
MC11	Ⅱa-Ⅱb	2号井戸埋土3層	寛永通寶	-	-	-	3/4欠損「永」のみ残存	41	44
MC12	Ⅱa-Ⅱb	2号井戸埋土3層	寛永通寶(新寛永)	23.2	6.0	3.0	定形	41	44
MC13	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸埋土11層	寛永通寶(古寛永)	24.0	6.0	-	1/3欠損「通」文字欠損	47	49
MC14	Ⅱb	1号池状遺構埋土2b層	寛永通寶(古寛永)	24.5	6.0	3.2	定形 錆化顕著	50	52
MC15	Ⅲ	25号遺構埋土1層	洗米銭(□元通□)	-	-	-	1/2欠損	57	60
MC16	Ⅲ	66号遺構埋土3層	仙源通寶	22.0	7.0	2.3	鉄銭 撫角銭天明四(1784)年以降5年間銭	-	66
MC17	Ⅲ	71号遺構埋土1層	洗米銭(永東□貫)	-	-	-	1/2欠損 錆化顕著	-	68
MC18		基本層2a-2層	寛永通寶(新寛永)	24.4	6.0	3.4	定形 ハネ「永」筆流銭か	66	73
MC19		基本層2a-2層	洗米銭(祥□□貫)	-	-	-	1/2欠損 錆化顕著	-	73
MC20		基本層1層	寛永通寶(古寛永)	23.7	6.0	-	2/3残存 錆化顕著	69	76
MC21		基本層1層	寛永通寶(古寛永)	23.9	5.5	-	一部欠損	69	76
MC22		基本層1層	寛永通寶(新寛永・文)	24.9	6.0	3.3	定形 背文「文」	69	76
MC23		基本層1層	寛永通寶(古寛永)	24.3	6.0	2.6	MC23~28 6枚重なって出土 いずれも定形	70	76
MC24		基本層1層	寛永通寶(古寛永)	25.7	6.2	2.7		70	76
MC25		基本層1層	寛永通寶(新寛永・文)	25.0	6.0	3.4		70	77
MC26		基本層1層	寛永通寶(古寛永)	24.5	6.0	4.0		70	77
MC27		基本層1層	寛永通寶(古寛永)	24.3	6.0	3.0		70	77
MC28		基本層1層	寛永通寶(古寛永)	24.5	6.3	4.0		70	77
MC29		基本層1層	寛永通寶	-	6.0	-	一部欠損 錆化顕著 文字摩滅	-	77
MC30		基本層1層	1セントコイン	18.9	-	2.9	[ONE CENT UNITED STATES OF AMERICA E PLURIBUS UNUM] [IN GOD WE TRUST LIBERTY 1952]	-	77

表50 煙管首観察表
Tab.50 Notes on pipes (stems and bowls) at BK14

登録番号	段階	出土場所	全体形状	火皿形状	接合方法	首部分目	全長 (mm)	火皿直径 (mm)	ラウ口直径 (mm)	備考	国	図版
MO1	Ⅱa	3号池状遺構埋土1層	I C類	1a類	1類	右	49.0	12.5	11.0	ラウ残存	36	41
MO2	Ⅱa-Ⅱb	6号井戸埋土10層	-	2a類	-	-	-	26.8×20.0	-	火皿のみ 煙管以外の可能性あり	48	49
MO3		基本層1層	ⅡB類	2a類	3類	左	55.0	14.0×10.8	11.8	火皿差みあり 縦筋文様あり	70	77
MO4		基本層1層	-	2a類	3類	-	-	18.2×15.8	-	火皿のみ	70	77
MO5		基本層1層	-	1a類	-	-	-	15.6	-	火皿のみ	70	77

表51 煙管吸口観察表
Tab.51 Notes on pipes (mouthpieces) at BK14

登録番号	段階	出土場所	全体形状	全長 (mm)	ラウ口直径 (mm)	吸口直径 (mm)	備考	図	図版
MO6	I	2号池状遺構埋土3層	II B類	-	9.0	-	吸口潰れあり	10	11
MO7	I	4号池状遺構埋土5層	I B類	39.5	9.3	4.4		14	15
MO8	I	4号池状遺構埋土8層	I B類か	46.6	7.0	-	吸口潰れあり	14	15
MO9	II a - II b	2号井戸埋土3層	II B類	38.1	6.8	-	吸口欠損あり	41	44
MO10	II a - II b	2号井戸埋土3層	II B類	67.6	8.5	3.2		41	44
MO11	II a - II b	6号井戸埋土4層	II B類	48.0	-	4.0	ラウ口欠損あり	48	49
MO12	III	48号遺構埋土1層	II B類	39.9	12.4	6.3		60	61

表52 その他の銅製品観察表
Tab.52 Notes on various implement made by copper at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	特徴・法量など	図	図版
MO13	I	4号池状遺構埋土8層	鉢か	残存口径約12cm 器高8.3cm 厚5.01cm 外面に小紋胡麻状の文様と菱状の文様を帯状に配する 歪みが大きく、底部は欠損	14	15
MO14	II a	3号池状遺構埋土1層	火箸か	長さ16.8cm 径0.2cm	36	41
MO15	III	31号遺構埋土1層	火箸か	最大径1.0cm 竹節状のモチーフ 合わせ目があり、内部は中空	59	63
MO16		基本層1層	銅筒か	残存口径約11.9cm 厚さ0.1cm 器高5.1cm 小紋菱状の文様を帯状に配する口縁部に小孔1ヶ所 腐食による欠損が著しい	70	77

表53 鉄製品観察表
Tab.53 Notes on various implement made by iron at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	法量・特徴	図	図版
MO17	I	2号池状遺構埋土2層	小柄か	幅1.0cm 厚さ1.8mm	10	11
MO18	I	2号池状遺構埋土2層	鉄	最大幅1.1cm 厚さ4.8mm	10	11
MO19	I	2号池状遺構埋土2層	篋丁か	残存長27.2cm 最大幅3.2cm 厚さ3.7mm	10	11
MO20	I	2号池状遺構埋土2層	鉄	推定径約12cm 厚さ2.7mm	10	11
MO21	I	2号池状遺構埋土3層	虎口	長さ4.2cm 最大幅1.3cm	10	11
MO22	I	4号池状遺構埋土7層	篋	残存長7.0cm 最大幅0.3cm 厚さ1.7mm 一端は欠損	14	14
MO23	I	4号池状遺構埋土5層	帯状金具	残存長6.9cm 幅1.2cm 厚さ1.4mm 小孔1ヶ所あり	14	14
MO24	II a - II b	2号井戸埋土6-19 (掘方)	不明	調度部品か 釘留めのような小孔2ヶ所あり	41	44
MO25	II a - II b	6号井戸埋土8層	刃物	残存長14.0cm 刃部厚さ25mm 柄部厚さ15mm 木製の柄付	48	50
MO26	II a - II b	6号井戸埋土10層	刃物	残存長12.5cm 最大幅1.0cm 厚さ2.0mm	48	50
MO27	II b - III	65号遺構埋土1層	柄か	推定口径16.0cm 厚さ2.3mm	54	56
MO28	III	20号遺構埋土1層	小柄か	幅1.9cm 厚さ3.2mm	56	58

表54 その他の遺物観察表
Tab.54 Notes on various implements at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	法量	特徴	図	図版
VA1	I	2号池状遺構埋土2層	ボタン	径1.2cm 厚さ0.4cm	木製 山高型 2つ穴	11	11
VA2	I	2号池状遺構埋土2層	装飾部品	長さ25cm 1.8cm 厚さ0.1cm	龍甲製 2カ所に小孔あり 表面に並行筋状の使用痕あり	11	11
VA3	I	2号池状遺構埋土3層	ウリ科 ヒョウタン属	最大長17.1cm 最大幅10.9cm 厚さ0.2-0.3mmで不均質	第VI章3参照	-	11
VA4	I	2号池状遺構埋土5層	箸	最大長103.0cm 最大幅50.2cm	第VI章3参照4参照	-	12
VA5	I	4号池状遺構埋土5層	網代	最大長17.2cm 最大幅10.5cm	第VI章4参照	-	15
VA6	I - II b	26号遺構埋土2層	鉄洋	重さ226.8g		-	30
VA7	II a - II b	2号井戸埋土3層	縄状繊維	最大径1.5mm 最大長26cm	第VI章4参照	-	44
VA8	II a - II b	6号井戸埋土10層	眉道具か	残存長2.5cm 幅1.0cm 厚さ0.1cm	龍甲製 両面に金彩による装飾あり	48	49
VA9	II a - II b	6号井戸埋土11層	種子の加工品	長さ22cm 幅1.5cm 厚さ1.2cm	モモの種子 小孔1カ所あり 種子の両端は切断されている 中空第VI章2参照	48	49
VA10	II a - II b	6号井戸埋土11層	ボタン	径1.4cm 厚さ0.3cm	木製 山高型 1つ穴?	48	49

表55 石器・石製品観察表
Tab.55 Notes on stone tools and stone implements at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	器高 (g)	特徴	図	図版
S1	I	2号池状遺構 埋土1層	磨製 石斧	砂岩	67	43	29	1104	刃部は欠損し基部のみ残存 表面・背面に最打痕 他は丁寧に磨かれる 背面は最打 によって磨き、整えられ、折れによる副次的な割れが裏面あり、表から裏への折れか	10	11
S2	I	2号池状遺構 埋土1層	礫石	粘板岩	-	-	6.3	2.9	長径18.6 短径16.0	-	11
S3	I	2号池状遺構 埋土2層	火打石	石英	25	19	10	3.3	頂点付近に重複した打撃痕・潰れ 表面は潤滑面より火打石本体からの潤滑物か	10	11
S4	I	2号池状遺構 埋土2層	火打石	石英	38	33.5	17	11.9	表面の縁辺から求心的潤滑 表面は結晶構造面残存	10	11
S5	I	2号池状遺構 埋土2層	火打石	石英	18	17.5	15	3.4	火打石の欠片	10	11
S6	I	2号池状遺構 埋土2層	紡錘車	凝灰岩	18	14.5	6	0.9	ドーナツ状の紡錘車 周縁に放射状の刻線 表面には整形時の不明瞭な削り痕あり	10	11
S7	I	2号池状遺構 埋土2層	礫石	粘板岩	-	-	5.5	3.2	長径20.9 短径20.3	-	11
S9	I	2号池状遺構 埋土2層	礫石	砂岩	78	36	37	145.7	使用時に発生した潤滑あり 下縁は潤滑後の研削が観察される 欠損後も使用か	10	11
S10	I	2号池状遺構 埋土4層	石礫	凝灰岩	27	19.5	3	0.8	凹形 両面押し潤滑による整形 縁辺の形状・断面形ともに不規則 左 の差刻は破損 指想的な衝刺潤滑ではない 整形時の破損の可能性あり	10	11
S11	I	2号池状遺構 埋土4層	礫石	粘板岩	-	-	5.9	3.3	長径20.8 短径17.7	-	11
S12	I	2号池状遺構 埋土5a層	礫石	砂岩	80	43	23.5	117.7	長方形の両端が欠損 表面には長軸方向・斜行の擦痕 下縁は砥面として利用か	10	11
S13	I	2号池状遺構 埋土5a層	礫石	粘板岩	-	-	1.6	0.4		-	11
S14	I	4号池状遺構 埋土7層	礫石	粘板岩	-	-	3.9	4.9	長径28.5 短径25.7	-	15
S15	I	4号池状遺構 埋土8層	礫石	粘板岩	-	-	5.25	2.8	長径19.2 短径17.8	-	15
S16	I	12号遺構 埋土6層	火打石	石英	30	30.5	23	21.9	不規則な潤滑・砥理面により構成 鋭角の縁辺・縁線上に集中的打撃 による細かな潤滑・つぶれ 面素材分別を示す溝もある	16	17
S17	I	39号遺構 埋土3層	礫石	粘板岩	-	-	6.2	2.2		-	19
S18	I	42号遺構 埋土1層	礫石	粘板岩	-	-	4.9	3.8	長径26.0 短径19.5	-	20
S19	I	3号溝 埋土2層	礫石	泥岩	50	49.5	11	29.9	表面の凹凸面に粗い擦痕 上下端は破損	18	22
S20	I-III	1号井戸 埋土2層	チップ	頁岩	10	9.5	3.5	0.2	背面に対向潤滑、腹面の打点付近に潤滑時に砕けた痕跡潤滑後の 二次加工なし	35	40
S21	I-III	1号井戸 埋土2層	火打石	石英	36	36.5	30	40.2	不規則な潤滑面の多面体 縁線に多度の打撃による細かな潤滑・ つぶれ・摩滅 表面は砥理面を保持し、打つ・擦る動作を想定	35	40
S22	IIa	5号溝 埋土1a層	礫	粘板岩	-	-	-	47.1		-	42
S23	IIa	5号溝 埋土1b層	礫	粘板岩	153	64	22	225	除部中央に使用による凹みあり 基部の端に縁線あり 表面には銀刻文字（記号？）あり	39	42
S24	IIa	5号溝 埋土1層	礫石	粘板岩	-	-	3	1.9	長径22.0 短径21.8	-	42
S25	IIa-IIb	9号遺構 埋土1層	石臼	安山岩	214	107	94	3430	下臼（環臼）8分画に放射状溝あり 裏面受け部分に意図的に打ち欠いたか 裏面 と裏縁面は強く磨滅 裏面内部は形状の付着物残存 縁部の穴は正方形 裏面の6分画	40	43
S26	IIa-IIb	2号井戸 埋土2層	火打石	石英	20	16	6	1.5		41	44
S27	IIa-IIb	6号井戸 埋土6層	潤片	凝灰岩	18	32	5	2.6	長い縁辺両面に使用時の不規則な微細潤滑痕	48	50
S28	IIa-IIb	6号井戸 埋土8層	火打石	玉髄	24.5	23	16	9.2	裏面自然面 周縁・背面縁線上に打撃によるつぶれ・微細潤滑	48	50
S29	IIa-IIb	6号井戸 埋土8層	礫石	粘板岩	-	-	2.9	0.7		-	50
S30	IIa-IIb	6号井戸 埋土11層	火打石	石英	33	16.5	13	9.9	単品六角柱形を呈す石英の自然結晶（水晶）を素材 底面・先端に意図的打ち欠き潤滑	48	50
S31	IIa-IIb	6号井戸 埋土1層	火打石	石英	28	18	10.5	4.1	縁辺に打撃が繰り返され、両面に潤滑痕 凹形縁から分割か	48	50
S32	IIb	1号池状遺構 埋土2a層	礫	粘板岩	128	61	19	206.4	縦背に「高島上」の縦刻 表面擦痕あり 裏面の中央部は凹みあり	50	52
S33	IIb-III	50号遺構 埋土1層	礫石	粘板岩	-	-	3.6	2.2	長径22.5 短径22.4	-	57
S8	III	48号遺構 埋土3層	磨製の ある礫	安山岩	80.5	59	35	254.1	不明瞭な擦痕と摩滅痕	60	61
S34	III	ピット290 埋土1層	火打石	石英	25	17	10.5	4.2	縁辺上に打撃痕・潰れあり	64	71
S35	基本層2b層	礫	粘板岩	56	53	19	75.6	裏面に製作時の削り痕 折れ面は再加工（削り？）され、 破損後も使用か 除部半分は意図的に切断したか	67	74	
S36	基本層1層	礫石	粘板岩	-	-	4	2.3			70	77
S37	基本層1層	礫	粘板岩	76	70	12	110.5	両面に僅かな潤滑 長径21.0 短径17.0 基部含む上半分が欠損 除部に長軸と直行する擦痕・縦線痕	70	77	
S38	基本層1層	礫	粘板岩	124	65	20.5	31.5		除部中央に擦痕・窪みあり 側面に直線的擦痕あり背面縁刻（環女堂 黒 鹿湯 意匠上巴 白鳥堂）横線、凹部、縦背に部分的に非規整形	70	77
S39	基本層1層	礫石	粘板岩	-	-	5.9	4.9		長径24.5 短径22.0	-	77
S40	基本層1層	礫石	粘板岩	-	-	5.6	3.5		長径25.2 短径17.6	-	77

第VI章 分析

1. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点から出土した動物遺存体

丸山真史 (東海大学)

(1) 動物遺存体の概要

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14次調査において、380点以上の動物遺存体が出土している(表57)。それらのうち種類や部位などを同定したものは貝類11点、魚類116点、両生類13点、鳥類18点、哺乳類43点、計201点を数える(図71)。少量であるが、解体痕や被熱痕がみられるものも含まれる。これらが出土した遺構は、溝1条、池状遺構3基、井戸4基、廃棄土坑4基であり、調査中に肉眼で確認して取り上げたものと1mm目ないし3mm目のフルイを用いて遺構土壌の水洗選別を行って採集した資料である。

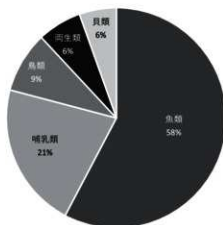


図71 動物遺存体の組成 (N=201)
Fig.71 Assemblage of animal remains (N=201)

(2) 遺構別の動物遺存体 (図版78・79)

【3号溝】1mm目のフルイを用いて埋土1層の土壌の水洗選別を行ったが、種類が判明しなかった哺乳類の骨片が1点のみ出土している。

【1号池状遺構】貝類はホタテ(右)1点を同定した。このほか種類不明の巻貝、二枚貝の殻皮が多数出土している。哺乳類は完存するシカの脛骨(右)1点を同定し、最大長(GL)315.5mm、近位端最大幅(Bp)55.1mm、遠位端最大幅(Bd)37.9mm、骨幹部最小幅(SD)25.5mmを測る。

【2号池状遺構】貝類はアカニシ3点、マガキ(左1右1)2点、イタボガキ科1点、計6点を同定した。アカニシは体層が穿孔され、殻口付近が打ち割られたものが1点含まれている。これらのほか、種類不明の巻貝の蓋6点、イタボガキ科と思われる小片2点が出土している。魚類はマダイが最も多く、椎骨9点、歯骨(右)3点など、計21点を同定した。前頭骨には正中方向に真二つに切断されたものがある。いずれも体長30cm以上であり、30~40cm程度のもが多く、40~50cm、50~60cmと推定される個体が1点ずつある。また、30~40cmと推定される椎骨7点は同一個体と考えられるものが含まれており、そのなかの最も尾側にあたる尾椎は切断されている。タイ科の遊離歯と基後頭骨が1点ずつ、計2点を同定した。カツオの椎骨1点を同定し、体長50cm前後と推定される。マグロ族(マグロ属/カツオ属)の椎骨4点を同定し、うち3点はマグロ属に類似する。体長50cm以上で1mには満たないと推定される。カレイ科の椎骨4点を同定し、いずれも体長30~40cmと推定される。マダラの椎骨3点を同定し、いずれも体長60cm以上と推定される。これらのほかに、スズキ属、マダイ、マグロ属と思われるものが1点ずつ、さらに種類不明の骨片が28点出土している。両生類はカエル類の寛骨(左)、踵骨・距骨(左)、大腿骨?が1点ずつ、計3点が出土している。鳥類はカモ科が最も多く、尺骨(左2右2)4点、手根中手骨(右)、上腕骨(左1右1)、橈骨(左1右1)、手根中手骨(右)が2点ずつなど、計14点を同定した。いずれもマガモないしコガモに相当する大きさである。コガモに相当する大きさの7点のうち、左の上腕骨・橈骨・尺骨、右の橈骨・尺骨が同一個体、右の脛足根骨・足根中足骨が同一個体と考えられる。

表56 動物遺存体種名表
Tab.56 List of identified species

軟体動物門 Mollusca	カレイ目 Pleuronectiformes
腹足綱 Gastropoda	ヒラメ科 Bothidae
新腹足目 Neogastropoda	ヒラメ <i>Paralichthys olivaceus</i>
アッキガイ科 Muricidae	カレイ科 Pleuronectidae
アカニシ <i>Rapana venosa</i>	カレイ科の一種 Pleuronectidae gen. et sp. indet.
エゾバイ科 Buccinidae	ウシノシタ科 Cynoglossidae
エゾバイ科の一種 Buccinidae gen. et sp. indet.	ウシノシタ科の一種 Cynoglossidae gen. et sp. indet.
斧足綱 Bivalvia	両生綱 Amphibia
カキ目 Ostreoida	無尾目 Anura
イタヤガイ科 Pectinidae	無尾目の一種 Anura fam. gen. et sp. indet.
ホタテガイ <i>Mizuhopecten yessoensis</i>	鳥綱 Aves
イタボガキ科 Ostreidae	カモ目 Anseriformes
マガキ <i>Crassostrea gigas</i>	カモ科 Anatidae
イタボガキ科の一種 Ostreidae gen. et sp. indet.	カモ科の一種 Anatidae gen. et sp. indet.
マルズダレガイ目 Veneroida	キジ目 Galliformes
シジミ科 Corbiculidae	キジ科 Phasianidae
シジミ科の一種 Corbiculidae gen. et sp. indet.	キジ科の一種 Phasianidae gen. et sp. indet.
脊椎動物門 Vertebrata	哺乳綱 Mammalia
硬骨魚綱 Osteichthyes	食虫目 Insectivora
ニシン目 Clupeiformes	モグラ科 Talpidae
ニシン科 Clupeidae	モグラ属 <i>Mgera</i> sp.
ニシン科の一種 Clupeidae gen. et sp. indet.	齧歯目 Rodentia
トラ目 Gadiformes	ネズミ科 Muridae
トラ科 Gadidae	ネズミ科の一種 Muridae gen. et sp. indet.
マダラ <i>Gadus macrocephalus</i>	食肉目 Carnivora
スズキ目 Percidae	イヌ科 Canidae
アジ科 Carangiae	イヌ <i>Canis familiaris</i>
アジ科の一種 Carangiae gen. et sp. indet.	奇蹄目 Perissodactyla
タイ科 Sparidae	ウマ科 Equidae
マダイ <i>Pagrus major</i>	ウマ <i>Equus caballus</i>
タイ科の一種 Sparidae gen. et sp. indet.	偶蹄目 Artiodactyla
サバ科 Scombridae	イノシシ科 Suidae
ソウダガツオ属 <i>Axaris</i> sp.	イノシシ <i>Sus scrofa</i>
カツオ <i>Katsuwonus pelamis</i>	シカ科 Cervidae
マグロ属の一種 <i>Thunnus</i> sp.	シカ <i>Cervus nippon</i>

ニワトリを含むキジ科の足根中足骨(右)を1点同定し、巨突起がみられずメスと推定される。これらのほか、カモ科と思われる胸骨が1点、種類不明の経足根骨(左)2点、癒合鎖骨1点が出土している。哺乳類はネズミ科が最も多く、遊離歯(上顎切歯2、下顎切歯1)3点、頭蓋骨(右上顎骨1、左側頭骨1)2点など、計9点を同定した。イノシシ/ブタの上腕骨(右)、シカの距骨(右)、モグラ属の上腕骨(右)が1点ずつ出土している。これらのほかに、種類不明の四肢骨の破片1点が出土している。

【4号池状遺構】魚類はマダイが最も多く、椎骨10点、角骨(左1右2)と主軸蓋骨(左1右2)が3点ずつ、歯骨(左1右1)2点など、計25点を同定した。いずれも体長30cm以上であり、50~60cm程度と推定される個体が多く、正中線上で真二つに切断された前頭骨1点が含まれる。タイ科の椎骨17点、遊離歯8点、角舌骨(右)1点、計20点を同定した。遊離歯のうち2点は被熱して白色を呈し、椎骨1点は切断されている。マグロ属の椎骨5点を同定し、体長50cm以上と推定される。ニシン科の椎骨5点を同定し、いずれも体長20cm程度と推定される。マグロ族の前上顎骨/歯骨を2点同定したが、小片となっている。これらのほかに、マダイと思われる椎骨など4点、タイ科、ニシン科と思われる椎骨が1点ずつ、種類を特定できない椎骨17点、尾骨と擬鎖骨(左右

表57 遺構出土の動物遺存体
Tab.57 Identified species and parts from the sites

遺構	分類	部位	左	右	-	
1号池	貝	ホタテ		1		
		シカ		1		
2号池	貝	アカニシ			3	
		イタボガキ科			1	
	マガキ		1	1		
	マダラ	椎骨			3	
	魚	マダイ	上後頭骨		1	
			前頭骨		2	
			椎骨			9
			主上顎骨		2	
			前上顎骨	1		
			歯骨		3	
			角骨		1	
			舌顎骨	1		
			角舌骨	1		
			タイ科	基後頭骨		
		遊離歯			1	
	カツオ	椎骨			1	
	マダロ族	椎骨			4	
	カレイ科	椎骨			4	
	2号池	両	カエル類	大脚骨?		1
				寛骨	1	
			踵骨・距骨	1		
鳥		カモ科	胸骨			1
			肩甲骨	1		
			上腕骨	1	1	
			椎骨	1	1	
			尺骨	2	2	
			手根・中手骨		2	
			脛足根骨		1	
足根・中足骨		1				
キジ科	足根・中足骨			1		
哺乳	モグラ属	上腕骨		1		
		頭蓋骨	1	1		
		遊離歯	1	1	1	
	ネズミ科	臼歯			1	
		上腕骨	1			
		寛骨	1			
		大脚骨		1		
イノシシ/ブタ	上腕骨		1			
シカ	距骨		1			
4号池	魚	ニシン科	椎骨		5	
			神経頭蓋		1	
			上後頭骨		1	
			前頭骨		1	
			椎骨		10	
			主上顎骨		1	
			前上顎/歯骨	1		
			歯骨	1	1	
			角骨	1	2	
			方骨	1		
	舌顎骨		1			
	主體蓋骨	1	2			
5号池	魚	タイ科	椎骨		17	
			角舌骨		1	
			遊離歯		2	
		マダロ属	椎骨		5	
		マダロ族	前上顎/歯骨		2	
		ネズミ科	遊離歯	1	3	
			肋骨		1	
			大腿骨	2	1	
			脛骨	2	2	
		イヌ	頭蓋骨	1		
ウマ	遊離歯		1			
シカ	上腕骨		1			
	椎骨		1			
	寛骨		1			
1号井戸	貝	マガキ	殼質	1		
		シジミ科	殼皮		1	
	魚	ヒラメ	歯骨		1	
			角骨	1		
カレイ科	椎骨		2			
2号井戸	両	カエル類	椎骨		1	
			仙骨		1	
			上腕骨	2	1	
			脛腓骨		3	
2号井戸	魚	ニシン科	椎骨		1	
		アジ科	棘鱗		2	
		マダイ	歯骨		2	
		マダロ族	椎骨		2	
			主體蓋骨	1		
		ソウダガツオ属	椎骨		1	
		カレイ科	肋骨		1	
	椎骨			1		
	尾骨			1		
	両	カエル類	上腕骨	1		
		寛骨		1		
鳥		カモ科	胸骨		1	
			上腕骨	1		
哺乳	キジ科	大腿骨		1		
	モグラ属	上腕骨		1		
	ネズミ科	頭蓋骨	1	1		
		椎骨	1	1		
		大腿骨	1	1		
		踵骨	1			
5号井戸	魚	マダラ	椎骨		1	
6号井戸	貝	エゾバイ科	殼質		1	
		アカニシ	殼質		1	
		マダイ	主體蓋骨	1		
	魚	カレイ科	椎骨		3	
			ウシノシタ科	椎骨		2
	哺乳	ウマ	遊離歯		1	
シカ		脛骨		1		

貝：貝類、魚：魚類、両：両生類、鳥：鳥類、哺乳：哺乳類
2号池：2号池状遺構、4号池：4号池状遺構

不明)が2点ずつ出土している。哺乳類はネズミ科が最も多く、遊離歯(上顎切歯2、下顎切歯2)と脛骨(左2右2)が4点ずつ、大腿骨(左2右1)3点など、肋骨(右)1点、計12点を同定した。大腿骨3点、脛骨1点は骨端が癒合していない。シカの上腕骨(右)、橈骨(右)、寛骨(右)が1点ずつ、計3点を同定した。上腕骨と橈骨は同一個体と考えられる。ウマの遊離歯(下顎臼歯)とイスの頭蓋骨(左側頭骨)1点ずつを同定した。これらのほかに、ネズミ科と思われる椎骨2点、下顎切歯1点、種類不明の四肢骨など5点が出土している。

【1号井戸】貝類はマガキ(左)とシジミ科1点ずつを同定した。これらのほかに、種類不明の殻皮が大量に出土している。魚類はヒラメの歯骨(右)と角骨(左)が1点ずつ、計2点を同定し、体長50~60cmと推定される。カレイ科の椎骨2点を同定した。これらのほかに、種類不明の椎骨3点や鱗や鰭棘が出土している。両生類はカエル類の上腕骨(左2右1)と脛腓骨3点ずつ、椎骨と仙骨1点ずつ、計8点を同定した。

【2号井戸】魚類はカレイ科が最も多く、鰓骨、角骨(右)、椎骨、尾骨が1点ずつ、計4点を同定し、いずれも体長30cm前後と推定される。マゴロ族の椎骨2点、主髁蓋骨(右)1点、計3点を同定した。主髁蓋骨は体長50~60cm、椎骨は30cm前後と推定される。マダイの歯骨(右)2点を同定し、それぞれ体長40~50、50~60cmと推定される。アジ科の残鱗2点を同定した。ソウダガツソ属の椎骨1点を同定し、体長30cm程度と推測される。ニシン科の椎骨1点を同定し、体長20cm以下と推定される。これらのほかに、マダイと思われる方骨1点、種類不明の基後頭骨?と椎骨が1点ずつ、鱗も出土している。両生類はカエル類の上腕骨(左)と寛骨(右)が1点ずつ、計2点を同定した。鳥類はカモ科の胸骨と上腕骨(左)が1点ずつ、計2点を同定し、いずれもマガモに相当する大きさである。上腕骨は近位端の骨頭が切断されている。キジ科の大腿骨(右)の切断された遠位端1点を同定し、最大幅(Bd)125mmを測る。哺乳類はネズミ科の頭蓋骨(上顎骨)2点、椎骨、大腿骨(左)、踵骨(左)が1点ずつ、計5点を同定した。モグラ属の上腕骨(右)を1点同定した。これらのほかに、ネズミ科/ヒミズ科と思われる大腿骨1点、種類不明の四肢骨1点が出土している。

【5号井戸】魚類はマダラの椎骨1点を同定し、体長50cm以上と推定される。哺乳類は種類不明の四肢骨1点が出土している。

【6号井戸】エゾバイ科とアカニシを1点ずつ同定した。エゾバイ科はヒメエゾボラに似る。これらのほか、アカニシ、ハマグリと思われるものが1点ずつ、種類不明の殻皮などが多数出土している。魚類はカレイ科の椎骨3点を同定し、1点は体長20~30cm、2点は40cm前後と推定される。ウシノシタ科の椎骨2点を同定し、体長30cm前後と推定される。マダイの主髁蓋骨(右)1点を同定し、体長30~40cmと推定される。これらのほかに、種類不明の椎骨25点、鰭棘と鰓骨が1点ずつ出土している。鳥類は種類不明の椎骨2点、大腿骨1点が出土している。哺乳類はウマの遊離歯(下顎乳歯)とシカの脛骨(右)1点ずつを同定した。

【4号遺構】種類を特定できない魚類の椎骨1点と鱗が出土している。

【9号遺構】種類を特定できない哺乳類の四肢骨1点が出土している。

【14号遺構】種類を特定できない魚骨1点が出土しており、被熱して白色を呈する。

【66号遺構】種類が特定できない貝類の殻皮、魚類の椎骨と鰭棘が1点ずつ出土している。魚骨は被熱して白色を呈する。

【4区基本層】イノシシ/ブタの遊離歯(上顎P4-M3、右M3)5点が出土している。

(3) 動物利用の特徴

当調査では、少なくとも貝類5種類、魚類10種類、両生類1種類、鳥類2種類、哺乳類6種類が出土している。カエル類、モグラ属、ネズミ科、ウマは食用となったか定か定ではないが、その他の大部分は食料残渣と考えられる。魚類は海産物ばかりであり、マダイが42%を占めている(図72)。マダイは骨が大きく、堅いことから、肉食動物の食害から免れたことも考えられるが、消費量が多かったことに違いはないであろう。正中線で切断され

た前頭骨があり、「兜割り」されたマダイの頭部も潮煮などに利用されたのであろう。カツオ、マグロ属、ソウダガツオ属といった回遊魚や、マダラ、ヒラメ、カレイ科、ウシノシタ科といった底魚もあり、近海での漁業の多様性がみられる。鳥獣類も一定量が出土しているが、ネズミ科が多くを占める。食用としてはカモ科、キジ科、シカ、イノシシ/ブタである。2号池状遺構では、同一個体のカモ科の骨格部位が、4号池状遺構では同一個体のシカの骨格部位が出土している。このことは、完全に骨になった状態ではなく、ある程度の軟部組織が残った状態であったことが想定される。これらの池状遺構には、魚貝類の小さな生ゴミ

だけでなく、大きな生ゴミを捨てていたことがわかる。ネズミ科は、骨端部が癒合していない成長過程の個体がみられるが、大きな個体であることからクマネズミやドブネズミなどの可能性がある。哺乳類のなかで破片数が多いネズミ科は、生ゴミを目当てに池状遺構周辺にきた可能性もある。しかし、2号井戸でも食料残渣とともにネズミ科が出土しており、その場で絶命したものは考えにくく、屋敷内で駆除されたものが池状遺構や井戸に投棄されたと考えの方が自然であろう。6号井戸からウマの乳歯が出土しており、屋敷地内で仔馬を飼育していた可能性を示唆する。

(4) まとめ

当調査では、380点以上の動物遺存体が出土し、約半数の201点について種類や部位などを同定することができた。魚類、哺乳類が多く、そのほかに鳥類、両生類、貝類を確認した。魚貝類や鳥獣類の一部は食料残渣と考えられ、主として17世紀代の武家屋敷における食生活を垣間見る資料として有意義である。しかし、これらが、どのような食事の場で消費されたものか具体的なことは明らかでなく、今後、共存遺物との関連をみることにより解釈を深める必要がある。また、最終的にゴミ捨て場として利用された2号および4号池状遺構には、生ゴミとしては大きな鳥獣類が投棄されており、西側に位置する建物群との関係も興味深い。

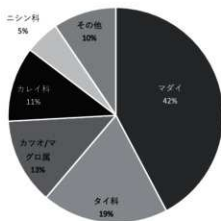


図72 魚類組成 (N=116)
Fig.72 Assemblage of fish remains (N=116)

表58 動物遺存体観察表(1)
Tab.58 Notes on animal remains (1)

番号	枝番	種別	遺構	土層	メッシュ 枠	大分類	小分類	部位	部分	左右	備考
20		骨等	2号池状遺構	理土2層	1mm	哺乳綱	ネズミ科	道産歯	上顎切歯	左	
21	1	骨等	2号池状遺構	理土3a層	1mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
21	2	骨等	2号池状遺構	理土3a層	1mm	両生綱	カエル類	踵骨・趾骨		左	
21	3	骨等	2号池状遺構	理土3a層	1mm	両生綱	カエル類	大腭骨?		左?	
22		骨等	2号池状遺構	理土4層	1mm	硬骨魚綱	不明	射出骨?		-	
23		骨等	2号池状遺構	理土5a層	1mm	硬骨魚綱	タイ科	道産歯		-	
25	1	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	芹足綱	イタボガキ科	殻質		-	
25	2	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	腹足綱	不明	蓋		-	
25	3	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	腹足綱	不明	蓋		-	
25	4	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	腹足綱	不明	蓋		-	
25	5	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	鱗鱗	鱗条部	-	
25	6	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	上顎骨		右	
25	7	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		右	
25	8	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	舌顎骨		左	
25	9	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	マダイ?	前頭骨?		-	
25	10	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	マダラ	椎骨	腹椎	-	
25	11	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	カフオ	椎骨	尾椎	-	
25	12	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	第1腹椎	-	
25	13	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	腹椎	-	
25	14	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	-	
25	15	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	-	
25	16	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	-	
25	17	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎	-	被熱(白色)
25	18	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
25	19	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
25	20	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
25	21	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
25	22	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
25	23	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
25	24	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	不明		-	
25	25	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	鳥綱	不明	跗足親骨	骨幹部	左	
25	26	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	鳥綱	不明	跗足親骨	骨幹部	左	
25	27	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	頭蓋骨	頸頭骨	左	
25	28	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	道産歯	上顎切歯	右	
25	29	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	仙椎		-	
25	30	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	上腕骨	骨幹部-遠位端	左	
25	31	骨等	2号池状遺構	理土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	大腭骨	ほぼ完形	右	uf(d)
26	1	骨等	2号池状遺構	理土3a層	3mm	両生綱	カエル類	寛骨		左	
26	2	骨等	2号池状遺構	理土3a層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	右半分	-	
26	3	骨等	2号池状遺構	理土3a層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	上顎骨		右	
26	4	骨等	2号池状遺構	理土3a層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	基後頭骨		-	
26	5	骨等	2号池状遺構	理土3a層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
26	6	骨等	2号池状遺構	理土3a層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
26	7	骨等	2号池状遺構	理土3a層	3mm	鳥綱	カモ科	手根中手骨		右	
27	1	骨等	2号池状遺構	理土3b層	3mm	硬骨魚綱	不明	釘甲骨		左	
27	2	骨等	2号池状遺構	理土3b層	3mm	硬骨魚綱	不明	尾骨		-	
28		骨等	2号池状遺構	理土4層	3mm	硬骨魚綱	マダロ/カフオ	椎骨	尾椎	-	
29	1	骨等	2号池状遺構	理土5a層	3mm	硬骨魚綱	不明	不明		-	
30	1	骨等	2号池状遺構	理土5層?	3mm	哺乳綱	ネズミ科	道産歯	下顎切歯	-	
30	2	骨等	2号池状遺構	理土5層?	3mm	哺乳綱	ネズミ科	頭蓋骨	上顎骨	右	
68	1	骨等	4号池状遺構	理土2層	1mm	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨	腹椎	-	
68	2	骨等	4号池状遺構	理土2層	1mm	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨	尾椎	-	
68	3	骨等	4号池状遺構	理土2層	1mm	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨	尾椎	-	
68	4	骨等	4号池状遺構	理土2層	1mm	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨	尾椎	-	
68	5	骨等	4号池状遺構	理土2層	1mm	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨	尾椎	-	
68	6	骨等	4号池状遺構	理土2層	1mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
71	1	骨等	4号池状遺構	理土5層	1mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
71	2	骨等	4号池状遺構	理土5層	1mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	被熱(白色)
72	1	骨等	4号池状遺構	理土7層	1mm	硬骨魚綱	タイ科	道産歯		-	5点
72	2	骨等	4号池状遺構	理土7層	1mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎	-	被熱(白色)
73	1	骨等	4号池状遺構	理土8層	1mm	硬骨魚綱	タイ科	道産歯		-	3点、うち2点 被熱(白色)
73	2	骨等	4号池状遺構	理土8層	1mm	硬骨魚綱	ニシン科?	椎骨	尾椎	-	

表59 動物遺存体観察表 (2)
Tab.59 Notes on animal remains (2)

番号	枝番	種別	遺構	土層	メッシュ 枠	大分類	小分類	部位	部分	左右	備考
73	3	骨等	4号池状遺構	理土8層	1mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	-	
73	4	骨等	4号池状遺構	理土8層	1mm	哺乳綱	ネズミ科	肋骨		右	
73	5	骨等	4号池状遺構	理土8層	1mm	哺乳綱	齧歯目	歯槽歯	下顎切歯	-	
74		骨等	4号池状遺構	理土8層	1mm	哺乳綱	ネズミ科	歯槽歯	下顎切歯	-	
75	1	骨等	4号池状遺構	理土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	大腿骨	骨幹部-遠位端	左	uf(d)
75	2	骨等	4号池状遺構	理土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	椎骨	五位部-遠位部	左	
75	3	骨等	4号池状遺構	理土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	椎骨	五位部-骨幹部	右	
75	4	骨等	4号池状遺構	理土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科?	椎骨	尾椎	-	
75	5	骨等	4号池状遺構	理土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科?	椎骨	尾椎	-	
76	1	骨等	4号池状遺構	理土3層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	椎骨	五位部-遠位部	左	
76	2	骨等	4号池状遺構	理土3層	3mm	硬骨魚綱	マクロ旗	前上顎骨/歯骨		-	
77	1	骨等	4号池状遺構	理土5層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	-	
77	2	骨等	4号池状遺構	理土5層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	角舌骨		右	
77	3	骨等	4号池状遺構	理土5層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	歯槽歯	上顎切歯	左?	
77	4	骨等	4号池状遺構	理土5層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	歯槽歯	上顎切歯	左?	
77	5	骨等	4号池状遺構	理土5層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	歯槽歯	下顎切歯	右?	
77	6	骨等	4号池状遺構	理土5層	3mm	硬骨魚綱	不明	腹頭骨		-	
77	7	骨等	4号池状遺構	理土5層	3mm	硬骨魚綱	不明	不明		-	調理痕あり
77	8	骨等	4号池状遺構	理土5層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
77	9	骨等	4号池状遺構	理土5層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
77	10	骨等	4号池状遺構	理土5層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
77	11	骨等	4号池状遺構	理土5層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
78	1	骨等	4号池状遺構	理土6層	3mm	哺乳綱	ウマ	歯槽歯	下顎臼歯	-	
78	2	骨等	4号池状遺構	理土6層	3mm	哺乳綱	不明	不明	骨幹部	-	
79	1	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	神経頭蓋		-	
79	2	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	前上顎骨/歯骨		右	
79	3	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		左	
79	4	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	角骨		左	
79	5	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	角骨		右	
79	6	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	方骨		左	
79	7	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	舌顎骨		右	
79	8	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	主総蓋骨		左	
79	9	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	主総蓋骨		右	
79	10	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	主総蓋骨		右	
79	11	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ?	方骨		左	
79	12	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ?	肩甲骨		右	
79	13	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎	-	
79	14	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎	-	
79	15	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎	-	
79	16	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎	-	
79	17	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	-	
79	18	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	-	
79	19	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	-	
79	20	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	-	
79	21	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾部棒状骨	-	
79	22	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	-	
79	23	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	-	
79	24	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	-	
79	25	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	-	
79	26	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	腹頭骨		-	
79	27	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	下尾骨		-	
79	28	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	尾骨		-	
79	29	骨等	4号池状遺構	理土7層	3mm	硬骨魚綱	マクロ旗	前上顎骨/歯骨		-	
80		骨等	4号池状遺構	理土8層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	大腿骨	五位部-遠位部	右	uf(p,d)
81	1	骨等	4号池状遺構	理土8層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	大腿骨	五位部-遠位部	左	uf(p,d)
81	2	骨等	4号池状遺構	理土8層	3mm	硬骨魚綱?	不明	不明		-	
98		鱗	2号池状遺構	理土2層		硬骨魚綱	不明	鱗		-	
119		鱗	2号池状遺構	理土3層	水洗渣時回収	硬骨魚綱	不明	鱗		-	多数
120		鱗	2号池状遺構	理土3層	水洗渣時回収	硬骨魚綱	不明	鱗		-	
204		鱗?	4号遺構	理土8層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	鱗		-	
205		鱗?	1号井戸	理土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	鱗		-	
207		鱗?	2号井戸	理土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	鱗		-	
168		貝	1号池状遺構	理土2a層	1mm相当	腹足綱	不明	殻軸		-	

表60 動物遺存体観察表 (3)
Tab.60 Notes on animal remains (3)

番号	枝番	種別	遺構	土層	メッシュ 格	大分類	小分類	部位	部分	左右	備考
169		貝	1号池状遺構	埋土2b層	1mm相当	芥足綱?	不明	殻皮・殻質	小片	-	
170		貝	1号池状遺構	埋土2層	1mm相当	腹足綱	不明	殻皮・殻質	小片	-	
171		貝	1号池状遺構	埋土2層	1mm相当	芥足綱?	不明	殻皮・殻質	小片	-	
172		貝	2号池状遺構	埋土2層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻質	小片	-	
173		貝	2号池状遺構	埋土2層	1mm相当	芥足綱	イタボガキ科?	殻質	小片	-	
174		貝	2号池状遺構	埋土3層	1mm相当	芥足綱	イタボガキ科?	殻質	小片	-	
175		貝	1号井戸	埋土2層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
176		貝	66号遺構	埋土4層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
177		貝	1号井戸	埋土2層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
178		貝	1号井戸	埋土3層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻質	小片	-	
179		貝	1号井戸	埋土3層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
180		貝	1号井戸	埋土2層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
181		貝	1号井戸	埋土3層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
182		貝	1号井戸	埋土3層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
183		貝	1号井戸	埋土2層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
184		貝	基本層	1層	1mm相当	腹足綱	アカニシ?	殻質	小片	-	
185		貝	6号井戸	埋土8層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
186		貝	6号井戸	埋土9層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻質	小片	-	
187		貝	6号井戸	埋土9層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
188		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻質	小片	-	
189		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
190		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
192		貝	6号井戸	埋土	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
193		貝	6号井戸	埋土8層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻質	小片	-	
194		貝	6号井戸	埋土8層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
195		貝	6号井戸	埋土8層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
196		貝	6号井戸	埋土9層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻質	小片	-	
197		貝	6号井戸	埋土9層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
198		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
199		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻質	小片	-	
200		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱	不明	殻質	殻軸	-	
201		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻皮	小片	-	
202		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/芥足綱	不明	殻質	小片	-	
208		貝	1号井戸	埋土3層		芥足綱	シジミ科	殻皮		-	多数
209		貝	1号井戸	埋土3層		芥足綱	マガキ	殻質	殻体	左	
210		貝	6号井戸	埋土9層		芥足綱?	ハマグリ科	殻皮		-	
212		貝	6号井戸	埋土9層		腹足綱	エノバイ科	殻質	殻軸・殻体	-	
213		貝	6号井戸	埋土11層		腹足綱	アカニシ?	殻質	殻軸	-	
214		貝	6号井戸	埋土11層		腹足綱	アカニシ	殻質	殻軸・殻体	-	
215		貝	1号池状遺構	埋土2a層		芥足綱	ホタテ	殻質	殻体	右	
216	1	貝	2号池状遺構	埋土2層		芥足綱	マガキ	殻質	殻体	左	
216	2	貝	2号池状遺構	埋土2層		芥足綱	マガキ	殻質	殻体	右	
217		貝	2号池状遺構	埋土5b層		腹足綱	アカニシ	殻質	殻軸・殻体	-	
218		貝	2号池状遺構	埋土5-6層		腹足綱	アカニシ	殻質	殻軸・殻体	-	
219		貝	2号池状遺構	埋土5a層		腹足綱	アカニシ	殻質	殻軸・殻体	-	
211		貝?骨?	14号遺構	埋土		硬骨魚綱	不明	不明	細片	-	被熱(白色)
91		骨	1号池状遺構	埋土2層下		哺乳綱	シカ	脛骨	ほぼ完形	-	
92	1	骨	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	硬骨魚綱	マダメイ	前骨		右	
92	2	骨	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	硬骨魚綱	不明	鱗鱗	鱗条部	-	
92	3	骨	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	硬骨魚綱	不明	不明		-	
93		骨	2号池状遺構	埋土2層		哺乳綱	イノシシ/ブタ	上腕骨	近位部-遠位端	右	
94		骨	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	哺乳綱	ネズミ科	寛骨	脛骨-座骨	左	
95		骨	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	鳥綱	カモ科	肩甲骨		左	
96	1	骨	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	硬骨魚綱	マダメイ	前上顎骨		左	
96	2	骨	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	鳥綱	カモ科	手根中手骨	ほぼ完形	右	
96	3	骨	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	鳥綱	カモ科	尺骨	遠位	左	
96	4	骨	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	鳥綱	カモ科	胸骨		-	
96	5	骨	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	鳥綱	カモ科?	胸骨	下位部	-	
96	6	骨	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部-遠位端	-	
97		骨	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	鳥綱	ニワトリ?	足根中足骨		右	キジ科、メス?
101	1	骨・貝	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	腹足綱	不明	蓋		-	
101	2	骨・貝	2号池状遺構	埋土2層	水流面回収	鳥綱	不明	癒合頰骨		-	

表G1 動物遺存体観察表 (4)
Tab.G1 Notes on animal remains (4)

番号	枝番	種別	遺構	土層	メッシュ 格	大分類	小分類	部位	部分	左右	備考
100		骨	2号池状遺構	理土2層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	尾骨		-	
102	1	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダラ	椎骨	腹椎	-	
102	2	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	切断(垂直方向)
102	3	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
102	4	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
102	5	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	下尾骨		-	
103	1	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	腹椎	-	
103	2	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	腹椎	-	
103	3	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	-	
103	4	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	-	
103	5	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	-	
103	6	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	-	
103	7	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	-	
103	8	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	-	切断
103	9	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨		-	切断(1/2変形)
103	10	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	角骨		-	右
103	11	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	角骨		左	
103	12	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		右	
103	13	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	哺乳綱	モグラ属	上腕骨		右	
103	14	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	擬銀骨		-	
104	1	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	鳥綱	カモ科	尺骨	ほぼ完形	右	同一個体
104	2	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	鳥綱	カモ科	腕骨	ほぼ完形	右	同一個体
104	3	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	鳥綱	カモ科	腕骨	ほぼ完形	左	同一個体
105	1	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	鳥綱	カモ科	上腕骨	骨幹部-遠位端	左	同一個体
105	2	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	鳥綱	カモ科	尺骨	ほぼ完形	左	同一個体
105	3	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	鳥綱	カモ科	跗足側骨	遠位	右	同一個体
106	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	鳥綱	カモ科	足根中足骨	ほぼ完形	右	同一個体	側頭部付近もあり
107	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			-	
108	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	不明			-	
109	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダラ	椎骨	腹椎		-	
110	骨	2号池状遺構	理土3層	水洗溜時回収	鳥綱	カモ科	上腕骨	近位	右		
111	骨	2号池状遺構	理土4層	水洗溜時回収	哺乳綱	シカ	距骨		右		
112	骨	2号池状遺構	理土4層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	肋骨?			-	
113	骨	2号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	鳥綱	カモ科	尺骨	骨幹部-遠位端	右		
114	1	骨	2号池状遺構	理土5a層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダラ/カツオ	椎骨	尾椎	-	マダラ属に属ス
114	2	骨	2号池状遺構	理土5a層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダラ/カツオ	椎骨	尾椎	-	マダラ属に属ス
115	1	骨	2号池状遺構	理土5a層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダラ属?	椎骨	尾椎	-	
115	2	骨	2号池状遺構	理土5a層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	総糸骨		-	
116	1	骨	2号池状遺構	理土5b層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	スズキ属?	椎骨	尾椎	-	
116	2	骨	2号池状遺構	理土5b層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダラ/カツオ	椎骨	尾椎	-	マダラ属に属ス
121	骨	4号池状遺構	理土1層		哺乳綱	不明	不明			-	
122	骨	4号池状遺構	理土2層		哺乳綱	イヌ	頭蓋骨	側頭骨	左		
123	1	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	哺乳綱	不明	不明	細片	-	
123	2	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	不明	小片	-	
124	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	哺乳綱	シカ	上腕骨	骨幹部-遠位端	右	134と同一個体	
125	1	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	右側	-	切断(1/2変形)
125	2	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	タイ科?	椎骨	腹椎?	-	
126	1	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダラ属	椎骨	尾椎	-	
126	2	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	-	
126	3	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	-	
127	1	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダラ属	椎骨	尾椎	-	
127	2	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎?	-	
127	3	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	-	
127	4	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	-	
127	5	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎?	-	
127	6	骨	4号池状遺構	理土5層	水洗溜時回収	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部-遠位端	-	
128	骨	4号池状遺構	理土5層		哺乳綱	シカ	寛骨	ほぼ完形	右		
129	1	骨	4号池状遺構	理土6層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨		-	
129	2	骨	4号池状遺構	理土6層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダラ属	椎骨	尾椎	-	
130	1	骨	4号池状遺構	理土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダラ属	椎骨	尾椎	-	
130	2	骨	4号池状遺構	理土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダラ属	椎骨	尾椎	-	
130	3	骨	4号池状遺構	理土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	-	

表G2 動物遺存体観察表 (5)
Tab.G2 Notes on animal remains (5)

番号	枝番	種別	遺構	土層	メッシュ 格	大分類	小分類	部位	部分	左右	備考
130	4	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ?	椎骨	腹椎?	-	
130	5	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ?	椎骨	第一腹椎	-	
131	1	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	第一腹椎	-	
131	2	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	腹椎	-	
131	3	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	腹椎	-	
131	4	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	腹椎	-	
131	5	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	腹椎	-	
131	6	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	-	
131	7	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	-	
131	8	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	-	
131	9	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	-	
131	10	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	-	
131	11	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	-	
131	12	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	-	
131	13	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	-	
132	1	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	主上顎骨		右	
132	2	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		右	
133	4	骨	4号池状遺構	埋土8層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	マダイ	角骨		右	
134	骨	4号池状遺構	埋土8層	水洗溜時回収	哺乳綱	シカ	腕骨		近位端-骨幹部	右	124と同一個体
136	骨	4号池状遺構	埋土8層	水洗溜時回収	哺乳綱	イノシシ/シカ	四肢骨		骨幹部		
137	骨	4号池状遺構	埋土8層	水洗溜時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨		尾椎		
139	骨	4号池状遺構	埋土8層	水洗溜時回収	哺乳綱	ネズミ科	脛骨		近位部-遠位端	右	uf(p)
140	骨?	3号溝	埋土1層	1mm相当	哺乳綱	不明	不明				
141	1	骨	6号井戸	埋土	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
141	2	骨	6号井戸	埋土	1mm相当	哺乳綱	不明	不明			
142	骨	6号井戸	埋土8層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨		第1腹椎	-	
143	骨	6号井戸	埋土8層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨		尾椎	-	被熱(白色)
144	骨	6号井戸	埋土8層	1mm相当	鳥綱	不明	椎骨		頸椎	-	
145	骨	6号井戸	埋土8層	1mm相当	哺乳綱	ウマ	歯槽歯		dP3, dP4		
146	1	骨	6号井戸	埋土9層	1mm相当	硬骨魚綱	マダイ	主上顎骨		右	
146	2	骨	6号井戸	埋土9層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	腹椎	-	
146	3	骨	6号井戸	埋土9層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
146	4	骨	6号井戸	埋土9層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
147	1	骨	6号井戸	埋土9層	1mm相当	硬骨魚綱	ウシノシタ科	椎骨	尾椎	-	
147	3	骨?	6号井戸	埋土9層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	結核	結核部	-	
148	骨?	6号井戸	埋土11層	1mm相当	鳥綱	不明	椎骨				
149	1	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
149	2	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
149	3	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
149	4	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
150	1	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
150	2	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
151	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	哺乳綱	シカ	脛骨			右	
152	1	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
152	2	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	哺乳綱	不明	不明			
153	1	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	腹椎	-	
153	2	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	-	
153	3	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
153	4	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
153	5	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
153	6	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	腕組骨			
153	7	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	鳥綱	不明	大腸骨	遠位部	左	cutmark
154	1	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	ウシノシタ科	椎骨	尾椎	-	
154	2	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	被熱(白色)
154	3	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	被熱(白色)
154	4	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
154	5	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
154	6	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
154	7	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
154	8	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
154	9	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
155	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-		
156	骨	4号遺構	埋土8層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-		

表G3 動物遺存体観察表 (6)
Tab.G3 Notes on animal remains (6)

番号	枝番	種別	遺構	土層	メッシュ 格	大分類	小分類	部位	部分	左右	備考
157		骨	9号遺構	埋土7層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/シカ	四肢骨	骨幹部	-	
159		骨	1号井戸	埋土2層	1mm相当	両生綱	カエル類	上腕骨	近位部-遠位端	左	
160	1	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	ヒラメ	歯骨		右	
160	2	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	ヒラメ	角骨		左	
160	3	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	腭骨	棘条部	-	
160	4	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	腭骨	棘条部	-	
160	5	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	上腕骨	近位部-遠位端	左	
160	6	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	上腕骨	近位部-遠位端	右	
160	7	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	距腓骨	骨幹部	-	
160	8	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	距腓骨	骨幹部	-	
160	9	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	距腓骨	骨幹部	-	
160	10	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	趾骨		-	
160	11	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	脛骨	脛椎	-	
160	12	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	-	
160	13	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	-	
160	14	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
160	15	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	
160	16	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	-	被熱(白色)
161		骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	鳥綱	カモ科	上腕骨	近位端-骨幹部	左	近位端骨頭を切断
162		骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		右	
163	1	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	上腕骨	骨幹部-遠位端	左	
163	2	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	寛骨		右	
163	3	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	モグラ属	上腕骨		右	
163	4	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	ネズミ科	脛骨	脛椎	-	
163	5	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	ネズミ科	大腿骨	近位部-遠位部	左	uf(p,d)
163	6	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	ネズミ科	踵骨		左	
163	7	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	ネズミ科	頭蓋骨	上顎骨	左	
163	8	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	ネズミ科	頭蓋骨	上顎骨	右	
163	10	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/シカ	四肢骨	骨幹部	-	
163	11	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		右	
163	12	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	アジ科	腭骨		-	
163	13	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	アジ科	腭骨		-	
163	14	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	マダイ?	方骨		左	
163	15	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	マダロ/カツオ	主維蓋骨		右	
163	16	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	趾骨		-	
163	17	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	角骨		右	
163	18	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	尾骨		-	
163	19	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	基後頭骨?		-	被熱(白色)
163	20	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	ソウダゴツオ属	椎骨	尾椎	-	
163	21	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	-	
163	22	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	マダロ/カツオ	椎骨	尾椎	-	
163	23	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	マダロ/カツオ	椎骨	尾椎	-	
163	24	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨	尾椎	-	
163	25	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	鳥綱	カモ科	胸骨		-	
163	26	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	鳥綱	キジ科	大腿骨	遠位端	右	切断
163	27	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨		-	多数あり
164		骨	5号井戸	埋土4層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/シカ	四肢骨	骨幹部	-	
165		骨	5号井戸	埋土1層	1mm相当	硬骨魚綱	マダラ	椎骨	頸椎/尾椎	-	
166	1	骨	66号遺構	埋土4層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	頸椎/尾椎	-	小型,被熱(白色)
166	2	骨	66号遺構	埋土4層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	腭骨	棘条部	-	小型,被熱(白色)
167	1	骨	4区基本層	1層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/ブタ	遊離歯	上顎P4	左	同一個体
167	2	骨	4区基本層	1層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/ブタ	遊離歯	上顎M1	左	同一個体
167	3	骨	4区基本層	1層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/ブタ	遊離歯	上顎M2	左	同一個体
167	4	骨	4区基本層	1層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/ブタ	遊離歯	上顎M3	左	同一個体
167	5	骨	4区基本層	1層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/ブタ	遊離歯	上顎M3	右	同一個体

2. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点から出土した大型植物遺体

吉川純子（古代の森研究舎）

仙台城は仙台市青葉区川内及び荒巻に所在し幕末まで仙台藩の中核として機能していた近世城郭である。二の丸北方武家屋敷地区は本丸の北西側に位置しており第14地点では井戸や池状遺構が確認され、遺構の堆積物から遺物とともに多くの大型植物遺体が検出されたことから分析をおこなった。

(1) 試料と分析方法

分析に供された試料はすべて担当者により水洗篩い分けされ選別された状態で、井戸遺構が4遺構11試料、池状遺構が4遺構22試料、用途不明遺構が7遺構7試料である。試料は肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察しながら同定可能な植物部位を分類群毎に分け、部位別に出土個数を計数した。なお、出土数が膨大な分類群は乾燥重量から個数を換算した。以下に簡単な遺構の記載をおこなう。

【井戸遺構】 1号井戸は桶枠で発掘は桶1段目までで底部までの完掘はされていない。分析に供した堆積物は埋没完了に近い19世紀中葉とみられ、埋土1層、2層、3層の3試料である。2号井戸は桶枠で発掘は桶1段目までで完掘はされていない。分析に供した堆積物は掘り方の遺物から18世紀とみられ、埋土3層の1試料である。5号井戸は石組みで完掘はされておらず、17世紀初頭～後葉の遺物を出土した埋土3層と埋土4層の2試料を分析した。6号井戸は素掘り円形井戸で完掘はされておらず埋土10層から18世紀の遺物が確認されている。分析は埋土6層、8層、9層、10層、11層の5試料である。

【池状遺構】 1号池状遺構は重複関係や遺物から18世紀中葉とみられ近代に埋没したと考えられている大型の遺構で石列や樹根跡のような孔が確認されている。分析は埋土1層、2a層、2b層の3試料である。2号池状遺構は高低差や排水部、土手のような区切りがある大型の池状遺構で、遺物から17世紀には機能していたとみられ土留めのような筵状敷物も確認されている。分析は埋土1層、2層、3a層、3b層、4層、5a層、5b層、5c層の8試料である。3号池状遺構は18世紀前半とみられ、高低差をもって4号池状遺構と接続し南側の4号池状遺構から水が流れ込んでいたとみられる。分析は埋土1層と4層の2試料である。4号池状遺構は構築時期が17世紀代とみられる大型の池状遺構で次段階に3号池状遺構と接続したとみられる。分析は埋土1層、2層、3層、4層、5層、6層、7層、8層の8試料である。

【用途不明遺構】 4号遺構は18世紀末葉～19世紀初頭の円形の遺構で堆積物に炭化物が多く、埋土8層を分析に供した。9号遺構は18世紀代とみられ炭化物を含んでいて、埋土7層を分析に供した。15号遺構は17世紀後葉～18世紀とされる長方形の遺構で、埋土1層を分析に供した。18号遺構は18世紀前葉～中葉とされ、1号池状遺構の一部である可能性も想定される遺構で、埋土2層を分析に供した。31号遺構は19世紀前葉～中葉の、溝の可能性もある遺構で炭化物が含まれていたが、分析に供された試料は植物種実ではなく鉄屑のような金属の塊であったため表からは省かれている。40号遺構は16世紀末葉の池状遺構との関連性も想定されるやや大型の長方形遺構で、分析に供した試料は埋土2層である。66号遺構は19世紀前葉～中葉とされる長方形の遺構で堆積物には炭化物が混じる。分析は埋土4層の試料である。

(2) 出土した大型植物遺体（図版80～82）

それぞれの遺構から出土した層位毎の大型植物遺体を分類群・部位別に表に示した。表64・65は井戸遺構、表66・67は池状遺構、表68は用途不明遺構となっている。表中の数字は基本的には完形種実の個数であるが、意図的に破壊しないと割片が生成されないような種実の破片等は項目を分けて示している。その他の破片はカッコ内

表64 井戸遺構出土大型植物遺体 (木本)
Tab64 Plant macrofossils excavated from wells (woody plant)

分類群名	遺構 出土部位/層位	1号井戸内部		2号井戸内		5号井戸側方		6号井戸				
		埋土1	埋土2	埋土3	埋土3	埋土3	埋土4	埋土6	埋土8	埋土11	埋土9	埋土10
木本												
モミ属	種鱗及び苞鱗	-	-	-	-	-	-	3	152	-	1	
	種子	-	1	-	-	-	-	2	61	-	-	
	葉	-	-	-	-	-	-	98	116	-	-	
クロマツ	球果	-	-	-	-	-	-	1	6	-	1	
	種鱗	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	
マツ属複雑管束亜属	風化球果	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	
	種鱗	-	-	-	-	-	-	-	27	-	2	
	雌花	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	
	種子	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	
	葉	-	-	-	-	-	-	-	78	47	-	12
スギ	球果	-	1	3	3	-	-	-	302	64	-	5
	雌花	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
	種子	-	2	2	-	-	-	-	23	10	-	-
サワラ	球果	-	-	-	-	-	-	10150	18900	85	1560	
	種子	-	-	-	-	-	-	960	100+	8	120	
	小枝	-	-	-	-	-	-	51	15	-	15	
アスナロ属	小枝	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
カヤ	種子	-	(2)	1	-	-	-	-	(9)	-	(3)	
ヤマブドウ	種子	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	
ブドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	
ブドウ属	種子	-	-	-	1	-	-	-	2	1	-	
ノブドウ	種子	-	4150	9640	1	-	-	-	4	149	-	
フジ	さや	-	-	-	-	-	-	-	12	2 (28)	-	1 (1)
フジ属	芽	-	2	4	-	-	-	-	2	-	-	
	種子	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	
カマツカ近縁種	果実	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	
	核	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	
モモ	核定形	-	1	2	-	-	-	-	4	8	2	
	核定形食痕	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	
	核半分及び破片	1	5	1	3	-	-	-	11	12	-	
	核加工品	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
ウメ	核定形	-	18	13	3	-	-	-	3	-	4	
	核定形食痕	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	
	核定形風化	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
	核半分及び破片	-	24	30	3	-	-	-	7	-	6	
アンズ	核	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-	
スモモ	核定形	-	1	-	-	-	-	-	7	-	-	
	核半分及び破片	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	
サクラ属サクラ節	核	-	12	-	2	-	-	-	8	54	5	
ケヤキ	果実	-	-	2	-	-	-	-	2	-	-	
エノキ	内果皮	-	2	3	-	-	-	-	1	3	-	
クナ	果皮	-	(10)	(10)	(1)	-	-	-	(12)	(30)	1 (1)	
コナラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
ミズナラ	幼果	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
コナラ属	果実基部	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	
ブナ科	果実	-	-	-	-	-	-	-	(3)	-	-	
オニグルミ	内果皮定形	-	5	5	-	-	-	-	-	-	-	
	内果皮定形食痕	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	
	内果皮半分	-	-	3	-	-	1	-	-	4	-	
	内果皮半分食痕	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
	内果皮半分割痕及び削げ	-	18	10	-	-	-	-	1	2	2	
	内果皮破片	-	57	65	6	-	-	-	7	10	1	
	内果皮半分割痕及び削げ	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
ヒメグルミ	果実	-	-	-	-	-	-	-	3	4	1	
イヌデ	果実	-	-	-	-	-	-	-	(1)	-	(1)	
ツノハシバミ	果実	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
アヤダ	果実	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
ハンノキ	果実	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	
ミツバウツギ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
ウレシノギ	風化内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
リュウケソウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	
カエデ属	果実	-	1	4	-	-	-	-	12	25	6	
サンショウ	内果皮	-	314	696	6	-	-	-	105	137	25	
	果実外果皮残	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	
	内果皮半分及び破片	-	250	415	3	-	-	-	106	-	25	
ニガキ	種子	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	
ミズキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	3	31	1 (4)	
クマノミズキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	5	10	4 (8)	
カキノキ属	種子	-	-	2	-	-	-	-	8	-	-	
ヤブツバキ	種子	-	-	-	-	-	1	(2)	-	-	-	
チャノキ	種子	-	-	-	-	-	-	-	(4)	-	-	
エゴノキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	2	(1)	-	
ガマズミ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	5	5	-	
ニワトコ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	

表65 井戸遺構出土大型植物遺体 (草本)
Tab.65 Plant macrofossils excavated from wells (herbaceous plant)

分類群名	遺構 出土部位/層位	1号井戸内部		2号井戸内		5号井戸内		6号井戸			
		埋土1	埋土2	埋土3	埋土3	埋土4	埋土6	埋土8	埋土11	埋土9	埋土10
草本											
コウホネ	種子	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
サルトリイバラ近似種	種子	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-
アヤメ属	種子	-	-	-	-	-	-	46	-	1	-
ツクサ	種子	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
イネ	類	-	-	-	-	-	-	1	(1)	-	-
	炭化類果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
	炭化胚乳	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	炭化胚乳残部	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
オオムギ	炭化種子	-	-	-	-	-	2	10	-	-	-
コムギ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
アオツブラフジ	種子	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-
ササゲ属	炭化種子	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
ダイズ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
アヤ	種子	-	-	1	(7)	-	-	-	-	-	-
カナムグラ	果実	-	-	-	-	-	52	90	-	87	-
カラハナソウ	果実	-	-	-	-	-	64	41	-	55	-
キュウリ属メロン仲間	種子	1	-	3	-	-	12	26	-	4	-
スズメウリ	種子	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
カボチャ	種子	-	86	7	-	-	-	2	-	-	-
カタバミ属	種子	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ヤナギタデ	果実	1	-	-	-	-	-	4	-	1	-
オオケタデ	果実	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-
ハナタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
サナエタデ/オオイヌタデ	果実	-	1	-	-	-	6	3	-	-	-
イシミカワ	果実	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
ギシギシ属	果実	-	-	-	-	-	76	11000	-	140	-
ソバ	果実	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
ミドリハコベ近似種	種子	-	-	-	-	-	3	2	-	-	-
ヒユ属	種子	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-
ヤマゴボウ	種子	-	-	-	-	-	122	69	-	3	-
ナス属	種子	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-
トウガラシ属	種子	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
セリ属	果実	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-
不明	鞘状変形	-	4	58	4	-	-	-	-	-	-

の個数で示した。ただし供された試料が乾燥状態であったため、乾燥して割れやすい種実はもともと堆積時は完形と想定し完形個数に換算して表示した。分類群の配列はAPG IIIに従い、木本と草本は分けられている。

【井戸遺構から出土した大型植物遺体】井戸遺構から出土した大型植物遺体の木本類の同定計数結果を表64に、草本類の同定計数結果を表65に示した。4つの井戸遺構からは木本の針葉樹7分類群、広葉樹39分類群、草本の単子葉類7分類群、双子葉類23分類群が確認された。1号井戸からは28分類群が同定され、ノブドウが大量に確認され、出土した内果皮の半分以上が割れた状態のサンショウが多く出土した。また半分や破片が多いウメ、割られたオニグルミ、カボチャの種も比較的多く、破片状のカヤ、モモ、クリなども出土している。針葉樹の個数は少ないがモミ属、マツ属複雑管束亜属、スギを出土している。カボチャ以外の草本は極めて少なくキュウリ属メロン仲間、炭化したササゲ属などを出土した。2号井戸は出土分類群・個数ともにやや少なく13分類群を出土し、破片状のモモ、ウメ、オニグルミなどのほかスギ、サンショウなどが確認された。草本はアサ、カボチャ、キュウリ属メロン仲間が出土している。5号井戸は2号井戸よりさらに出土が少なく、ウメとオニグルミが1個ずつとわずかで草本種実の確認されなかった。6号井戸は73分類群が同定され、埋土6層と埋土9層は1分類群ずつと少ないが、埋土8層、11層、10層は分類群・個数ともに多い。針葉樹のサワラはかなり多く、スギ、モミ属、クロマツ、マツ属複雑管束亜属も球果や葉、種子などさまざまな部位を出土している。モモ、ウメ、アンズ、スモモ、オニグルミ、サンショウ、カキノキ属といった利用植物とともに本州にはないと考えられるリュウガンも出土している。その他の広葉樹はノブドウが多く、フジ、サクラ属サクラ節、ニガキ、ミズキ、クマノミズキなどが出土した。草本はギシギシ属をかなり多く出土し、カナムグラ、カラハナソウ、ヤマゴボウも多く、アヤメ属、キュウリ属メロン仲間、ソバ、トウガラシ属なども出土している。

表66 池状遺構出土大型植物遺体 (1)
Tab.66 Plant macrofossils excavated from pond-like features (1)

分類群名	遺構 出土部位/層位	1号池状遺構			2号池状遺構							
		理+1	理+2a	理+2b	理+1	理+2	理+3a	理+3b	理+4	理+5a	理+5b	理+5c
木本												
モミ属	葉	-	-	-	5	18	-	3	21	4	-	-
マツ属複雑管束亜属	風化球果	-	5	1	-	5	-	-	-	-	-	-
	種鱗	-	6	-	-	3	-	-	-	-	-	-
スギ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
サワラ	球果	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	小枝	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
カヤ	種子	-	-	-	(11)	(1)	(1)	-	-	-	-	-
ブドウ属	種子	-	-	-	3	-	-	1	1	-	-	-
モモ	核完形	1	1	-	6	-	1	-	-	1	-	-
	核完形食痕	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	核半分及び破片	4	3	-	1	8	-	1	-	-	-	-
ウメ	核完形	-	1	-	-	7	2	-	-	-	-	-
	核完形食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	核完形風化	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
	核半分及び破片	-	-	-	9	3	-	-	-	-	-	-
アンズ	核	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
スモモ	核完形	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-
	核半分及び破片	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
ヒメコウゾ	内果皮	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
オニグルミ	内果皮完形	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮完形食痕	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
	内果皮半分	-	-	4	-	7	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分食痕	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-
	内果皮半分割痕及び焦げ	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分風化	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮破片	-	6	9	-	9	1	-	1	-	-	-
イヌシデ	果実	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ミツバウツギ	種子	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
サンショウ	内果皮	-	-	-	8	7	-	1	3	-	-	-
	内果皮半分及び破片	-	-	-	16	14	1	2	13	17	1	-
カラスザンショウ	内果皮	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
ミズキ	内果皮	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
クマノミズキ	内果皮	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
チャノキ	種子	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
草本												
スゲ属	果実	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ホタルイ属	果実	-	-	-	-	1	-	-	3	-	-	-
アサ	種子	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-
カナムグラ	果実	-	-	-	2	-	-	-	5	2	-	-
カラハナソウ	果実	-	-	-	-	(1)	-	1	2	-	-	-
ヒョウタン属	種子	-	-	-	12	3	1	1	-	-	-	-
キュウリ属メロン仲間	種子	-	-	-	101	40	-	3	5	7	-	-
カタバミ属	種子	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-
エノキダサ	種子	-	-	-	-	-	1	-	-	4	2	-
ヤナギタデ	果実	-	-	-	13	130	14	26	60	70	4	-
サクラタデ	果実	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
オオケタデ	果実	-	-	-	4816	268	16	4	14	3	10	-
ハナタデ近似種	果実	-	-	-	8	72	5	2	6	17	-	-
サナエタデ/オオイスタデ	果実	-	-	-	74	280	27	33	130	181	15	-
ギンギン属	果実	-	-	-	-	5	-	1	18	12	-	-
ミドリハコベ近似種	種子	-	-	-	5	-	-	1	-	-	-	-
ヒユ属	種子	-	-	-	600	84	6	27	40	15	-	-
ヤマゴボウ	種子	-	-	-	2	30	1	-	-	-	-	-
ザクロソウ	種子	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
ナス属	種子	-	-	-	2	8	-	-	-	-	-	-
シツ属	果実	-	-	-	-	1	-	-	2	1	-	-

【池状遺構から出土した大型植物遺体】池状遺構から出土した大型植物遺体の同定結果を表66・67に示した。池状遺構では木本の針葉樹5分類群、広葉樹24分類群、草本の単子葉類7分類群、双子葉類23分類群が同定された。1号池状遺構は分類群・個数ともに大変少なく、マツ属複雑管束亜属とモモ、ウメ、オニグルミが出土し木本のみ確認された。2号池状遺構は層位により出土傾向にばらつきがあり、2層では木本がやや多く、草本は2層から5b層までが比較的多い。木本は3a層と5a層でモミ属がやや多く出土し、サンショウ、モモ、オニグルミなどの利用植物がやや目立つ傾向にある。草本は2層から5b層でキュウリ属メロン仲間、ヤナギタデ、オオケタデなどの利用・薬用植物がやや多く、ヒョウタン属も出土し、ヒユ属、サナエタデまたはオオイスタデ、ハ

表67 池状遺構出土大型植物遺体 (2)
Tab.67 Plant macrofossils excavated from pond-like features (2)

分類群名	遺構 出土部位/層位	3号池状遺構		4号池状遺構									
		埋土1	埋土4	埋土1	埋土2	埋土3	埋土4	埋土5	埋土6	埋土7	埋土8		
木本		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モミ属	葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
マツ属椎葉系常葉	風化球果	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
スギ	種子	-	-	-	5	1	-	1	1	4	7	-	-
カヤ	種子	-	-	-	(4)	(1)	-	-	-	-	-	-	(1)
ヤマブドウ	種子	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	種子	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
ノブドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ハナ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
キイチゴ属	核	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
モモ	核完形	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1
	核半分及び破片	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	1
ウメ	核完形	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	1
	核半分及び破片	-	-	-	4	-	-	1	-	-	-	-	1
アンズ	核	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
クワ属	種子	-	-	-	5	-	-	1	6	-	-	-	-
オニグルミ	内果皮完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	内果皮半分割痕及び焦げ	-	-	-	1	2	3	-	3	1	5	4	-
	内果皮破片	7	1	2	2	2	1	2	4	-	-	-	11
イヌシデ	果実	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ハシバミ	果実	-	-	-	(1)	-	-	-	-	5	2	-	18
サンショウ	内果皮	-	-	-	198	70	11	21	5	2	18	-	-
	内果皮半分及び破片	-	-	-	8	172	108	34	75	34	67	98	-
カキノキ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
チャノキ	種子	-	-	-	(3)	(1)	-	1	-	-	-	-	-
エゴノキ	内果皮	-	-	-	3	(3)	-	1	-	-	-	-	2
ハクウンボク	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	-	-
ニワトコ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
草本		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イボクサ	種子	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-
ホタルイ属	果実	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	1
イネ	籾	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	(12)
オオムギ	炭化種子	-	-	-	2	10	10	-	1	-	-	-	1
コムギ	炭化種子	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-
ヒエ属	籾	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
カナムグラ	果実	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	1
カラハナソウ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ヒョウタン属	種子	-	-	-	9	2	-	1	-	-	-	-	-
キュウリ属メロン仲間	種子	-	-	-	5	80	31	5	90	24	106	1897	-
エノキグサ	種子	-	-	-	-	9	15	-	1	-	-	-	3
ヤナギタデ	果実	-	-	-	160	165	1	105	1	219	165	-	-
カワラタデ	果実	-	-	-	1	-	-	4	-	8	5	-	-
ハナタデ近似種	果実	-	-	-	216	240	2	165	1	49	103	-	-
ヤナエタデ/オオイヌタデ	果実	-	-	-	90	35	-	13	1	20	67	-	-
イシミカワ	果実	-	-	-	2	1	-	-	2	-	-	-	2
タデ属	炭化果実	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-
ギンギン属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ヒユ属	種子	-	-	-	9	13	-	10	-	-	-	-	16
ザクソウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
アカネ属	種子	-	-	-	2	1	-	1	-	-	-	-	-
ナス属	種子	-	-	-	1	7	1	4	-	3	-	-	-
シソ属	果実	-	-	-	1	11	-	-	16	1	-	-	9
イヌコウジ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2

表68 ビットほか遺構出土大型植物遺体
Tab.68 Plant macrofossils excavated from any other features

分類群名	遺構 出土部位/層位	4号遺構	9号遺構	15号遺構	18号遺構	40号遺構	66号遺構
		埋土8	埋土7	埋土1	埋土2	埋土2	埋土4
木本		-	-	-	-	-	-
ノブドウ	種子	1	-	-	-	-	-
モモ	核完形	1	-	1	1	1	1
	核半分及び破片	-	-	-	-	-	2
ウメ	核半分及び破片	-	2	-	-	-	-
オニグルミ	内果皮半分割痕及び焦げ	2	-	-	1	-	-
	内果皮破片	-	-	-	3	-	-
草本		-	-	-	-	-	-
キュウリ属メロン仲間	種子	-	-	-	-	-	1
カサチャ	種子	310	-	-	-	-	-

ナタデ近似種も多く出土した。3a層では薬用の可能性があるヤマゴボウもやや多く出土している。3号池状遺構ではオニグルミの破片のみが出土し個数も僅かであった。4号池状遺構は1層と9層で出土数が大変少ないが2層から8層まではサンショウ、キュウリ属メロン仲間、ヤナギタデ、ハナタデ近似種、サナエタデまたはオオイヌタデの出土が多い。個数は少ないがオニグルミ、ヒョウタン属、エゴマの可能性が高いシソ属も出土した。【用途不明遺構から出土した大型植物遺体】表68には用途不明遺構から出土した大型植物遺体の同定結果を示した。これらの遺構では、ノブドウを除き食用とされる種類のみが出土している。出土した種実のうちモモ、ウメ、オニグルミ、キュウリ属メロン仲間は1-3個とかなり少ないが、4号遺構でカボチャが大量多く出土した。

(3) 大型植物遺体の出土傾向からみた当時の植物利用と周辺の環境

大型植物遺体における出土傾向を見るため表69・70では井戸遺構と池状遺構の出土個数を遺構毎に集計し、植物の特徴や利用目的などに応じて配列しなおした。表69には「食用や薬用などとして果実や種子のみが持ち込まれた可能性が高い分類群」、同じく「利用植物であるが敷地内に植栽されている可能性もある分類群」、「利用可能であるが積極的な利用は考えにくく自生が考えられる分類群」、「利用植物ではなく水域や湿地の環境指標になる分類群」という項目別にまとめた。表70は一般的に種実の利用が考えにくく敷地に植栽あるいは敷地周辺に自生する分類群をまとめてある。

本調査で出土した大型植物遺体の特徴としては、モミ属、スギ、サワラなどの針葉樹に加え、庭園植物として植栽されたとみられるウメ、モモや利用植物由来のメロン仲間、カボチャ、オニグルミ、サンショウなどの種実が種類・個数ともに多く出土し、井戸や池状遺構に特徴的な湿性植物や水域に生育する草本などはあまり多くない傾向がみられた。

まず、「食用や薬用などとして持ち込まれたとみられる植物」は城郭の敷地に植栽の可能性もあるが、一般的には農地で育てられたものを食用として持ち込んだ可能性が高いと考えられる。この中でリュウガンは台湾、中国などが産地で九州あたりまでは生育できるが東北には生育できない種類である。種子の破片が1個だけ出土したことから城内に珍しい果物あるいは薬用として持ち込まれたものであろう。またハシバミは山地に生育し、仙台周辺で見られるツノハシバミより稀であるため持ち込まれた種類とした。ヒョウタン属種子は2号池状遺構と4号池状遺構で出土し、2号池状遺構ではヒョウタン属の可能性が高い果皮も出土している。山本氏は岡山大学構内遺跡で種子が検出された井戸を検討し「祭祀的要素の強い井戸と種子が密接な関係を有していた」とし頻繁に出土する種類としてヒョウタンを挙げている(山本悦世1991)。また山崎氏は奈良県内の弥生時代〜古墳時代にかけて検出された井戸から出土した様々な遺物を検討し、ヒョウタンなどの植物種子が祭祀具とともに出土する例が多く井戸祭祀との関連性が高いとの見解をまとめている(山崎孝盛2005)。井戸遺構ではヒョウタンが確認されなかったが、本遺跡では底が深すぎたため井戸底部まで発掘がされておらず、ヒョウタンの有無はわからなかった。本遺跡の池状遺構においてはヒョウタン属と思われる果皮とともに種子が出土していることから、容器として加工されたものではなく生の果実をそのまま投入している可能性が高く、池に関しても埋め戻しに際して祭祀をおこなったことも考えられる。

食用や薬用であり庭園にも植栽される種類としては、花をめでることができるモモ、ウメ、オオケタデや垣根としても利用されるチャノキ、水域周囲に生育しやすいオニグルミ、ヒメグルミ、周囲の林分に生育するクリ、サンショウ、食用のシソ属などがある。ヤマゴボウとオオケタデは中国原産で薬用として利用されるが鑑賞用としてもよく植栽される。モモは装飾品に加工した痕跡がある核、オニグルミは火にあぶって割った痕跡がある内果皮が出土しており、サンショウも大変堅い内果皮であるにもかかわらず半数以上が割られた状態で出土していることから利用痕跡と判断した。なお、シソ属とした果実は形態と大きさからエゴマ型とシソ型が区別しにくいことからシソ属と同定されている。エゴマもシソも食用あるいは香辛料として利用される。

次に、積極的な利用は考えにくいが敷地内あるいは周囲に自生している利用植物の種類としてカヤ、ヤマブドウ、サクラ節、ツノハシバミ、ガマズミ属が出土した。ヤナギタデは水湿地に自生するが現在でも刺身のつまなど香辛料として利用され本遺跡でも比較的出土個数が多い。ただし出土が多い要因が雑草として多く生育していたからか、利用するために残しておいたかは定かではない。ニガキ、ニワトコ、アオツツラフジ、ヒユ属は薬用としても利用できる種類であり、このうちヒユ属種子は潰れた種子がやや多いため解熱、解毒、眼病薬などとして利用した可能性もある。ウルシ属、ヤブツバキ、エゴノキは油脂がとれるが出土個数はそれほど多くないため花や紅葉を鑑賞する植物として伐り残しておいたものであろう。

水城などの指標植物としては、木本のハンノキ、抽水植物のコウホネ、実際に生育するイボクサ、ホタルイ属、サクラタデ、イシミカワ、セリ属を出土したが、井戸や池といった水関連の遺構としては出土個数は少ない。利用できるヤナギタデなどを残して池の中は刈り取っていたことも考えられる。また、池などある程度の開水域がある環境で生育する抽水植物のコウホネ種子が井戸堆植物から出土したが、分析に供した堆植物は底部層ではないため、井戸埋め戻しに池の中の土を使用した結果とも考えられる。

表70は利用以外の植物をまとめた。モミ属、クロマツを含むマツ属複雑管束亜属、スギ、サワラが大変多く、敷地周囲がこうした針葉樹で囲まれていたと考えられる。つる植物のノブドウがかなり多く、カナムグラ、カラハナソウも比較的多いので、周囲の樹木にこれらのつる植物が生育していた。落葉広葉樹であるコナラ、カエデ属やミズキ、クマノミズキ、イヌシダ、ハクウンボクなども出土している。これらの分類群は利用後の廃棄の可能性は低いと思われ、敷地の内外に繁茂していたと考えられる。またこれらの出土個数が多いのはおもに6号井戸の8層、10層、11層であり、この層位の堆積時期が落果が多い秋であったか、井戸孔が蓋されずに開いていたことも考えられる。

表69 遺構種類別集計 (利用・生育環境毎)
Tab.69 Distribution of Plant macrofossils by kind of features (usage environment)

分類群名	遺構 出土部位/層位	井戸遺構				池状遺構			
		1号井戸	2号井戸	5号井戸	6号井戸	1号池	2号池	3号池	4号池
可食・利用植物：利用部位の不明が持ち込まれた可能性が高い種類									
ブドウ	種子	-	-	-	3	-	-	-	-
アズキ	種子	1	-	-	3	-	1	-	1
スモモ	核完形	1	-	-	7	-	6	-	-
	核半分及び破片	-	-	-	2	-	2	-	-
ハシバミ	果実	-	-	-	-	-	-	-	1
リュウガン	種子	-	-	-	1	-	-	-	-
イネ	籾	-	-	-	2	-	-	-	13
	炭化籾粟	-	-	-	1	-	-	-	-
	炭化胚乳	-	-	-	2	-	-	-	-
	炭化胚乳焼跡	-	-	-	4	-	-	-	-
オオムギ	炭化種子	-	-	-	12	-	-	-	24
コムギ	炭化種子	-	-	-	1	-	-	-	4
アサ	種子	-	8	-	-	-	1	-	-
ヒョウタン属	種子	-	-	-	-	-	17	-	12
キュウリ属メロン仲間	種子	1	3	-	42	-	156	-	2238
カボチャ	種子	86	7	-	2	-	-	-	-
ソバ	果実	-	-	-	2	-	-	-	-
トウガラシ属	種子	-	-	-	1	-	-	-	-
栽培植物：可食・兼用で栽培内蔵の可能性も考えられる種類									
モモ	核完形	3	-	-	14	2	8	-	3
	核完形食痕	-	-	-	3	-	1	-	-
	核半分及び破片	7	3	-	23	7	19	-	5
	核加工品	-	-	-	1	-	-	-	-
ウメ	核完形	31	3	-	7	1	9	-	3
	核完形食痕	2	-	-	-	-	2	-	-
	核完形風化	-	-	1	-	1	1	-	-
	核半分及び破片	54	3	-	13	-	12	-	6
クリ	果皮	20	1	-	44	-	-	-	-
オニグルミ	内果皮完形	10	-	-	-	2	1	-	1
	内果皮完形食痕	4	-	-	-	1	1	-	-
	内果皮半分	3	-	1	4	4	7	-	-
	内果皮半分食痕	2	-	-	-	4	1	-	-
	内果皮半分割痕及び焦げ	28	-	-	5	-	20	-	19
	内果皮半分風化	-	-	-	-	1	4	-	-
	内果皮破片	122	6	-	18	15	11	8	24
ヒメグルミ	内果皮半分割痕及び焦げ	2	-	-	-	-	-	-	-
マンショウ	内果皮	1010	6	-	267	-	19	-	325
	果実外果皮残	-	-	-	3	-	-	-	-
	内果皮半分及び破片	665	3	-	131	-	64	-	596
カキノキ属	種子	2	-	-	8	-	-	-	1
チャノキ	種子	-	-	-	4	-	2	-	5
オオケタデ	果実	-	1	-	-	-	5125	-	-
ヤマゴボウ	種子	-	-	-	194	-	33	-	-
シノブ	果実	-	-	-	-	-	4	-	38
植栽または自生で兼用あるいは利用植物としても利用可能な種類									
カヤ	種子	3	-	-	12	-	13	-	6
ヤマブドウ	種子	1	-	-	4	-	-	-	1
サクラ属サクラ節	核	12	2	-	67	-	-	-	-
ツノハシバミ	果実	-	-	-	2	-	-	-	-
ウルシ属	炭化内果皮	-	-	-	2	-	-	-	-
ニガキ	種子	-	-	-	9	-	-	-	-
ヤブツバキ	種子	-	-	-	3	-	-	-	-
エゴノキ	内果皮	-	-	-	3	-	-	-	7
ガマズミ属	内果皮	-	-	-	10	-	-	-	-
ニフトコ	内果皮	-	-	-	1	-	-	-	1
アオツブラフジ	種子	-	-	-	11	-	-	-	-
ヤナギタデ	果実	1	-	-	5	-	317	-	816
ヒユ属	種子	-	-	-	5	-	772	-	48
湿地・水域に生育する種類									
ハンノキ	果実	6	-	-	-	-	-	-	-
コウホネ	種子	-	-	-	3	-	-	-	-
イヌクサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	4
ホタルイ属	果実	-	-	-	-	-	4	-	4
サクラタデ	果実	-	-	-	-	-	1	-	18
インシカワ	果実	-	-	-	3	-	-	-	7
セリ属	果実	-	-	-	1	-	-	-	-

表70 遺構種類別集計（生育環境毎）
Tab.70 Distribution of Plant macrofossils by kind of features (growing environment)

分類群名	遺構 出土部位/層位	井戸遺構				池状遺構			
		1号井戸	2号井戸	5号井戸	6号井戸	1号池	2号池	3号池	4号池
庭園植栽あるいは周辺に生育していた植物		-	-	-	156	-	-	-	-
モミ属	種鱗及び苞鱗	-	-	-	63	-	-	-	-
	種子	1	-	-	214	-	51	-	3
	葉	-	-	-	8	-	-	-	-
クロマツ	球果	-	-	-	7	-	-	-	-
	種鱗	-	-	-	1	6	5	-	1
マツ属残維管束重属	風化球果	1	-	-	-	6	3	-	-
	種鱗	-	-	-	29	-	-	-	-
	雌花	5	-	-	-	-	-	-	-
	種子	2	-	-	1	-	-	-	-
	葉	-	-	-	137	-	-	-	-
スギ	球果	4	3	-	368	-	-	-	-
	雌花	-	-	-	4	-	-	-	-
	種子	4	-	-	33	-	1	-	19
ヤワラ	球果	-	-	-	30695	-	1	-	-
	種子	-	-	-	1188	-	-	-	-
	小枝	-	-	-	81	-	1	-	-
アスナロ属	小枝	-	-	-	1	-	-	-	-
ブドウ属	種子	-	1	-	3	-	5	-	3
ノブドウ	種子	13790	1	-	153	-	-	-	1
フジ	さや	-	-	-	44	-	-	-	-
フジ属	芽	6	-	-	2	-	-	-	-
	種子	-	-	-	2	-	-	-	-
ハナ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	1
キイチゴ属	核	-	-	-	-	-	-	-	1
カマツカ近似種	果実	-	-	-	16	-	-	-	-
	核	-	-	-	11	-	-	-	-
ケヤキ	果実	2	-	-	2	-	-	-	-
エノキ	内果皮	5	-	-	4	-	-	-	-
ヒメコウゾ	内果皮	-	-	-	-	-	1	-	-
クワ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	12
コナラ	果実	-	-	-	2	-	-	-	-
ミズナラ	幼果	-	-	-	1	-	-	-	-
コナラ属	果実基部	-	-	-	4	-	-	-	-
ブナ科	果皮	-	-	-	3	-	-	-	-
イヌシデ	果実	-	-	-	8	-	1	-	1
アサダ	果実	-	-	-	1	-	-	-	-
ミツバウツギ	種子	-	-	-	1	-	3	-	-
カエデ属	果実	5	-	-	43	-	-	-	-
カラスザンショウ	内果皮	-	-	-	-	-	2	-	-
ミズキ	内果皮	-	-	-	34	-	2	-	-
クマノミズキ	内果皮	-	-	-	15	-	3	-	-
ハクワンボク	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	4
草本									
アヤメ属	種子	-	-	-	47	-	-	-	-
サルトリイバウ近似種	種子	-	-	-	20	-	-	-	-
ツユクサ	種子	-	-	-	2	-	-	-	-
スゲ属	果実	-	-	-	-	-	1	-	-
ヒエ属	穎	-	-	-	-	-	-	-	1
ササゲ属	炭化種子	1	-	-	1	-	-	-	-
ダイズ属	炭化種子	-	-	-	2	-	-	-	-
カナムグラ	果実	-	-	-	229	-	9	-	6
カウハナソウ	果実	-	-	-	160	-	4	-	1
スズメウリ	種子	-	-	-	2	-	-	-	-
カタバミ属	種子	-	-	-	1	-	9	-	-
エノキダサ	種子	-	-	-	-	-	7	-	30
ハナタデ近似種	果実	-	-	-	2	-	110	-	776
サナエタデ/オオイスダ	果実	1	-	-	9	-	740	-	226
タデ属	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	20
ギシギシ属	果実	-	-	-	11216	-	36	-	2
ミドリハコベ近似種	種子	-	-	-	5	-	6	-	-
ザクロソウ	種子	-	-	-	-	-	2	-	1
アカネ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	4
ナス属	種子	1	-	-	3	-	10	-	16
イスコウジュ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	3
不明	刺状突起	62	4	-	-	-	-	-	-

3. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点池状遺構から出土した袋状遺物

小林和貴（東北大学植物園）・吉川純子（古代の森研究舎）

本遺跡の2号池状遺構から出土したヒョウタン仲間とみられる容器状の遺物について、同定を試みた。遺物は壺型で高さ15cm、割れて3分の1ほどが欠落した状態で出土し容器内部は空洞であった。試料は上下端が欠損していたため表面の状態からは分類群が不明で、分析に供された際にはすでに保存処理がされており表面の微細模様や細胞構造などの観察ができなかった。そこで含浸材を除去し表面と断面の状況を観察した。

(1) 分析方法

試料にはポリエチレングリコールによる保存処理がされていたので、2時間ほど煮てポリエチレングリコールを除去した。まずデジタルマイクロスコープ（ハイロックス社、KH-7700）で表面形態を観察した。断面の観察は、樹脂包埋切片を作製して行った。切片作製方法は以下の通りである。試料片をマイクロチューブ（容量2ml）に入れて、アセトンの上昇系列により脱水した。上昇系列は60%アセトン×1回から開始して、80%アセトン×1回、100%アセトン×6回で各液に1時間以上浸漬した。脱水後の試料のアセトンを徐々にエポキシ樹脂（Agar Scientific社、Low Viscosity Resin）に置換し、包埋した。重合後の樹脂の硬さは、Agar Scientific社のマニュアルに従って「medium」または「soft」に調整した。樹脂包埋した試料から、回転式マイクローム（Microm社、HM350）に装着したディスボーザブルナイフ（Kulzer社、Histoknife H）を用いて切片（厚さ10 μ m～30 μ m）を作製し、トルイジンブルーで染色した。切片は、標本封入剤PARAMOUNT-N（ファルマ社）で封入して観察用プレパラートとした。プレパラートは、MYG-6605の番号を付して東北大学植物園に保管されている。

対照標本の現生ヒョウタン果実は、徳島県で栽培され乾燥されたものを購入した。遺物と同様に2時間ほど煮てから表面形態をデジタルマイクロスコープで観察した。その際に、試料をサフラニン水溶液で染色した。断面観察にあたっては、出土遺物と同様に樹脂包埋切片を作製した。

(2) 同定結果（図73）

観察の結果、遺物は柱頭や果柄のつくべき基部などが欠損していたが、外形が壺型で現生のヒョウタンと表面及び断面の細胞配列がきわめて近似しており堆積物中でも果皮がしっかり残っていることから、ヒョウタン属（ヒョウタン、フクベなど）と考えられる。ヒョウタン属にはヒョウタンのほかフクベや食用のユウガオなど複数の種類がある。ユウガオの果実は一般的には高さ30cm以上程度と大きく、外観は球形と円筒形がある。出土した遺物は15cmとやや小さく壺型の外形であることからヒョウタンの可能性が高い。しかし現生のユウガオやフクベも大きさや形に変異があることが考えられ、ユウガオも完全果実を乾燥させると果皮は固くなり容器として使う。さらに今回は現生ユウガオなどの断面構造による比較検討を行えなかったため、同定結果はヒョウタン属にとどめる。

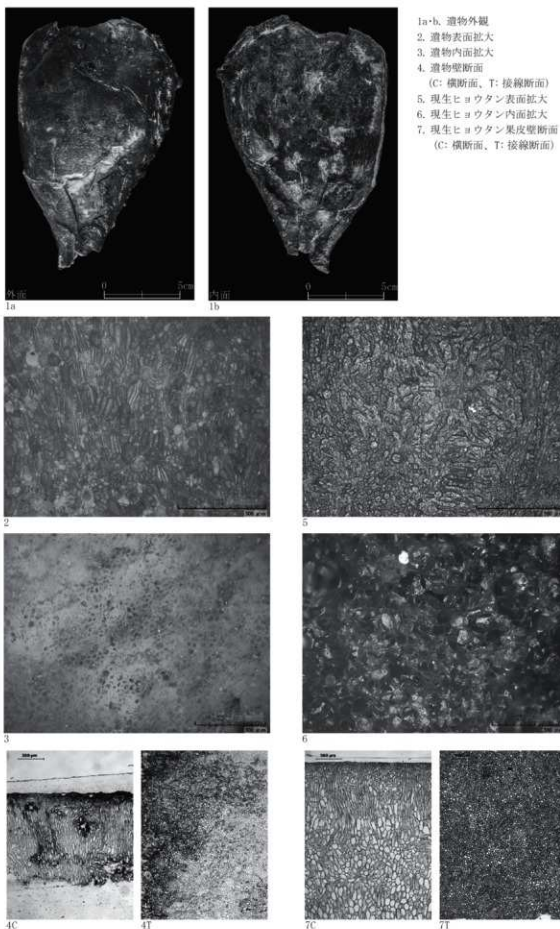


図73 2号池状遺構から出土した遺物果皮と現生ヒョウタン果皮の比較写真
 Fig.73 Comparison of an archaeological peel remains from No.2 pond and an existing gourd peel

4. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点出土編組製品等の素材植物

小林和貴¹・鈴木三男¹・佐々木由香²・能城修一²・國井秀紀³

(1:東北大学植物園, 2:明治大学黒曜石研究センター, 3:千葉県匠匠市「木積ぎづくり伝承教室」)

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点から出土した17世紀から18世紀の編組製品3個体と不明製品1個体および縄の断片について、樹脂包埋切片法による素材植物の同定を行った。

(1) 試料と方法

試料の内訳は、2号池状遺構(17世紀)から出土した蓆状敷物1個体と、4号池状遺構(17世紀)から出土した編組製品2個体である。不明製品は、2号池状遺構(17世紀)から出土した棒状の軸に縄が巻き付けられた製品である。縄は、2号井戸(18世紀)から出土した断片である。

素材同定用の試料として、各遺物から長さ5mm程度の小片を合計17点採取した(表71)。蓆状敷物からは10点の試料を採取した。このうちの9点の試料については、遺物取り上げの際に剥落した部材より採取し、部材毎に複数の試料を採取するよう心がけた。残りの1点については保存処理をされた遺物本体から採取した(図74)。編組製品2個体と不明製品および縄からは、部材毎に1点で合計7点の試料を採取した(図75)。不明製品に巻き付いている縄については、遺物から剥落していた小片を試料として採取した。

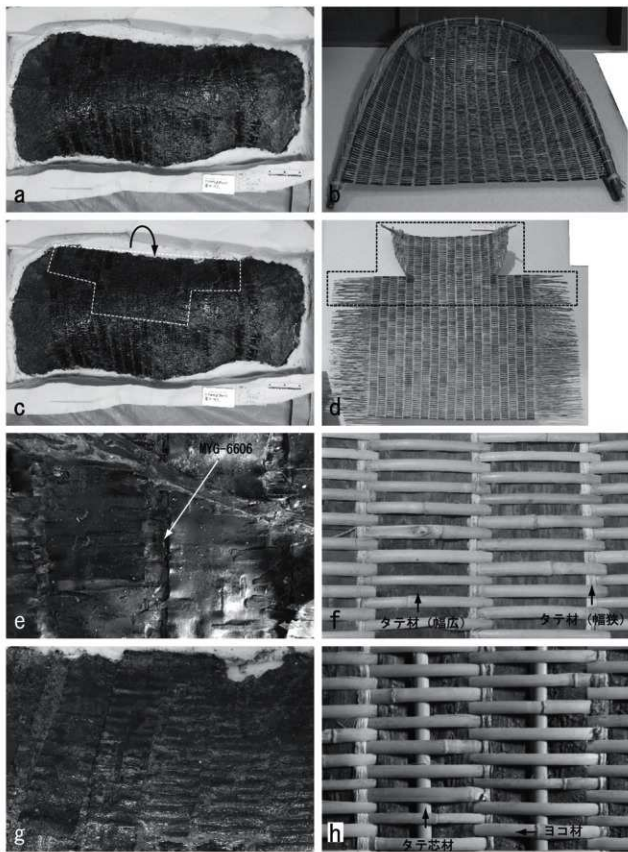
同定方法は、デジタルマイクロスコープ(ハイロックス社、KH-7700)による各試料の外部形態観察と、樹脂包埋切片による組織構造観察である。樹脂包埋切片は以下の手順で作製した。蓆状敷物のタテ材(幅狭)1点はポリエチレングリコールによる保存処理、不明製品および縄はトレハロースによる保存処理が施されていたので、それらを除去するために2時間程水蒸してから脱水処理を行った。試料をマイクロチューブ(容量2ml)に入れて、アセトンの上昇系列により脱水した。上昇系列は60%アセトン×1回から開始して、80%アセトン×1回、100%アセトン×5回で各液に1時間以上浸漬した。脱水後の試料のアセトンを徐々にエポキシ樹脂(Agar Scientific社、Low Viscosity Resin)に置換し、包埋した。重合後の樹脂の硬さは、Agar Scientific社のマニュアルに従い「medium」または「soft」に調整した。樹脂包埋した試料から、回転式マイクローム(Microm社、HM350)に装着したディスポーザブルナイフ(Kulzer社、Histoknife H)を用いて切片(厚さ10 μ m~30 μ m)を作製した。切片を標本封入剤PARA mount-N(ファルマ社)で封入して観察用プレパラートとし、光学顕微鏡で観察した。プレパラートは、MYG-6488-6500、6602-6607の番号を付して東北大学植物園に保管されている。

(2) 同定結果

編組製品3個体と、不明製品1個体、縄1個体から採取した試料16点に、4分類群が認められた(表71)。蓆状敷物のタテ材(幅狭)(MYG-6606)は、組織構造が潰れているため、同定できなかった(図76n)。以下に同定根拠となる組織構造を記載し、顕微鏡写真を示す。

① サクラ属 *Cerasus* バラ科 外樹皮(図76a-d)

試料は蓆状敷物の幅広のタテ材4点で、薄く長いテープ状の素材である。試料の長軸に直交する断面(放射断面)では、ほとんどの細胞が潰れているが、断面長方形で細胞壁の厚い細胞が、整然と隙間なく配列するとみられる。テープ状試料の広い面(接線断面)では、接線方向に長い紡錘形の細胞が隙間なく配列している。横断面ではほとんどの細胞が潰れているが、接線方向に細長い細胞が緊密に配列している。いずれも細胞内容物の消失した1種類の細胞で構成されている。これらの形質からサクラ属の外樹皮と同定した。各試料の最大の厚さは0.36~0.88mmであった(表71)。試料の長辺の断面は、階段状になっていた(図76d)。



a: 出土箕 b: 現代の「宮床箕」(宮床宝蔵所蔵品) c: 出土箕 (点線で囲まれた部分が折り返されている) d: 製作途中の箕「イタミ」(点線で囲まれた部分がcの点線部分に該当する)(宮床宝蔵所蔵品) e: 出土箕の表面拡大 f: 「宮床箕」の表面拡大 g: 出土箕の裏面拡大 h: 「宮床箕」の裏面拡大

図74 出土箕と「宮床箕」

Fig.74 Excavated winnow and Miyatoko winnow

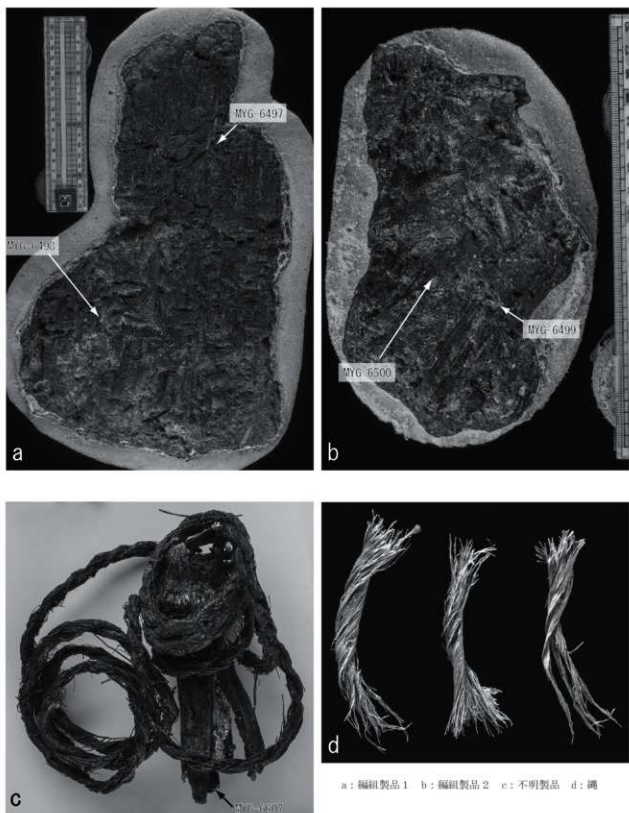
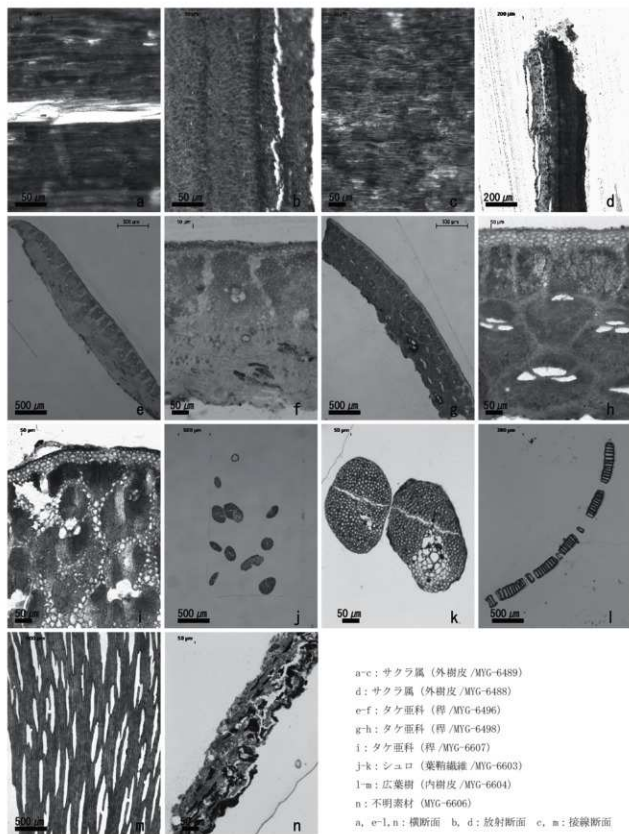


図75 出土編組製品と不明製品および縄
 Fig.75 Excavated woven items, unknown textile item and rope



a-c: サクラ属 (外樹皮 / MYG-6489)

d: サクラ属 (外樹皮 / MYG-6488)

e-f: タケ亜科 (稈 / MYG-6496)

g-h: タケ亜科 (稈 / MYG-6498)

i: タケ亜科 (稈 / MYG-6607)

j-k: シュロ (葉精繊維 / MYG-6603)

l-m: 広葉樹 (内樹皮 / MYG-6604)

n: 不明素材 (MYG-6606)

a, e-l, n: 横断面 b, d: 放射断面 c, m: 接線断面

図76 出土遺物の素材の顕微鏡写真

Fig. 76 Micrograph of excavated implements made of plants

表71 出土編組製品等の素材の植物種
Tab.71 Plant type of woven items at BK14

標本記号	標本番号	樹種	使用部位	遺物名	試料部位	出土遺構	時期	最大厚 (μm)
MYG-	6488	サクラ属	外樹皮	蓑状敷物	タテ材(幅広)1	2号池状遺構	17世紀	0.36
MYG-	6489	サクラ属	外樹皮	蓑状敷物	タテ材(幅広)2	2号池状遺構	17世紀	0.68
MYG-	6490	サクラ属	外樹皮	蓑状敷物	タテ材(幅広)3	2号池状遺構	17世紀	0.79
MYG-	6491	サクラ属	外樹皮	蓑状敷物	タテ材(幅広)4	2号池状遺構	17世紀	0.88
MYG-	6492	タケ亜科	稈	蓑状敷物	ヨコ材1	2号池状遺構	17世紀	0.47
MYG-	6493	タケ亜科	稈	蓑状敷物	ヨコ材2	2号池状遺構	17世紀	0.43
MYG-	6494	タケ亜科	稈	蓑状敷物	タテ芯材1	2号池状遺構	17世紀	-
MYG-	6495	タケ亜科	稈	蓑状敷物	タテ芯材2	2号池状遺構	17世紀	0.42
MYG-	6496	タケ亜科	稈	蓑状敷物	タテ・ヨコ一括	2号池状遺構	17世紀	0.61
MYG-	6497	タケ亜科	稈	編組製品1	タテ材	4号池状遺構	17世紀	-
MYG-	6498	タケ亜科	稈	編組製品1	ヨコ材	4号池状遺構	17世紀	0.69
MYG-	6499	タケ亜科	稈	編組製品2	ヨコ材	4号池状遺構	17世紀	-
MYG-	6500	タケ亜科	稈	編組製品2	タテ材	4号池状遺構	17世紀	-
MYG-	6603	シュロ	葉鞘の繊維	不明製品	縄	2号池状遺構	17世紀	-
MYG-	6604	広葉樹	内樹皮	縄	2号井戸	18世紀	-	-
MYG-	6606	同定不可		蓑状敷物	タテ材(幅狭)	2号池状遺構	17世紀	-
MYG-	6607	タケ亜科	稈	不明製品	軸木	2号池状遺構	17世紀	1.84

②タケ亜科 *Bambusoideae* イネ科 稈 (図76e-i)

試料は蓑状敷物のタテ芯材とヨコ材およびタテ・ヨコ一括材、編組製品1と2のタテ材とヨコ材、不明製品の軸木である。横断面で見ると、表面に1細胞層の表皮、その内側に細胞壁の厚い下表皮が1~2細胞層あり、さらにその内側に2~4細胞層の皮層と基本組織および維管束がある。維管束には、稈の内側(髄腔側)に1ヵ所の原生木部、その両側外側に1対の丸くてやや大きい後生木部道管、さらに外側(表皮側)に1ヵ所の篩部があり、それらを繊維組織が取り囲んでいる。このような維管束が、基本組織中に散在している。篩部については、組織が消失して一つの大きな空隙となっているものも多い。不明製品の軸木(MYG-6607)には、最内部の髄腔に面した髄冠と呼ばれる細胞群もみられる。これらの形質からタケ亜科の稈と同定した。

素材全体の組織が残っていると判断された切片にもとづいて、素材の最大の厚さを計測した。蓑状敷物のヨコ材の厚さは0.43~0.47mm、タテ芯材の厚さは0.42mm、タテ・ヨコ一括材の厚さは0.61mmであった。編組製品1のヨコ材の厚さは0.69mmであった。いずれの試料も多かれ少なかれ組織構造が潰れているため、本来はもう少し厚さのある資料であったと思われる。編組製品1と2ではヨコ材1点(MYG-6498)を除いて植物組織が部分的にしか残存しておらず、計測はできなかった。

タケ亜科には、マダケやモウソウチクなどの竹類(稈鞘が早期に脱落)と、スズタケやアズマネザサなどの笹類(稈鞘が長く宿存)があるが、組織構造ではこれらを識別することは難しい。節部分の外部形態や素材の幅と厚さおよび断面形から推察すると、蓑状敷物の素材は笹類、編組製品1・2と不明製品の軸木は竹類の可能性が考えられる。

③シュロ *Trachycarpus fortunei* (Hook.) H.Wendl. ヤシ科 葉鞘の繊維 (図76j-k)

試料は不明製品の縄の素材で、素材1本の断面は長径200~400 μm 程、短径120~240 μm 程の楕円形をしている。長径300 μm 以下の細い素材は、そのほとんどを小径で厚壁の繊維細胞で占められており、中心部分にわずかに維管束が認められる。これに対して長径300 μm 以上の太い素材では、繊維細胞よりも大径の細胞で構成される維管束が、素材の中心から翼状に発達している。これらの形質からシュロの葉鞘繊維と同定した。

④広葉樹 内樹皮 (図版76l-m)

試料は縄の断片で、薄いシート状の素材がZ撚りにされている。シート状の素材を横断面で観察すると、断面長方形(長辺42~82 μm 、短辺7~26 μm)の細胞が、接線方向に1細胞の厚さで多数連結している。各細胞は、放射方向に長辺を持つ長方形をしている。素材を接線面で見ると、長さ700~950 μm 程度の細長い細胞によって構成されており、紡錘形(高さ515~1012 μm 、幅42~81 μm)の空隙が多数見られる。これらの空隙は木本植物の二次

組織にみられる放射組織の痕跡とみられ、製品製作の過程あるいは遺物化の過程で、放射組織の細胞が消失したと考えられる。空隙の大きさから、放射組織は数細胞幅と思われる。これらの形質から広葉樹の内樹皮と同定した。縄の素材として樹皮が利用される広葉樹には、ヤマブドウやシナノキ属などがあるが、そのいずれにも該当しない。また著者らが所有する現生対照標本にも該当する植物がないため、植物種の同定には至らなかった。

(3) 調査資料の形態記載

①箕(2号池状遺構、VA4、図版12)

「蘆状敷物」は、タテ材にサクラ属の外樹皮、ヨコ材にタケ亜科の稈の割り裂き材を使い、平板状に1本1単位のご目目に編まれた製品で、残存長は44cm、残存幅は100cmを測る(図74a)。この平板状に編まれた製品は、図74cの破線で示したように、上端側が手前に折れた状態で出土しているため、それを伸ばした本来の長さは75cmを測る。タテ材の両端部では、サクラ属の外樹皮が外側か内側に折り返されて端部の処理が行われている。これに対し、ヨコ材の端部では、編まれていない素材が約14cm突出した状態で認められる。遺物の下端部(図74a下側)は中央の先端が剣先状にわずかに尖る。剣先状の部分では、タテ材が外側に折り返して固定されている。また、上端部側では直線状を呈するが、手前に折れた部分が重なっている。この折れた上半分は中央部分が凸状(図74c)を呈し、突出部の長さは10.6cm、幅は34.8cmを測る。突出部とそれよりも一段短い部位の端部では、タテ材が内側または外側に折り返されている。今回観察された柔らかい素材(テープ状の樹皮)と硬い素材(稈の割り裂き材)によるご目編みは、現在の「桜箕」や「藤箕」、「イタヤ箕」などの箕だけにみられる技法であることから、その形態とあわせて「箕」と判断した。

タテ材のサクラ属外樹皮は全体では19本使われている。折り重なった上半分には14本が残り、突出部には9本が認められる。タテ材の幅を整えるために、素材の側端部を斜め方向に断ち落としている。断面形状としては平行四辺形となる。このため、タテ材の側端部は外側に向かって薄くなり、樹皮の片側のみ断ち落とした後線が残る。これらは、刃物を使わずに手でサクラ属の外樹皮を引き裂いた際に見られる特徴的な形態で、切片で断面を観察すると階段状を呈する(図76d)。確認できた範囲では、長さ12~15cm程度の樹皮を、端部がわずかに重なるように並べて長いタテ材としている。樹皮の幅は、29.5~33.4(平均30.1)mm、樹皮と樹皮の間隔(隙間)は、3.9~6.4(平均4.6)mmである。全体的に均一な幅と間隔を保ちながら製作されている。タテ材19本分の横幅は71.5cmを測る。現在の「一斗箕」に近い大きさである。製品の上面側は内樹皮側で、下面側に皮目が残る外樹皮側が使われている。タテ材には、樹皮の片側に幅が約2mmの細い別素材が入っており、樹皮と同じ動きをしている(図77)。下面側の樹皮の中央には、2本1単位のタケ亜科を割り裂いた芯材があり(図77)、幅2.8~4.1(平均3.5)mm、2本の幅は8.2mmを測る。

ヨコ材のタケ亜科の割り裂き材は、幅3.3~5.0(平均3.7)mmである。タテ芯材とヨコ材のタケ亜科の節には稈精痕は認められるが、その上部の隆起線の有無については今回の遺物では断定は難しい。節の形態からは、スズタケもしくはナンプスズ、あるいはアズマネザサなどの可能性が考えられる。

②編組製品1(4号池状遺構、VA5a、図版15)

全体的に残存状況が良くないが、タケ亜科の稈を割り裂いたヒゴ3~4本を1単位とした、2本飛び網代で作られた可能性のある製品である。残存長37cm、残存幅22cm。タテ材は幅4.1~6.7(平均5.6)mm、ヨコ材は幅3.7~5.6(平均4.4)mm、厚さ0.69mmである。タテ材の厚さは、切片を作製した試料では、全体の厚さの組織が残っていないため計測できなかった。遺物の上面に節は観察できない。

③編組製品2(4号池状遺構、VA5b、図版15)

全体的に残存状況が良くない。残存長9.5cm、残存幅15.5cm。タケ亜科の稈を割り裂いたヒゴを1本1単位としたご目か。タテ材は幅6.5mm、ヨコ材は幅4.7~7.2mm、厚さについては、切片を作製した部位ではいずれの

素材も、全体の厚さの組織が残っていないため計測できなかった。上面に節は観察できない。

④不明製品（2号池状遺構、W19、図8、図版10）

タケ亜科の程（長さ6.3cm、最大径1.8cm）に、シュロの葉鞘繊維で作られた縄（全長約1m、太さ4.0～4.5mm）が巻き付けられている。程の節は膨出する。程の両端は破損していると思われる。縄はZ燃りの繊維束（太さ1.5～2.5mm）を2本S燃りにして作られている。縄の一方の端は程の側面にあけられた穴に挿入されており（図8、W19）、そこから4周ほど程に巻き付けられている。程に巻き付けられた輪状の縄の内径は、長さ2.4cm、短径1.8cmである。もう一方の端は程から離れて、縄のみが4周ほど輪状（内径：長さ2.0cm、短径1.9cm）になっている。

⑤縄（2号井戸、VA7、図版44）

薄いシート状の樹皮をZ燃りにした縄の断片である。複数の断片があり、長さ1.8～2.5cm、太さ1.5～1.9cmほどである。

表72 出土箕と「宮床箕」（展開状態）の比較
Tab.72 Compared data of excavated winnow and Miyatoko winnow

		庭状敷物(出土箕)	宮床箕 (宮床宝蔵所蔵)
全体形	全長 (タテ材の全長)	75cm	73cm
	幅 (ヨコ材の全長)	100cm	96cm
	タテ材 (サクラ属樹皮) 本数	19本	19本
	タテ材 (サクラ属樹皮) 全体の幅	71.5cm	61.8cm
	タテ材 (フジ樹皮) 本数	-	20本
	ヨコ材 本数	-	205本
突出部 (アケド)	長さ	10.6cm	16.6cm
	タテ材 (サクラ属樹皮) 本数	9本	11本
	タテ材 (サクラ属樹皮) 全体の幅	34.8cm	34.6cm
	タテ材 (フジ樹皮) 本数	-	12本
部材	タテ材 (サクラ属樹皮) 1本の幅	29.5～33.4 (平均30.1) mm	18.6～31.7 (平均27.3) mm
	タテ材 (サクラ属樹皮) 厚さ	0.36～0.88 (平均0.68) mm	0.2～0.3mm
	タテ材 (フジ樹皮) 1本の幅	-	1.8～5.2 (平均2.7) mm
	タテ芯材 1本の幅	2.8～4.1 (平均3.5) mm	3.2～5.2 (平均4.0) mm
	タテ芯材 厚さ	0.42mm	-
	ヨコ材 1本の幅	3.3～5.0 (平均3.7) mm	2.3～4.3 (平均3.5) mm
	ヨコ材 厚さ	0.43～0.47mm	0.5～1.3 (平均0.8) mm
	タテ・ヨコ一括材 1本の幅	0.45mm	-
	タテ・ヨコ一括材 厚さ	0.61mm	-
	ヨコ材 (編まれていない部分) 長さ	14.0cm	-

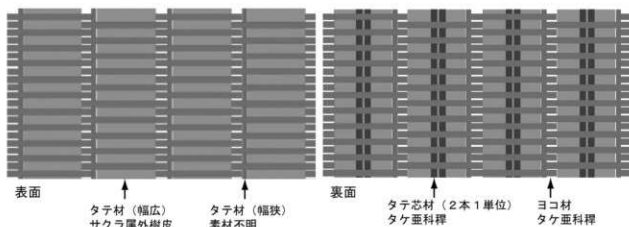


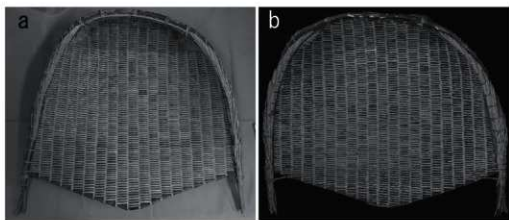
図77 出土箕の編組模式図
Fig.77 Pattern diagram of excavated winnow

(4) 考察

出土した箕は、全体的な形状から箕を展開した「イタミ」と考えられる。形態記載において「突出部」とした部位は完成した箕では立ち上がって、「アクト」と呼ばれる部位になる(TEM研究所2006)。タテ材の幅広の素材にはサクラ属の外樹皮、幅狭の素材には植物種不明の素材が使われ、ヨコ材にはタケ亜科の程の割り裂き材が使われている。現代でも同様の素材と編組技法で作られた箕が、宮城県と岩手県および関東地方と九州地方の一部で知られていて、箕先が剣先状に尖る箕は宮城県と岩手県で作られている(工藤員功1991、御所野縄文博物館2008、丸谷仁美2015、山内明美2003)。宮城県と岩手県で製作地が分かっている箕は、宮城県黒川郡大和町宮床と岩手県気仙郡住田町上有住で作られた箕で、それぞれ「宮床箕」、「気仙箕」と呼ばれている。今回出土した箕は箕先と思われる部位が剣先状に尖る形態から、「宮床箕」や「気仙箕」との関連がうかがわれる。そこで、宮床にある資料館「宮床宝蔵」(宮城県黒川郡大和町宮床字下小路64)に展示されている製作途中の箕(イタミ)について、各部の計測を行い出土箕との比較を行った(表72)。宮床では箕先が尖る箕と、尖らない箕が作られているが、宮床宝蔵の所蔵品では箕先は尖らない。出土箕と「宮床箕」とでは、全体の高さや使われているタテ材(サクラ属外樹皮)の本数はよく一致している。しかし、突出部(アクト)については長さやタテ材(サクラ属外樹皮)本数に違いが見られ、出土箕ではそれぞれ10.6cmと9本なのに対して、「宮床箕」では16.6cmと11本である。出土箕を箕に仕立てた場合には、「アクト」が低いため箕の側面となる「ソデ」の立ち上がりも少なく、「宮床箕」にくらべて全体的に平たい浅い箕になると思われる。各部材については、遺物の遺存状態や、計測方法の違い(顕微鏡用切片での計測と実資料の計測)もあり正確な比較は難しいが、出土箕のタテ材(サクラ属外樹皮)は「宮床箕」に比べて幅広で厚い傾向がある。「宮床箕」ではタテ材にサクラ属の外樹皮と一緒に、細く裂いたフジの樹皮を入れることが知られている。出土箕でも、同様な使い方の細いタテ材がみられたが、植物種の同定は出来なかった。フジの樹皮は長期間の水漬けで腐ってしまうので遺体として残らなかったと考えられ、出土箕にもフジの樹皮が使われていたかもしれない。宮床に箕作りの技術が取り入れられたのは幕末の嘉永年間(1848-1854年)と言われており、宮床伊達家の家臣である鈴木家が、現在の栃木県日光の山中の村で作り方を習得してきたとされている(山内明美2003)。今回の結果は、それ以前の17世紀に仙台城二の丸北方武家屋敷で、既に「宮床箕」に似た形状の箕が使われていたことを示している。「気仙箕」については詳細な調査を行っていないが、「気仙箕」の「アクト」は12cm程と低く、側面となる「ソデ」の立ち上がりも少ない傾向があるので、出土箕の完形品は、「気仙箕」に近い形状をしていたと考えられる(図78)。今回出土した箕は、展開されて池の土手の土留として転用されたのだろう。

編組製品1と2は、いずれも残存状況が良くないため編組技法には不確かな点もあるが、編組製品1はヒゴ3-4本を1単位とした2本飛び網代、編組製品2はヒゴ1本を1単位としたご目とみられる。編組技法は異なるが、近接して出土し、素材幅もほぼ一致しており、同一個体の製品に由来すると考えられる。編組製品1が底部で編組製品2が体部である可能性も考えられるが、現状では元の製品の形状は分からない。素材についてみると、編組製品1のヨコ材2の横断面(図76g・h)での表皮から内側へ分布する維管束の本数から判断して、内側の組織を取り除いて厚さを調整したと考えられる。また、素材の厚さを横断面で見ると中央から縁まではほぼ一様であることや、縁の形状が矩形であることから、比較的太い程を利用、すなわち竹類の程を利用した可能性が考えられる。

不明製品は、タケ亜科の程にシュロ縄が巻き付けられた製品で、現状では縄の一部は程から外れているが、その形態から判断すると、縄は全長にわたって程に巻き付けられていた可能性が高い。程の両端は破損しているとみられ、完形品ではもっと長かったと思われる。この遺物の特徴的な点は、程に巻き付けられた縄の一端が程の側面にあけられた穴に挿入されている点である(W19、図8、図版10)。箒の柄と箒本体を固定する縄の可能性が考えられる。



製作地：宮城県黒川郡大和町宮床
及川陽一郎氏所蔵品

採集地：岩手県奥州市
菅野智則氏所蔵品

図78 宮床箕 (a) と気仙箕 (b)
Fig.78 Miyatoko winnow and Kesen winnow

縄は、薄いシート状の広葉樹の内樹皮を燃ったものである。出土したのはいずれも小さな断片で、これらがさらに燃り合わされていたかどうかは現状では分からない。どのような用途の製品であったのかも不明である。

謝辞

試料採取にあたり、小川とみ氏、東北大学埋蔵文化財調査室にご協力いただきました。宮床箕の調査では宮床宝蔵、佐藤朝治氏、佐藤紀恵子氏、濱田淑子氏、大谷美紀氏、及川陽一郎氏、鈴木かおる氏にご協力いただきました。気仙箕の調査では菅野智則氏にご協力いただきました。記して感謝申し上げます。

なお、本稿は平成25-27年度科学研究費補助金基盤研究 (A) (代表 鈴木三男)「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組・繊維製品等素材の考古植物学的研究」の研究成果の一部です。

5. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地区から発見された昆虫と古環境

森 勇一（東海シニア自然大学）

遺跡から発見されるムシの破片から、先史～歴史時代にヒトがどのような環境下でどのような生活をしていたか調べる研究分野を昆虫考古学という。遺跡には考古遺物だけでなく、植物の種子や果実・木材のほか、多くの昆虫片が含有されている。

昆虫はすべての生物群のなかで最も種数が多く、水中（水生昆虫）、地面上（地表性歩行虫）、植物上（樹上性昆虫）など、多様な生活空間に適応して生活している。食性も食植性から、食肉性・食糞性・食屍性など多岐にわたる。そのため、遺跡から見つかった昆虫片の分析を進めることにより得られる情報は有用であり、これまで多くの成果が得られている（森勇一2012・2016）。

（1）試料および分析方法

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点は、仙台市青葉区川内地区内に位置している。調査は、東北大学埋蔵文化財調査室によって行われ、仙台市高速鉄道（地下鉄）東西線の川内駅の駅前広場などを整備する工事にともなって実施された。

昆虫分析試料は計23試料に及び、試料A（試料1～7）は6号井戸より、試料B（試料8～14）は2号池状遺構より、試料C（試料15～21）は4号池状遺構より、試料D（試料22～23）は1号井戸より得られたものである。昆虫分析試料が採取された同じ遺構からは、下駄等の木製品のほか、魚類や哺乳類をはじめとした動物遺存体、種子なども出土している。これらの分析試料は、平成23年9月から平成24年5月、および平成27年3月より同年7月までの間、発掘調査された過程で得られたものである。昆虫分析試料は、筆者のもとに届けられた段階で、すでに水洗抽出作業が完了しており、試料ごとに小型のチャック付きビニール袋に収納されていた。

分析試料の時代については、試料Aが18世紀頃（IIa～IIb期）、試料Bが17世紀、試料Cが16世紀末葉を含む17世紀（I期）、試料Dが17世紀初頭から19世紀中葉（I期～III期）とされている。

昆虫化石（昆虫遺体ともいう）の同定は、筆者採集の現生標本と実体顕微鏡下で1点ずつ比較のうえ実施した。昆虫化石は、いずれも節片に分離した状態で検出されており、そのため、本論に記した産出点数は、昆虫の個体数を示したものではない。

（2）昆虫化石の分析結果

試料Aから計191点、試料Bから200点、試料Cから70点、試料Dから23点、合計484点の昆虫化石が発見された（表73・74）。産出した昆虫化石のうち、主なものについては、図版83～86に実体顕微鏡写真を掲げた。

分類群ごとにもみると、目レベルまで同定したもの1目4点、科レベル11科178点、族レベル1族5点、属レベルは14属101点、種まで同定できたものは31種164点であった。これ以外に、不明甲虫とした昆虫が31点存在する。昆虫以外のオカダンゴムシの可能性が高い体節片が1点発見されている。検出部位別では、上翅（Elytron）が最も多く、続いて前胸背板（Pronotum）、腿脛節（Legs）、腹部（Abdomen）などであった。

生態別では、地表性歩行虫が計344点（71.1%）、うち食糞性ないし食屍性昆虫は計45点（9.3%）含有された。次いで、陸生の食植性昆虫が計42点（8.7%）発見され、水生昆虫では、食植性の種群のみが計43点（8.9%）出現している。ハエ目やアリ科など、その他の昆虫は計23点（4.8%）であった。

特徴的な種についてみると、最も多く発見された昆虫は、アオゴミムシ *Chlaenius pallipes*（25点）、コキベリアオゴミムシ *Chlaenius circumdatus*（6点）など、アオゴミムシ属 *Chlaenius* sp.（計63点）に分類されるもの

表 73 仙台城跡二の丸北方武家墓群地区第14地点における昆虫分析結果 (1)
Tab.73 Insect analysis report at BK14 (1)

科属名	試料A												試料B												試料C				合計	
	6 分 井 戸	6 分 井 戸	6 分 井 戸	6 分 井 戸	6 分 井 戸	6 分 井 戸	6 分 井 戸	6 分 井 戸	6 分 井 戸	6 分 井 戸	6 分 井 戸	6 分 井 戸	2 分 池 状 遺 構	2 分 池 状 遺 構	2 分 池 状 遺 構	2 分 池 状 遺 構	2 分 池 状 遺 構	2 分 池 状 遺 構	2 分 池 状 遺 構	2 分 池 状 遺 構	2 分 池 状 遺 構	2 分 池 状 遺 構	2 分 池 状 遺 構	2 分 池 状 遺 構	1 分 井 戸	1 分 井 戸				
科属名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	1	2	23				
Hydrophilidae, gen. et sp. indet.																														
Sternophilus rugosus (Fabricius)																														
Pisictrix japonica (Sharp)	1	1	1					8		1																				
Zoectrus simulans (Sharp)																														
Geotrupes ruficornis (Walker)																														
Rhizophagus striatulus (Fabricius)																														
科属名	2	3																												
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														
Oxypoda atrata																														

表 74 仙台城跡二の丸北方武家墓群地区第14地点における昆虫分析結果 (2)
Tab.74 Insect analysis report at BK14 (2)

科名	和名	学名	試料A												試料B												試料C												合計		
			6 号 井 戸	6 号 井 戸	6 号 井 戸	6 号 井 戸	5 号 井 戸	6 号 井 戸	7 号 井 戸	8 号 井 戸	9 号 井 戸	10 号 井 戸	11 号 井 戸	12 号 井 戸	2 号 池 状 遺 構	2 号 池 状 遺 構	2 号 池 状 遺 構	13 号 井 戸	14 号 井 戸	15 号 井 戸	16 号 井 戸	17 号 井 戸	18 号 井 戸	19 号 井 戸	20 号 井 戸	21 号 井 戸	22 号 井 戸	23 号 井 戸	1	2	3										
コガネムシ科		Scarabaeidae: gen. et sp. indet.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23																
ヒメコガネ		<i>Anomala rufocaprea</i> Motschulsky				1																																			
ヒメコガネ		<i>Anomala cuprea</i> Hope		2																																					
アマガネムシ		<i>Amara spicataria</i> Gyllenhal																																							
アマガネムシ		<i>Amara rufipes</i> (Herbst)				4																																			
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> gen. et sp. indet.		1																																					
アマガネムシ		<i>Amara dichroma</i> Harold																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> gen. et sp. indet.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp. det.																																							
アマガネムシ		<i>Amara</i> sp.																																							

であった。アオゴミムシは成虫も幼虫も低地から低山地の草原・畑・河原などに見られ、石下などに潜み夜間地表を歩き回って他の昆虫を捕食する(中根猛1975)。コキベリアオゴミムシは、低地から低山地にかけて生息し、池沼や水田・河原など水辺に近い潤湿地表面上に多い(中根猛1975)。種の同定に至らなかった他のアオゴミムシ属も同様に環境に生息し、他の昆虫類を食べる食肉性の地表性昆虫である。次に多く認められたオオゴミムシ *Lesticus magnus* (26点) も、アオゴミムシ属同様、食肉性の地表性昆虫である。低地から山へのふもとにかけ、野原や畑・河原・松林などに生息し、日中石の下などに隠れ、夜間現れて他の昆虫の主に幼虫を捕食する(中根猛1975)。一方、同じ地表性昆虫でも、マルガタゴミムシ属 *Amara* sp. (24点) は、平地に多く成虫は草の種子や苗などの植物質を食べるほか、子虫も捕食する雑食性である(中根猛1975)。

食糞・食屍性昆虫では、人の集中居住した集落址や河川敷などに生息し、牛馬や人糞などに集まる(川井信矢ほか2008) マグソコガネ *Aphodius rectus* (16点)、人糞や犬糞によく集まり牛糞にも飛来する(岡島秀治ほか2012) マルエンマコガネ *Onthophagus viduus* (6点) や、人糞・犬糞をはじめ多くの哺乳動物の糞に集まる広食性のクロマルエンマコガネ *Onthophagus ater* (4点) のほか、食屍性昆虫であるコツヤエンマムシ *Atholus duodecimstriatus* (2点) などエンマムシ科が計12点確認されている。

陸生の食植性昆虫は、点数は多くないが人為度の高い植生に依存する昆虫のみが出現している。人間が植栽した果樹や二次林の樹葉などを食するヒメコガネ *Anomala rufocuprea* (3点)、ドウガネブイブイ *A. cuprea* (4点) に加え、各種畑作物の花に集まるアオハナムグリ *Eucetonia roelofsi* (4点)、クワの葉を食草とする(尾園暁2014) クワハムシ *Fleutiauxia armata* (1点)、同じくヨモギ・ヨメナ・タデ類の葉を食べるホタルハムシ *Monolepta dichroa* (1点)、マツ類など針葉樹の新しい梢などの表皮を食するマツアナキゾウムシ *Hylobitelus haroldi* (3点) などが発見された。

水生昆虫は、水生植物の繁茂する池沼や水たまり・水田などに生息するセマルガムシ *Coelostoma stultum* (15点)、薄暗い池沼や湿地を好む(三田村敏正ほか2017) キベリヒラタガムシ *Enochrus japonicus* (14点)、水深の浅い止水域に生息するヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (6点) などが認められた。

(3) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区における古環境復元

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区から得られた昆虫化石は、合計484点にも及ぶまとまった分析試料であるが、発見された昆虫片の多くが地表性昆虫で占められており、分析試料の採取場所がいずれも水に関連した遺構であったにも関わらず水生昆虫が少なく、陸生の食植性昆虫はさらに貧弱な組成となっている。そのため、昆虫分析試料から得られた古環境についての情報はやや片寄ったものになっている可能性があり、考古学的な成果とともに、種子や動物遺存体など、他の研究成果とも合わせて古環境を考える必要がある。

① 6号井戸周辺の古環境(試料1~7): 18世紀頃と考えられる6号井戸中の堆積物では地表性昆虫の出現率が高く、とくに肉食性の大型の地表性歩行虫が多く発見されている。試料6より2点確認されたアオオサムシ属 *Carabus* sp. は、おそらくアオオサムシ *Carabus insulicola* に同定されるものである。本種は日中は落葉下や土中に潜み、夜になると地上に出てミズや他の昆虫を食べる(中根猛1975)。試料1および試料3~7より計14点発見されたアオゴミムシ、試料1~5、および試料7から計24点確認されたオオゴミムシなどもまた、夜行性で他の昆虫を捕食する肉食性の地表性昆虫である。試料1および試料3、試料7より計6点見つかったキンナガゴミムシ *Pterostichus planicolis* は、平地に多い地表性歩行虫で、夜間活動してケラやヨトウガの幼虫などを食べる。一方、試料1~7から計18点確認されたマルガタゴミムシ属は、比較的乾燥した地表上に生息する種子食ないし雑食性の小型ゴミムシ類である。食糞性の地表性昆虫では、人糞や犬糞に集まるマルエンマコガネが計6点見つかった。

産出点数は少ないが、本試料中より得られた各種食植性昆虫からの情報は6号井戸周辺の古環境を考えるうえ

で重要である。試料3および試料4、試料6より発見されたヒメコガネやドウガネブイブイは、人里昆虫として知られるもので、人間が植栽した果樹や畑作物の葉を加害する。また試料5より得られたマツアナアキゾウムシは、アカマツやクロマツに依存する食植性昆虫である。試料3より確認されたクワガタムシ科は落葉広葉樹の樹液に集まる。同じ試料3から得られたキマワリ属は倒木の存在を、また試料4より確認されたゴミムシダマシ科は、6号井戸周辺に倒木のみならず朽木が壊がっていたことを示唆している。

昆虫が発見された遺構が井戸であったことを考えると、地表性昆虫の多くはエサを求めて井戸の周りを歩行して落下したか、死後風などにより運ばれ井戸中に保存されることになったものであろう。一方、食植性昆虫については、井戸周辺に生えていた庭木や果樹・草本類に由来する昆虫であったとみなすことができる。

②2号池状遺構の古環境（試料8～14）：本試料の最も大きな特徴は、食植性の水生昆虫であるガムシ科が計26点と多産したことであろう。試料8および10から得られたキバハリヒラタガムシは、薄暗い止水域を特徴づける水生昆虫であり、17世紀の頃存在したとされる2号池状遺構は周囲に木々が茂り薄暗い環境だったことが考えられる。また、やや大型のヒメガムシのほか、水深の浅い富栄養の水域を好むセマルガムシやマメガムシなど、多様な食植性昆虫が認められたことより、2号池状遺構には食植性の水生昆虫のエサとなる多くの水生植物が繁茂していたと考えられる。だが、この池状遺構からは食植性昆虫がほとんど出現しないため、池状遺構が薄暗い環境だったのには、建物など他の要因が関係していたのかもしれない。

同じ試料からは、コツヤエンマムシをはじめ多数のエンマムシ科が出現している。エンマムシ科は食屍性昆虫として知られるもので、小動物の死体や腐肉などに集まる。池状遺構周辺に何らかの動物遺体が存在した可能性が考えられる。こうした推定は、腐肉や動物質のエサに集まるハネカクシ科（7点）やアリ科（11点）の多産によっても支持される。2号池状遺構の堆積物中には、エンマコガネ属、クロマルエンマコガネ、マグソコガネ、ヒメコマグソコガネ *Aphodius botulus* など、各種の食糞性昆虫が出現することより、池状遺構周辺は、人糞や獣糞により幾分汚染が進行していたと考えられる。

③4号池状遺構の古環境（試料15～21）：2号池状遺構同様、水生昆虫の出現率が高い。うち試料20に含有されたキヒロヒラタガムシ *Enochrus similans*（1点）は、池沼や休耕田など（三田村敏正ほか2017）、水流のほとんどない止水環境の指標種であり、4号池状遺構の古環境を考えるうえで興味深い。

食糞性昆虫の中に、ツヤエンマコガネ *Onthophagus nitidus*（1点）が含有されたが、本種は食糞性昆虫でありながら、森林内の小動物の屍体（小型哺乳類やミズなど）に集まる性質がある（岡島秀治ほか2012）。また、試料20からは、ヒメカツオブシムシ *Attagenus unicolor japonicus* が発見された。本種は、家屋害虫として蚤蝨・蠅・乾魚などの害虫として知られるが、野外では動物の死体や骨・羽毛などから得られている（日本家屋害虫学会編1995）。そのため、これらの昆虫の出現は、池内に存在した動物遺体との関連が疑われるものである。

④1号井戸周辺の古環境（試料22～23）：1号井戸中の堆積物からは、地表性昆虫ではオオゴミムシ（8点）やオオゴミムシ（2点）が得られている。6号井戸の昆虫と同じく、井戸周辺に生息していた昆虫が誤って井戸内に落下したものであると考えられる。試料22からは、オカダンゴムシ *Armadillidium vulgare*? に同定しうる節足動物の体節片が検出されている。

本種は、ヨーロッパ原産の外来種であり、1943年、横浜海運局植物検査課の岩本嘉兵衛による「日本産陸棲等脚類に就いて」（1943）が、日本での最初の報告とされる（渡辺弘之2011）。わが国にオカダンゴムシがいつ渡来したか正確なことは分かっていないが、明治のはじめ横浜の開港と同時にヨーロッパからやってきた（渡辺弘之2011）とされている。仙台城二の丸北方武家屋敷地区の1号井戸堆積物（17世紀初頭から19世紀中葉）から産出した体節片がオカダンゴムシであるのなら、少なくともこの体節片包含層の堆積は、明治時代より遡ることはない、という示標になる可能性がある。

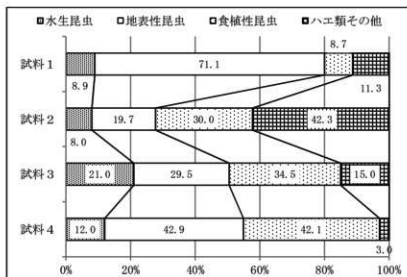
(4) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区出土昆虫の特異性

ここで、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区の昆虫組成は、中世後期から江戸時代の同じような遺跡から得られた昆虫分析結果とは、かなり異なるものであったことについて述べておかなければならない。

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区から得られた昆虫組成では、地表性昆虫の占める割合が71.1%と著しく高く、食植性昆虫や水生昆虫の出現率が異常に少ないことが大きな特徴であった。

食植性昆虫の少なさからは、武家屋敷内に存在した植生は食植性昆虫が好む草本類や広葉樹・畑作物などでなく、昆虫が加害することの少ない針葉樹を中心としたもので構成されていたと想像される。そして、屋敷内は常に掃き清められ、地表面上に生活ゴミや腐植などがほとんど存在しなかったことが考えられる。地表性昆虫は、ヒトの汚染や攪乱に関係する食糞性および食屑性昆虫ではなく、夜行性のアオゴミムシ類やオオゴミムシなど大型の地表性昆虫で占められた。

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区の昆虫組成（試料1）を、愛知県名古屋城三の丸遺跡（森勇一・上田恭子2005：「御屋形」と呼ばれる尾張藩主の親族らが居住した屋敷跡の主に埋桶堆積物、江戸時代）、同清洲城下町遺跡（森勇一2002・2020：本能寺の変後、織田信雄により整備された武家屋敷の溝埋積物、中世後期）、三重県桑名城下町遺跡（森勇一2000：本多忠勝築城の桑名城下町の町屋と呼ばれる居住城内の土坑埋土、江戸時代）の昆



試料1：本遺跡（江戸）、試料2：名古屋城三の丸遺跡（江戸）
試料3：清洲城下町遺跡（中世後期）、試料4：桑名城下町遺跡（江戸）

図79 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点出土昆虫と他の遺跡との比較
Fig.79 Comparison of insects at BK14 and other archaeological sites.

(5) まとめ

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区からは、地表性昆虫を中心に多数の昆虫化石が確認された。これらの多くは、17世紀より19世紀にかけての宮城県仙台市周辺の古環境を復元するうえで重要な情報を提供している。18世紀の6号井戸から見つかった食糞性昆虫のマルエンマコガネは、琉球列島にその一部の個体群が生息するものの、日本本土から絶滅しすでに久しい昆虫として知られる（岡島秀治ほか2012）。また、17世紀初頭から19世紀中葉の1号井戸から発見されたオカダンゴムシと考えられる体節片は、遺跡発掘により得られた堆積物がはたしていつの時代のものが深るうえで、重要な手がかりを与えるものである。

遺跡から発見されるムシたちは、いずれも微細な体節片に分離しており、分類・同定するには著しく困難な研究対象であるが、粘り強く追究すれば新たな手がかりをもたらす可能性がある優れた研究対象でもある。

表75 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト (1)
Tab.75 Insect fossil list at BK14 (1)

番号	和名	学名	部位	長さ mm	写真	食性	生態	遺構名	層位
試料1	1 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板	4.1	1	食肉性	地表面	6号井戸	埋土
	2 アオゴミムシ	<i>Chlaenius magnus</i> (Motschulsky)	前胸背板	7.2	2	食肉性	地表面	6号井戸	埋土
	3 マルガタゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	右土腿	5.3	3	雑食性	地表面	6号井戸	埋土
	4 マルガタゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	右土腿片	3.0	4	雑食性	地表面	6号井戸	埋土
	5 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	左上腿下半部	10.5	5-6	食肉性	地表面	6号井戸	埋土
	6 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	右土腿上半部	4.1	7	食肉性	地表面	6号井戸	埋土
	7 キンナガゴミムシ	<i>Pterostichus planicollis</i> (Motschulsky)	前胸背板	4.0	8	食肉性	地表面	6号井戸	埋土
	8 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板片	2.4	9	食肉性	地表面	6号井戸	埋土
	9 アトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius stschuhini</i> Menetries	頭部	2.7	9	食肉性	地表面	6号井戸	埋土
	10 キベリヒラタゴミムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	左上腿片	3.6	10	食雑性	水生	6号井戸	埋土
	11 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	前胸背板片	2.0		食肉性	地表面	6号井戸	埋土
	12 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	頭部片	2.9		食肉性	地表面	6号井戸	埋土
	13 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	右土腿	3.2		食肉性	地表面	6号井戸	埋土
	14 オヤムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板左半部	2.2		雑食性	地表面	6号井戸	埋土
	15 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6		不明	不明	6号井戸	埋土
	16 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.5		不明	不明	6号井戸	埋土
試料2	1 キベリヒラタゴミムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	左上腿	3.7	11	食雑性	水生	6号井戸	11層
	2 コアキマルガタゴミムシ	<i>Amara chalcophaea</i> Bates	前胸背板	3.8	12	雑食性	地表面	6号井戸	11層
	3 コブマルエンマコガネ	<i>Oonthophagus atripennis</i> Waterhouse	左上腿片	4.5	13	食糞性	地表面	6号井戸	11層
	4 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	右土腿片	1.4		食肉性	地表面	6号井戸	11層
	5 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	右土腿片	1.8		食肉性	地表面	6号井戸	11層
	6 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	右土腿上半部	2.1		食肉性	地表面	6号井戸	11層
	7 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	前胸背板	1.7		食肉性	地表面	6号井戸	11層
	8 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	前胸背板片	2.1		食肉性	地表面	6号井戸	11層
	9 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	土腿片	1.8		食肉性	地表面	6号井戸	11層
	10 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	土腿片	1.5		食肉性	地表面	6号井戸	11層
	11 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	前胸背板	3.9	14	食肉性	地表面	6号井戸	11層
	12 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	前胸背板	4.0	15	食肉性	地表面	6号井戸	11層
	13 マルエンマコガネ	<i>Oonthophagus viduus</i> Harold	右土腿片	3.8	16	食糞性	地表面	6号井戸	11層
	14 マルエンマコガネ	<i>Oonthophagus viduus</i> Harold	右土腿片	4.0	17	食糞性	地表面	6号井戸	11層
	15 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	16 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	頭部			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	17 マルガタゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	左上腿			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	18 マルガタゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	前胸背板			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	19 マルガタゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	前胸背板片			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	20 マルガタゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	左上腿			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	21 ヒラタゴミムシ属	Platynini gen. et sp. indet.	前胸背板	3.4	18	雑食性	地表面	6号井戸	11層
	22 オヤムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	23 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	24 オヤムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	25 ヒラタゴミムシ属	Platynini gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	6号井戸	11層
26 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	2.3	19	雑食性	地表面	6号井戸	11層	
27 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	6号井戸	11層	
28 オヤムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	6号井戸	11層	
29 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	6号井戸	11層	
試料3	1 タウハムシ	<i>Fluxionia armata</i> (Baly)	前胸背板	3.3	20-21	食雑性	好雑性	6号井戸	11層
	2 ヒメコガネ	<i>Anomala ruficinctus</i> Motschulsky	前胸背板	2.4	22-23	食雑性	好雑性	6号井戸	11層
	3 マルエンマコガネ	<i>Oonthophagus viduus</i> Harold	頭部	3.0	24	食糞性	地表面	6号井戸	11層
	4 マルエンマコガネ	<i>Oonthophagus viduus</i> Harold	頭部	2.8	25	食糞性	地表面	6号井戸	11層
	5 マルエンマコガネ	<i>Oonthophagus viduus</i> Harold	右土腿	4.6	26	食糞性	地表面	6号井戸	11層
	6 キベリヒラタゴミムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	左上腿	4.0	27-28	食雑性	水生	6号井戸	11層
	7 ムネビロハネカクシ	<i>Alogen grandiscolis</i> Sharp	前胸背板	3.0	29	雑食性	地表面	6号井戸	11層
	8 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	前胸背板			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	9 オオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	前胸背板			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	10 キマワリ属	<i>Plesioththalmus</i> sp.	土腿片	2.8	30	食雑性	地表面	6号井戸	11層
	11 タウガタムシ科	Luceinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			食雑性	好雑性	6号井戸	11層
	12 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	13 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	14 キンナガゴミムシ	<i>Pterostichus planicollis</i> (Motschulsky)	前胸背板			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	15 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	16 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	17 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	18 マルガタゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	前胸背板			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	19 ヒラタゴミムシ属	Platynini gen. et sp. indet.	前胸背板			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	20 ヒラタゴミムシ属	Platynini gen. et sp. indet.	前胸背板			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	21 ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	22 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板			食肉性	地表面	6号井戸	11層
	23 トックリゴミムシ属	<i>Lachnoceps</i> sp.	前胸背板片			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	24 トックリゴミムシ属	<i>Lachnoceps</i> sp.	前胸背板片			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	25 トックリゴミムシ属	<i>Lachnoceps</i> sp.	前胸背板片			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	26 トックリゴミムシ属	<i>Lachnoceps</i> sp.	前胸背板片			雑食性	地表面	6号井戸	11層
	27 トックリゴミムシ属	<i>Lachnoceps</i> sp.	土腿片			雑食性	地表面	6号井戸	11層

表76 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト (2)
Tab.76 Insect fossil list at BK14 (2)

番号	和名	学名	部位	長さ mm	写真	食性	生態	遺構名	層位	
試料3	28	トックリゴザミムシ属	<i>Lachnospis</i> sp.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	29	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	30	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	31	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.			食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	32	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	33	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	34	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	35	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	36	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	37	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	38	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.			不明	不明	6号井戸	11層	
	39	アオゴザミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.			食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	40	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocarpa</i> Motschulsky			食肉性	好樹性	6号井戸	11層	
	41	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.			不明	不明	6号井戸	11層	
42	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
試料4	1	コネベリアオゴザミムシ	<i>Chlaenius circumdatus</i> Brulle	3.2	33	食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	2	アオゴザミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	3.8	34	食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	3	アオベリアオゴザミムシ?	<i>Chlaenius praefectus</i> Bates	4.8	35	食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	4	ナガゴザミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	4.0	36	食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	5	コネベリアオゴザミムシ	<i>Chlaenius circumdatus</i> Brulle	3.2	37	食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	6	コネベリアオゴザミムシ	<i>Chlaenius circumdatus</i> Brulle	3.2	38	食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	7	コネベリアオゴザミムシ	<i>Chlaenius circumdatus</i> Brulle	3.3	39	食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	8	オオゴザミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	6.1	40	食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	9	オオゴザミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	3.9	41	食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	10	オオゴザミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	4.7	42	食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	11	オオゴザミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	4.8	43	食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	12	オオゴザミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)			食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	13	オオゴザミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)			食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	14	オオゴザミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)			食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	15	アオゴザミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler			食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	16	アオゴザミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler			食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	17	マダコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	2.0	44	食肉性	地表性	6号井戸	11層	
	18	マダコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)			食肉性	地表性	6号井戸	11層	
19	ドウガネアブイ	<i>Anomala cuprea</i> Hope	4.6	45	食肉性	好樹性	6号井戸	11層		
20	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.		3.0	食肉性	好樹性	6号井戸	11層		
21	ハムシ科	Crysomelidae gen. et sp. indet.		2.7	食肉性	好樹性	6号井戸	11層		
22	マルガタゴザミムシ属	<i>Amara</i> sp.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
23	マルガタゴザミムシ属	<i>Amara</i> sp.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
24	マルガタゴザミムシ属	<i>Amara</i> sp.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
25	コアマラルガゴザミムシ	<i>Amara chalcophaea</i> Bates	3.7	48	雑食性	地表性	6号井戸	11層		
26	アオゴザミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
27	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
28	マルガタゴザミムシ属	<i>Amara</i> sp.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
29	ゴムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.			食肉性	好樹性	6号井戸	11層		
30	ゴムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.			食肉性	好樹性	6号井戸	11層		
31	ツクシダマシ科	<i>Synsches</i> sp.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
32	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
33	オオクワバエ	<i>Calliphora lata</i> Gonüllett	5.0	50	食肉性	地表性	6号井戸	11層		
34	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.			食肉性	地表性	6号井戸	11層		
35	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.			食肉性	地表性	6号井戸	11層		
36	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
37	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
38	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
39	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
40	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
41	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
42	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.			雑食性	地表性	6号井戸	11層		
43	ゴムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.			食肉性	好樹性	6号井戸	11層		
44	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.			不明	不明	6号井戸	11層		
45	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.			不明	不明	6号井戸	11層		
46	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.			不明	不明	6号井戸	11層		
47	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.			不明	不明	6号井戸	11層		
48	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.			不明	不明	6号井戸	11層		
試料5	1	アオハナムグリ	<i>Eucetonia roelofsi</i> (Harold)		5.8	51	食肉性	好樹性	6号井戸	11層
	2	アオハナムグリ	<i>Eucetonia roelofsi</i> (Harold)		3.5	52	食肉性	好樹性	6号井戸	11層
	3	アオハナムグリ	<i>Eucetonia roelofsi</i> (Harold)		2.7	53	食肉性	好樹性	6号井戸	11層
	4	オオゴザミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)		2.3	54	食肉性	地表性	6号井戸	11層
	5	アオゴザミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler		1.4		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	6	マルガタゴザミムシ属	<i>Amara</i> sp.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	7	マルガタゴザミムシ属	<i>Amara</i> sp.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	8	マルガタゴザミムシ属	<i>Amara</i> sp.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	9	マルガタゴザミムシ属	<i>Amara</i> sp.			雑食性	地表性	6号井戸	11層	

表77 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト (3)
Tab.77 Insect fossil list at BK14 (3)

番号	和名	学名	部位	長さ mm	写真	食性	生態	遺構名	層位	
試料5	10	マルガゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	上翅片		雑食性	地表性	6号井戸	11層	
	11	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片		雑食性	地表面	6号井戸	11層	
	12	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片		雑食性	地表面	6号井戸	11層	
	13	マツアナキゾウムシ	<i>Hylobius haraldi</i> (Faust)	左上翅	7.0	54-55	食樹性	好樹性	6号井戸	11層
	14	アオハナムグリ	<i>Eucinetus roelafsi</i> (Harold)	上翅片	4.0	56	食樹性	好樹性	6号井戸	11層
試料6	1	マルエマコガネ	<i>Oonthophagus viduus</i> Harold	左上翅	4.5	57	食腐性	地表面	6号井戸	8層
	2	ヒメコガネ	<i>Anomala rufonervosa</i> Motschulsky	頭部	2.5	58-59	食樹性	好樹性	6号井戸	8層
	3	オサムシ科	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板片			食肉性	地表面	6号井戸	8層
	4	ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面	6号井戸	8層
	5	マルガゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	上翅片			雑食性	地表面	6号井戸	8層
	6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	6号井戸	8層
	7	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	6号井戸	8層
	8	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	6号井戸	8層
	9	ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面	6号井戸	8層
	10	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	6号井戸	8層
	11	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	腹部腹板			不明	不明	6号井戸	8層
	12	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	6号井戸	8層
	13	アオサムシ属	<i>Carabus</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	6号井戸	8層
	14	アオサムシ属	<i>Carabus</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	6号井戸	8層
	15	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	6号井戸	8層
	16	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	6号井戸	8層
	17	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	6号井戸	8層
	18	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	幼虫	8.5	60	不明	不明	6号井戸	8層
試料7	1	キンナゴミムシ	<i>Pterostichus planicollis</i> (Motschulsky)	左上翅	7.5	61-62	食肉性	地表面	6号井戸	10層
	2	アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	右上翅			食肉性	地表面	6号井戸	10層
	3	アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	右上翅			食肉性	地表面	6号井戸	10層
	4	アオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	上翅片			食肉性	地表面	6号井戸	10層
	5	アオゴミムシ	<i>Leisticus magnus</i> (Motschulsky)	上翅片			食肉性	地表面	6号井戸	10層
	6	アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板片			食肉性	地表面	6号井戸	10層
	7	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	6号井戸	10層
	8	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	6号井戸	10層
	9	ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面	6号井戸	10層
	10	ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面	6号井戸	10層
	11	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	6号井戸	10層
	12	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	6号井戸	10層
	13	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	6号井戸	10層
	14	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	6号井戸	10層
	15	キンナゴミムシ	<i>Pterostichus planicollis</i> (Motschulsky)	前胸背板片	4.0	63	食肉性	地表面	6号井戸	10層
	16	キンナゴミムシ	<i>Pterostichus planicollis</i> (Motschulsky)	右上翅	6.8	64	食肉性	地表面	6号井戸	10層
	17	キンナゴミムシ	<i>Pterostichus planicollis</i> (Motschulsky)	左上翅			食肉性	地表面	6号井戸	10層
	18	マルガゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	前胸背板片			雑食性	地表面	6号井戸	10層
試料8	19	トクナゴミムシ	<i>Lachnocrepis</i> sp.	前胸背板片			雑食性	地表面	6号井戸	10層
	20	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	6号井戸	10層
	21	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	右上翅片			雑食性	地表面	6号井戸	10層
	22	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	6号井戸	10層
	23	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	6号井戸	10層
	24	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	6号井戸	10層
	1	マツゾコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	左上翅	3.9	65-67	食腐性	地表面	2号池状遺構	2層
	2	キベリヒラタゴミムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	左上翅	3.5	68	食腐性	水生	2号池状遺構	2層
	3	キベリヒラタゴミムシ	<i>Margaritinus</i> sp.	右上翅	3.2	69	食樹性	地表面	2号池状遺構	2層
	4	キベリヒラタゴミムシ	<i>Margaritinus</i> sp.	前胸背板片	3.3	70	食樹性	地表面	2号池状遺構	2層
	5	キベリヒラタゴミムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	左上翅			食腐性	水生	2号池状遺構	2層
	6	ミズゴボミムシ属	<i>Bembidion</i> sp.	左上翅	2.8	71	雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
	7	ヒメゾウムシの一種	<i>Limothorax</i> sp.	右上翅	2.3	72	食樹性	好樹性	2号池状遺構	2層
	8	ヒメゾウムシの一種	<i>Limothorax</i> sp.	左上翅			食樹性	好樹性	2号池状遺構	2層
	9	ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面	2号池状遺構	2層
	10	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
	11	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
	12	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	右上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
13	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層	
14	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上翅			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層	
15	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synachus</i> sp.	左上翅			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層	
16	ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面	2号池状遺構	2層	
17	ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面	2号池状遺構	2層	
18	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synachus</i> sp.	右上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層	
19	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synachus</i> sp.	左上翅			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層	
20	アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	右上翅上半部	3.9	73	食肉性	地表面	2号池状遺構	2層	
21	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層	
22	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	2号池状遺構	2層	
23	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	2号池状遺構	2層	
24	キベリヒラタゴミムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	右上翅			食腐性	水生	2号池状遺構	2層	
25	キベリヒラタゴミムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	左上翅上半部	3.1	74	食樹性	水生	2号池状遺構	2層	

表78 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト (4)
Tab.78 Insect fossil list at BK14 (4)

番号	和名	学名	部位	長さ mm	写真	食性	生態	遺構名	層位
26	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	2号池状遺構	2層
27	ナゴゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面	2号池状遺構	2層
28	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
29	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
30	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
31	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	2号池状遺構	2層
32	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面	2号池状遺構	2層
33	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
34	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
35	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
36	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹面腹板			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
37	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
38	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
39	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
40	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
41	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
42	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
43	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	頭部	2.5	75	雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
44	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
45	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	額唇部	5.2	76	食肉性	地表面	2号池状遺構	2層
46	マダゴコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	前胸背板片	2.2	77	食肉性	地表面	2号池状遺構	2層
47	マメガムシ	<i>Rhoportia attenuata</i> (Fabricius)	右1上翅	2.1	78	食肉性	水生	2号池状遺構	2層
48	キベリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	上翅片			食肉性	水生	2号池状遺構	2層
49	キベリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	前胸背板片			食肉性	水生	2号池状遺構	2層
50	ヒラタゴミムシ族	Platynini gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
51	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
52	ハムシ科	Crysothemidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			食肉性	好腐性	2号池状遺構	2層
53	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸腹板			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
54	ヒラタゴミムシ族	Platynini gen. et sp. indet.	前胸腹板			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
55	キベリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	上翅片			食肉性	水生	2号池状遺構	2層
56	キベリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	上翅片			食肉性	水生	2号池状遺構	2層
57	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
58	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
59	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
60	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
61	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上1/2部下			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
62	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	2層
63	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	2層
64	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	中胸腹板			雑食性	好腐性	2号池状遺構	2層
1	ヒメコマダゴコガネ	<i>Aphodius botulus</i> Balthsar	左上翅	3.0	79/80	食肉性	地表面	2号池状遺構	3a層
2	マダゴコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	前胸背板片	2.8	81	食肉性	地表面	2号池状遺構	3a層
3	マダゴコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	前胸腹板片	2.2		食肉性	地表面	2号池状遺構	3a層
4	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	左上翅	3.8	82	食肉性	水生	2号池状遺構	3a層
5	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	前胸背板片			食肉性	水生	2号池状遺構	3a層
6	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	上翅片			食肉性	地表面	2号池状遺構	3a層
7	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	右1上翅			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
8	コキベリアオゴミムシ	<i>Chlaenius circumditatus</i> Ballé	前胸背板片			食肉性	地表面	2号池状遺構	3a層
9	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸腹板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
10	ヒメコマダゴコガネ	<i>Aphodius botulus</i> Balthsar	右1上翅			食肉性	地表面	2号池状遺構	3a層
11	マルガタゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
12	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
13	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
14	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
15	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
16	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
17	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
18	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	好腐性	2号池状遺構	3a層
19	ミズキワゴミムシ属	<i>Bembidion</i> sp.	左上翅			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
20	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
21	マルガタゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
22	マルガタゴミムシ属	<i>Amara</i> sp.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
23	トビイロシワアリ	<i>Tetranorium tsushimae</i> (Emery)	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
24	トビイロシワアリ	<i>Tetranorium tsushimae</i> (Emery)	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
25	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
26	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
27	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
28	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部片			食肉性	地表面	2号池状遺構	3a層
29	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
30	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層
31	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	上翅片			食肉性	水生	2号池状遺構	3a層
32	マダゴコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	前胸背板片			食肉性	地表面	2号池状遺構	3a層
33	マダゴコガネ属	<i>Aphodius</i> sp.	額唇部			食肉性	地表面	2号池状遺構	3a層

表79 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト (5)
Tab.79 Insect fossil list at BK14 (5)

番号	和名	学名	部位	長さ mm	写真	食性	生態	遺構名	層位	
試料9	34 トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	35 トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	36 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	37 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	3a層	
	38 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	3a層	
	39 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片			不明	不明	2号池状遺構	3a層	
	40 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	41 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	42 ナゴゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	43 アオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	44 アオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	45 アオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	46 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	3a層	
	47 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	48 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	49 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	50 ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭部片			食肉性	地表面	2号池状遺構	3a層	
	試料10	1 卑バロヒタガムシ属	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	上翅片			食雑性	水生	2号池状遺構	3b層
		2 ミズギゾビムシ属	<i>Bembidion</i> sp.	左上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3b層
3 不明甲虫		Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片			不明	不明	2号池状遺構	3b層	
4 オサムシ科		Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	3b層	
試料11	1 ナゴゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片	4.0	83	食肉性	地表面	2号池状遺構	4層	
	2 ナゴゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片	4.0	84	食肉性	地表面	2号池状遺構	4層	
	3 シワアリの一種	<i>Tetramorium</i> sp.	胸部	1.2	85	雑食性	地表面	2号池状遺構	4層	
	4 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	4層	
	5 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	4層	
	6 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	4層	
	7 マルガタガムシ属	<i>Amara</i> sp.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	4層	
	8 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	4層	
	9 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	4層	
	10 セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	上翅片			食雑性	水生	2号池状遺構	4層	
	11 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	4層	
	12 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	4層	
	13 ガムシ科	Hydrophilidae gen. et sp. indet.	脚節			食雑性	水生	2号池状遺構	4層	
	14 セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	左上翅	4.0	86	食雑性	水生	2号池状遺構	4層	
	15 ゴミムシタマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	上翅片			食雑性	好雑性	2号池状遺構	4層	
	16 ハネカサシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	4層	
	17 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板			雑食性	地表面	2号池状遺構	4層	
	18 ガムシ科	Hydrophilidae gen. et sp. indet.	上翅片			食雑性	水生	2号池状遺構	4層	
	19 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	頭部	2.0	87	不明	不明	2号池状遺構	4層	
試料12	1 ヒメガムシ	<i>Sternolophus rubrus</i> (Fabricius)	上翅片	5.2	89	食雑性	水生	2号池状遺構	5a層	
	2 ヒメガムシ	<i>Sternolophus rubrus</i> (Fabricius)	脚節	4.8	90	食雑性	水生	2号池状遺構	5a層	
	3 ヒメガムシ	<i>Sternolophus rubrus</i> (Fabricius)	前胸背板片			食雑性	水生	2号池状遺構	5a層	
	4 ヒメガムシ	<i>Sternolophus rubrus</i> (Fabricius)	上翅片			食雑性	水生	2号池状遺構	5a層	
	5 マゾココガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	左上翅上半部	2.1	91	食雑性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	6 マゾココガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	前胸背板片			食雑性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	7 マゾココガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	前胸背板片			食雑性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	8 セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	左上翅下半部			食雑性	水生	2号池状遺構	5a層	
	9 コツヤエンマムシ	<i>Ahalus duodecimstriatus</i> (Gyllenhal)	左上翅	2.1	92	食雑性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	10 コツヤエンマムシ	<i>Ahalus duodecimstriatus</i> (Gyllenhal)	右上翅			食雑性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	11 クロマルエンマコガネ	<i>Oethiophagus ater</i> Waterhouse	右上翅	3.8	93	食雑性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	12 コメキムシ科	Elaterridae gen. et sp. indet.	上翅片			食雑性	好雑性	2号池状遺構	5a層	
	13 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	14 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	15 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	16 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	17 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	18 マルガタガムシ属	<i>Amara</i> sp.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	19 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	20 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	上翅片			食肉性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	21 ハネカサシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板片			雑食性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	22 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	23 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	24 ナゴゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	上翅片			食肉性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	25 ハネカサシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	2号池状遺構	5a層	
	26 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	5a層	
試料13	1 クロマルエンマコガネ	<i>Oethiophagus ater</i> Waterhouse	頭部	2.2	94	食雑性	地表面	2号池状遺構	5b層	
	2 クロマルエンマコガネ	<i>Oethiophagus ater</i> Waterhouse	右上翅下半部	1.8	95	食雑性	地表面	2号池状遺構	5b層	
	3 クロマルエンマコガネ	<i>Oethiophagus ater</i> Waterhouse	前胸背板片左半部	2.2	96	食雑性	地表面	2号池状遺構	5b層	
	4 マメガムシ	<i>Regimbartia attenuata</i> (Fabricius)	左上翅上半部	1.3	97	食雑性	水生	2号池状遺構	5b層	
	5 エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	左後脚節	2.3	98	食雑性	地表面	2号池状遺構	5b層	
	6 エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	脚節			食雑性	地表面	2号池状遺構	5b層	

表80 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト (6)
Tab.80 Insect fossil list at BK14 (6)

番号	和名	学名	部位	長さ mm	写真	食性	生態	遺構名	層位	
試料 13	7 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	2号池状遺構	5b層	
	8 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	9 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	10 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	11 ヒメメダカシ	<i>Sternolophus rufipes</i> (Fabricius)	前胸背板片			食雑性	水生	2号池状遺構	5b層	
	12 ヒメメダカシ	<i>Sternolophus rufipes</i> (Fabricius)	脚節片			食雑性	水生	2号池状遺構	5b層	
	13 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	右1上翅片			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	14 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	右1上翅片			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	15 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	16 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	17 ゴムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	頭部片			食雑性	好雑性	2号池状遺構	5b層	
	18 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	19 ガムシ科	Hydrophilidae gen. et sp. indet.	腹部			食雑性	水生	2号池状遺構	5b層	
	20 ハネカシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	21 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	22 エンマコガネ属	<i>Oonthophagus</i> sp.	腹部腹板片			食糞性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	23 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	5b層	
	24 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	5b層	
	25 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	5b層	
	26 ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	27 ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	28 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5b層	
	29 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	5b層	
	試料 14	1 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5a層
		2 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5a層
		3 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	脚節			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5a層
		4 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上翅			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5a層
		5 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面性	2号池状遺構	5a層
		6 エンマカシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	中脚関節			食糞性	地表面性	2号池状遺構	5a層
7 不明甲虫		Carabidae gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	5a層	
8 ホクテハムシ		<i>Monolepta dichroa</i> Harold	右上翅上半部	2.4	99	食雑性	好雑性	2号池状遺構	5a層	
試料 15	1 セマルゴムシ	<i>Coleostoma stultum</i> (Walker)	左上翅	3.2	101-102	食雑性	水生	4号池状遺構	2層	
	2 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板左半部			食肉性	地表面性	4号池状遺構	2層	
	3 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面性	4号池状遺構	2層	
	4 ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板右半部			食肉性	地表面性	4号池状遺構	2層	
	5 ミズギワゴミムシ属	<i>Bembidion</i> sp.	右上翅上半部	3.2	103	雑食性	地表面性	4号池状遺構	2層	
	6 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面性	4号池状遺構	2層	
	7 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面性	4号池状遺構	2層	
	8 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.4	99	雑食性	地表面性	4号池状遺構	2層	
	9 ゴムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	脚節			食雑性	好雑性	4号池状遺構	2層	
	10 不明甲虫	Carabidae gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	4号池状遺構	2層	
試料 16	1 マツナキアキゾウムシ	<i>Hylobius haroldi</i> (Faust)	右1上翅	6.0	104	食雑性	好雑性	4号池状遺構	3層	
	2 マツナキアキゾウムシ	<i>Hylobius haroldi</i> (Faust)	左1上翅片			食雑性	好雑性	4号池状遺構	3層	
	3 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面性	4号池状遺構	3層	
	4 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大顎			雑食性	地表面性	4号池状遺構	3層	
	5 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面性	4号池状遺構	3層	
	6 ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	前胸背板片			食肉性	地表面性	4号池状遺構	3層	
	7 キベリヒラタゴムシ	<i>Eneochrus japonicus</i> (Sharp)	上翅片			食雑性	水生	4号池状遺構	3層	
	8 マメメダカシ	<i>Regimartia attenuata</i> (Fabricius)	上翅片			食雑性	水生	4号池状遺構	3層	
	9 マメメダカシ	<i>Regimartia attenuata</i> (Fabricius)	上翅片			食雑性	水生	4号池状遺構	3層	
	10 ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	上翅片			食雑性	好雑性	4号池状遺構	3層	
	11 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表面性	4号池状遺構	3層	
	12 不明甲虫	Carabidae gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	4号池状遺構	3層	
	13 不明甲虫	Carabidae gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	4号池状遺構	3層	
	14 マダソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	右1上翅上半部			食糞性	地表面性	4号池状遺構	3層	
試料 17	1 ヲヤエマコガネ	<i>Oonthophagus nitidus</i> Waterhouse	左上翅	4.0	105	食糞性	地表面性	4号池状遺構	5層	
	2 マダソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	前胸背板片	2.8	106-107	食糞性	地表面性	4号池状遺構	5層	
	3 コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> Gyllenhal	上翅片			食雑性	好雑性	4号池状遺構	5層	
	4 キベリヒラタゴムシ	<i>Eneochrus japonicus</i> (Sharp)	上翅片			食雑性	水生	4号池状遺構	5層	
	5 ハムシ科	Crysochmelidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			食雑性	好雑性	4号池状遺構	5層	
	6 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上翅上半部			雑食性	地表面性	4号池状遺構	5層	
試料 18	1 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部			食肉性	地表面性	4号池状遺構	6層	
	2 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表面性	4号池状遺構	6層	
	3 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板片			食肉性	地表面性	4号池状遺構	6層	
試料 19	1 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面性	4号池状遺構	7層	
	2 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部片			食肉性	地表面性	4号池状遺構	7層	
	3 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上翅			雑食性	地表面性	4号池状遺構	7層	
	4 ヲヤヒラタゴムシ属	<i>Synchneus</i> sp.	右1上翅			雑食性	地表面性	4号池状遺構	7層	
	5 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	右1上翅			雑食性	地表面性	4号池状遺構	7層	
	6 オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表面性	4号池状遺構	7層	
	7 コネバリオオゴミムシ	<i>Chlaenius circumdatus</i> Brulle	前胸背板			食肉性	地表面性	4号池状遺構	7層	
	8 セマルゴムシ	<i>Coleostoma stultum</i> (Walker)	左上翅片			食雑性	水生	4号池状遺構	7層	

表B1 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト (7)
Tab.B1 Insect fossil list at BK14 (7)

番号	和名	学名	部位	長さ mm	写真	食性	生態	遺構名	層位
試料19	9 セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	上翅片			食肉性	水生	4号池状遺構	7層
	10 ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	細翅片			食肉性	地表面	4号池状遺構	7層
試料20	1 マダソウガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	左上翅片			食肉性	地表面	4号池状遺構	8b層
	2 マダソウガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	前胸背板			食肉性	地表面	4号池状遺構	8b層
	3 マダソウガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	前胸背板			食肉性	地表面	4号池状遺構	8b層
	4 不明甲虫	Carabidae gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	4号池状遺構	8b層
	5 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹節背板			雑食性	地表面	4号池状遺構	8b層
	6 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	4号池状遺構	8b層
	7 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	4号池状遺構	8b層
	8 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	4号池状遺構	8b層
	9 セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	上翅片			食肉性	水生	4号池状遺構	8b層
	10 セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	上翅片			食肉性	水生	4号池状遺構	8b層
	11 セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	上翅片			食肉性	水生	4号池状遺構	8b層
	12 キイロヒラタガムシ	<i>Enochrus simulans</i> (Sharp)	上翅片			雑食性	水生	4号池状遺構	8b層
	13 マダソウガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	腹節背板	2.2	108	食肉性	地表面	4号池状遺構	8b層
	14 ヒメカツオブシムシ	<i>Attagenus unicolor japonicus</i> Reitter	右上翅片	4.0	109-110	雑食性	家屋害虫	4号池状遺構	8b層
	15 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部片			雑食性	地表面	4号池状遺構	8b層
試料21	1 ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	左上翅下半部	4.0	111	食肉性	好腐性	4号池状遺構	8b層
	2 ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	左上翅	6.1	112-113	食肉性	好腐性	4号池状遺構	8b層
	3 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	4号池状遺構	8b層
	4 マルガクガムシムシ属	<i>Amara</i> sp.	右上翅			雑食性	地表面	4号池状遺構	8b層
	5 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表面	4号池状遺構	8b層
	6 セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	前胸背板			食肉性	水生	4号池状遺構	8b層
	7 エンマコウネ属	<i>Oonthophagus</i> sp.	翅節			食肉性	地表面	4号池状遺構	8b層
	8 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表面	4号池状遺構	8b層
	9 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	4号池状遺構	8b層
	10 ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	左上翅下半部			食肉性	好腐性	4号池状遺構	8b層
	11 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表面	4号池状遺構	8b層
	12 エンマシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	前胸背板片			食肉性	地表面	4号池状遺構	8b層
試料22	1 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板			食肉性	地表面	1号昇戸	2層
	2 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	上翅片			食肉性	地表面	1号昇戸	2層
	3 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板			食肉性	地表面	1号昇戸	2層
	4 アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	頭部片			食肉性	地表面	1号昇戸	2層
	5 ヒメエヤマムシ	<i>Margarinotus weymarni</i> Wenzel	右上翅	4.2	114-115	食肉性	地表面	1号昇戸	2層
	6 キマワリ属	<i>Plesiophthalmus</i> sp.	上翅片			食肉性	地表面	1号昇戸	2層
	7 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板			食肉性	地表面	1号昇戸	2層
	8 オカダンゴムシ?	<i>Armadillidium vulgare</i> Latreille (?)	体節片	7.0	119-120	雑食性	地表面	1号昇戸	2層
試料23	1 オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i> (Motschulsky)	前胸背板			食肉性	地表面	1号昇戸	3層
	2 ドウガネアブイ	<i>Anomala cuprea</i> Hope	上翅片			食肉性	好腐性	1号昇戸	3層
	3 ドウガネアブイ	<i>Anomala cuprea</i> Hope	脛節			食肉性	好腐性	1号昇戸	3層
	4 オオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	右上翅	7.9	121	食肉性	地表面	1号昇戸	3層
	5 オオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	左上翅上半部	6.8	122	食肉性	地表面	1号昇戸	3層
	6 オオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板			食肉性	地表面	1号昇戸	3層
	7 オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i> (Motschulsky)	左上翅上半部			食肉性	地表面	1号昇戸	3層
	8 セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	左上翅片			食肉性	水生	1号昇戸	3層
	9 アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	前胸背板片			食肉性	地表面	1号昇戸	3層
	10 セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	右上翅片			食肉性	水生	1号昇戸	3層
	11 ドウガネアブイ	<i>Anomala cuprea</i> Hope	脛節片			食肉性	好腐性	1号昇戸	3層
	12 ゾウムシ科	Cureculionidae gen. et sp. indet.	翅節節			食肉性	好腐性	1号昇戸	3層
	13 コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			食肉性	好腐性	1号昇戸	3層
	14 不明甲虫	Carabidae gen. et sp. indet.	腹節腹板			不明	不明	1号昇戸	3層
	15 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	1.4	123	雑食性	地表面	1号昇戸	3層

6. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点出土石臼付着の白色粒子の分析

上條信彦（弘前大学人文社会科学部）・柴 正敏（弘前大学理工学研究科）

（1）分析の目的

本調査において検出された石臼の破片を調査担当者が肉眼観察したところ、目立て溝のなかに白色の粒子が付着していることが確認された（図80-1）。そこで、この粒子が何であるか上條に問い合わせがあり、2017年8月に検討を行った。石臼の用途として食料や鉱物の製粉が挙げられるが、本試料がデンプンであれば、デンプン研究の有効性が示され石臼の用途研究に新たな知見をもたらすほか、石臼付着物質の研究はほとんどないことから、出土地を考慮すれば、遺構や居住者の性格を知ることにもつながる。そこで本遺跡出土の試料について、理化学的分析を行い、白色粒子の正体解明を試みたい。

（2）試料と方法

【試料】 資料は発掘後、水道水で洗浄されビニール袋に入れられ保管されていた。石臼（注記番号BK14 9号遺構埋土7出土）は茶臼形の下臼で目立て溝は八分画、一分画に幅1.5mm程の目立て溝が12~14本施される。白色物質は目立て溝の内部にある。石材は火山岩である。

【残存デンプン粒分析】 デンプン粒は植物によって形状・大きさなどが異なる高分子物質である。本分析では検証可能かつできるだけ資料を傷めないよう、薬品類の使用を控え、最も簡便でかつ効果的な方法を用いた。方法は以下のとおりである。

①試料の採取 マイクロピペットにチップをはめ込み、精製水を吸入し、目立て溝内部の白色粒子上に注入する。洗浄しながら水とともに試料（20 μ l分）を吸引する。採取位置を変えながら計4試料を回収した。

②プレパラートの作成と観察 試料を遠心後（1500rpm・1分）、試料8 μ lを水性封入剤（アクアテックス）で封入する。偏光・位相差顕微鏡（オリンパスBX50-P）を用い総合倍率200~400倍で観察する。偏光顕微鏡は、直交・開放ポラーラで観察する。

【偏光顕微鏡観察】 鉱物の可能性を探るために偏光顕微鏡（オリンパス BX53）で観察する。採取した4試料のうち比較的量が多い2試料（試料番号No.2・No.4）を観察した。観察は上記残存デンプン粒分析で使用したプレパラートを用いた。

【走査型電子顕微鏡（SEM）観察】 電子顕微鏡（日本電子 JXA-8800）を使って反射電子像を観察した。電子顕微鏡の観察条件は、真空モード、加速電圧15kV、照射電流 6×10^{-9} Aである。なお、試料採取および残存デンプン粒分析を上條、偏光顕微鏡および走査型電子顕微鏡（SEM）観察を柴が担当した。

（3）分析結果

【残存デンプン粒分析】 図80-2は残存デンプン粒分析における偏光顕微鏡画像である。観察の結果、いずれの試料からもデンプンに由来する偏光十字は認められなかった。よって白色粒子はデンプンではないと判断される。

【偏光顕微鏡観察】 図80-3は粒子の偏光顕微鏡画像である。構成粒子は複屈折を持ち、干渉色が観察される。aは角閃石、bは褐鉄鉱、粘土鉱物、シリカ鉱物、cはシリカ鉱物、dは褐鉄鉱、eはシリカ鉱物（石英、クリストバライト）、fは褐鉄鉱（鉄水酸化物）、粘土鉱物である。特に白色粒子は、シリカ鉱物（石英、クリストバライト）に由来するとみられる。

【走査型電子顕微鏡（SEM）観察】 図80-4は電子顕微鏡画像である。粒子は角ばった柱状を呈し、結晶構造を有す。

(4) まとめ

以上3つの分析より、白色粒子は結晶質物質（おもに鉱物）と判断される。また各鉱物は石臼の石材に含まれることから、目立て時あるいは廃棄後の風化により石材の粒子が表出したものと推定される。

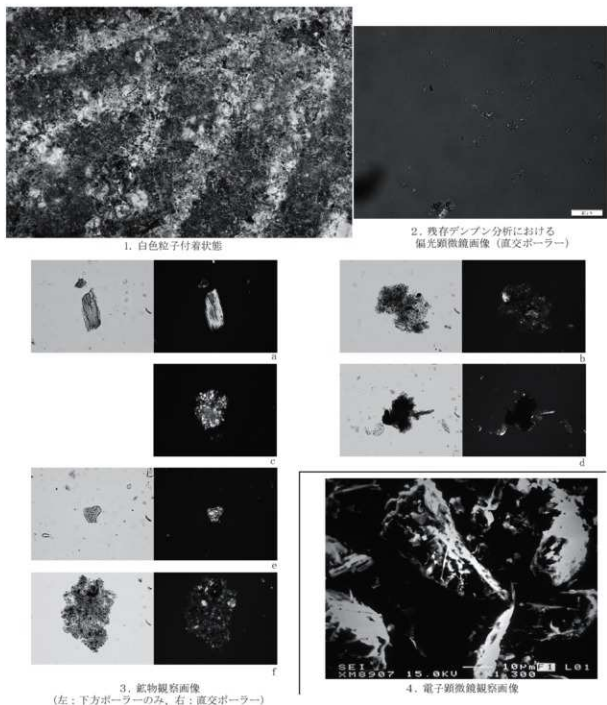


図80 石臼付着の白色粒子
Fig.80 White particles adhered to the stone mill

第Ⅶ章 考察

1. 陶磁器について

当調査地点内では、基本層や各遺構出土遺物では年代や量的なまとまりをもつ層位は少なかった。その中で比較的まとまりをもって出土した池状遺構と1号井戸出土陶磁器について、これまでにまとめた二の丸地区出土の供膳具の材質別割合や産地別組成の成果（『年報』9および『年報』19第5分冊）と比較し、陶磁器の様相についての若干の考察をしていきたい。

（1）池状遺構出土陶磁器

①各池状遺構出土の陶磁器について

当調査地点からは、池状遺構が4基検出されている。遺構の詳細や前後関係は『調査報告』7の遺構編を引用しており、詳しくはそちらを参照されたいが、それぞれの池状遺構から出土した陶磁器の年代と産地について検討し、遺物の特徴について考察したい。

池状遺構は7区において、2号池状遺構（Ⅰ期）、4号池状遺構（Ⅰ期）、3号池状遺構（Ⅱa期）、1号池状遺構（Ⅱb期）の4基が重複、近接して存在する。4号池状遺構の北側に3号池状遺構が接続し、これら2つの池状遺構が埋没した後に、上部に改めて構築されたのが1号池状遺構である。2号池状遺構は、4号池状遺構と3号池状遺構の東側に位置し、調査区内では他の池状遺構との重複や連結は直接確認されていない。しかし、いずれの池状遺構も入水部、排水部の流路は調査区外にあると推測されるため、2号池状遺構も単独の池状遺構でない可能性は残されている。

4基の池状遺構のうち、出土遺物の様相が最も古いのは4号池状遺構である（図12、図版13）。陶磁器全体で53点のみで、細片が多く不明な部分もあるが、17世紀初頭から後半の遺物が出土している。埋土1層は、堆積状況から池状遺構の機能が停止した後の埋め戻し層とみられ、埋土2層以下が池状遺構の機能時の層と考えられる（『調査報告』7遺構編）。より下層の埋土5～8層では17世紀前半代の若干古手の陶磁器も含まれるが、埋土1層とそれより下の層では、大きな様相の違いはみられない。特に大堀相馬・小野相馬の陶器が全く含まれていない点が注目される。大堀相馬の陶器は、瀬戸・美濃を模倣して元禄年間（17世紀末頃）に創業し、18世紀前葉までの短期間で生産規模を拡大したと考えられている（岡根達人1998）。大堀相馬・小野相馬が全く出土しない点は、創業間もない17世紀末から18世紀初頭より以前を示している可能性が推測される。陶磁器からは、17世紀代に機能していた池状遺構が17世紀末から18世紀初頭には機能を停止して、あまり時間を経ることなく比較的速やかに埋め戻された可能性が推測される。

3号池状遺構は、南側に位置する4号池状遺構に接続する遺構である。陶磁器は細片13点（図36、図版41）しか出土していないため、産地・年代を決めかねるものが多く、確定的なことは言いにくい。基底部の肥前磁器皿や志野陶器の向付破片を含み、肥前京焼風陶器がみられることから17世紀初頭から後半にかけて機能していたものと考えられる。小片1点ではあるが、大堀相馬の灰軸碗小破片1点を含むことから17世紀末以降～18世紀代までを含む可能性はあるが、他に18世紀代の陶磁器はみられないことと、上部の1号池状遺構との前後関係から、17世紀末から18世紀でも比較的早い段階（18世紀前葉頃まで）で機能を終了したのではないかと推測する。

1号池状遺構（図50、図版52）は、4号池状遺構と3号池状遺構が埋没・埋め戻された後、その上に改めて構築された遺構である。埋土1層は埋め戻し層で、埋土2層が池状遺構機能時の埋土と考えられる。埋土2層は、18世紀後半以降の陶磁器が主で、瀬戸磁器や大堀相馬陶器の小碗・土瓶・乗燭・仏花瓶なども出土することから19世紀前葉～中葉まで含まれる。埋土1層は陶器で19世紀代の堤の可能性のある東北産鉢鉢・小甕や大堀相馬の土瓶・土鍋・鉄絵皿に加えて、近代磁器の瀬戸小碗や陸軍食器の湯呑なども含まれ、近代に埋め戻された埋土で

あることが考えられる。17世紀初～前半を示す中国漳州窯系磁器（CJ106）、肥前磁器（CJ104）、志野陶器向付などもわずかに含むが、当時の伝世品の可能性や、あるいは下部に位置する4号池状遺構、3号池状遺構の陶磁器が含まれた可能性なども考えられる。

2号池状遺構（図3・4、図版4～7）は、他の池状遺構とは直接重複していない。埋土の状況から、埋土1層は埋め戻し層で、埋土2～5層が池状遺構に伴う埋土と考えられる。埋土2層以下では、1680～90年代に出現し、その後流行するコンニャク判や、見込五弁花文、渦「福」銘、くらわんか手など、17世紀後葉を含んだ17世紀末～18世紀前葉頃の特徴を持つ陶磁器が中心である。特に、埋土2層からは「正徳三年」（1713）の年号が記載された木筒が2点出土しており（WT2・3）、2号池状遺構出土の陶磁器の年代を裏付ける重要な資料である。より下層の埋土4層と5層からは、一部、17世紀後半の網目文版類、明末清初（17世紀前葉）の中国磁器皿などのやや古手が含まれることから、2号池状遺構が構築されたのは17世紀後半より以前までさかのぼるものと考えられる。埋め戻し層である埋土1層からは、17世紀中葉以降まで下るものは出土せず、かつ、埋土2～5層と大きく年代が隔たる陶磁器もみられない。このことから、17世紀代に機能していた池状遺構が、17世紀末～18世紀前葉頃に停滞・停止して、あまり時間を置かなく埋め戻されて、一旦は整地されたのであろうと推測される。

以上をまとめると、4号池状遺構（17世紀代～17世紀末）、2号池状遺構（17世紀代および17世紀末～18世紀前葉）、3号池状遺構（17世紀代および17世紀末～18世紀前葉）、1号池状遺構（18世紀後半および19世紀前葉～中葉）と推測される。4号・2号・3号池状遺構は年代的に重複する部分を持つが、その様相には若干の違いが認められることから、以下で、これまでにまとめられた二の丸地区における材質別比率と産地別組成と比較して考察を加えたい。

②供膳具の材質別比率

これまで、「年報」9および「年報」19第5分冊において、二の丸地区の一括性の高い出土遺物を基に、碗・皿類といった供膳具について材質別の割合を示した図を提示している（図81、表82）。詳しくは各年報を参照されたいが、図81を用いてそれらをまとめると以下のような傾向がとらえられる。

碗類では、17世紀初頭～前葉段階の主体は漆碗であり、約80%程度を占め、陶磁器の割合は低い。17世紀末葉段階で磁器と陶器の碗類が漆碗と替わることが示されており（「年報」9）、その中でも磁器碗類が5割強を占めることがわかっている。17世紀末以降から、磁器碗類の割合が漸移的に減少し、陶器碗類が増えていき、特に18世紀中葉・18世紀後葉には、大堀相馬・小野相馬の普及に伴って、陶器の碗類の比率が5割以上と磁器より多くなる傾向にある。しかし、19世紀前葉～中葉では、肥前磁器に加えて瀬戸や東北産磁器が新たに生産され始めることにより、磁器の碗類の出土割合が再び増加する。

皿類についてみると、17世紀初頭～前葉段階から陶磁器の出土割合が高く、17世紀初頭～前葉は特に唐津や美濃など陶器皿類の割合が高い。17世紀末になると肥前磁器の皿類が普及する様相がよく表れており、磁器皿類の割合が9割以上と非常に高くなる。次いで、18世紀中葉以降では、大堀相馬や小野相馬の陶器が普及するため、皿類における陶器の割合が高まる傾向がわかっており、その傾向は18世紀前葉にすでに現れ始めていることが読み取れる。

二の丸地区と武家屋敷地区では、遺構・遺物の性格に違いがみられるとは推測されるが、これまでの二の丸地区の傾向と、当調査区の池状遺構の様相を比較するため、図84・表85に池状遺構出土供膳具の材質別割合を示した。二の丸地区の出土点数（図81・表82）に比して、当調査区の池状遺構は出土量が少なく、割合を示すには不十分であることは注意が必要であるが、その上で一定の傾向は示しているものと考えられる。ただし、3号池状遺構は、参考としてその値を示している。

供膳具のうち、碗類（図84・表85）では、各池状遺構とも磁器・陶器の割合が非常に高く、漆器の出土はごく

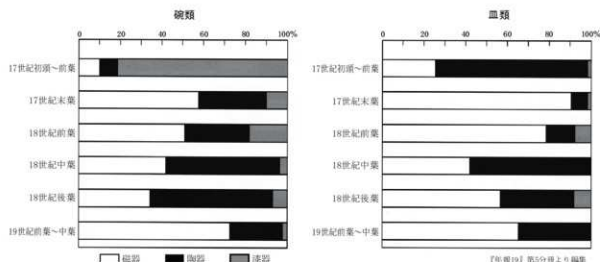


図81 二の丸地区出土供膳具の材質
Fig.81 Materials of table ware from the second citadel of Sendai Castle

表82 二の丸地区出土供膳具の材質別出土点数
Tab.82 Count of table ware from the second citadel of Sendai Castle

時期	資料	碗類				皿類				碗・皿識別不明	
		磁器	陶器	漆器等	合計	磁器	陶器	漆器等	合計	磁器	陶器
17世紀初頭～前葉	NM9 7・8層, 1期遺構	6	5	48	59	42	120	3 (1)	165	5	0
17世紀末葉	NM5 北区Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ層	82	46	14	142	47	4	1 (1)	52	86	4
18世紀前葉	BK7 2号遺構	418	252	148	818	246	43	25 (19)	314	12	117
18世紀中葉	BK7 20号土坑-3a層	85	110	7	202	15	21	0	36	5	17
18世紀後葉	NM9 15・16号土坑	117	200	23	340	48	30	7 (4)	85	7	80
19世紀前葉～中葉	NM9 1号池	638	222	18	878	208 (8)	110	1	319	51	211

※BK7は武家屋敷地区であるが、2号遺構は二の丸の廃棄土坑のため用いている。
20号土坑・3a層は、この期の一括遺物がいないため用いた。

【年報19】第5分冊より編集

限られている。2号池状遺構・4号池状遺構からは、残存状態が悪い漆片や漆膜のみで輪と識別できない資料も出土しており、実際には漆碗の比率はもう少し高かった可能性も考えられるが、全体の傾向としては、二の丸地区の様相のうち(図81)、磁器・陶器の比率が高くなる17世紀末以降の傾向に非常に近い。特に4号池状遺構では、磁器の碗類の比率が高く、陶器が少ないことは17世紀末の傾向に近いと考えられる。2号池状遺構の碗類では、陶器が磁器の比率を若干上回っており、二の丸地区で17世紀末以降に漸的に陶器の碗類が増えていく傾向と同様である可能性がある。

ただし、細かな点ですべて一致するわけではない。二の丸地区では18世紀中葉頃に磁器と陶器の比率が逆転するが、2号池状遺構(17世紀代および17世紀末～18世紀前葉)では、すでに陶器碗類の比率が高いなど、異なる部分もみられる。しかし、17世紀以降に漸的に陶器の碗類が増加するという傾向としては大きく矛盾しないものと考えられる。1号池状遺構では、再び磁器の碗類の比率が高まっている。これは、肥前磁器に加えて、19世紀代の瀬戸や産地不明の磁器碗類が増加したことが反映されているためである。

なお、3号池状遺構は碗類の合計出土点数が5点のみのため、考慮していない。

皿類は、二の丸地区出土遺物(図81)においても、池状遺構出土遺物(図84)でも、17世紀末以降、磁器皿類の割合が一定して高いという特徴で一致している。二の丸地区では、18世紀中葉段階になると、大塚相馬や小野相馬陶器がかなり普及し、そのため陶器皿類の比率が高まる傾向にあった。比較的年代の近い2号池状遺構では、その傾向は確認されない。2号池状遺構では、大塚相馬や小野相馬陶器はごくわずか出土するのみで、器種は碗

類に限られ皿類は出土していない。この点において、2号池状遺構が、陶器皿類が増加するより以前の17世紀末～18世紀前葉段階の様相であると推測する一要素である。1号池状遺構（18世紀後半・19世紀前葉～中葉）では、磁器が約7割程度、陶器が約3割程度を示しており、二の丸地区と同程度の比率を示していると考えられる。

③陶磁器の産地別組成について

次に、各池状遺構の陶磁器の産地別組成比率について考察したい。産地別組成についても、『年報』9および『年報』19第5分冊を元に、二の丸地区の一括遺物を中心とした図82・83（表83・84）を示しており、その傾向をまとめると以下のような傾向がとらえられる。

磁器（図82・表83）は、17世紀初頭～前葉段階では中国製品で占められており、初期の肥前磁器は出土していない。17世紀中葉～後葉段階は、今のところ良好な一括資料がなく示していない。磁器は17世紀末以降、19世紀初頭までの各時期とも肥前産が大部分を占め、資料によっては伝世した中国磁器が少量伴う状況である。19世紀中葉段階になると瀬戸や東北地方の磁器が加わり、肥前磁器の比率が減少する。

陶器（図83・表84）では、17世紀初頭～前葉段階では、肥前と瀬戸・美濃ではほぼ二分される状況がわかる。17世紀中葉～後葉段階の資料を欠くが、17世紀末では、呉器手碗や刷毛目碗などの肥前陶器が高い比率を示し、瀬戸・美濃は前段階より減少している。17世紀末葉bの資料群は、元禄年間に開窯したと考えられる大堀相馬が含まれる資料群であるが、その比率はまだごく少数に限られている。次の18世紀前葉段階では、瀬戸・美濃、大堀相馬、小野相馬の比率に大きな変化が表れる。18世紀前葉でも古手と考えられる18世紀前葉a資料群では、瀬戸・美濃の比率はそれほど減少せず、大堀相馬・小野相馬は17世紀末段階よりは増加するが、肥前や瀬戸・美濃を凌駕するまでには至っていない。より新しい段階と考えられる18世紀前葉b資料群になると、肥前はわずかに減少し、瀬戸・美濃は激減する一方で、大堀相馬・小野相馬が半数以上の比率を占めるようになる。それ以降、大堀相馬が高い比率であることは継続した傾向となる。18世紀後葉以降、特に19世紀初頭段階では、資料群による差はみられるが小野相馬は減少傾向を示し、代わって埴を含む東北地方の陶器がみられるようになる。19世紀中葉に入ると、比率の変化はありながらも一定程度含まれていた肥前や瀬戸・美濃がほとんど出土なくなり、大堀相馬や他の東北産陶器が大部分を占めるようになる。以上が、これまでの二の丸地区を中心とした磁器・陶器のおおまかな出土傾向である。

次に、池状遺構出土磁器・陶器の産地別組成比率を図85・表86に示している。3号池状遺構は陶磁器全体で13点のみの出土であり、4号池状遺構も点数が十分ではない出土状況であることを留意した上で、考察していきたい。

磁器では、4号・2号・3号池状遺構で、肥前磁器を主体として中国磁器が若干含まれる傾向を示し、17世紀末以降の二の丸地区の様相と類似する。4号池状遺構は中国磁器の割合がやや高く、17世紀前半の肥前磁器も含むことから、他の池状遺構よりは古手の様相も含んでいる可能性がある。1号池状遺構の磁器では、肥前・中国に加え、瀬戸・美濃や産地不明の磁器が一定程度の比率を示しており、比率の差はあるものの、19世紀中葉の様相が表れているものと考えられる。

陶器（図85・表86）では、4号池状遺構は、肥前と瀬戸・美濃が約半数程度を占め、信楽の大壺1点が含まれるが、大堀相馬・小野相馬は出土していない。出土点数が少ないため不確定要素も多いが、大堀相馬開窯以前である17世紀末葉a資料群（図83）の様相に比較的近いととらえられるのではないだろうか。

2号池状遺構では、肥前（呉器手碗・刷毛目碗・京焼風碗・銅緑軸皿など）と、瀬戸・美濃（腰筒碗・搦鉢・鉄軸甕類など）が半数を占めている。点数は少ないが、京・信楽製品、岸の搦鉢と香炉、塀搦鉢、丹波搦鉢、信楽大壺、備前瓶類など、比較的多様な産地の陶器がみられることも特徴の一つである。また、大堀相馬と小野相馬製品が、1割に満たない程度ではあるが出土するようになり、大堀相馬が開窯して以降の17世紀末b資料群に比較的近い比率と考えられる。次の18世紀前葉a資料群は、享保年間の木簡を伴った陶磁器群で、この段階では、大堀相馬・小野相馬が2割程度まで増加し、生産・流通が順調に伸びていることがわかる。当該地点の2号池

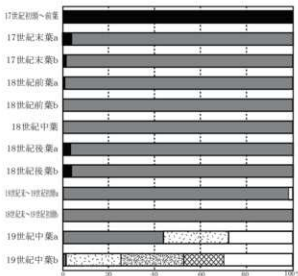


図82 二の丸地区出土磁器の産地別組成比率
Fig.82 Histograms of porcelains from the second citadel of Sendai Castle by producing district



表83 二の丸地区出土磁器の産地別出土点数
Tab.83 Count of porcelains from the second citadel of Sendai castle by producing district

時期	資料	中国	肥前	瀬戸・美濃	信濃	福山	不明	計
17世紀初頭～前葉	NM9 7・8層、16号溝	53	0	0	0	0	0	2
17世紀末葉 a	NM5 北区Ⅲ・Ⅳ層	5	111	0	0	0	0	0
17世紀末葉 b	NM5 4号土坑、北区Ⅴ層	2	219	0	0	0	0	2
18世紀前葉 a	BK7 2号遺構	6	812	0	0	0	0	0
18世紀前葉 b	NM5 3号土坑	0	30	0	0	0	0	0
18世紀中葉	BK7 20号土坑、3a層	0	136	0	0	0	0	0
18世紀後葉 a	NM9 16号土坑埋土4層以下	3	79	0	0	0	0	0
18世紀後葉 b	NM9 15号土坑埋土4層以下	2	47	0	0	0	0	0
19世紀初頭～19世紀初葉	NM9 2号池	0	138	0	0	0	2	1
19世紀中葉 a	NM17 3層一括	0	85	0	0	0	0	0
19世紀中葉 b	NM5 1・2号池	0	23	15	0	0	15	0
19世紀中葉 b	NM10 2区Ⅲ・2b・2c・3・4層	0	1	24	27	17	29	0

〔年報9〕〔年報18〕〔年報19〕第5分冊より作成

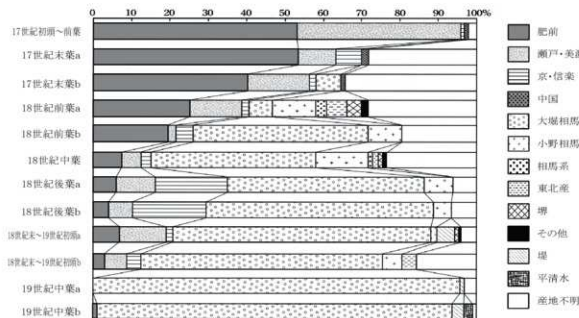


図83 二の丸地区出土陶器の産地別組成比率
Fig.83 Histograms of glazed ceramics from the second citadel of Sendai Castle by producing district

表84 二の丸地区出土陶器の産地別出土点数
Tab.84 Count of glazed ceramics from the second citadel of Sendai Castle by producing district

時期	資料	肥前	瀬戸・美濃	京・信楽	中国	大瀬相馬	小野相馬	相馬系	東北産	堺	その他	平清水	産地不明	合計	
17世紀初頭～前葉	NM9 7・8層、16号溝	80	65	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	151
17世紀末葉 a	NM5 北区Ⅲ・Ⅳ層	32	6	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	17	60
17世紀末葉 b	NM5 4号土坑、北区Ⅴ層	42	17	2	1	7	0	0	0	0	0	0	0	36	105
18世紀前葉 a	BK7 2号遺構	151	82	11	0	37	68	17	32	23	4	0	0	177	602
18世紀前葉 b	NM5 3号土坑	9	1	2	0	21	4	0	0	0	0	0	0	9	46
18世紀中葉	BK7 20号土坑、3a層	15	10	5	0	84	28	1	3	2	2	0	0	46	196
18世紀後葉 a	NM9 16号土坑埋土4層以下	10	18	33	0	88	13	0	0	0	0	0	0	11	173
18世紀後葉 b	NM9 15号土坑埋土4層以下	4	7	20	0	62	5	0	0	0	0	0	0	7	105
18世紀末～19世紀初頭 a	NM9 2号池	13	23	3	0	127	3	0	0	1	1	9	0	9	189
18世紀末～19世紀初頭 b	NM17 3層一括	5	9	6	0	100	8	0	6	0	0	0	0	23	159
19世紀中葉 a	NM5 1・2号池	0	1	0	0	274	0	0	0	0	0	3	0	9	287
19世紀中葉 b	NM10 2区Ⅲ・2b・2c・3・4層	0	0	2	0	173	0	0	0	0	0	6	4	2	187

※BK7は武家屋敷地区であるが、2号遺構は二の丸の廃棄土坑のため用いている。
※BK7は武家屋敷地区であるが、2号遺構は二の丸の廃棄土坑のため用いている。

〔年報19〕第5分冊より編集

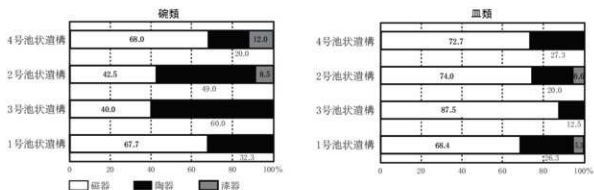


図84 池状遺構出土供膳具の材質
Fig.84 Materials of table ware from the pond remains

表85 池状遺構出土供膳具(碗・皿類)の材質別出土点数
Tab.85 Count of bowls and dishes from the pond remains

段階	出土場所	碗類			合計	皿類			合計	碗皿鉢蓋別不明		漆小片・漆膜
		磁器	陶器	漆器		磁器	陶器	漆器		磁器	陶器	
I	4号池状遺構	17	5	3	25	8	3	0	11	0	3	14
	2号池状遺構	79	81	14	165	37	10	3	50	3	2	9
II a	3号池状遺構	2	3	0	5	7	1	0	8	0	0	0
II b	1号池状遺構	44	21	0	65	13	5	1	19	2	5	2

陶器向付や漆器検査は皿として用いられる場合が多いと考え皿の数量に含めている。

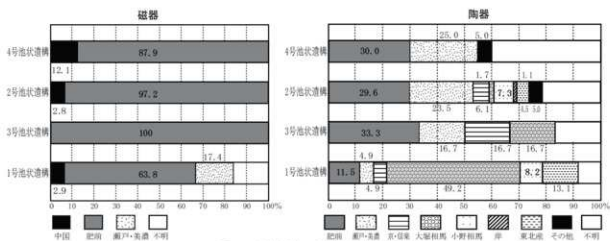


図85 池状遺構の産地別組成比率
Fig.85 Histograms of ceramics from the pond remains

表86 池状遺構出土陶磁器の産地別出土点数
Tab.86 Count of ceramics from the pond remains

段階	出土場所	不明				合計	陶器 (軟質施釉磁器含む)										合計
		中国	肥前・波佐見	瀬戸・美濃	不明		肥前・唐津	瀬戸・美濃	京・信楽	大塚相馬	小野相馬	岸	東北	その他	不明		
I	4号池状遺構	4	29	0	0	33点	6	5	0	0	0	0	0	1	8	20点	
	2号池状遺構	12.1%	87.9%	0	0	145点	30.0%	25.0%	0	0	0	0	0	5.0%	40.0%	179点	
II a	3号池状遺構	2.8%	97.2%	0	0	7点	29.6%	23.5%	6.1%	1.7%	7.3%	1.1%	4.5%	5.0%	21.2%	6点	
	1号池状遺構	0	7	0	0	7点	2	1	1	1	0	0	0	0	1	6点	
II b	3号池状遺構	0	100%	0	0	33.3点	16.7%	16.7%	16.7%	0	0	0	0	16.7%	33.3点		
	1号池状遺構	2	44	12	11	69点	7	3	3	30	5	0	8	0	51点		
		2.9%	63.8%	17.4%	15.9%		11.5%	4.9%	4.9%	49.2%	8.2%	0	13.1%	0	8.2%		

状遺構は、これよりわずかに古い「正徳三年」（1713）の木簡を伴った陶磁器であり、年代的に17世紀末bと18世紀前葉aの間に位置することは確実である。大堀相馬・小野相馬の組成比率でみると、17世紀末b資料群（約0.6%）→2号池状遺構（約0.8%）→18世紀前葉a資料群（約20%）と、17世紀末の閑室以降、消費地におけるシェアを着実に増加させている状況を読み取ることが可能であろう。

2号池状遺構の大堀相馬・小野相馬は灰軸碗の部分破片が中心で、器形や高台周りなど器形の特徴がわかるものは少なく、淡青灰白色の失透性の釉調から小野相馬と考えた資料が多い。類似した特徴を持つのが18世紀前葉a資料群（武家屋敷地区第7地点2号遺構）で、大堀相馬・小野相馬は碗を主体とした完形に近い資料も多いが、それでも両者の区別が難しいものも多かった。高台の削り方、高台付近の軸切処理、胎土や目跡の有無で識別できる場合もあるが、個体差も大きく、焼成の程度や部位・胎土によっては識別が困難な場合もみられた（『年報』19第5分冊）。碗類を中心とし、大堀相馬・小野相馬が類似した製品を製作していたであろうことが推測され、これらのことは閑室から18世紀前葉頃の大堀相馬・小野相馬の碗類の特徴であろうと考えられる。18世紀後半には、碗類を主体とした大堀相馬と、競合しない他の器種の出土が増える小野相馬との作り分けがなされたと考えられる（関根達人1998）が、閑室当初から18世紀前葉頃までは、類似した特徴の碗類が主体であったことが、当該調査地点の2号池状遺構と18世紀前葉a資料群（武家屋敷地区第7地点2号遺構）から読み取れる。碗の種類をみると、2号池状遺構・18世紀前葉a資料群とともに、大堀相馬・小野相馬の灰軸碗と鉄軸流し掛け灰軸碗（CT15）が出土し、瀬戸・美濃腰銘碗（CT6・27）が含まれるが、瀬戸・美濃腰銘碗を模倣したとされる大堀相馬の鉄軸灰軸掛け碗は出土していない。灰軸碗と鉄軸流し掛け灰軸碗は閑室当初からの製品であるが、鉄軸灰軸掛け碗などの碗の種類が増えるのは、17世紀末～18世紀前葉より後の段階と推測される。

3号池状遺構は陶器6点のみのため、比率を考察することはできないが、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、大堀相馬の陶器が出土しており、17世紀末～18世紀前半代の産地構成と矛盾しないものと考えられる。大堀相馬は透明度の高い淡緑灰白色の灰軸の碗破片1点であり、2号池状遺構と同年代か、あるいは若干年代が下る可能性もあるが、小破片1点のみのため断定はできない。

1号池状遺構は、大堀相馬が約半数を占め、小野相馬や東北産陶器と共に陶器の大多数を占めている。これは図83の18世紀後葉や18世紀末～19世紀初頭の資料群の様相と類似している。瀬戸の磁器や、大堀相馬の土瓶・土鍋が出土することから19世紀前葉～中葉の時期まで含まれると考えられる。池状遺構はある程度の期間使用されたことが想定されるため、組成比としては18世紀後葉～19世紀中葉までを均したような状況と考えられる。

以上のように、組成比を元に4基の池状遺構出土陶磁器を比較した。4号・2号・3号池状遺構は年代的に重複する部分もあるが、4号池状遺構は大堀相馬・小野相馬が含まれず、17世紀前半代の陶磁器がやや多い点など、17世紀末以前の若干古い様相の陶磁器が多い。2号池状遺構と3号池状遺構は、大堀相馬が採集開始して間もない17世紀末～18世紀前葉までと推測される。4号・3号池状遺構の上に構築された1号池状遺構は、18世紀後半～19世紀中葉の様相を示しており、埋土1層に一部明治期の遺物を含んでいることから、その段階で埋め戻されたものと推測される。

（2）1号井戸出土陶磁器について

1号井戸は、埋土内から18世紀後半～19世紀前半の遺物がまぎらまぎら出土している。井戸は、調査の安全を考慮し、底面まで掘り下げたものはないため、調査した範囲内の出土遺物に限られており、井戸構築から廃棄までのすべての陶磁器を示してはいない。掘方の遺物は限られているが、18世紀代と考えられる小野相馬や京・信楽の碗破片が出土していることから、井戸が構築されたのは18世紀代と考えられる。埋土内からは、19世紀前半の陶磁器が完形に近い状態のまま揃いで出土するなど、一括廃棄されたことが考えられる。瀬戸や産地不明などの肥前以外の磁器も多く、土瓶や焙烙も多いことから、19世紀前半代の遺物が、明治初頭の武家屋敷敷地に伴って

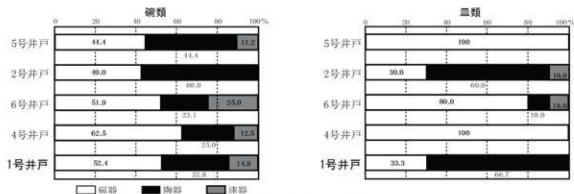


図86 井戸出土供膳具の材質
Fig.86 Materials of table ware from the well remains

表87 井戸出土供膳具(碗・皿類)の材質別出土点数
Tab.87 Count of bowls and dishes from the well remains

段階	出土場所	碗類				皿類				碗皿鉢識別不明		漆小片・漆膜
		磁器	陶器	漆器	合計	磁器	陶器	漆器	合計	磁器	陶器	
I	5号井戸	4	4	1	9	3	0	0	3	0	0	0
II a-II b	2号井戸	12	18	0	30	3	6	1	10	0	0	0
	6号井戸	27	12	13	52	8	1	1	10	9	1	18
III	4号井戸	5	2	1	8	5	0	0	5	0	0	0
I-III	1号井戸	32	20	9	61	1	2	0	3	0	0	7

陶器向付や漆器碗蓋は皿として用いられる場合が多いと考え皿の数量に含めている。

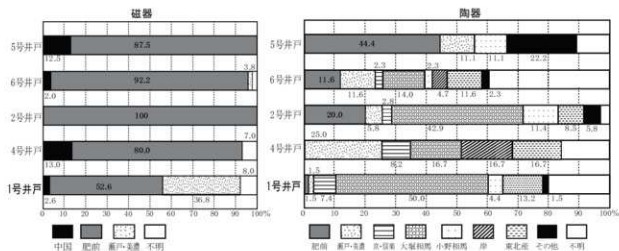


図87 井戸の産地別組成比率
Fig.87 Histograms of ceramics from the well remains

表88 井戸出土陶磁器の産地別出土点数
Tab.88 Count of ceramics from the well remains

段階	出土場所	碗類					皿類(軟質施釉物含む)									
		中国	肥前・波佐見	瀬戸・美濃	不明	合計	肥前・唐津	瀬戸・美濃	京・信楽	大塚相馬	小野相馬	厚	東北	その他	不明	合計
I	5号井戸	1	7	0	0	8点	4	1	0	0	1	0	0	2	1	9点
	2号井戸	12.5	87.5	0	0	44.5	11.1	0	0	11.1	0	0	0	22.2	11.1	43点
II a-II b	6号井戸	2	47 (流入)	1	51点	5	5	1	6	1	2	5	1	17	43点	
	2号井戸	3.9	92.2	2.0	2.0	11.6	11.6	2.3	14.0	2.3	4.7	11.6	2.3	39.6	35点	
III	4号井戸	2	12	0	1.0	15点	7	2	1	15	4	0	3	2	1	35点
	1号井戸	13.0	80.0	0	7.0	0	25.0	8.2	16.7	0	16.7	16.7	0	16.7	0	68点
I-III	1号井戸	1	29	14	3	38点	1	1	5	34	3	0	9	1	14	68点
		2.6	52.6	36.8	8.0	1.5	1.5	7.4	50.0	4.4	0	13.2	1.5	20.5	20.5	

廃棄された遺物であろうと推測される。井戸は比較的長い期間の遺物が共存するため、年代別の産地組成を示すにはあまり適さないが、1号井戸については、幕末頃の遺物が一括廃棄されているまとまりのよい資料群のため、池状遺構と同様に、これまでの二の丸地区の構成と比較して考察を加えたい。

材質別(図86・表87)では、1号井戸の磁器は、磁器が半数以上、陶器が約3割、漆器が約15%程度を占める。二の丸地区(図81)の19世紀前葉～中葉と比べると、若干の比率差はあるが、磁器碗が最も多いという傾向では概ね一致する。いずれも肥前磁器に加えて、瀬戸や東北産の磁器の中碗・小碗が多く出土することに由来している。また、漆器碗が15%程度とやや高い割合を占める。17世紀初頭～前葉(図81)においては約8割程度を占める漆器であるが、国産の陶磁器がさかんに流通するようになる17世紀後半以降には出土率としては減少するが、江戸時代を通じて各時期とも一定程度出土しており、武家社会の食事において漆器碗は必ず用いられていた器種と言える。

1号井戸では漆器碗類が15%程度と若干高くはあるが、おそらくは使用に伴った廃棄ではなく、明治初頭の屋敷取り払いに際して一括廃棄されたため、出土量が多かったのではないかと推測する。「仙臺物産沿革」(鈴木省三編1925)によると、廃藩後、各藩士が所蔵した漆器が競々と払い下げられ、市場の供給過多の状況が起こったことが記載されており、通常、漆器は売りに出される例も多かったようである。1号井戸の漆器が売られずに廃棄された理由は、あるいは家紋系漆器が多いことから売却には不向きであった可能性も理由の一つに推測されるが、具体的には不明である。1号井戸では、陶磁器の皿類(図86・表87)がほとんど含まれていないが、あるいは陶磁器の皿類も売られなかったために廃棄されていない可能性も推測される。

1号井戸の磁器の産地別の割合(図87・表88)では、瀬戸が3割以上を占め、他に東北産の可能性のある産地不明磁器が一定程度含まれるなど、図82の19世紀中葉の磁器産地別組成に類似する。陶器では、肥前、瀬戸が極端に少なく、大瀬相馬、小野相馬、東北産が7割近い比率を示すことも、19世紀中葉(図83)と同じ傾向である。この段階になるとより近い産地の陶器がかなり流通しているものと考えられ、中でも大瀬相馬が半数を占めている。大瀬相馬は、土瓶と碗が多いことに加え、仏花瓶や瓶類などの器種も多様にみられる。

明治初頭の武家屋敷廃絶に伴う一括廃棄の事例では、武家屋敷地区第11地点(「調査報告」1)の7号井戸が該当する可能性が考えられる。出土遺物は小片が多い点で違いがみられるが、陶磁器147点と比較的多く、17～18世紀代の遺物を含みながらも、幕末明治初頭の遺物が中心である。

周辺の調査では、段丘屋を一段下った下町段丘面に位置する川内B遺跡(工藤信一郎ほか2012)、川内A遺跡(佐藤甲二ほか2007)における事例が確認できる。川内B遺跡のSX2からは、武家屋敷地から陸軍用地となる過程で一括廃棄されたと推定される磁器1284点、陶器2417点などが出土しており、当調査の1号井戸よりも遺物量が多量に多い。図化された出土遺物からは、比較的完形に近い陶磁器類が含まれていることが読み取れる。使用可能な陶磁器を廃棄している点で1号井戸との類似点がみられる。

川内A遺跡のSX4は、近代に第二師団による盛土・整地が行われるまでの年代の遺構で、屋敷廃絶に伴う大量廃棄と推測されている。17世紀後半から19世紀中頃の磁器728点、陶器591点などが出土している。図化された遺物を確認する限りでは、幕末頃の遺物も多いが、酸化コバルトを用いた近代磁器も比較的含まれており、同型の近代磁器皿が揃いで出土するなど、明治期の様相も含まれている。第二師団の整備は、明治に入ってから同時に行われたわけではなく、第二師団の整備に伴って段階を追って進められており(加藤宏2011)、廃棄される遺物にも若干の年代差がみられるものと考えられる。

(3) 補修痕のある陶磁器について

①漆継

I～III期の各遺構から、漆継による補修痕のある陶磁器が、磁器33点、陶器15点、合わせて48点が確認された

表89 漆継のある陶磁器集計表
Tab.89 Porcelains and glazed ceramics repaired with Urushi lacquer at BK14

段階	出土場所	漆継 点数	登録 番号	磁器	遺構 磁器 点数	漆継 点数	登録 番号	陶器	遺構 陶器 点数	段階別 漆継 合計
				特徴	特徴					
I	2号池状遺構	5	CJ004	中碗丸 (肥前, 17世紀後半~18世紀)	145	2	CT012	碗不明 (産地, 年代不明)	179	20
			CJ007	中碗丸 (肥前, 17世紀後半~18世紀, くらわんか手)						
			CJ011	猪口 (肥前, 17世紀後半~18世紀)						
			CJ012	猪口 (肥前, 17世紀後半~18世紀)						
			CJ008	中瓶 (肥前, 17世紀後半~18世紀)						
	4号池状遺構	3	CJ021	小中皿 (中国, 明末清初)	33	3	CT034	小中皿 (肥前, 17世紀後半)	20	
			CJ023	鉢類 (肥前, 17世紀後半~18世紀前半, 青磁)						
			CJ025	碗不明 (肥前, 年代不明)						
	10号遺構	1	CJ028	小坏 (中国, 明末清初)	3					
	12号遺構	2	CJ029	小中皿 (肥前, 18世紀代)	9					
			CJ031	中碗 (肥前, 17世紀後半~18世紀前半)						
	39号遺構	1	CJ033	大皿 (肥前, 17世紀代)	7					
	57号遺構					1	CT048	飯類 (志野織部, 17世紀初頭)	1	
5号井戸	1	CJ046	中碗不明 (肥前, 18世紀代か)	8						
ビット205					1	CT062	中碗端反 (肥前, 17世紀前半)	1		
I- IIa	ビット188	1	CJ051	大皿 (中国, 明末清初)	2			1		
I- IIb	15号遺構	1	CJ053	小中鉢 (肥前, 17世紀後半~18世紀, 白磁)	4			4		
	16号遺構	1	CJ056	小中皿 (肥前, 17世紀代か)	11	2	CT069 甕類 (瀬戸・美濃, 17・18世紀代) CT071 大鉢 (瀬戸・美濃, 年代不明)		9	
IIa- IIb	9号遺構	1	CJ084	中碗不明 (中国, 13・14世紀, 龍泉窯系青磁)	5			6		
	2号井戸	1	-	小中皿 (肥前, 17・18世紀代)	20					
	6号井戸	3	CJ093	小中皿 (肥前, 17・18世紀代)	51	1	CT112		碗不明 (瀬戸・美濃, 17世紀代か)	38
			CJ094	小中皿 (肥前, 17世紀前半)						
			CJ092	中碗端反 (中国, 明末清初)						
IIb	1号池状遺構	2	CJ101	中碗端反 (中国, 明末清初)	69			2		
CJ104	小中皿 (肥前, 17世紀中葉)									
IIb- III	65号遺構	3	CJ123	小中皿 (肥前, 18世紀代)	30			3		
			CJ125	碗不明 (肥前, 18世紀代, くらわんか手)						
			CJ126	水漬 (産地, 年代不明)						
III	30号遺構	1	CJ142	中碗丸 (肥前, 18世紀代)	19			4		
	63号遺構				1	CT163	中碗丸 (肥前, 17世紀代か)		7	
	4号井戸	2	CJ163	碗 (肥前, 17・18世紀)	15					
			CJ164	花入 (肥前, 17世紀代か)						
基本層2a-2割					2	CT181 大鉢 (瀬戸・美濃, 17・18世紀) CT180 中碗不明 (瀬戸・美濃, 18世紀前半)	111	2		
I割		4	CJ188	小中皿 (中国, 明末清初)	1103	2	-	小中皿 (瀬戸・美濃, 18世紀前半~中葉) 大鉢 (瀬戸・美濃, 17世紀代)	942	6
			CJ177	蓋物蓋 (肥前, 17世紀後半~18世紀)						
			CJ189	中碗丸 (肥前, 18世紀代, くらわんか手)						
			-	中鉢 (肥前, 17世紀後半~18世紀, 白磁)						
漆継合計				33	漆継合計				15	48

(表89)。破損した陶磁器を漆で継いで補修した痕跡で、割れ口に漆の痕跡が確認される。大きな破片の一部分にみられる場合もあれば、小破片である場合もある。Ⅰ期（16世紀末葉を含む17世紀段階）に多い傾向にあるが、Ⅰ期は2号池状遺構や4号池状遺構といった陶磁器の出土量が比較的多い遺構を含むため、出土量に応じて相対的に多いとも考えられる。Ⅱb期、Ⅱb～Ⅲ期、Ⅲ期といった18世紀後葉～19世紀に属する遺構からも漆継補修痕は確認されるが、漆継のある個々の陶磁器の年代は17世紀代、18世紀代に比定されるものであり、後述する焼継が始める前の年代の陶磁器に漆継が確認されることになる。

磁器・陶器が50点以上出土している遺構について、漆継のある磁器・陶器の割合を示すと、Ⅰ期2号池状遺構〔磁器3.4%、陶器1.1%〕、Ⅱa～Ⅱb期6号井戸〔磁器5.9%〕、Ⅱb期1号池状遺構〔磁器2.9%〕、基本層2a～2層〔陶器1.8%〕という値になる。この値がどれほどの傾向を示すかは、出土量が多い遺構が少ないことと、遺構の性格による差も考慮する必要があるが、当調査区では多くても数%程度の漆継補修率であった。

漆継される磁器には、いくつかの傾向が考えられる。まず、17世紀前葉や17世紀中葉～後葉の肥前大皿・小中皿（CJ33、56、94、104）、明末清初の中国端反碗・小中皿（CJ21、28、92、101、188）など、磁器の中でも古手のものが含まれることである。次に、白磁菊花鉢（CJ53、17世紀後葉以降）のように、比較的高級品に分類されるものも含まれる。水滴（CJ126）は使う人の好みを反映した器物であり、蓋物の蓋（CJ177）は蓋と身がセットで用いる必要があるなど、補修する必要性が強い磁器も含まれる。一方で、高級品だけでなく、肥前中碗（CJ7、31、46、125、189）や肥前小中皿（CJ29、CJ123）など、18世紀代に普及した比較的廉価で普段使いと考えられる磁器にも漆継痕が確認される。これらの磁器は元々の出土割合も高いと考えられるので、当時使用された磁器のうち補修されずに廃棄された方が多かったであろうと推測されるが、決して一点物や高級品の磁器のみが補修されていたわけではないことが理解される。

陶器では、瀬戸・美濃の大鉢（CT71、181）、甕類（CT69）、唐津の中皿（CT34）、信楽の大壺（CT35）など、比較的大型の製品の一部に漆継の補修痕がみられる。唐津の中皿（CT34）は呉須絵の丁寧な作りの優品である。また、肥前（唐津含む）の茶器として用いられたと考えられる碗がいくつか含まれる（CT37、62、163）。他に信楽の可能性のある水指の蓋（CT18）、口縁部がヒダ状になる瀬戸・美濃の鉢（CT112）、志野織部の瓶類（CT48）など、茶器に関連するやや特殊な器種が多い。水指の蓋（CT18）は、水指の身とセットで用いることが必要な器種であろう。当資料の陶器では、日常使いと考えられる碗皿類では漆継痕は認められなかった。ここは磁器とは異なる点である。

②焼継

焼継による補修痕のある磁器（表90）は、Ⅱb期（18世紀後葉～19世紀初頭）以降の時期に属する遺構から出土している。焼継は、江戸市中では寛政2（1790）年ごろから普及したと考えられ（江戸遺跡研究会編2001）、遺物の年代とも概ね一致する。漆継と焼継が共存して出土している遺構は存在していない。また、焼継痕は陶器には全く確認されなかった。

Ⅰ層を含んで合計17点の磁器に焼継痕が確認されている。Ⅰ～Ⅲ期1号井戸は、井戸という遺構の性質上、所属時期がⅠ期まで遡るが、焼継された磁器自体は18世紀後葉～19世紀後葉に相当するものであり、年代的に矛盾するものではなかった。

各遺構の陶磁器出土量が20弱～30数点程度で、割合を求めるには不十分な量と考えられるため、どれほどの傾向を示すかはわからないが、参考値としてその割合を示す。磁器の焼継率は、Ⅰ～Ⅲ期1号井戸〔5.3%〕、Ⅱb期4号遺構〔9.1%〕、Ⅲ期14号遺構〔5.6%〕、31号遺構〔11.1%〕、66号遺構〔16.7%〕と、漆継よりは若干高い可能性もあるが、今後、資料を増やしてさらに検討したい課題と考えられる。

焼継された磁器は、当該期に量産された肥前や瀬戸の丸碗、端反碗、小中皿（CJ74、75、109、132、149、154、158、159、175）など、日常使いの碗皿類が多い。CJ147の瀬戸の広底碗焼は、焼継痕はみられないが、高

台内に赤色で焼継印とみられる文字が確認される。

日常品以外では、18世紀代の小中皿で、口縁部に吉祥文の文様が巡る輪花皿（CJ110）、18世紀後半頃の肥前色絵染付の鉢（CJ190）の2点で、あまり多くはない。製作年代から考えて、これらはある程度の期間使用され、19世紀代に焼継補修をした上で、再び使われたものであることが推測される。焼継痕を観察すると、焼継した箇所ですぐ破損している場合もあるが、焼継箇所以外に新たに破損してしまったために廃棄されたと考えられるものもみられる。

表90 焼継のある磁器集計表
Tab.90 Porcelains with repair trace at BK14

段階	出土場所	磁器				段階別 焼継点数
		焼継点数	登録番号	特徴	遺構磁器 点数	
I・II	1号井戸	2	CJ074	中碗端反（瀬戸、19世紀前半）	38	2
			CJ075	中碗丸（肥前、18世紀後半～19世紀初頭）		
II b	4号遺構	2	CJ109	中碗丸（肥前、18世紀末～19世紀前半）	22	2
			CJ110	小中皿（肥前、18世紀）		
III	14号遺構	1	CJ132	小中皿（瀬戸、19世紀後半）	18	6
	31号遺構	2	CJ149	碗不明（瀬戸？、19世紀代）	18	
			CJ147	中碗広東（瀬戸、18世紀末～19世紀前半葉）		
	66号遺構	3	CJ158	中碗端反（肥前、18世紀後半～19世紀前半葉）	18	
			CJ154	中碗丸（肥前、18世紀末～19世紀初頭）		
CJ159			小中皿（肥前、18世紀末～19世紀）			
1層・視乱		7	CJ175	中碗丸（肥前、19世紀前半葉～中葉）	1103	7
			CJ190	中鉢（肥前、18世紀後半、色絵）		
			-	中碗端反（肥前、19世紀代）		
			-	中碗端反（肥前、19世紀代）		
			-	中碗端反（肥前、19世紀代）		
			-	中碗端反（肥前、19世紀代）		
			-	小中皿（肥前、18・19世紀代）		
焼継合計		17				

2. 発掘調査地点の位置

(1) 周辺地域の発掘調査との関連

① 層位の比較

BK14の北東側には仙台北側二の丸北方武家屋敷地区第7地点（以下、BK7と略する）がある。それぞれの調査区では、様々な土質の特徴が認められた。それらの特徴は、溶脱作用等の土壌の変質作用や、夾雑物の多寡等により特色づけられたものである。そのため、調査当初には層を細分したものの、調査途中からそれらの特徴を部分的な変異と捉え、基本的な土質を根拠として大きくまとめた。BK7も同様の状況である。そして、近代以降の擾乱により層の繋がりが不明瞭であることから、各調査地点における層の対応関係を探ることが非常に難しい。その様な状況を踏まえ、BK7とBK14の層の関係を表91に示した。

BK7の2層下部は、BK14の2a-2層、2b層、2b-2層に相当する。BK7の3a・b層は遺構に伴うものであり、BK14では確認されていない。BK7の4層は、分布が限定的な整地層であり、BK14では確認できていない。また、BK7の2層は、畑と推定される畝状遺構が検出される明治以降の層位であるが、BK14調査時には確認できていない。おそらく2a-2層の一部に含まれると考えられるが、区分できていない。

BK14の北側では、2007年度に仙台市教育委員会が調査を実施している（主演光朗ほか2011、以下仙台市調査区と略する）。その調査では、堆積層はⅠ～Ⅵ層に大別され、近世～近代初頭の整地層であるⅢ～Ⅴ層はさらに細分されている。BK14調査区（『調査報告』7：p.40、図15）と仙台市調査区（主演光朗ほか2011：p.18、E-E区間）の土層断面図を比較すると、BK14の2b層と仙台市調査区のⅣd層が対応する可能性が高い。そのほか、直接的な対比はできないが層準や層の時期からすると、仙台市調査区のⅠ・Ⅱa層はBK14のⅠ層に、Ⅱb-Ⅲ層はBK14の2a-2層、Ⅵ層はBK14の3・4層に相当するものと推定される。なお、仙台市調査区のⅤ層に相当する層は、BK14では確認されていない。

表91 各調査地点において設定された段階
Tab.91 Phase of the each excavation area

時期	BK14地点			BK7地点			仙台市調査地点		
	段階	時期	遺構の 検出層位	段階	時期	遺構の 検出層位	段階	時期	遺構の 検出層位
19世紀後半	明治初期～ 20年前後			Ⅳ期	明治初期～ 20年前後	2層上面	Ⅲb期	19世紀中以降 (明治期)	Ⅲ層上
	19世紀後葉	Ⅲ期	19世紀前葉～ 後葉 (近代)	2a-2層上	Ⅲ期	19世紀前葉～ 明治初年 (1868) 頃			
19世紀前半	19世紀中葉								Ⅲa期
18世紀後半	18世紀末葉	Ⅱb期	18世紀後葉 (後半) ～19世紀初頭	2b層上	Ⅱ期	18世紀初頭～ 19世紀前葉	2層下部の下位、 4層より上位	Ⅱb期	18世紀中頃～ 19世紀前半
	18世紀後葉								
18世紀前半	18世紀中葉	Ⅱa期	18世紀初頭～ 中葉	2b層上	Ⅱ期	18世紀初頭～ 19世紀前葉	Ⅱa期	18世紀前半～ 中頃	
17世紀後半	17世紀末葉								Ⅰ期
	17世紀後葉	Ⅰa期	17世紀前半頃	Ⅴ層上					
17世紀前半	17世紀中葉								
16世紀後半	17世紀初頭								
	16世紀末葉								

②遺構変遷段階の比較

BK7の遺構変遷の段階はⅠ～Ⅳ期に区分されている。それらの段階とBK14の段階との関係を表1に示した。Ⅰ期の遺構は、BK7では4層より下で確認される遺構であるが、BK14では確認されていない層であるため、BK14では2b層上面で検出されている。BK7のⅡ期は、BK14では重複関係からⅡa期とⅡb期に細別でき、どちらの時期の遺構も2b層上面で検出した。BK7のⅢ期は、BK14では2a-2層検出の遺構の時期が相当する。BK7のⅣ期は、BK14では設定していない。仙台市調査区では、Ⅰ～Ⅲ期に区分され、それぞれaとbに細分されている。仙台市調査区のⅠ～Ⅲ期は、ほぼBK14のⅠ～Ⅲ期と対応する。

(2) 時期別にみた特徴的な遺構

BK14調査区では、掘乱などが著しく、柱穴が整然と並び建物を復元できる事例が非常に少なかった。一方で、溝や池と考えられる特徴的な遺構が確認できた。本考察では、これらの溝と池に焦点を絞り検討してみたい。

①Ⅰ期（16世紀末葉～17世紀：図88-①）

それぞれの調査地点のⅠ期が該当し、おおむね17世紀の遺構群である。BK7の12・29号溝が南北に走り、BK7の12号溝と仙台市調査区のSD24が連結する（以後、「調査区-遺構名」と表記する）。BK7-29号溝とBK14-3号溝が連結するものと思われるが、BK14-3号溝の位置が西側にする。BK14の調査時のミスも想定したが、他の時期の遺構や仙台市調査区との関係は整合しているので、やはりこのズレは存在している。そうすると、BK14-3号溝はBK7-30号土坑とも接合することとなる。

BK7調査区南端の土層断面図（『年報』19-1：p.48）からすると、BK7-29号溝の底面レベルは58.7mとなる。そして、BK14-3号溝の北側土層断面図の底面レベルは58.8mであり、BK7-29号溝の底面レベルとはほぼ同じである。また、BK14-3号溝とBK7-29号溝は、箱形に近い断面形状や、埋土下層にラミナ状に堆積する砂を含んでいることなど、様々な状況が類似する。したがって、BK14-3号溝とBK7-29号溝は同一の遺構であり、接続していたと考えても問題は無い。

また、BK14-3号溝の南側土層断面図の底面レベルは58.6mとなっている。北側土層断面図における底面レベルとの20cmの差から、BK14-3号溝に流れ込んだ水は、北から南へと流れているものと考えられる。BK7-29号溝も同様に北から南へと流れていたと想定（『年報』19-1：p.66）されている。このことから、これらの南北の溝は、南側へ排水する施設として考えられる。

BK14-3号溝とBK7-29号溝のズレであるが、BK7-12・29号溝の関係のように、BK7-29号溝とBK14-3号溝は異なる遺構であり、少し西側場所にずらして構築した可能性も考えられる。この場合であっても、位置関係からBK14-3号溝はBK7-30号土坑とも接合することになる。このBK7-30号土坑は、埋土下部に砂がラミナ状に入ることから、水流がある状態であったことが想定（『年報』19-1：p.68）されており、底部レベル等からもBK14-2号池状遺構の北壁の一部と考えられる。BK14-2号池状遺構は、北部と東部から来た水が西部を経て南側へと抜ける構造となっている（註1）。このBK14-2号池状遺構を通る水の供給源として、BK7-29号溝を想定したい。この場合、BK7-29号溝からBK14-2号池状遺構とBK14-3号溝に水が分かれて流れていたと考えられる。BK14-3号溝とBK7-29号溝が直線的に接合しないことは、ちょうど掘乱によって破壊されている位置に、BK14-2号池状遺構への排水口等の何らかの施設があったためではないかと推定している。

これらの溝・池状遺構の時期であるが、BK14-3号溝が17世紀中葉～後葉、BK7-12号溝は17世紀中葉以降、接続する仙台市調査区-SD24は17世紀後半とされている。また、BK14-2号池状遺構は17世紀と時期比定しているので、この一連の溝・池状遺構は、17世紀中葉～後葉には確実に機能していたものと考えられる。

なお、BK14-2号池状遺構の西側にBK14-4号池状遺構が存在している。『調査報告』7では、床面レベル

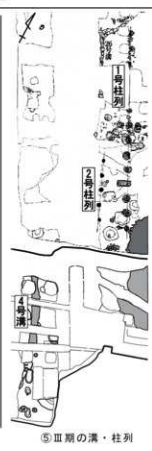
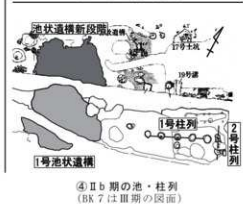
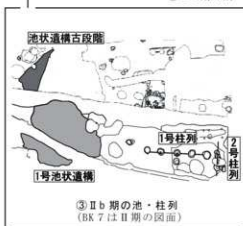
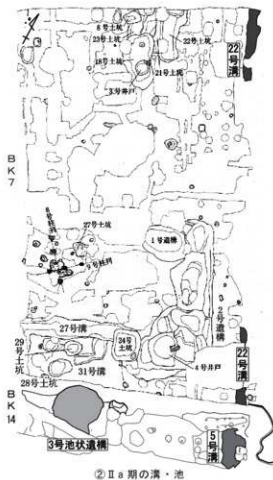
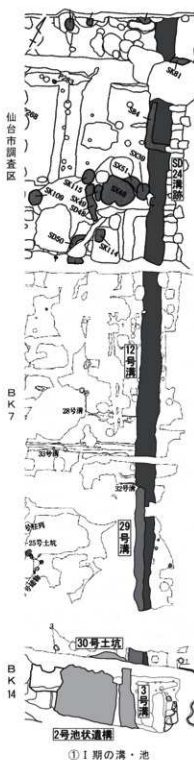


図88 他の調査区との関係
Fig.88 Relations with the other excavation area

から南側に排水していた可能性を指摘した。BK-2号池状遺構も南側に排水する構造であったことから、この時期における雨水等は調査区の南側に排水していた状況が考えられる。

② IIa期（18世紀初頭～中葉：図88-②）

BK14-5号溝とBK7-22号溝が接合し、仙台市調査区-SD44へと続く。底部のレベルは、調査地南壁のBK7-22号溝では59.7mであるが、BK14-5号溝は59.1～59.2m程度となり、前時期と同様に北から南へと流れていたことがわかる。BK7-22号溝は、その報告書の中で1期のBK7-12号溝の機能を東側に移したものと推定されているが（『年報』19-1：p.93）、BK14-5号溝も出土遺物の時期等からその見解は妥当なものと考えられる。これらの遺構は、BK14-5号溝の層位・出土遺物から18世紀中葉には機能していたと考えられる。

BK14-3号池状遺構は、BK14-4号池状遺構と接続する池跡である。接続部の落差は50cm程度あり、南から北へと流れる構造であったと考えられる。3号池状遺構は、位置的状況からBK7の池状遺構古段階と対応するように見受けられる。時期は、3号池状遺構が18世紀前半、BK7-池状遺構は18世紀代とされており、一旦すると同一の遺構としても問題は無いように見受けられる。

BK14-3号池状遺構の西側には、集石が確認できた。『調査報告』7では、上層のBK14-1号池状遺構との関係が捉えられなかったことから、BK14-1号池状遺構のものである可能性も想定した。一方、BK7-池状遺構古段階には、明らかな石列や杭列等も伴っている。また、BK14-3号池状遺構はBK14調査地内で最低レベル（58.2m）となり、北側で少し高くなるような窪んだ構造となっている。BK7調査地南壁におけるBK7-池状遺構古段階の底部レベルは58.8mとなり、最大で60cm程も差がある。さらに、上部が倒半を受けているとはいえ、BK14-3号池状遺構とBK7-池状遺構古段階のプランは整合していない。これらの構造や底面レベルの違いから、素直にBK14-3号池状遺構とBK7-池状遺構古段階が接合する遺構であり、南から北への流路が存在していたと考えることは難しい。この場合、BK14-3号池状遺構の排水先が不明となる。

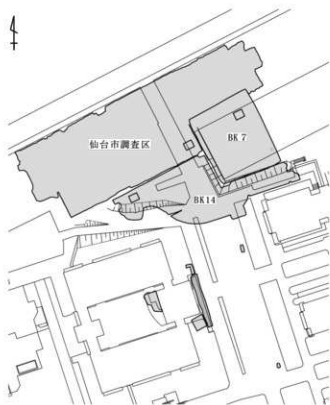
BK7-池状遺構古段階より古い遺構として、その下部にBK7-28・29号土坑、27・31号溝がある。これらの遺構は、位置関係等からBK14-3号池状遺構と直接的に接続していたと考えることは難しい。ただし、BK7-27・31号溝の底面レベルは、3号池状遺構の底面レベルと近いため、何らかの関係も考えられる。

なお、BK7の大規模なゴミの捨て場であるBK7-2号遺構が機能していた年代は、出土木簡から1720年前後が推定されている。BK7のⅡ期は、このBK7-2号遺構を含み、その東側のBK7-28・29号土坑、27・31号溝などが存在していた時期と、池状遺構古段階がある時期の二つに分かれている。前者は木簡の年代頃、後者は池が機能していた段階と考えられる。BK14-3号池状遺構は、18世紀前半と時期比定したが、そのうち2号遺構が機能していた段階の遺構と推定できる。

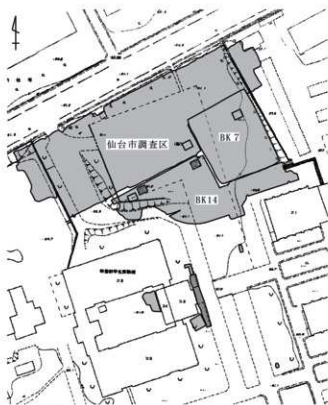
③ IIb期（18世紀後葉～19世紀初頭：図88-③・④）

BK14-5号溝と同じ場所にBK14-2号柱列が構築される。このBK14-2号柱列は、溝と同じく区画の機能を有していた可能性もあるが、その規模は小さく疑問が残る。また、2号柱列に直行して1号柱列が存在する。この柱列の機能は不明であるが、西側に1号池状遺構が隣接して存在するため、区画の施設では無く、日隠し等の別の機能も考えられる。

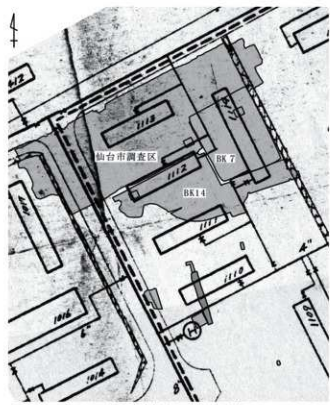
今回の調査では2段階に区分できなかったが、BK14-1号池状遺構は、BK7Ⅱ期のBK7-池状遺構古段階とⅢ期のBK7-池状遺構新段階と接続する。護岸の石列は、BK7調査区内の方の残りが良い。BK14-1号池状遺構の底面は、南から北に向かい緩やかに傾斜する。BK7-池状遺構新段階の北側は擾乱により不明であるが、北側に向かって排水される様な構造であったのだろう。また、『調査報告』7では、BK14-1号池状遺構は、遺構の重複関係からⅡb期（18世紀後葉～19世紀初頭）とし、Ⅲ期（19世紀前葉～後葉）以降近代頃に埋められたものとし、長期間機能していた様相を指摘した（註2）。そして、BK7-池状遺構古段階は18世紀代、BK7-池状遺構新段階は19世紀から幕末まで機能していたと考えられることから、時期的には矛盾しない。



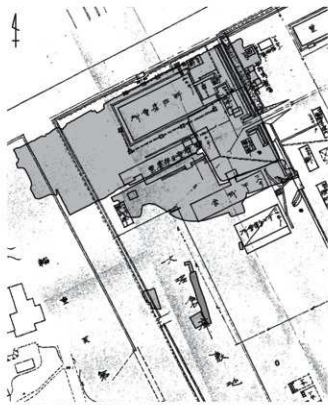
①「東北大学団地配置図」(2010年)



②「東北大学川内青葉山地区地形図」(1983年)



③「キャンプ・センダイの建物を東北大学が使用していた頃の建物配置図」(1964年)



④「仙台陸軍教導学校」改変(1940～1943年頃：佐藤2000、仙台市歴史民俗資料館蔵)

0 50m
S=1/1500

図89 過去における調査区的位置
Fig.89 Location of the excavation area in the past

なお、仙台市調査区においても、BK7調査区北側に18世紀中頃～19世紀前半頃に規模の大きな池跡が確認されている。この時期には、複数の池跡を構築していたことがわかる。

④Ⅲ期（19世紀前葉～後葉：図88～⑤）

本調査区では、南北に走るBK14-4号溝より東側では格段に遺構が少なくなる。この時期の初期には、BK14-1号池状遺構・BK7-池状遺構新段階は埋まりつつも存在していたと考えられる。

BK7では、BK14-4号溝の北東側に南北方向に伸びるBK7-1・2号柱列がある。BK14-4号溝とBK7-2号柱列の軸角度はほぼ同じであるが、BK7-1号柱列の軸角度はややずれる。これらの柱列や溝で構成される区画がこの地点周辺に存在していた可能性が高い。

⑤明治期以降（1868年以降：図89）

この時期は、一部がⅢ期とも重なる。本調査区の位置を建物配置図に重ね、時代を遡り順に図89に示した。①と②は現代の建物の対比が可能であるため調査区の位置は確実であるが、③と④は背景となる建物配置図の正確さは不明である。

図89-③は、米軍が駐留していたキャンプ・センダイ時代の建物を東北大学が使用していた頃の建物配置図である。各調査区に建物が認められる。BK14調査区内では、北側に「1112」という建物がある。これは、『調査報告』7では、第二師団期の建物として報告はしていたが、建物3が該当する可能性もある。その場合、米軍期のスチーム施設と考えられる共同溝より東側にも伸びているはずではあるが、攪乱が著しいため柱配置が読み取れない。調査区南側には、コンクリートを用いた布基礎の建物1（『調査報告』7：p.43）が認められた。この建物は、建物配置図上で「1111」と書かれた建物の基礎かとも思われるが、西側には、この建物基礎は延びておらず疑問である。その場にある建物2が、建物3と同様に米軍期のものとも推定することも可能であるが、建物1との関係が不明となる。

図89-④は、仙台市歴史民俗資料館蔵の第二師団期の建物配置図である。1940～1943（昭和15～18）年頃のものとして推定されている（佐藤雅也2000）。BK14の建物4（『調査報告』7：p.43）は「医療室及休養室」の一部であろう。建物5は、「干城舎」とされる建物となる。この干城舎は、1934（昭和9）年刊の『仙台陸軍教導学校要覧』によると、「学生の精神を修養すると共に相互間の親睦を増進し兼て学術の研究の資することを目的」としたものであり、集会スペースのほか軍旗や「中心烈士の写真及其遺物等」、軍事関連図書等を置いていた建物であったようである。

註1）『調査報告』7では、2号池状遺構の流路として東側から西側、そして北側へと向かうと記載したが、正しくは東・北側から西側に流れるような流路である。西側へ水を集めるような流路となっていたものと考えられる。この点について『年次報告』2018にて訂正の報告をした。

註2）『調査報告』7では、1号池状遺構の時期として、「Ⅱb期（18世紀中葉）」と表記したが、正しくは「Ⅱb期（18世紀後半）」である。註1の件も含めホームページ等で正誤表を公開していきたい。

（3）近世絵図・近代地図との関係から

①区画と遺構

図89-④の1940～1943（昭和15～18）年頃の建物配置図から、時代を遡り地図・絵図との比較を行いたい。図90-①は1893（明治26）年の地図であるが、その地図に第二師団期の建物との関係を基準とし今回の調査区を重ねた。1882（明治15）年の地図（図90-③）は、1885（明治18）年仙台鎮台に歩兵第17連隊が設置される（原剛2002）以前の地図となっており、中ノ坂通が認められる（図90-③d）。1881～1883（明治14～16）年に、川内地区の買収が軍により行われており（加藤宏2011）、この1882（明治15）年の地図には、「陸軍省用地」の文字が

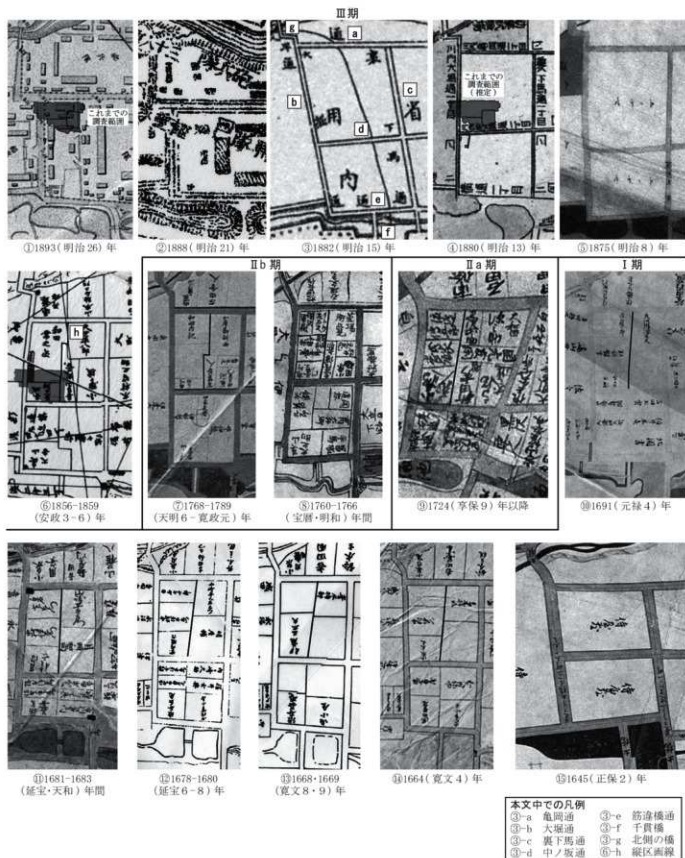


図90 武家屋敷地区第14地点周辺の絵図・地図
Fig.90 Picture maps around BK14

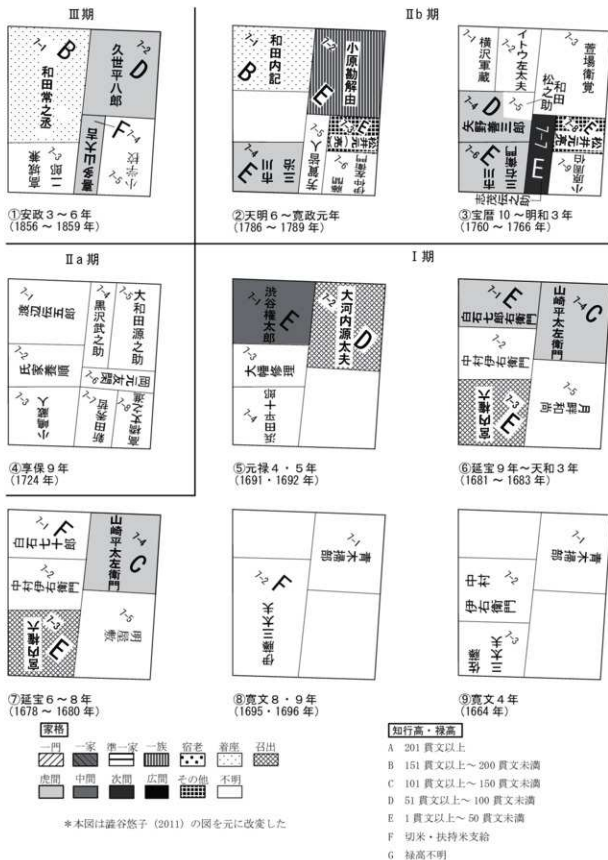


図91 武家屋敷地区第14地点周辺の武家屋敷の変遷模式図
Fig.91 The change of the samurai residences around BK14

記載されている。

第17連隊設置前の地図(図90-③)では、亀岡通と大堀通が合流し北側の橋に至る直前が鉤の手状となっており(図90-③g)、それ以後と比べて亀岡通が北側に位置している。この鉤の手状の箇所は、橋の直前であることから、亀岡通は図90-②の頃よりかなり北側に位置していたものと推定される。図90-④では、大堀通、千貫橋、北側の沢等が大きく変化していないと仮定して、その位置関係から今回の調査区の位置を推定し、1880(明治13)年の地図に重ねた。今回の調査区は、中ノ坂通のちょうど北側に位置することとなる。今回の調査区内での中ノ坂通があるとされる部分については、調査区の南端でしかも攪乱を受けている地点であったので、明確な道路遺構等は確認されていない。

中ノ坂通が確認できていないため推定に推定を重ねることにはなるが、この地図を基準として1856-1859(安政3-6)年の絵図に、同様の手法で今回の調査区を重ねた(図90-⑥)。今回の調査区周辺を含めた範囲は、おおむね3つの屋敷地の範囲内に収まる。なお、「調査報告」7の図2(p.3)で示した推定の調査区位置図よりやや南側に寄ることとなる。

ここで注目すべきは、各調査区の東側において縦方向に区切る屋敷地の境である(図90-⑥h)。図90-⑩の1664(寛文4)年の頃まで、この縦区画は確認できる。これまでの調査の中では、この縦区画には、Ⅰ期(図90-①や②)のBK14-3号溝、BK7-12・29号溝、仙台市調査区-SD24が該当するものと考えられる。

1768-1789(天明6-寛政元)年の図90-⑦では、その縦区画上が屋敷地として分割されているため、南側の縦区画が西側に僅かに移動することにより鉤の手状となる。1856-1859(安政3-6)の絵図でもほぼ同様である(図90-⑥)。また、1724(享保9)年以降の図90-⑨(Ⅱa期)には、それまでⅠ区画であった縦区画より南東側の屋敷地が3区画に分割され、縦区画に沿って南北に長い区画が生じる。その後の絵図(図90-⑧)では、鉤の手状の表現とはなっていないが、この区画の設置により図90-⑥・⑦の様に縦区画が鉤の手状になっていた可能性も想定できる。

しかし、18世紀中葉(Ⅱa期)には機能していたBK14-5号溝、BK7-22号溝、仙台市調査区-SD44という溝の存在から、むしろやや東側にずれた状態で縦区画が存在したものと考えられる。これは、図90-⑧の絵図に描かれている様に、縦区画線が直線的であったことを示している。Ⅱb期には、BK14-5号溝と同じ場所にBK14-2号柱列があるが、確認できた範囲も小さく、規模も小さいため判然としにくい。このようなことから、図90-⑦(1768-1789年)と図90-⑧(1760-1766年)の間に、縦区画が鉤の手状に変わることになる。この際には、この場所の屋敷地坪首者も変わっている。

一方、Ⅰ期からⅢ期まで継続する一連のBK14-1・3・4号池状遺構の位置は変化しておらず、この場合は時期を通して池であったと考えられる。このことを踏まえると、図90-⑦の絵図において西側に僅かに動いた縦区画線は、BK14-1・3・4号池状遺構の両側のどちらかに移動したものと考えられる。図90-⑦の縦区画線に該当する様な遺構は、Ⅱb期においては明瞭には認められない。図90-⑥の時期に関しては、Ⅲ期におけるBK14-4号溝、BK7-1・2号柱列周辺が該当するものと推定できる。

なお、明瞭な区画施設が認められないことに関して、藤澤敦が千葉正樹の論(2003)を引用しつつ、「生け垣や空地を設けるか、あるいは屋敷林を構成する樹木を並べて植えるなどして、屋敷の境を区画していた」(藤澤敦2011:p.250)ことをBK11の事例から指摘している。本調査区でも、1・3・4号池状遺構周辺が縦区画にあたるかは考えられるが、同様の状況であったと推定する。

②建物

今回調査したBK14調査区内は、縦区画の南西側の屋敷区画のほとんどをカバーしている。今回調査区周辺の屋敷地坪首者の変遷は、益谷悠子の成果(藤澤敦ほか2011)を元に図91に示した。縦区画南西側の屋敷地では、Ⅰ期の宮内権六が召出(36貫文)、Ⅱb期の市川三右衛門・三治が虎間(30貫文)等の中級家臣の存在が認めら

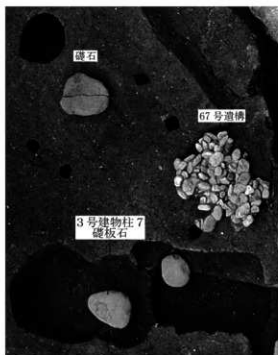


図92 礎石と周辺の遺構
Fig.92 Foundation stone and features around it

92)。この石のサイズは、掘立柱建物（3号建物）の礎石と変わらない規模である。石がある区画周辺は、近くにある67号遺構のような集石が残されており、2層上面の遺存状態が良好であったと考えられる。これらのことから、BK14で確認した石は、礎石建物の一部であると考えられる。

3. 武家屋敷地区の環境

本報告では、池状遺構と井戸を中心とした遺構から出土した自然遺物に関する分析を第Ⅷ章に掲載している。今回は、武家屋敷地区における池状遺構の埋土形成過程と周辺環境の変化を検討するため、池状遺構の出土資料に関する分析をまとめる。本論で触れる自然遺物の層別別の数量等については、動物遺存体表56～63、植物遺存体表64～70、昆虫遺体表73～81を参照頂きたい。

①2号池状遺構（1期）

埋土は大きく5層に分かれる。『調査報告』7では、埋土の特徴から最下層の5層が池が機能し始めた頃の埋土であること、3・4層は静かに泥が堆積するような水が停滞していた様相を示していること、2層は砂等が混入するような水の流れていたこと等を指摘していた。2層以下については水洗篩を実施している。

昆虫遺体の分析からは、食性の水生昆虫のガムシ類が各層から出土しており、薄暗い止水域に生息するキベリヒタタガムシは2層を中心に確認することができる。また、各層から食糞性、食屍性の昆虫が多く出現している。動物遺存体の分析からは、3層から同一個体のカモ科の骨格部位が出土しており、完全に骨になった状態ではなく、ある程度の軟部組織が残った状態であったことが想定されている。この様な状況から、池に食物残滓が廃棄されていた状況がわかる。また、2・3層が堆積する頃には、水が常に流れているような状況ではなかったことが想定できる。

植物遺存体の草本類は、各層から多く出土している。水域の指標植物各種も出土しているが、その中のヤナギタデの出土量が2層よりは3層以下でとくに多い。2層では、花壇などで植えられていたのかオケタデが突出してとくに多い。これらの資料の様相は、周辺環境の変化を示しているものと考えられる。木本類は、2層とそ

れる。

今回の調査では、屋敷地内の建物構成を明瞭に復元することはできなかった。比較的大型の建物跡としては、1期のBK14-3号建物がある。この掘立柱建物の柱穴の規模は大きく、礎板石を有しているものもあるが、建物構造の全体を復元できるほど柱穴を組むことができなかった。類似する建物跡としては、BK14-3号建物に隣接する同時期のBK14-4号建物がある。このような建物が存在することはわかるが、屋敷全体の構成は不明である。IIa期以降には、明確な建物跡はほぼ無く、井戸や用途不明の遺構のみが目立つ。

この様な状況に関して、BK7・BK11の調査事例を元として、藤澤敦により礎石建物が存在していた可能性を推定されている（藤澤敦2011）。本調査区でも、時期不明の石を1点確認している。この石は、1点のみの確認で、建物を構成できないため、『調査報告』7では写真を掲載したのみでとくには触れなかった（『調査報告』7：図版122-8）。この石は、2層上面で確認した（図

れ以下の層で顕著な差が認められ、2層では種類と量共にやや多くなる。これらの状況から、2層堆積時には周辺の土壌が多量に混入している状況が想定できる。

2号池状遺構は、薄暗い状況のもと食物残渣や人糞が廃棄される、あるいは混入する様な場所ではあったが、静かに水を湛える様な環境であったと考えられる。しかし、2層が堆積する頃にはメンテナンス等をしなくなったのか、周辺から土壌が流入しても放置される様な環境下にあったものと推察される。

人工遺物には、正徳3（1713）年の記載がある木簡が埋土2層から出土しており、埋土3層までは18世紀初頭～前葉の遺物が認められる。とくに、埋土2層からは数多くの遺物が出土している。下層の埋土4・5層からは、若干古手の17世紀代の陶磁器が含まれる。これらのことから、埋土3層が堆積する18世紀初頭～前葉には人工遺物の投棄が進められ、埋土2層が堆積する頃には様々な物が廃棄され、2号池状遺構は荒れ果てていたという様相が想定できる。そして、1層からは17世紀後半～末～18世紀前葉の遺物が出土しているため、18世紀前葉以降には埋められていたであろう。

②4号池状遺構（I期）

埋土は大きく8層に分かれる。これらの8枚の層は、土質から1層、2～7層、8層の3つにまとめることができる。8層は池が機能し始めた頃の埋土で、2～7層は水が存在しつつも次第に埋没していった頃の堆積土と考えられる。1層は粘土ブロックを多量に含む層であるため、上部に位置する1号池状遺構構築の際の埋め戻し土とも考えられる。

昆虫遺体は、1層より下層にて確認されており、その特徴は2号池状遺構とはほぼ同様である。止水環境を示すキヒロヒラタガムシは3・5・8層から出土しており、2号池状遺構と同様にキヒロヒラタガムシも3・5層から出土している。分析文章中で触れられているツヤエンマコガネは5層から、ヒメカツオブシムシは8層から出土している。動物遺存体では、同一個体のシカの骨格部位が埋土5層と8層から出土している。最下部の8層堆積時に捨てられたものと考えられる。

植物遺存体は、最下層の8層でキュウリ属メロン仲間が特に目立つ。2・3層では、サンショウが特に増加する。基本的にこの様な増減はあるものの、2～8層は主体となる植物の変化は無い。1層は、層が厚いものの出土量が非常に少ない。

出土した陶磁器は17世紀代の遺物のみであるが、2号池状遺構とは異なり遺物の量・種類共に少ない。

これらの様相からすると、1層は自然遺物が非常に少ないことから、池が機能していた頃の埋土ではなく、やはり埋め戻し土と考えられる。それ以下の層が池機能時の埋土と考えられるが、池自体の水流は弱く、食物残渣などの廃棄物が捨てられていた環境が想定できる。4号池状遺構は、人工遺物の廃棄量は少ないが、同時期の2号池状遺構とはほぼ同じような状況であったと考えられる。

③3号池状遺構（IIa期）

上部に1号池状遺構が位置し、埋土は薄く、人工・自然遺物共に非常に少ない。埋土は2層あり、最下層は砂層で、上部の埋土はラミナ状の砂層を含むシルト質粘土である。水が流れていた状況が想定される。

他の池状遺構とは異なり、自然遺物としては埋土1・4層からオニグルミが出土しているのみである。この遺構は、西壁付近で壁面が抉れていた。この抉れに関して「調査報告」7では、東南部の4号池状遺構との接続部から「水が勢いよく流れ西側の壁面に水流がぶつかることにより抉られた状況」を推測していた。一方で、先ほどの考察で示した様に4号池状遺構の水流が弱いことが想定されるため、抉れるような水流が常に生じていたとは考えづらい。このことから、この抉れが生じた理由として、荒天時等に4号池状遺構から溢れた水が勢いよく流れた状況を想定したい。また、出土遺物が少ない理由の一つとして、その様な堆積環境があるものと考えられる。

④ 1号池状遺構（Ⅱb期）

埋土は大きく2層に分かれ、1層は埋め戻した土であり、2層は池機能時の埋土と考えられる。2層は粘土質シルトを主体とする2a層と、砂礫が主体の2b層に区分できる。2a層には砂がラミナ状にかなり多く混じる層もあり、更に細分も行った。この2層の堆積状況に関して、『調査報告』7では「BK16地点（『調査報告』5）の堀（新段階）で認められた堆積状況と類似する」ということを指摘した。この様な2層の構造は、水に関係した何らかの突発的なイベントにより成形されたものと推定する。

この池状遺構から出土した自然遺物は、多くは無い。植物遺存体ではマツ属複雑管束重層、モモ、ウメ、オニグルミが少量出土している。動物遺存体では、ホタテ、種類不明の巻貝、二枚貝の殻皮が多数出土しており、哺乳類では完存するシカの脛骨がある。これらは、食物残渣の廃棄物と考えられる。

人工遺物は、各層から出土している。埋土1層には、明治初頭の磁器、陸軍食器等が含まれており、新しい時期に埋め戻されたことがわかる。埋土2層には、18世紀後半以降19世紀前半頃の遺物が認められるが、とくに小破片が多く、図化された遺物も少ない。

主体となる2層形成の理由を先述のような水関連のイベントとするならば、自然遺物が少ないことと2層出土の人工遺物に小片が多いこととの理由となるものと考えられる。

⑤ 小結

池状遺構から出土した自然遺物の分析から、それぞれの池の埋設過程とその環境を考察した。1期の池状遺構は、人為的な汚染が進んだ環境の中で利用されていたようである。2号池状遺構と4号池状遺構では、堆積環境は類似しているものの、人工遺物の廃棄量に大きな差がある。これは、2号池状遺構が屋敷地区画の最東端であり、推定される屋敷地からみて4号池状遺構よりも奥側に位置することとも関係しているものと推察される。

Ⅱa期・Ⅱb期の池状遺構では、人工・自然遺物共にそれほど多くは無い。その主要な理由としては、先述のようにそれぞれの池跡での埋土形成時の環境によるものと考えられる。また、その頃の屋敷地区画の変更により、この場所には池が継続されて使用されつつも、その使われ方が変化したためではないかと考えられる。

4. 武家屋敷地区第14地点の調査成果—まとめて代えて—

仙台北城跡二の九北方武家屋敷地区第14地点の調査報告は、『調査報告』7（遺構編）と本書の2分冊に分けて刊行することとなった。報告を終えるにあたり、調査成果を通覧し、まとめて代えておきたい。

武家屋敷地区第14地点の調査は、調査面積972.8㎡、調査期間は一時中断した期間をはさみ、2011年から2015年におよぶものであった。武家屋敷地区の調査としては、武家屋敷地区第4地点、第15地点に次ぐ、規模の大きな調査となった。

今回の調査では、江戸時代以前にさかのぼる遺構は検出されておらず、江戸時代の遺構が中心である。江戸時代の遺構は、建物跡、池状遺構、井戸跡、溝跡、ピットなど、総計332基の遺構が検出され、Ⅰ期、Ⅱa期、Ⅱb期、Ⅲ期の大きく4段階に時期区分される（Ⅰ期：16世紀末を含む17世紀代、Ⅱa期：18世紀初頭～中葉、Ⅱb期：18世紀後葉～19世紀初頭、Ⅲ期：19世紀前葉～後葉）。

Ⅰ期では、江戸時代初頭からの屋敷境と推測される3号溝や、17世紀代の建物跡や井戸、2号池状遺構と4号池状遺構の2基の池状遺構が検出され、近世前半段階の屋敷構成を推測する重要な情報となった。Ⅱa期では、4号池状遺構に接続する3号池状遺構が検出され、近世前半段階から18世紀前葉まで継続して池状遺構が配置されていることが確認された。他にⅡa～Ⅱb期にまたがる2号井戸や6号井戸なども検出されており、建物配置や水利用のあり方を考える上で貴重である。Ⅱb期では、前段階の4号・3号池状遺構の後に、改めて構築された1号池状遺構が検出され、近代頃に埋め戻されるまで存続していたことが判明した。池跡は、作り直しを経て、同様の場所で継続して構築されおり、次のⅢ期と合わせて近世後半段階の屋敷構成を推測する基点と考えられる。

Ⅲ期では、一部のみの検出ではあるが建物跡や井戸など、近世最終段階の武家屋敷の様相を示す遺構が確認された。

この様に池跡や井戸跡の时期的変化等は追求できたものの、近現代の攪乱が非常に多いため、屋敷地内における建物構成等を把握することが非常に困難な状況であった。考察では、本調査区で確認された石1点から礎石建物の存在を推定したが、今後の発掘調査にてその存在を明らかにしなければならない。

当調査地点は、当調査室による武家屋敷地区第7地点、地下鉄東西線工事に伴う仙台市教育委員会による調査地点と隣接している。これら調査結果と共に過去の建物配置図、地形図、絵図等を総合的に検討することによって、近世絵図におけるこれまでの発掘調査地点の位置を推定した。現在も中ノ坂通の位置が不明であるため、その確度は高くはないが、おおむねの位置は特定できたものと考えている。ただし、屋敷地境が遺構としてどの様な形で残るのか、そして我々調査者はそれを認識することができるのか、発掘調査における注意深い実践が必要である。

出土遺物では、近世以前の縄文・弥生土器の可能性のある土器、石器・石製品、古代瓦が出土した。武家屋敷以前のこの地点の様相を推測する上での貴重な資料と言える。他の遺物の大半は江戸時代に属するものである。17世紀前半段階の遺物は相対的に少なく、残存状況もあまりよくないが、中国磁器、肥前・美濃の陶器、渡来銭などがみられる。17世紀後半からは出土遺物も増加する。2号池状遺構からは17世紀末から18世紀前葉の陶磁器や木製品などがややまとまって出土した。「正徳三年」と記載された木簡も出土しており、遺構・遺物の年代を表付けるものとなった。また、大塚相馬・小野相馬陶器が閑寂して間もない時期における仙台北下の陶磁器の組成を考察することができる資料であり、これまでの陶磁器組成を補足することとなった。6号井戸からは比較的残存状況のよい木製品が出土しており、種類も比較的豊富である。1号井戸からは19世紀前半代の陶磁器とともに、桶や板材などの木製品、漆器などが出土しており、明治初頭の武家屋敷敷地に伴う一括廃棄と推測される。

今回の調査では、動物遺存体などの自然遺物を多数回収することができた。とくに池状遺構や井戸の埋土に関しては水洗篩を実施したことにより、植物種子や昆虫遺体などの微細な資料まで得ることができた。これらの資料の分析により、当時の食生活や自然環境の一端を推定することができた。また考察では、池状遺構の埋土形成過程と併せて考え、周辺の環境の変化、遺構の位置づけ等を行った。

そのほかにも、2号池状遺構・4号池状遺構から出土した編組製品などの有機質遺物に関する詳細な分析や、9号遺構出土石臼に付着した白色粒子についても、その素材や製作方法、用途の可能性を推測することができた。

今回の調査では、過去の遺構・遺物の調査データを含め、豊富な遺物などを総合的に検討することができた。仙台北下の武家屋敷の様相の一端を示す貴重な調査であろうと考えられる。

引用・参考文献

東北大学埋蔵文化財調査室・仙台市教育委員会の報告書に関しては、直接引用したものを以外は省略した。

【東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書関連】

- 梶原 洋・佐久間光平・山田しょうほか 1990「東北大学埋蔵文化財調査年報」3 東北大学埋蔵文化財調査委員会
佐久間光平・山田しょう・藤澤 敦 1992「東北大学埋蔵文化財調査年報」4・5 東北大学埋蔵文化財調査委員会
藤澤 敦・関根達人 1993「東北大学埋蔵文化財調査年報」6 東北大学埋蔵文化財調査委員会
藤澤 敦・関根達人・菊池佳子ほか 1994「東北大学埋蔵文化財調査年報」7 東北大学埋蔵文化財調査委員会
藤澤 敦・関根達人・菊池佳子ほか 1997「東北大学埋蔵文化財調査年報」8 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
藤澤 敦・関根達人・菊池佳子ほか 1998「東北大学埋蔵文化財調査年報」9 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
藤澤 敦・関根達人・菊池佳子 1998「東北大学埋蔵文化財調査年報」10 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
藤澤 敦・関根達人・菊池佳子ほか 1999「東北大学埋蔵文化財調査年報」11 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
藤澤 敦・関根達人・菊池佳子ほか 2000「東北大学埋蔵文化財調査年報」13 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
藤澤 敦・関根達人・菅野恵子ほか 2001「東北大学埋蔵文化財調査年報」14 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
藤澤 敦・柴田恵子・高本暢亮 2005「東北大学埋蔵文化財調査年報」18 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
藤澤 敦・柴田恵子・高本暢亮ほか 2006～2010「東北大学埋蔵文化財調査年報」19 第1～5分冊 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
藤澤 敦・柴田恵子・高本暢亮ほか 2006「東北大学埋蔵文化財調査年報」20 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
藤澤 敦・柴田恵子・高本暢亮 2007「東北大学埋蔵文化財調査年報」21 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
藤澤 敦・柴田恵子・菅野野間ほか 2011「仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点」東北大学埋蔵文化財調査室調査報告1 東北大学埋蔵文化財調査室
藤澤 敦・柴田恵子・菅野野間ほか 2013「仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点」東北大学埋蔵文化財調査室調査報告2 東北大学埋蔵文化財調査室
菅野野間・柴田恵子・石橋 宏 2017「仙台城跡二の丸第18地点」東北大学埋蔵文化財調査室調査報告6 東北大学埋蔵文化財調査室
菅野野間・柴田恵子・石橋 宏 2019「仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点」東北大学埋蔵文化財調査室調査報告7 東北大学埋蔵文化財調査室

【仙台市教育委員会刊行報告書関連】

- 工藤信一郎・水野一夫ほか 2012「川内B遺跡はかー仙台市高速度鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅷ」仙台市文化財調査報告書第401集 仙台市教育委員会
車田 敦・茂木裕樹 2010「仙台旧城下町に所在する民俗文化財調査報告書④ 仙台釣竿・仙台御筆」仙台市文化財調査報告書第375集 仙台市教育委員会
高野裕彦ほか 1987「富沢遺跡 仙台市都市計画道路長町・折立線建設に伴う富沢遺跡第15次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第98集 仙台市教育委員会
佐藤甲二・竹内俊之・守谷健吾ほか 2007「川内A遺跡はかー仙台市高速度鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ」仙台市文化財調査報告書第312集
主濱光朗 2004「元袋遺跡一都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡一発掘調査報告書Ⅱ」仙台市文化財調査報告書第272集 仙台市教育委員会
主濱光朗・結城慎一ほか 2011a「桜ヶ岡公園遺跡ー仙台市高速度鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ」仙台市文化財調査報告書第384集 仙台市教育委員会
主濱光朗・結城慎一ほか 2011b「仙台城跡ー仙台市高速度鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅵ」仙台市文化財調査報告書第386集 仙台市教育委員会
結城慎一・佐藤 洋 1985「仙台城三の丸跡」仙台市文化財調査報告書第76集 仙台市教育委員会

【その他の報告書・論文等（50音順）】

- 赤松和佳 2006「歳内出土の17～18世紀の京焼について」『京焼の成立と展開ー押小路、栗田口、御室ー』関西陶磁史研究会研究集会資料 関西陶磁史研究会 pp.24-48
安芸徳子・大成乃乃ほか 1999「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）」東京大学構内遺跡調査研究年報2 東京大学埋蔵文化財調査室
安芸徳子 2016「木製玩具・人形にみる一考察」『東京大学本郷構内の遺跡 医学部附属病院入院棟A地点』東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書13 東京大学埋蔵文化財調査室 pp.179-203
有賀要延 1993「仏教法具図鑑」国書刊行会
阿部正光・佐藤敏幸 1997「宮城県の近世墓と六道銭」『近世の出土土銭Ⅰ』兵庫埋蔵文化財調査会 pp.183-226
家田順一・川崎麻里子ほか 1999「柿右衛門ーその様式の全容ー」佐賀県立九州陶磁文化館

- 石田茂作 1976『新版仏教考古学講座 第五巻仏具』藤山園
- 伊藤みどり 2009『安久沢東道跡 経営体育成基盤整備事業古城地区に伴う緊急発掘調査』岩手県奥州市埋蔵文化財調査センター調査報告書第7集 (財)奥州市文化振興財団
- 岩本嘉兵衛 1943『日本産陸橋等脚類に就いて』『植物及動物』11巻12号 養賢堂編 pp.17-32
- 江戸道跡研究会編 2001『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
- 江戸陶磁土器研究グループ編 1992『江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅰ』江戸陶磁土器研究グループ
- 江戸陶磁土器研究グループ編 1996『江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ』江戸陶磁土器研究グループ
- 遠藤栄一 2010『栗ヶ道跡・埴田道跡 経営体育成基盤整備事業古城地区に伴う緊急発掘調査』岩手県奥州市埋蔵文化財調査センター調査報告書第10集 (財)奥州市文化振興財団
- 及川 登 1999『江戸道跡における京都・信楽系製品の流通について』『江戸の物流-陶磁器・漆器・瓦から-発表要旨』江戸道跡研究会第12回大会 江戸道跡研究会
- 及川真紀ほか 2003『東館(赤生津城)道跡発掘調査報告書 五合田道跡発掘調査報告書』岩手県前沢町文化財調査報告書第14集 前沢町教育委員会
- 大手前大学史学研究所オープンリサーチセンター編 2007『近世丹波城の研究』大手前大学史学研究所オープンリサーチセンター研究報告第3号 大手前大学史学研究所オープンリサーチセンター
- 小川啓司 1974『そば焼口絵柄事典』光芸出版
- 大橋康二 1987『十七世紀後半における肥前磁器の銘款について-長吉谷窯出土品を中心に-』『東洋陶磁』vol17 東洋陶磁学会 pp.25-37
- 大橋康二 1994『古伊万里の文様 初期肥前陶磁器を中心に』理工学社
- 大橋康二・西田宏子監修 1988『古伊万里』別冊太陽:日本のこころ63 平凡社
- 大橋康二・鈴田由紀夫ほか 2008『土の美 古唐津-肥前陶磁のすべて』佐賀県立九州陶磁文化館
- 大平 茂・松本 隆 1992『三田市下相野窯址-近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書XⅤ』兵庫県文化財調査報告第107冊 兵庫県教育委員会
- 岡島秀治・荒谷邦雄・細谷忠嗣ほか 2012『日本産コガネムシ上科標準図鑑』学習研究社
- 尾園 曉 2014『ハムシハンドブック』文一総合出版
- 加藤真司・高橋健太郎 2005『第17回織部の日特別展 織部様式の成立と展開』土岐市美濃陶磁歴史館
- 加藤真司・高橋健太郎編 2003『第15回織部の日特別展 織部の流通圏を探る 東日本』土岐市美濃陶磁歴史館
- 加藤真司・高橋健太郎ほか 2002『定規敷陶器窯跡発掘調査報告書』土岐市教育委員会 (財)土岐市埋蔵文化財センター
- 加藤真司・中野 茂ほか 2008『第20回織部の日特別展 桃山時代の茶陶生産』土岐市美濃陶磁歴史館
- 加藤真司・林 順一ほか 1996『特別展堺衆のやきもの 堺塚窯都市道跡出土の桃山陶磁』土岐市美濃陶磁歴史館
- 加藤 宏 2011『旧第二師団軍事施設配置に関する歴史的研究』加藤宏
- 金子健一編 1999『列島に広がる大窯製品 東日本の様相』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
- 金子健一・平井義敏ほか 2003『企画展示図録 江戸時代の美濃窯』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
- 金子 智 1999『江戸道跡出土資料に見る近世海鼠瓦の諸様相』『古代』第106号 早稲田大学考古学会 pp.164-180
- 河合君一・橋田和樹ほか 2005『企画展示図録 江戸時代の瀬戸・美濃-三部と名古屋』(財)瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
- 川井信矢・堀 繁久・河原正和・福垣政志 2008『日本産コガネムシ上科図説』第1巻(食糞群)昆虫文献六本脚
- 関西陶磁史研究会編 2006『京焼の成立と展開-押小路、粟田口、御室-』関西陶磁史研究会
- 九州近世陶磁学会編 2000『九州陶磁の百年』九州近世陶磁学会
- 九州近世陶磁学会編 2002『国内出土の肥前陶磁 西日本の流通をさぐる』第一分冊 九州近世陶磁学会
- 九州近世陶磁学会編 2002『国内出土の肥前陶磁 西日本の流通をさぐる』第二分冊 九州近世陶磁学会
- 九州近世陶磁学会編 2004『受容層の違いによる九州陶磁の様相』九州近世陶磁学会
- 工藤員功 1991『竹製民具の問題点-米揚げ杓と箕を中心として-』『竹と民具』日本民具学会論集5 日本民具学会 pp.7-16
- 工藤 武 1985『大平道跡発掘調査報告書-関地区遊水地間埋蔵文化財発掘調査報告書-』関市教育委員会・建設省岩手工事事務所
- 甲崎光彦・森本 仁ほか 1998『江張藩土庫敷道跡発掘調査報告書Ⅲ』東京都埋蔵文化財センター調査報告第53集 (財)東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター
- 御所野縄文博物館編 2008『縄文から続く「編み」の文化』平成20年度企画図録(民具編)御所野縄文博物館
- 小林博徳・齋藤 進ほか 2000『沙留道跡Ⅱ-旧沙留貨物駅跡地内の調査』東京都埋蔵文化財センター調査報告第79集 (財)東京都生涯学習文化財団 東京都埋蔵文化財センター
- 小林博徳・西澤 明ほか 2003『沙留道跡Ⅲ-旧沙留貨物駅跡地内の調査』東京都埋蔵文化財センター調査報告第125集 (財)東京都生涯学習文化財団 東京都埋蔵文化財センター
- 佐藤栄之・伊藤 裕ほか 1990『切込湯跡-近世磁器窯跡の調査-』宮崎町文化財調査報告書第3集 宮城県文化財保護協会
- 佐藤田之・赤澤靖幸ほか 1989『巨理町三三間堂道跡ほか』宮城県文化財調査報告書第131集 宮城県教育委員会
- 佐藤雅也 2000『資料紹介-「仙台市管区経理部「各部隊配置図・国有財産台帳図」について-」足下からみる民俗(9)』調査報告書第19集 仙台市歴史民俗資料館 pp.131-135

- (財)瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター 2006『江戸のやきもの-生産と流通- 記念講演会・シンポジウム資料集』
- 柴田明彦・大橋康二ほか 1990『柴田コレクション展Ⅰ-初期伊万里から柿右衛門へ-』佐賀県立九州陶磁文化館
- 柴田明彦・大橋康二ほか 1991『柴田コレクション展Ⅱ』佐賀県立九州陶磁文化館
- 柴田明彦・大橋康二ほか 1993『柴田コレクション展Ⅲ』佐賀県立九州陶磁文化館
- 柴田明彦・鈴木由紀夫ほか 1995『柴田コレクションⅣ-古伊万里様式の成立と展開-』佐賀県立九州陶磁文化館
- 柴田明彦・水沢友子ほか 1997『柴田コレクションⅤ-尾室様式の成立と展開-』佐賀県立九州陶磁文化館
- 柴田明彦・鈴木由紀夫ほか 1998『柴田コレクションⅥ-江戸の技術と美術技法-』佐賀県立九州陶磁文化館
- 白神典之 1990『摺摺漆と明石摺漆』『江戸の陶磁器』江戸造跡研究会第3回大会発表要旨 江戸造跡研究会 pp.47-51
- 白神典之・増田達彦 1999『環濠濠部出土の調理具・貯蔵具-江戸期の播鉢・鍋・徳利・植木鉢-』『関西近世考古学研究』Ⅷ 関西近世考古学研究会 pp.79-100
- 白鳥良一・高野芳宏 1982『多賀城跡 政庁跡 本文編』宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所
- 鈴木重治 1990『京焼と京焼写し-生産と流通-』『江戸の陶磁器』江戸造跡研究会第3回大会発表要旨 江戸造跡研究会 pp.52-63
- 鈴木裕子 1999『京焼出土資料の変遷-17・18世紀の江戸を中心に-』『京焼-消費地出土の様相-発表要旨』99 徳島城下町研究会
- 鈴木公雄 1999『出土貨幣の研究』東京大学出版会
- 鈴木省三編 1925『仙臺物産沿革』『仙台叢書』別集第二巻 仙台叢書刊行会(1977年復刻宝文堂)
- 鈴木由紀夫 1995『17世紀末から19世紀中葉の銘款と見込み文様』『柴田コレクションⅣ-古伊万里様式の成立と展開-』佐賀県立九州陶磁文化館 pp.272-279
- 鈴木由紀夫・西田宏子ほか 2013『江戸のモダニズム 古武雄 まほろしの九州のやきもの』九州国立博物館
- 関根達人 1998『相馬藩における近世窯業生産の展開』『東北大学埋蔵文化財調査年報』10 東北大学埋蔵文化財調査研究センター pp.51-86
- 瀬戸市史編纂委員会 1993『瀬戸市史』陶磁史篇四 瀬戸市
- 瀬戸市史編纂委員会 1998『瀬戸市史』陶磁史篇六 瀬戸市
- 仙台市史編さん委員会編 2004『仙台市史』通史編5近世3 仙台市
- 仙台市博物館編 1989『成人形のみ』
- 仙台陸軍教導学校編 1934『仙台陸軍教導学校要覧』東北活版社
- 高橋健太郎 2007『第19回織部の日特別展 ポスト織部の時代 元寛永の茶陶』土岐市美濃陶磁歴史館
- 高橋健太郎・磯村愛子ほか 2006『窯×根室跡発掘調査報告書-平成13年度・14年度の調査成果-』土岐市教育委員会・(財)土岐市埋蔵文化財センター
- 田口昭二・龍橋健治 1993『美濃窯の焼物 特集写真で見る美濃焼の歴史』多治見の古窯第3号 多治見市教育委員会
- 谷川章雄・井澤隆夫ほか 1994『東京都新宿区南町造跡-兵庫県東京宿舎市ヶ谷改築工事に伴う緊急発掘調査報告書』兵庫県・新宿区南町造跡調査団
- 千葉正樹 2003『城下町の景観』『仙台市史』通史編4近世2 仙台市 pp.160-187
- TEM研究所 2006『木積の装づくり:千葉県匝坂市』千葉県伝統文化復興事業実行委員会
- 東京国立博物館編 1990『東京国立博物館図録目録 仏具篇』東京国立博物館
- 東京農業大学「食と農」の博物館編 2013『餅す-飯と掬』東京農大出版会
- 中沢富太郎・長谷川祥子 1996『元・明の青花』中国の陶磁8 平凡社
- 中富 茂編 2006『第18回織部の日特別展 天下人とやきもの』土岐市美濃陶磁歴史館
- 中富 茂・高橋健太郎編 2004『第16回織部の日特別展 織部の流通圏を探る 西日本』土岐市美濃陶磁歴史館
- 中富 茂・張替清司ほか 2009『第21回織部の日特別展 道跡にみる茶の湯とやきもの』土岐市美濃陶磁歴史館
- 長瀬未生子・加藤真司 2000『八幡宮跡発掘調査報告書』岐阜市教育委員会・(財)岐阜市埋蔵文化財センター
- 中根 猛 1975『甲虫』学研中高校生図鑑 昆虫Ⅱ 学習研究社
- 中野雄二 2013『江戸時代における波佐見窯業の展開』『くらわんか藤田コレクション-寄贈記念図録』波佐見町教育委員会
- 橋崎彰一・田口昭二ほか 1990『尾呂-愛知県瀬戸市定光寺カントリークラブ増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』瀬戸市教育委員会
- 成瀬晃司・堀内秀樹 2005『東京大学本郷構内の道跡 医学部附属病院外来診療棟地点』東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 5 東京大学埋蔵文化財調査室
- 成瀬晃司・小林照子・香取祐一 2016『東京大学本郷構内の道跡 医学部附属病院入院棟A地点』東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書13 東京大学埋蔵文化財調査室
- 西田宏子・出川哲朗 1997『明末清初の民窯』中国の陶磁10 平凡社
- 西田宏子・東中川忠美ほか 2002『知られざる唐津 二彩・単色釉・三島手』根津美術館
- 西治 敏 1978『ショウジョウバエの食性と進化』『遺伝』32巻10号 日本遺伝学会 pp.12-20
- 日本家屋害虫学会編 1995『家屋害虫事典』井上書院
- 根津美術館学芸部編 1998『華南のやきもの 黄瀬戸・織部・青手古九谷の源流を求めて』根津美術館
- 桑岡 実 1999『近世備前焼の播鉢-素描メモ-』『関西近世考古学研究』Ⅷ 関西近世考古学会 pp.119-130

- 乗岡 実 2019「近世換前徳の徳利について」「近世の酒と宴 近世考古学の提唱50周年記念」「近世考古学の提唱」50周年記念研究大会実行委員会 pp.341-362
- 初鹿野博之・三浦秋ほか 2015「浦津遺跡はかー常磐自動車道建設関連遺跡調査報告書Ⅱ」宮城県文化財調査報告第239集 宮城県教育委員会
- 畑中英二 2003「信楽焼の考古学的研究」サンライズ出版
- 畑中英二 2007「統・信楽焼の考古学的研究」サンライズ出版
- 長谷川 眞 2004「契類にみる近世丹波焼」『関西近世考古学研究会』 pp.1-23
- 原 剛 2002「明治期国土防衛史」錦正社
- 林 順一 2002「第14回織部の日特別展 美濃桃山陶 意匠と魅力」土岐市美濃陶磁歴史館
- 阪田宗彦 1989「密教法具」日本の美術282 至文堂
- 平沢英二郎・阿部 忠 1984「柳津館山船跡ー東北地建バイパス関連遺跡調査報告書」宮城県文化財調査報告書第102集 宮城県教育委員会
- 福田敏一・石崎俊也ほか 1997「汐留遺跡Ⅰー旧汐留貨物駅跡地内の調査」東京都埋蔵文化財センター調査報告書第37集（財）東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター
- 福田敏一・石崎俊也ほか 2006「汐留遺跡Ⅳー旧汐留貨物駅跡地内の調査」東京都埋蔵文化財センター調査報告書第189集（財）東京都生涯学習文化財団 東京都埋蔵文化財センター
- 藤澤 敦 2011「屋敷区画と検出遺構の関係」『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点』東北大学埋蔵文化財調査室調査報告Ⅰ 東北大学埋蔵文化財調査室 pp.249-253
- 藤沢良祐 2006「瀬戸・美濃登窯製品の生産と流通」『江戸のやきものー生産と流通ー』（財）瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター pp.3-24
- 武藤康弘・堀内秀樹ほか 1997「東京大学本郷構内の遺跡」東京大学構内遺跡調査研究年報Ⅰ 東京大学埋蔵文化財調査室
- 堀江 格・鍋城清ほか 1998「岸室跡ー近世室跡の調査」福島市埋蔵文化財報告書第111集 福島市教育委員会
- 松崎沙和子・武衛和雄 1993「都市害虫百科」朝倉書店
- 丸谷仁美 2015「田口平氏寄贈資料ー箕および笈作り道具〜」『秋田県立博物館研究報告』第40号 秋田県立博物館 pp.47-58
- 三田村敏正・平澤 桂ほか 2017「ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシハンドブック」水生昆虫Ⅰ 文一総合出版
- 廣岡忠成 1989「信楽伊賀」日本陶磁大系8 平凡社
- 森 勇一 1968「ニワッコの種子集積層から産出した双翅目のサナギについて」『史跡三内丸山遺跡年報』2 青森県教育委員会 pp.17-25.
- 森 勇一 2012「ムシの考古学」雄山閣
- 森 勇一 2016「統・ムシの考古学」雄山閣
- 森 勇一 2000「桑名市桑名城下町遺跡伊賀町69地点から産出した昆虫と古環境」『桑名城下町遺跡発掘調査報告書ー伊賀町69地点ー』桑名市教育委員会 pp.50-56.
- 森 勇一 2002「清洲城下町遺跡から産出した貯蔵性昆虫とその意義」『清洲城下町遺跡Ⅵ（本文編）』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第99集 愛知県埋蔵文化財センター pp.365-372
- 森 勇一 2020「昆虫考古学を究めるー遺跡産昆虫から得られた古環境およびヒトの営み」『第四紀研究』59巻2号 日本第四紀学会 pp.43-61
- 森 勇一・上田基子 2005「三の丸遺跡の埋積の埋土より産出した双翅目のサナギについて」『名古屋城三の丸遺跡Ⅵ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第127集 愛知県埋蔵文化財センター pp.242-246
- 安永智秀・高井幹夫ほか 1993「日本原色カメムシ図鑑」全国農村教育協会
- 安富和男・梅谷敏二 1983「衛生害虫と衣食住の害虫」全国農村教育協会
- 山内明美 2003「宮床宮職人を訪ねて」『別冊東北学』Vol.6 東北芸術工科大学東北文化研究センター pp.81-88
- 山上雅弘・岡田卓一ほか 2006「伊丹市所在岡城跡・伊丹郷町Ⅱー主要地方道伊丹停車場側舗装修繕工事に伴う発掘調査報告書」兵庫県文化財調査報告第301冊 兵庫県教育委員会
- 山崎孝盛 2005「古墳時代の井戸祭祀に関する一考察ー奈良県の井戸を題材としてー」『岡山大学大学院文化科学研究科紀要』第20号 岡山大学大学院文化科学研究科 pp.71-87
- 山本悦世 1991「附編 岡大構内遺跡出土の自然遺物についてー井戸出土の種子を中心にー」『岡山大学構内遺跡調査研究年報』8 1990年度 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター pp.45-57
- 山本典幸・太田和樹ほか 2008「東京都新宿区新宿四丁目遺跡（仮称）新宿四丁目プロジェクトに伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」ティーケートレード株式会社埋蔵文化財事業部
- 渡辺弘之 2011「土のなかの奇妙な生きもの」築地書館

RESEARCH REPORTS
IN ARCHAEOLOGY ON THE CAMPUS OF TOHOKU UNIVERSITY
No.8 MARCH 2020

The Archaeological Research office
On the Campus, Tohoku University
2-1-1, Katahira, Aoba-ku Sendai-shi, Miyagi,
980-8577, JAPAN

Summary

On the campus of Tohoku University a lot of archaeological sites are known. Among them, Sendai Castle is the most famous and largest one. Almost all of the south part of Kawauchi campus is located on its secondary citadel area. The north part of Kawauchi campus is located on the sites of samurai residences.

In Japan, if existing circumstances need to be changed in the known site area, excavation research on the buried cultural properties must be carried out. The Office mainly carries out salvage excavations of archaeological sites on campus.

This report discusses the research results of salvage excavations of BK14 (Loc.14 of samurai residences located at the side of north outer moat of Ninomaru, i.e. Secondary Citadel of Sendai Castle), located on the Kawauchi campus, conducted by the Archaeological Research Office in 2011 and 2015. This report is a study about its archaeological remains and the conclusion of BK14.

As the result of the excavation, a lot of structural remains were found, for example ponds, ditches, colonnades, and buildings. These remains are dated from the 17th to the 19th century (Edo period in Japan). However, there are not many structural remains and layers where an abundance of archaeological remains have been found. In particular, archaeological remains, such as ceramics, unglazed ceramics and old coins dated the first half of the 17th century (the early Edo period) are few, and consist of small pieces in most cases.

Exceptionally, more archaeological remains have been excavated from No.2 and No.4 ponds and No.6 well than from others. From No.4 pond, a slightly greater number of ceramics from the late 17th century, some metal implements and wooden implements have been excavated. From No.2 pond, a great number of ceramics and wooden implements from the end of the 17th century to the early 18th century have been found. In addition, two wooden tablets have also been found on which "Syotoku the third" has been written in Japanese ink. "Syotoku the third" is the era name referring to the year 1713. Thereby, the discovery of these wooden writing tablets has confirmed the age of the remains from No.2 pond. In No.6 well, a pile of ceramics, lacquer ware and wooden implements from the late Tokugawa period (19th century), has been found. It is apparent that these remains from No.6 well were disposed of after Meiji restoration. The samurai residence in this area was destroyed and the area was later used as an army site.

In the category of special remains, many fish and animal bones, shells, plant seeds, and insect remains from that time have been excavated from No.2 pond and No.6 well. The fauna and flora data indicates the environment of this area during the Edo period. In consulting maps from the Edo period, it is possible to identify the location of the excavation area on the old maps.

写 真 图 版



图版 1 3号建物(Ⅰ期)出土遺物
PL.1 Various artifacts from No.3 building at Phase I

W1 S=1:4
CT1 S=1:3



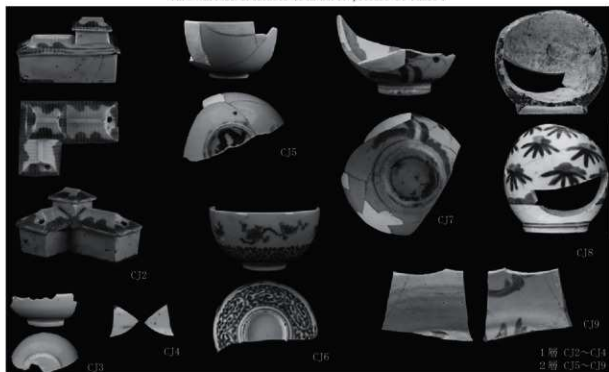
图版 2 5号柱列・8号柱列(Ⅰ期)出土遺物
PL.2 Various artifacts from No.5・No.8 pillars at Phase I

S=1:3



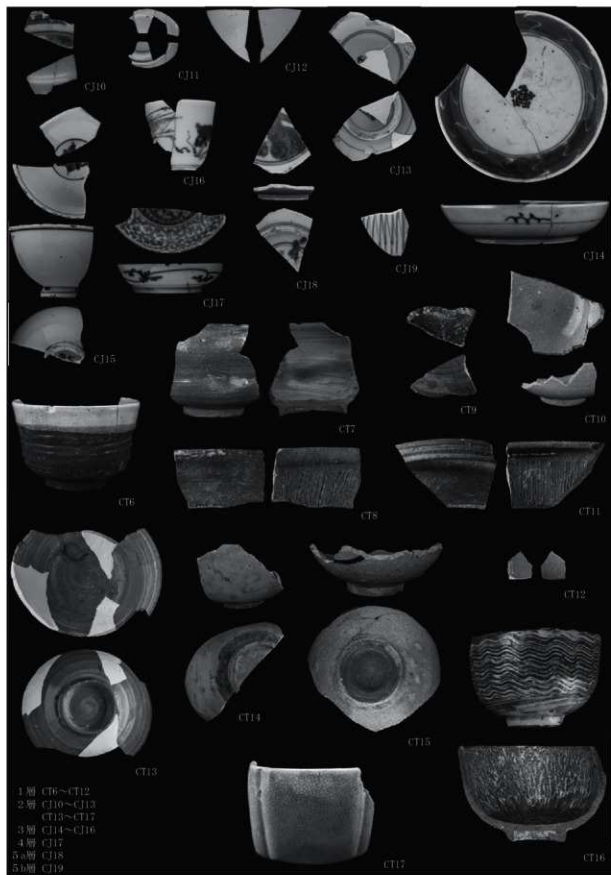
图版 3 10号柱列(Ⅰ期)出土遺物
PL.3 Various artifacts from No.10 pillars at Phase I

S=1:3



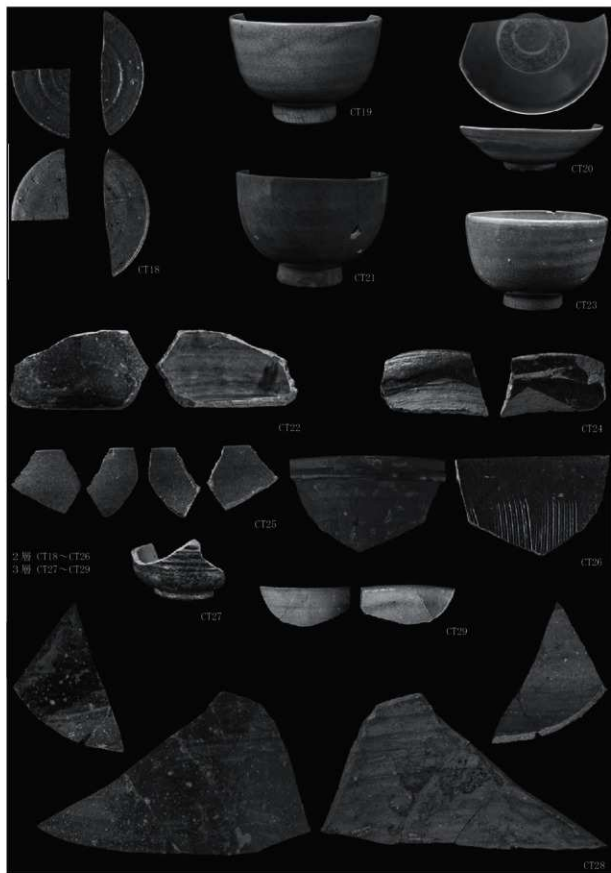
图版 4 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(1)
PL.4 Various artifacts from No.2 pond at Phase I (1)

S=1:3

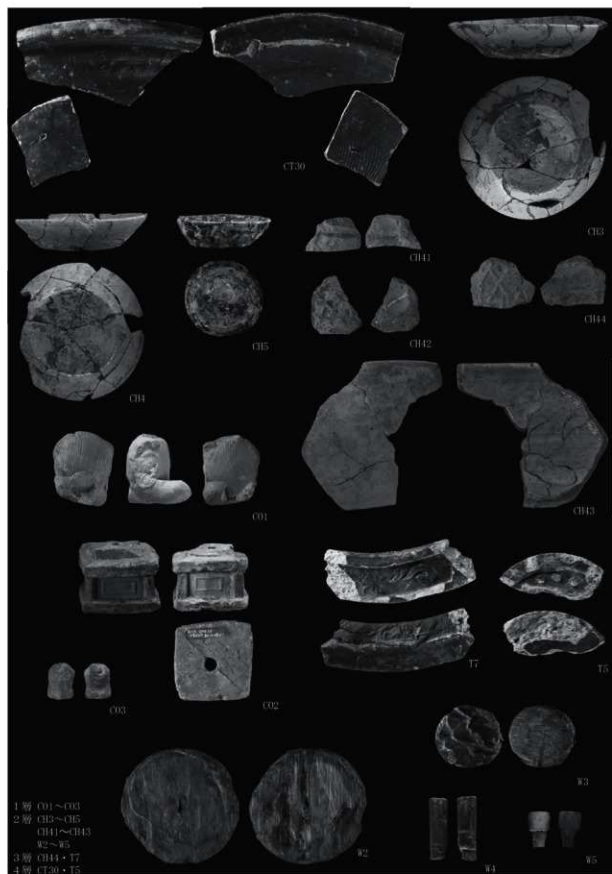


図版5 2号池状遺構(1期)出土遺物(2)
 PL.5 Various artifacts from No.2 pond at Phase I (2)

S=1:3



図版6 2号池状遺構(1期)出土遺物(3)
PL.6 Various artifacts from No. 2 pond at Phase I (3)



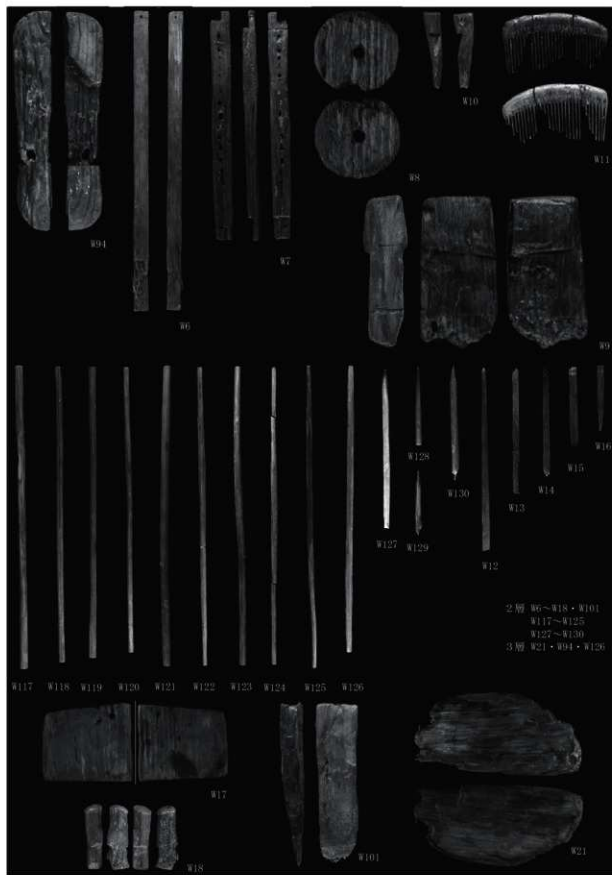
図版7 2号池状遺構(1期)出土遺物(4)
 PL.7 Various artifacts from No. 2 pond at Phase I (4)

CO1~CO3 S=2:3
 T5・T7 S=1:4
 それ以外 S=1:3



图版 8 2号池状道槽(1期)出土遗物(5)
 PL. 8 Various artifacts from No. 2 pond at Phase I (5)

S=1:4



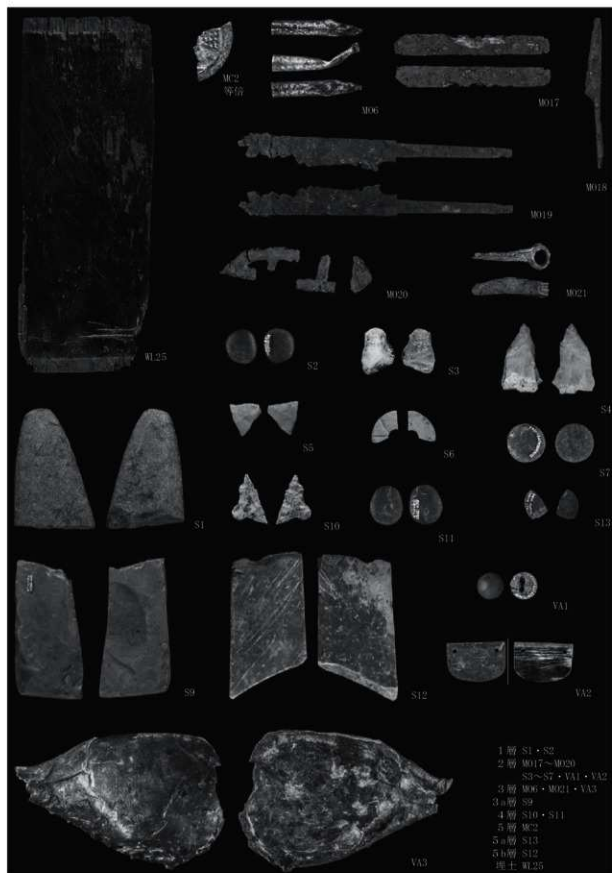
图版9 2号池状遺構(1期)出土遺物(6)
PL.9 Various artifacts from No.2 pond at Phase I (6)

S=1:3



圖版10 2号池状遺構(1期)出土遺物(7)
 PL.10 Various artifacts from No. 2 pond at Phase I (7)

W19 S=4:5
 WT1~WT4 S=1:2
 其他以外 S=1:3



図版11 2号池状遺構(1期)出土遺物(8)
 PL.11 Various artifacts from No. 2 pond at Phase I (8)

1層 S1・S2
 2層 M07～M020
 S3～S7・VA1・VA2
 3層 M06・M021・VA3
 3a層 S9
 4層 S10・S11
 5層 MC2
 5a層 S13
 5b層 S12
 埋土 W25

VA1～VA3 S=2:3

W25 S=1:3

それ以外 S=1:2



図版12 2号池状遺構(1期)から検出された箕(9)
Pl. 12 A winnowing basket from No. 2 pond at Phase I (9)

S=1:5



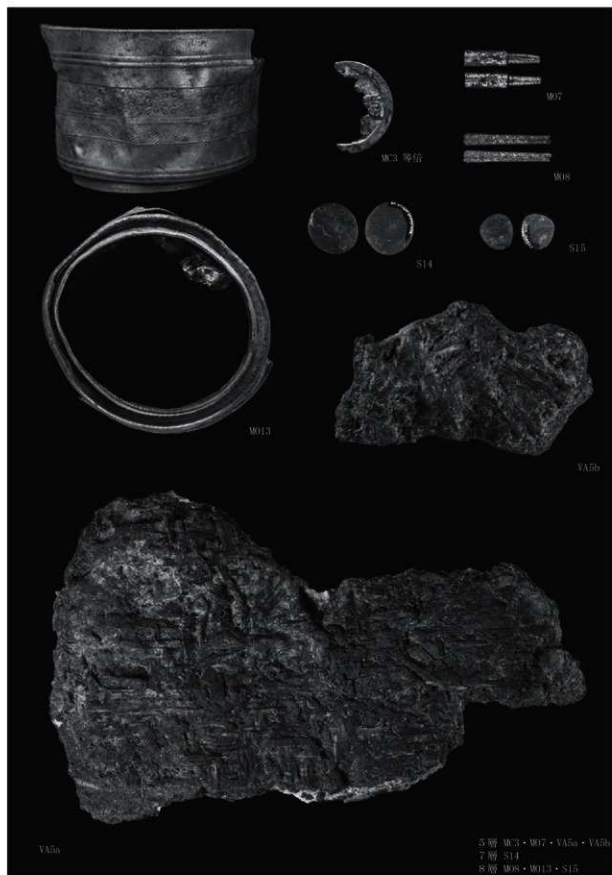
图版13 4号池状遺構(1期)出土遺物(1)
 PL.13 Various artifacts from No.4 pond at Phase I (1)

S=1:3



図版14 4号池状遺構(1期)出土遺物(2)
 PL.14 Various artifacts from No. 4 pond at Phase I (2)

瓦・鉄製品 S=1:2
 それ以外 S=1:3



図版15 4号池状遺構(1期)出土遺物(3)
 PL.15 Various artifacts from No. 4 pond at Phase I (3)

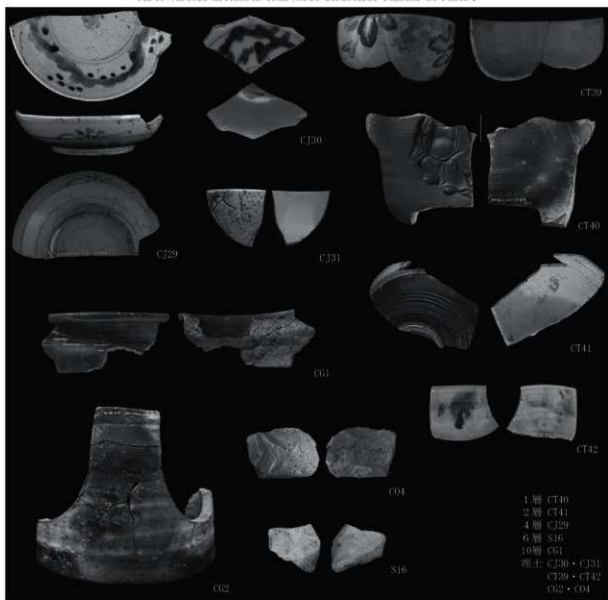
5層 MC3・M07・VA5a・VA5b
 7層 S14
 8層 M08・M013・S15
 VA5a S=2:5
 VA5b S=1:3
 それ以外 S=1:2



図版16 10号遺構(1期)出土遺物

PL. 16 Various artifacts from No. 10 structural remains at Phase I

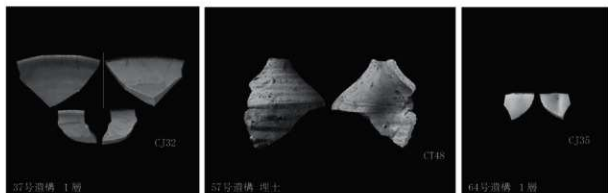
S=1:3



図版17 12号遺構(1期)出土遺物

PL. 17 Various artifacts from No. 12 structural remains at Phase I

S16 S=1:2
それ以外 S=1:3



图版18 37号遺構・57号遺構・64号遺構（1期）出土遺物
 PL. 18 Various artifacts from No. 37・57・64 structural remains at Phase I

S=1:3

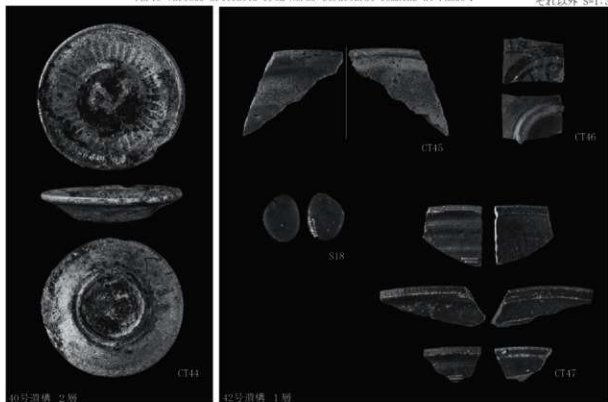


图版19 39号遺構（1期）出土遺物
 PL. 19 Various artifacts from No. 39 structural remains at Phase I

C05 S=2:3

S17 S=1:2

それ以外 S=1:3



图版20 40号遺構・42号遺構（1期）出土遺物
 PL. 20 Various artifacts from No. 40・42 structural remains at Phase I

S18 S=1:2

それ以外 S=1:3



图版21 3号溝(1期)出土遺物(1)
 Pl. 21 Various artifacts from No. 3 ditch at Phase I

S=1:3



図版22 3号溝(1期)出土遺物(2)
PL. 22 Various artifacts from No. 3 ditch at Phase I

2層 CT54・C06・S19
埋土 CH12

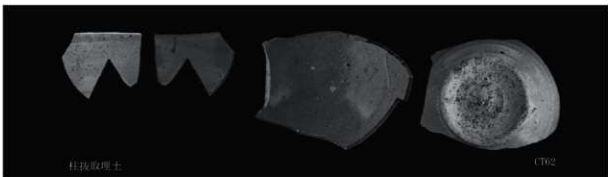
D06 S=2:3
S19 S=1:2
それ以外 S=1:3



図版23 5号井戸(1期)出土遺物
PL. 23 Various artifacts from No. 5 well at Phase I

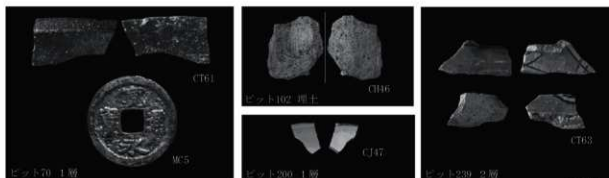
3層(掘方) CJ43
4層(掘方) CJ44・CT56・CT57
1層 CT58
埋土 CJ45・CJ46
CT59・CT60・W95

W95 S=1:4
それ以外 S=1:3



図版24 ビット205(1期)出土遺物
PL. 24 Various artifacts from No. 205 pit at Phase I

S=1:3



図版25 ビット70・ビット102・ビット200・ビット239(I期) 出土遺物
PL. 25 Various artifacts from No. 70・102・200・239 pit at Phase I

MC5 等倍
それ以外 S=1:3



図版26 ビット245・ビット250・杭57(I期) 出土遺物
PL. 26 Various artifacts from No. 245・250 pit and No. 57 pile at Phase I

S=1:3



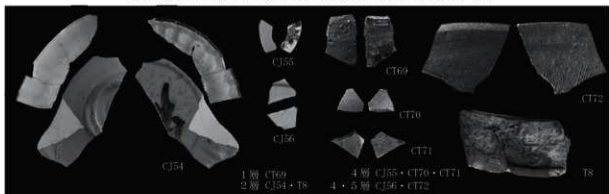
図版27 ビット15・ビット77・ビット165・ビット188(I~IIa期) 出土遺物
PL. 27 Various artifacts from No. 15・77・165・188 pit at Phase I-IIa

S=1:3



図版28 15号遺構(I~IIb期) 出土遺物
PL. 28 Various artifacts from No. 15 structural remains at Phase I-IIb

CT67 S=1:4
それ以外 S=1:3



図版29 16号遺構(I~IIb期) 出土遺物
PL. 29 Various artifacts from No. 16 structural remains at Phase I-IIb

T8 S=1:4
それ以外 S=1:3



図版30 26号遺構 (I~IIb期) 出土遺物
PL. 30 Various artifacts from No. 26 structural remains at Phase I-IIb

S=1:3



図版31 35号遺構・74号遺構 (I~IIb期) 出土遺物
PL. 31 Various artifacts from No. 35・74 structural remains at Phase I-IIb

S=1:3



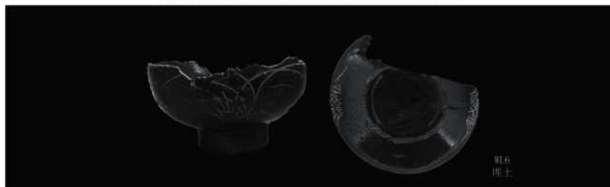
図版32 ピット38・ピット225・ピット240・ピット260・ピット279 (I~IIb期) 出土遺物
PL. 32 Various artifacts from No. 38・225・240・260・279 pit at Phase I-IIb

S=1:3



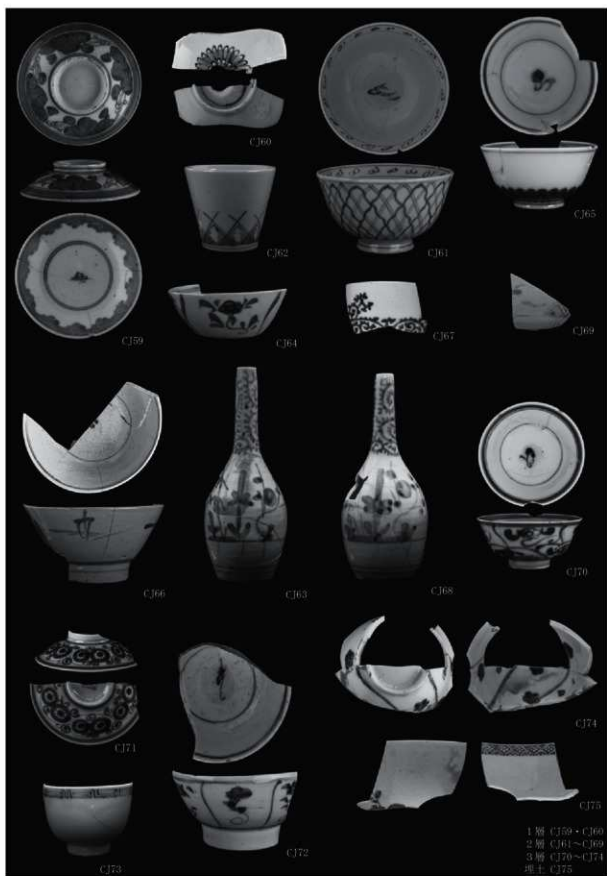
図版33 5号建物 (I~III期) 出土遺物
PL. 33 Various artifacts from No. 5 building at Phase I-III

古銭等倍
CT81 S=1:3



図版34 7号遺構 (I~III期) 出土遺物
PL. 34 Various artifacts from No. 7 structural remains at Phase I-III

S=1:3



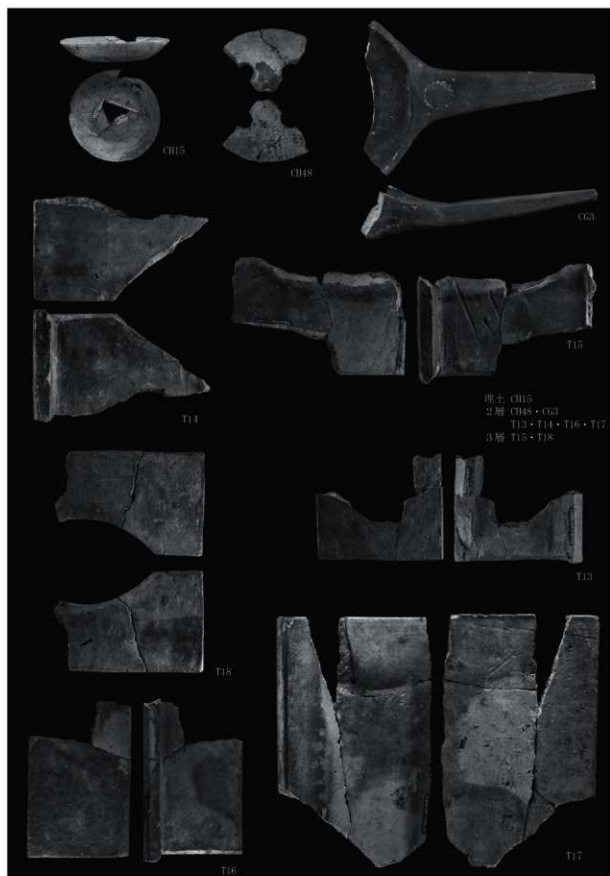
图版35 1号井尹(I~Ⅲ期)出土遗物(1)
 Pl. 35 Various artifacts from No. 1 well at Phase I-III(1)

S=1:3



图版36 1号井尹(I~Ⅲ期)出土遗物(2)
 PL. 36 Various artifacts from No. 1 well at Phase I-III (2)

S=1:3



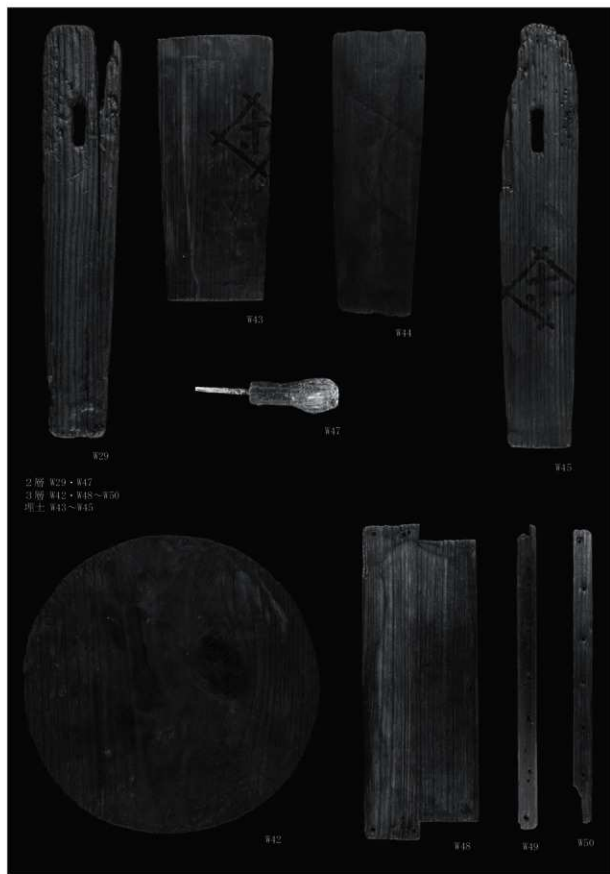
图版37 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(3)
 Pl. 37 Various artifacts from No. 1 well at Phase I-III (3)

CH15・CH8・CG3 S=1:3
 凡 S=1:5



圖版38 1号井戸(Ⅰ~Ⅲ期)出土遺物(4)
Pl. 38 Various artifacts from No. 1 well at Phase I-III (4)

S=1:3



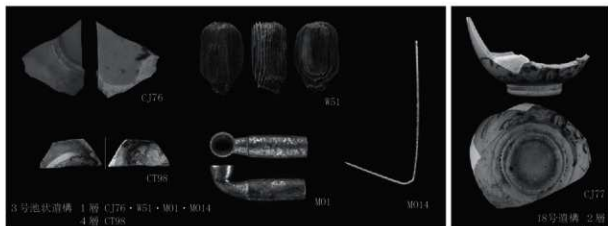
图版39 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(5)
 Pl. 39 Various artifacts from No. 1 well at Phaso I-III (5)

S=1:3



図版40 1号井戸(6)・ビット224(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物
 Pl. 40 Various artifacts from No. 1 well and No. 224 pit at Phase I-III

S21 S=1:2
 W46 S=1:4
 それ以外 S=1:3



3号池状遺構 1層 C176・K51・M01・M014
4層 CT98

18号遺構 2層

M01 S=1:2
それ以外 S=1:3

図版41 3号池状遺構・18号遺構(Ⅱa期)出土遺物

PL.41 Various artifacts from No. 3 pond and No. 18 structural remains at Phase IIa



1層 C181・CT101・CH9・CH50・S24 2層 C180・C182・C07・C08
1a層 C178・C179・CT99・S22 埋土 CH6
1b層 CT100・S23

S23

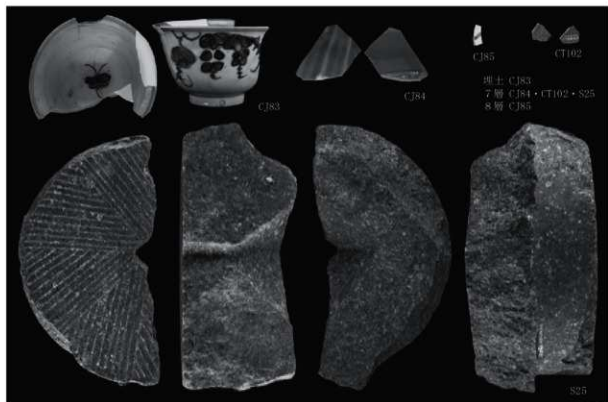
図版42 5号溝(Ⅱa期)出土遺物

PL.42 Various artifacts from No. 5 ditch at Phase IIa

C07・C08 S=2:3

S22~S24 S=1:2

それ以外 S=1:3



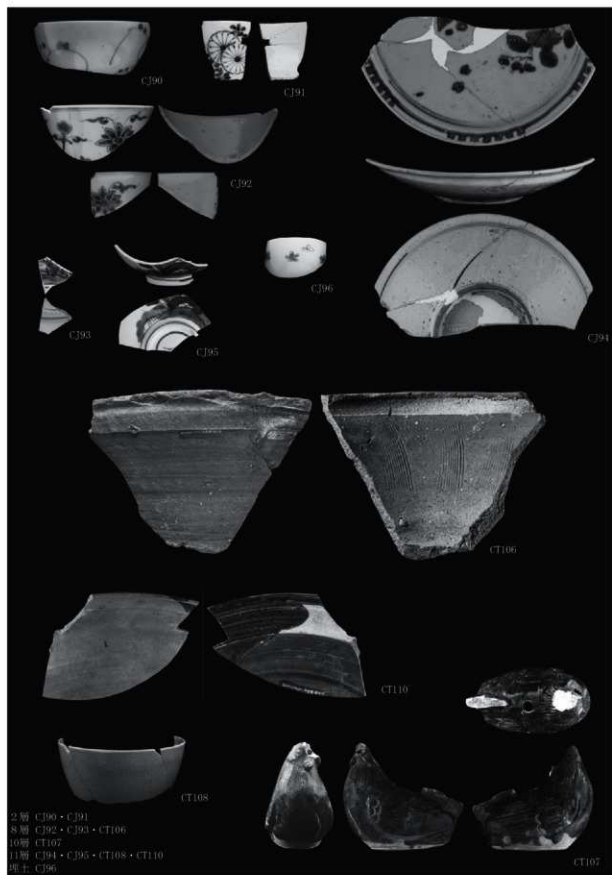
图版43 9号遺構(Ⅱa~Ⅱb期)出土遺物
PL. 43 Various artifacts from No. 9 structural remains at Phase IIa-IIb

S=1:3

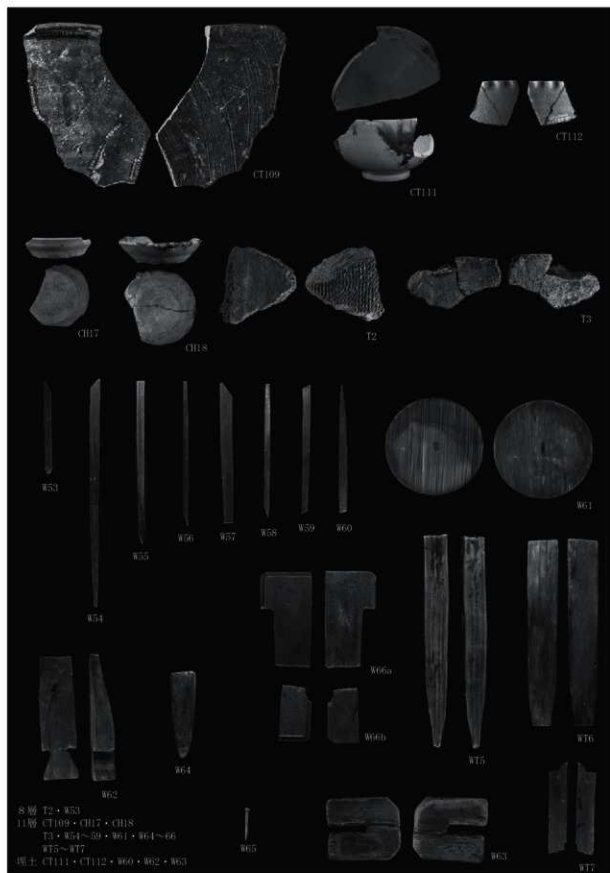


图版44 69号遺構・2号井戸(Ⅱa~Ⅱb期)出土遺物
PL. 44 Various artifacts from No. 69 structural remains and No. 2 well at Phase IIa-IIb

金属・石器 S=1:2
それ以外 S=1:3



图版45 6号井戸(Ⅱa~Ⅱb期)出土遺物(1)
 Pl. 45 Various artifacts from No. 6 well at PhaseⅡa~Ⅱb(1)



図版46 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(2)
 PL.46 Various artifacts from No.6 well at PhaseⅡa-Ⅱb(2)

凡 S¹:4
 それ以外 S¹:3



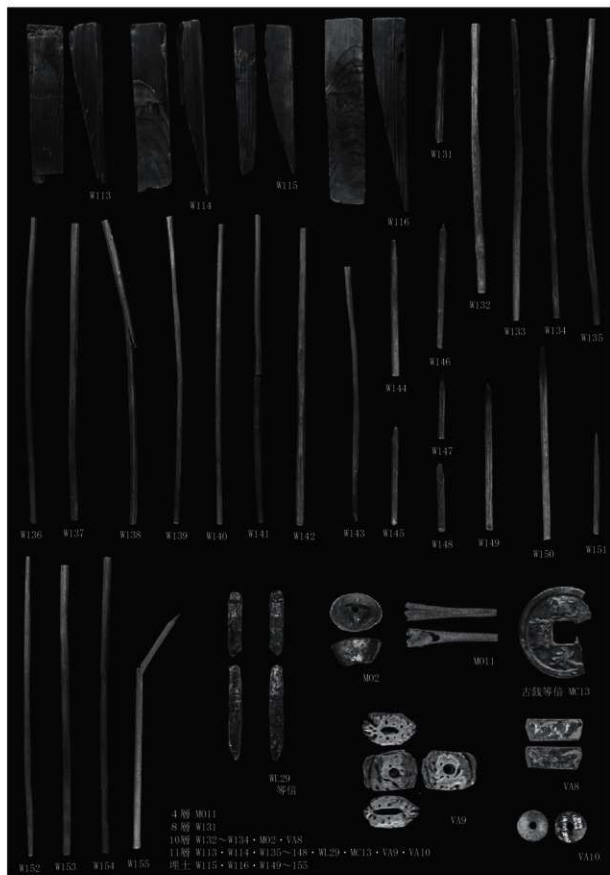
图版47 6号井戸(Ⅱa~Ⅱb期)出土遺物(3)
 PL.47 Various artifacts from No.6 well at PhaseⅡa-Ⅱb(3)



図版48 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(4)
 PL.48 Various artifacts from No.6 well at PhaseⅡa-Ⅱb(4)

W102～112 S=1:3

W96～100 S=1:4



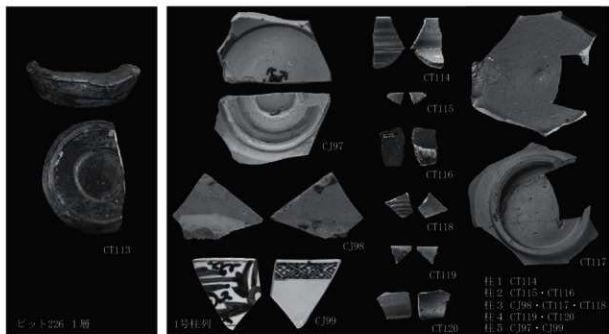
图版49 6号井戸(Ⅱa~Ⅱb期)出土遺物(5)
 PL. 49 Various artifacts from No. 6 well at PhaseⅡa-Ⅱb(5)

V08~VA10 S=2:3
 M02 S=1:2
 其他以外 S=1:3



図版50 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(6)
 PL.50 Various artifacts from No.6 well at PhaseⅡa-Ⅱb(6)

WL17～21 S=1:3
 それ以外 S=1:2



図版51 ビット226(Ⅱa～Ⅱb期)・1号柱列(Ⅱb期)出土遺物
 PL.51 Various artifacts from No.226 pit at PhaseⅡa-Ⅱb and No.1 pillars at PhaseⅡb

S=1:3



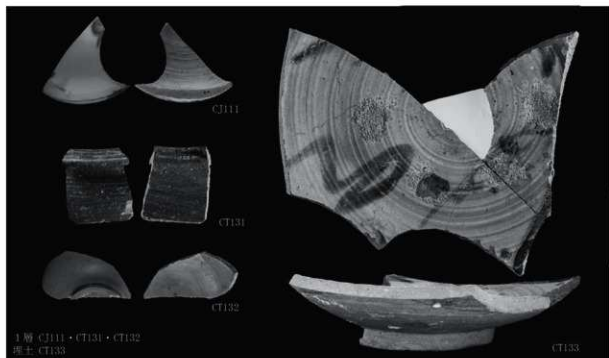
図版52 2号柱列・1号池状遺構(Ⅱb期)出土遺物
 Pl. 52 Various artifacts from No. 2 pillars and No. 1 pond at Phase IIb

古銭等位
 S32 S=1:2
 それ以外 S=1:3



図版53 4号遺構(Ⅱb期)出土遺物
PL. 53 Various artifacts from No. 4 structural remains at Phase IIb

S=1:3



図版54 13号遺構(Ⅱb期)出土遺物
PL. 54 Various artifacts from No. 13 structural remains at Phase IIb

S=1:3



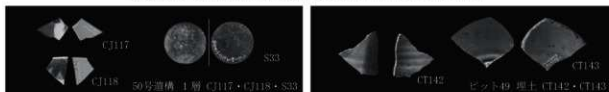
図版55 ビット151・ビット156(Ⅱb期)・5号遺構(Ⅱb~Ⅲ期)出土遺物
PL. 55 Various artifacts from No. 151-156 pit at Phase IIb and No. 5 structural remains at Phase IIb-III

S=1:3



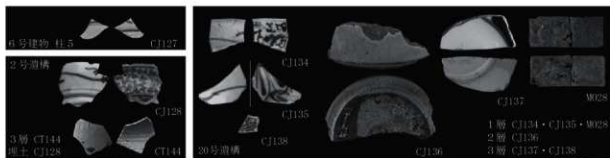
図版56 65号遺構（Ⅱb～Ⅲ期）出土遺物
 Pl. 56 Various artifacts from No. 65 structural remains at Phase IIb-III

W027 S=1:2
 それ以外 S=1:3

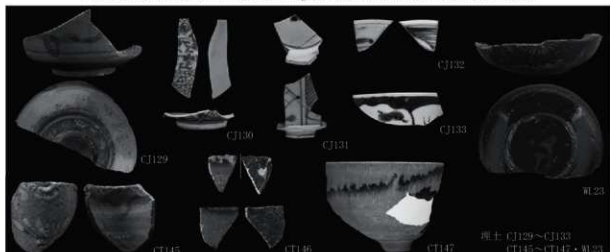


図版57 50号遺構・ピット49（Ⅱb～Ⅲ期）出土遺物
 Pl. 57 Various artifacts from No. 50 structural remains and No. 49 pit at Phase IIb-III

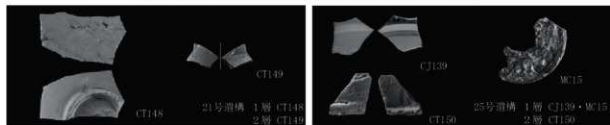
基石 S=1:2
 それ以外 S=1:3



図版58 6号建物・2号遺構・20号遺構(Ⅲ期)出土遺物 M028 S=1:2
それ以外 S=1:3
PL. 58 Various artifacts from No. 6 building and No. 2 + 20 structural remains at Phase III



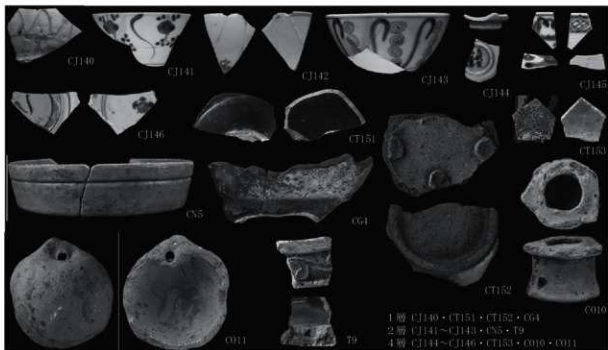
図版59 14号遺構(Ⅲ期)出土遺物 S=1:3
PL. 59 Various artifacts from No. 14 structural remains at Phase III



図版60 21号遺構・25号遺構(Ⅲ期)出土遺物 M015 S=1:2
それ以外 S=1:3
PL. 60 Various artifacts from No. 21 + 25 structural remains at Phase III

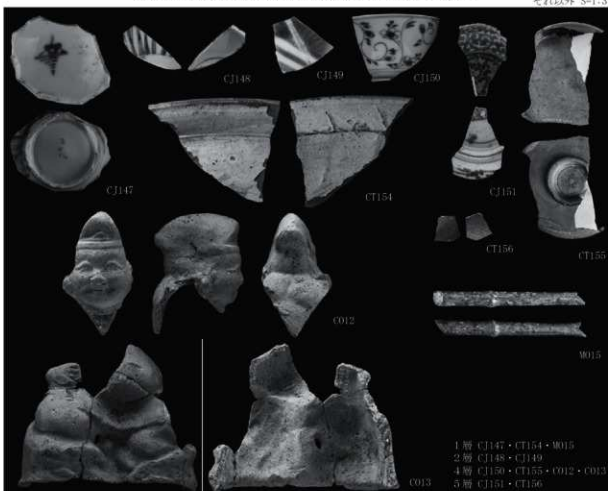


図版61 48号遺構(Ⅲ期)出土遺物 M012・S8 S=1:2
それ以外 S=1:3
PL. 61 Various artifacts from No. 48 structural remains at Phase III



図版62 30号遺構(Ⅲ期)出土遺物
PL. 62 Various artifacts from No. 30 structural remains at Phase III

C010・C011 S=2:3
T9 S=1:4
それ以外 S=1:3



図版63 31号遺構(Ⅲ期)出土遺物
PL. 63 Various artifacts from No. 31 structural remains at Phase III

C012・C013 S=2:3
W015 S=1:2
それ以外 S=1:3



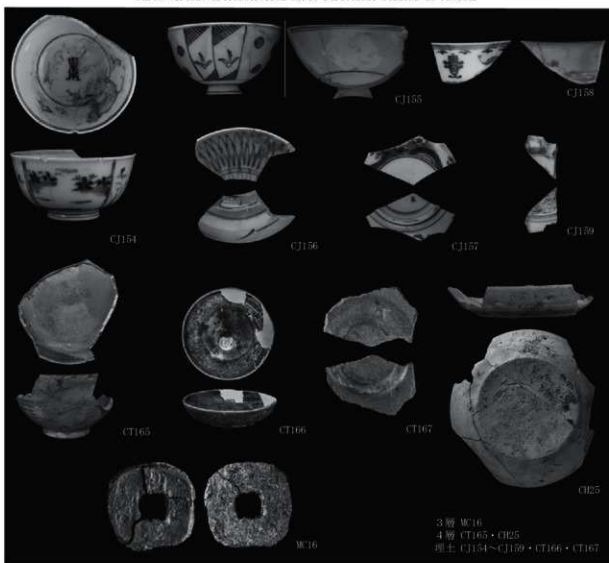
图版64 51号遺構(Ⅲ期)出土遺物
PL. 64 Various artifacts from No. 51 structural remains at Phase III

S=1:3



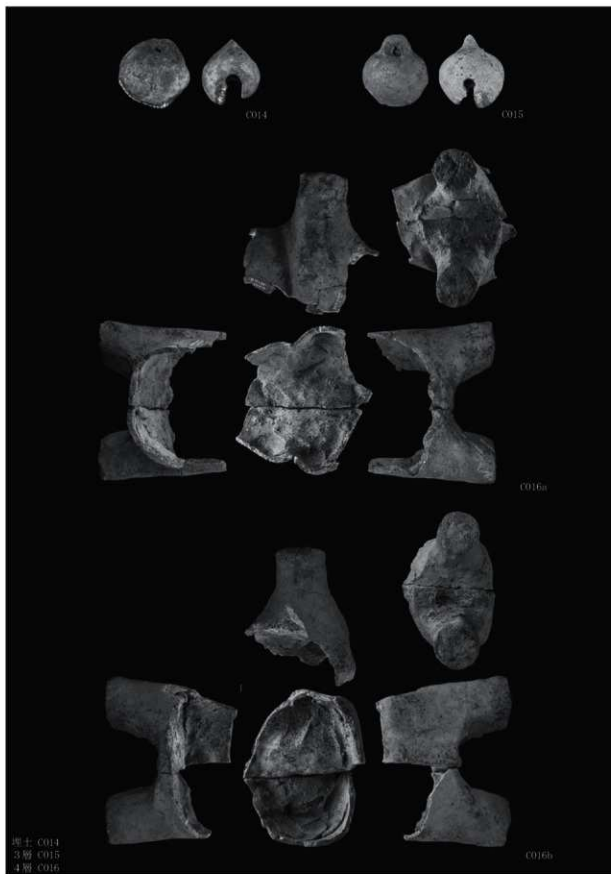
图版65 63号遺構(Ⅲ期)出土遺物
PL. 65 Various artifacts from No. 63 structural remains at Phase III

S=1:3



图版66 66号遺構(Ⅲ期)出土遺物(1)
PL. 66 Various artifacts from No. 66 structural remains at Phase III (1)

古銭等倍
それ以外 S=1:3

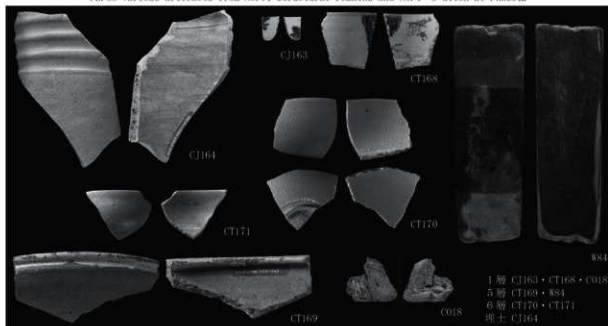


图版67 66号遺構(Ⅲ期)出土遺物(2)
 PL. 67 Various artifacts from No. 66 structural remains at Phase III (2)

C014・C015 S=2:3
 C016 S=1:3



図版68 71号遺構・4号溝・6号溝(Ⅲ期)出土遺物
 PL. 68 Various artifacts from No. 71 structural remains and No. 4・6 ditch at Phase III
 C017 S=2:3
 それ以外 S=1:3



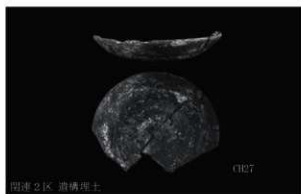
図版69 4号井戸(Ⅲ期)出土遺物
 PL. 69 Various artifacts from No. 4 well at Phase III
 C018 S=2:3
 それ以外 S=1:3



図版70 ビット136・ビット152・ビット177(Ⅲ期)出土遺物
 PL. 70 Various artifacts from No. 136・152・177 pit at Phase III
 S=1:3



図版71 ビット280・ビット292(Ⅲ期)出土遺物
 PL. 71 Various artifacts from No. 280・292 pit at Phase III
 S34 S=1:2
 それ以外 S=1:3



閩連2区 渣構磚土

CT17



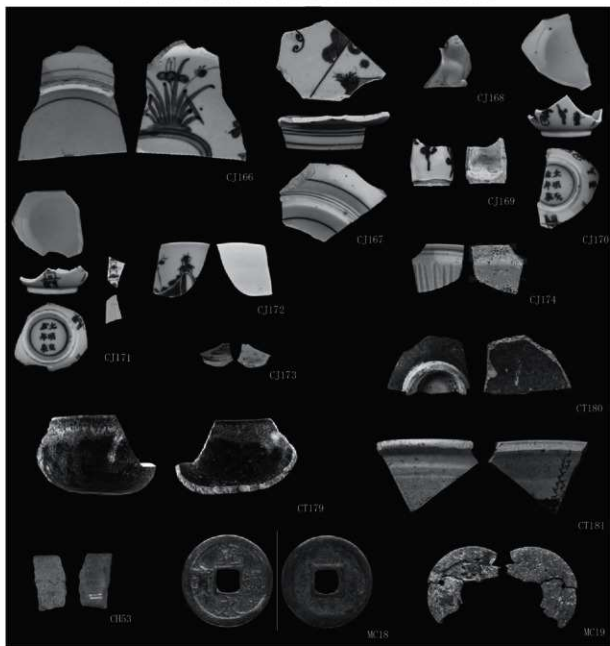
閩連4区 渣構4層

CT178

图版72 閩連2区・4区出土遺物

S=1:3

PL.72 Various artifacts from the second and the fourth construction area

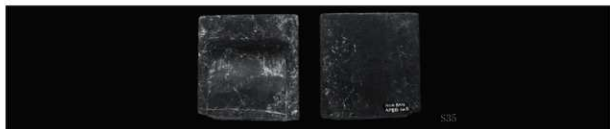


图版73 2a-2層出土遺物

PL.73 Various artifacts from layer2a-2

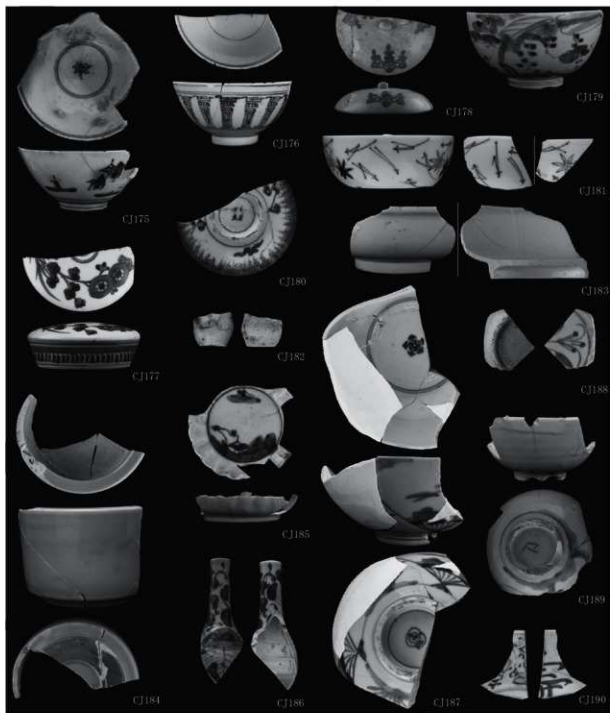
古銭等位

それ以外 S=1:3



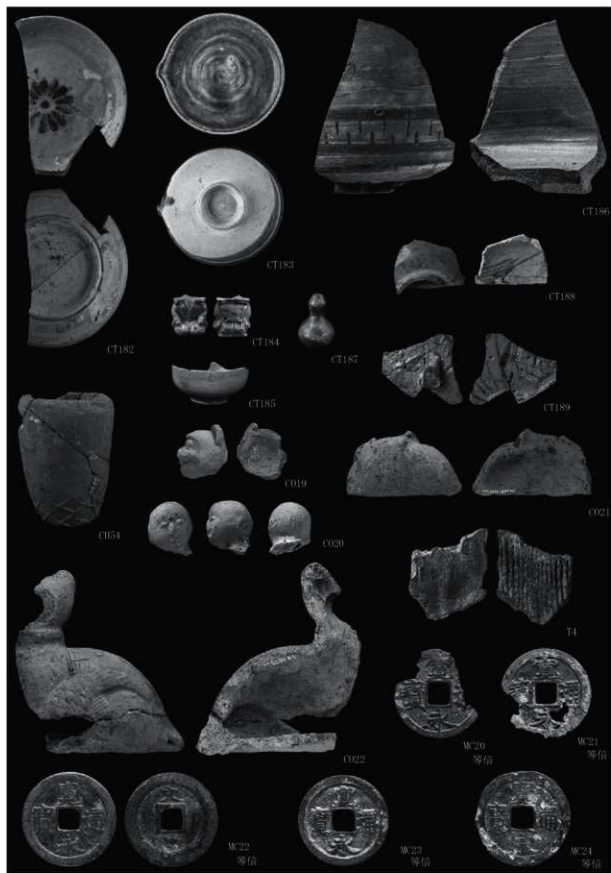
图版74 2b层出土遗物
Pl. 74 Various artifacts from layer 2b

S=1:2



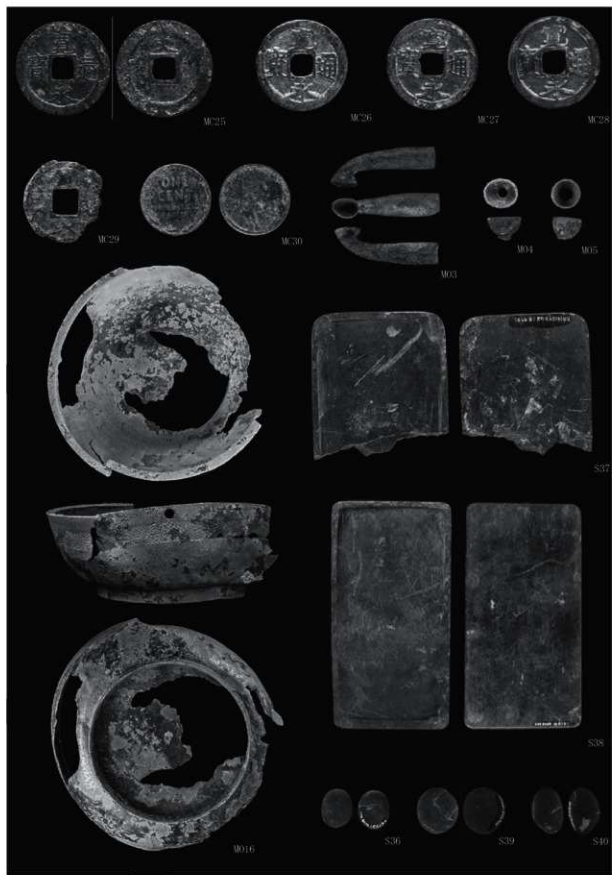
图版75 1层出土遗物(1)
Pl. 75 Various artifacts from layer 1(I)

S=1:3



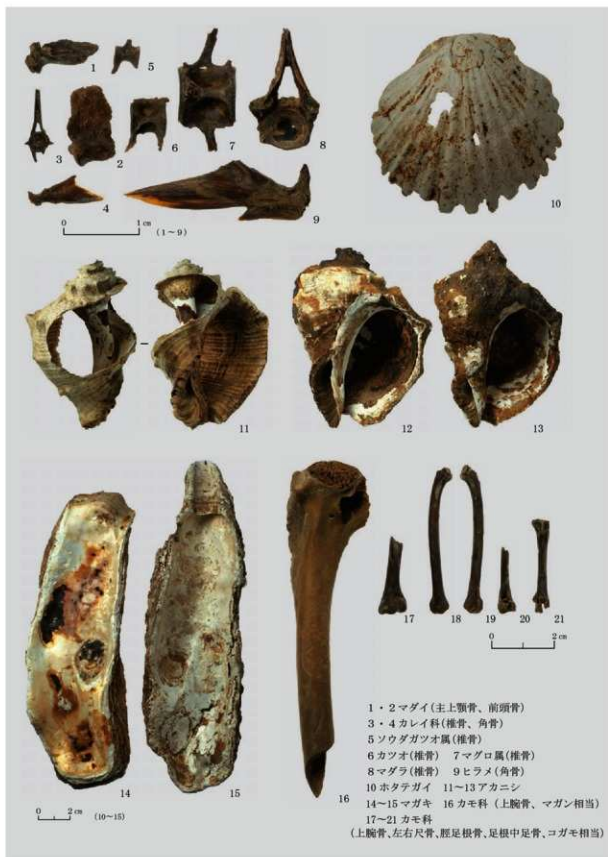
図版76 1層出土遺物(2)
 Pl. 76 Various artifacts from layer1(2)

CO22 S=2:3
 T4 S=1:4
 それ以外 S=1:3



圖版77 1層出土遺物(3)
 Pl. 77 Various artifacts from layer1(3)

古錢等倍
 それ以外 S=1:2



図版78 動物遺存体(1)
 PL. 78 Animal remains(1)

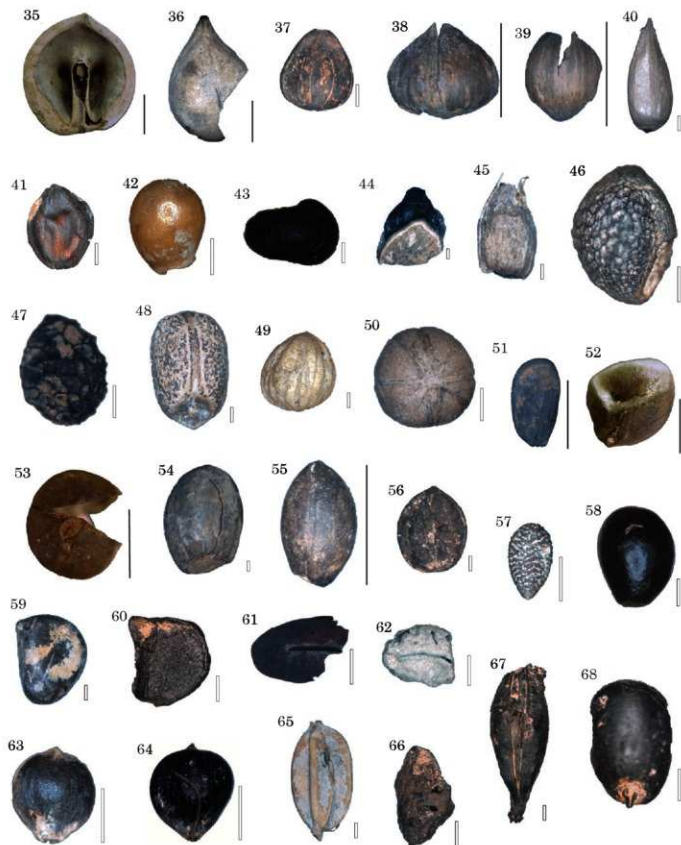


図版79 動物遺存体(2)
 Pl. 79 Animal remains(2)



1. モミ属, 種鱗 2. モミ属, 種子 3. モミ属, 葉 4. クロマツ, 球果 5. マツ属複維管束亜属, 雄花 6. マツ属複維管束亜属, 種子 (1号井戸埋土2) 7. マツ属複維管束亜属, 葉 8. スギ, 球果 9. スギ, 種子 10. サワラ, 球果 11. サワラ, 小枝 12. サワラ, 種子 13. アスナロ属, 小枝 14. カヤ, 種子 15. ヤマブドウ, 種子 (6号井戸埋土10) 16. ブドウ, 種子 (6号井戸埋土10) 17. ブドウ属, 種子 18. ノブドウ, 種子 19. フジ, さや 20. ハギ属, 種子 (4号池埋土5) 21. カマツカ近似種, 果実 22. カマツカ近似種, 核 23. モモ, 核食痕 24. ウメ, 核 25. アンズ, 核 (2号池埋土2a-2b) 26. スモモ, 核 27. サクラ属サクラ属, 核 28. ケヤキ, 果実 29. エノキ, 内果皮 30. ヒメコウゾ, 内果皮 31. クワ属, 種子 (4号池埋土2) 32. クリ, 果皮破片 33. コナラ, 果実 34. ミズナラ, 幼果 (6号井戸埋土8) 表示以外は6号井戸11層出土,スケールは実際が1cm,白抜き線が1mm

図版80 大型植物遺体 (1)
Pl. 80 Plant macrofossils (1)



35. オニグルミ、内果皮半分断面 36. ヒメグルミ、内果皮半分断面(1号井戸埋土2) 37. イヌシズ、果実 38. ハシバミ、果皮破片(4号池埋土2) 39. ツノハンバミ、果皮破片 40. アサダ、果実 41. ハシノキ、果実(1号井戸埋土2) 42. ミツバウツバ、種子 43. ウルシ属、炭化内果皮 44. リュウカン、種子破片 45. カエデ属、果実 46. サンショウ、内果皮 47. カラスザンショウ、内果皮(2号池埋土3a) 48. ニガキ、種子(2号池埋土8) 49. ミズキ、内果皮 50. クマノミズキ、内果皮 51. カキノキ属、種子 52. ヤブツバキ、種子 53. チャノキ、種子(2号池埋土2a・2b) 54. エゴノキ、内果皮 55. ハクワンボク、内果皮(4号池埋土6) 56. ガマズミ属、内果皮 57. ニワトコ、内果皮 58. コウホネ、種子(6号井戸埋土8) 59. サルトリイバラ近似種、種子 60. アヤメ属、種子 61. イボクサ、種子(4号池埋土2) 62. ツユクサ、種子 63. スズガ属、果実(2号池埋土4) 64. ホタルイ属、果実 65. イネ、穎 66. イネ、炭化胚乳残部 67. オオムギ、炭化種子 68. コムギ、炭化種子(4号池埋土2)
表示以外は6号井戸11層出土、スケールは実線が1cm、白抜き線が1mm

図版81 大型植物遺体(2)
Pl. 81 Plant macrofossils (2)



69. アオツツラフジ、種子 70. ササグ属、炭化種子 71. ダイズ属、炭化種子 72. カタバミ、種子(2号池埋土2a・2b) 73. アサ、種子(2号井戸埋土3) 74. カナムグラ、種子 75. カラハナソウ、種子 76. ヒョウタン属、種子(4号池埋土2) 77. キュウリ属メロン仲間、種子 78. カボチャ、種子 79. スズメウリ、種子 80. エノキグサ、種子(2号池埋土5a) 81. ヤナギタデ、果実 82. ハナタデ近似種、果実(2号池埋土2a・2b) 83. サクラタデ、果実(2号池2a・2b) 84. オオケタデ、果実 85. サナエタデまたはオオイヌタデ、果実(2号池埋土2a・2b) 86. イシミカワ、果実(4号池埋土2) 87. キシギシ属、果実 88. ソバ、果実 89. ミドリハコベ近似種、種子(2号池埋土2a・2b) 90. ヒユ属、種子(2号池埋土2a・2b) 91. ヒユ属、潰れ種子(2号池埋土2a・2b) 92. ザクロソウ、種子(2号池埋土2a・2b) 93. ヤマゴボウ、種子 94. アカネ属、種子(4号池埋土2) 95. ナス属、種子 96. トウガラシ属、種子 97. シソ属、果実(2号池埋土5a) 98. イヌコウジュ属、果実(4号池埋土5) 99. セリ属、果実 100. 不明、刺状突起(1号井戸埋土3) 表示以外は26号井戸11層出土、スケールは実線が1cm、白抜き線が1mm

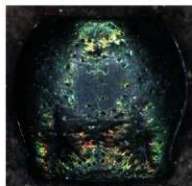
図版82 大型植物遺体(3)
Pl. 82 Plant macrofossils (3)



1. アオゴミムシ
Chaenius pullipes Gebler
前胸背板 幅 4.1mm (試料1 標本1)



2. キンナガゴミムシ
Pterostichus planicollis (Motschulsky)
前胸背板 幅 4.0mm (試料1 標本7)



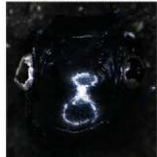
3. コキハリアオゴミムシ
Chaenius circumdatus Brulle
前胸背板 幅 3.2mm (試料4 標本1)



4. コアオマルガタゴミムシ
Amara chalcophoea Bates
前胸背板 幅 3.8mm (試料2 標本2)



5. オオゴミムシ
Lesicus magnus (Motschulsky)
前胸背板 幅 6.1mm (試料4 標本8)



6. オオゴミムシ
Lesicus magnus (Motschulsky)
頭部 長さ 4.8mm (試料4 標本11)



7. アオゴミムシ
Chaenius pullipes Gebler
左上翅片 長さ 6.8mm (試料23 標本5)



8. マルガタゴミムシ属
Amara sp.
右上翅 長さ 5.3mm (試料1 標本3)



9. キンナガゴミムシ
Pterostichus planicollis (Motschulsky)
左上翅 長さ 7.5mm (試料7 標本1)

図版83 昆虫遺体(1)
PL.83 Insect remains (1)



1. ヒメコガネ
Anomala rufocaprea Motschulsky
頭部 長さ 2.5mm (試料6 標本2)



2. ヒメコガネ
Anomala rufocaprea Motschulsky
前胸背板片 長さ 2.4mm
(試料3 標本2)



3. ドウガネブイブイ
Chlaenius circumdatos Brulle
中腿節 長さ 4.6mm (試料4 標本19)

4. アオハナムグリ
Enicostoma ruficollis (Harold)
右上翅片 長さ 5.8mm
(試料5 標本1)



5. マツアナアキゾウムシ
Hylobius haroldi (Faust)
左上翅 長さ 7.0mm (試料5 標本13)



6. ヒメカツオブシムシ
Attagenus unicolor japonicus Reitter
右上翅片 長さ 4.0mm (試料20 標本14)



6. オオクロバエ
Calliphora lata Coq. litt
頭胸片 長さ 5.0mm
(試料4 標本33)



8. アリ科
Formicid egg 1sp. 1
頭部 長さ 1.4mm (試料23 標本15)



9. オカダンゴムシ
Armadillidium vulgare Latreille (7)
体節片 長さ 7.0mm (試料22 標本8)



1. マルエンマコガネ *Onthophagus viduus* Harold
頭部 幅 2.8mm (試料3 標本4)



2. クロマルエンマコガネ *Onthophagus ater* Waterhouse
頭部 幅 2.2mm (試料13 標本1)



3. ツヤエンマコガネ
Onthophagus nitidus Waterhouse
左上翅 長さ 4.0mm (試料17 標本1)



4. コブマルエンマコガネ
Onthophagus atripennis Waterhouse
右上翅 長さ 4.5mm (試料2 標本3)



5. クロマルエンマコガネ
Onthophagus ater Waterhouse
右上翅 長さ 3.8mm (試料12 標本11)



6. ヒメエンマムシ属
Margarinatus sp.
右上翅 長さ 3.2mm (試料8 標本3)



7. エンマムシ科
Hister cegae sp. n.
右後脚脛節 脛節の長さ 2.3mm
(試料13 標本5)



8. ハネカクシ科
Staphylinid cegae sp. n.
頭部 長さ 2.5mm (試料8 標本43)

図版85 昆虫遺体 (3)
PL. 85 Insect remains (3)



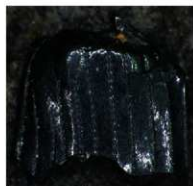
1. ヒメガムシ
Stemolophus rufipes (Fabricius)
上翅片 長さ 5.2mm (試料12 標本1)



2. セマルガムシ
Coelostoma stultum (Walker)
左上翅 長さ 4.0mm (試料11 標本10)



3. キベリヒラタガムシ
Enochrus japonicus (Sharp)
左上翅 長さ 4.0mm (試料3 標本6)



4. マグソコガネ
Aphodius rectus (Motschulsky)
右上翅上半部 長さ 2.1mm
(試料12 標本5)



5. マグソコガネ
Aphodius rectus (Motschulsky)
前胸背板 幅 2.2mm (試料20 標本13)



6. マメガムシ
Regimbaria attenuata (Fabricius)
右上翅上半部 長さ 1.3mm
(試料13 標本4)



7. マメガムシ
Regimbaria attenuata (Fabricius)
右上翅片 長さ 2.1mm (試料8 標本47)



8. ムネヒロハネカシ
Algon grandicollis Sharp
前胸背板 幅 3.0mm (試料3 標本7)

報告書抄録

ふりがな	せんだいじょうあとにのまる ほっぽうふけやしきちく だい14ちてん							
書名	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点							
副書名								
巻次								
シリーズ名	東北大学埋蔵文化財調査室調査報告							
シリーズ番号	8							
編著者名	柴田恵子・菅野智剛・石橋 宏・上條信彦・國井秀紀・熊谷亮介・小林和貴・佐々木由香・柴正敏・鈴木三男・能城修一・丸山真史・森 勇一・吉川純子							
編集機関	東北大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平二丁目1-1							
発行年月日	西暦2020年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
せんだいじょうあとにのまる 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市あおばくわい 青葉区川内41	04100	01033	38度15分37秒	140度51分01秒	2011.91~2012.5.31 2015.3.1~7.6 2015.7.22~11.13	508.5㎡ 445.5㎡ 18.8㎡	川内駅前広場整備工事・屋外環境整備(川内駅前広場等)工事
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項
仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点	城館	近世	建物7、柱列10、池状遺構4、溝8、井戸5、ピット187、杭53、礎石1、性格不明遺構57			磁器、陶器、土師質土器、瓦質土器、軟質施釉陶器、土製品、石器、石製品、木製品、加工木材、漆器、瓦、銅製品、鉄製品、動物遺存体、植物遺存体		
要約	<p>本調査は、仙台市高速鉄道（地下鉄）東西線の川内駅の、駅前広場等を整備する工事に伴う調査である。調査の結果、池状遺構や井戸など数多くの遺構を確認することができ、主に江戸時代の17世紀から19世紀の遺物が出土している。17世紀前半の遺物はあまり多くはなく、まとまって出土する遺構や層はなかった。17世紀後半以降では、4号池状遺構からは17世紀後半の陶磁器が、2号池状遺構からは17世紀末から18世紀前葉の陶磁器や木製品がややまとまって出土している。特に2号池状遺構では、「正徳3年」（1713）と記載された木簡も出土した。6号井戸からは幕末頃の陶磁器や漆器・木製品などが一括して出土しており、明治初頃の武家屋敷の取り壊しに伴って一括廃棄されたものと推測される。特殊な遺物として、池状遺構や井戸から昆虫や動物遺存体、植物遺存体が検出されている。これらの動植物データは、江戸時代の武家屋敷周辺の環境を推測することができる貴重な資料となった。また、江戸時代の絵図と比較によって、当調査地点が絵図のどの位置に該当するかを推測することができた。</p>							

東北大学埋蔵文化財調査室調査報告 8

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第2分冊

令和2年3月31日

発行 東北大学埋蔵文化財調査室
〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1 TEL.022 (217) 4995
Web <http://web.tohoku.ac.jp/maibun/>

印刷 株式会社 東北プリント
〒980-0822 仙台市青葉区立町24-24 TEL.022 (263) 1166

東北大学埋蔵文化財調査室調査報告8
『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区 第14地点 第2分冊』
正誤表

頁	行	誤	正
61	図43	11層 WT5～ <u>6</u>	11層 WT5～ 7
109	表39	T19 20層遺構	T19 20号遺構
180	1行目	BK-2号池状遺構も	BK 14 -2号池状遺構も
247	図版84	6. オオクロボエ	7. オオクロボエ